

# 平安京左京四条二坊十四町跡

2003 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所







# 平安京左京四條二坊十四町跡

2003 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生き続けています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来 1200 年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成 13 年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび老人ホーム建設に伴う平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げる次第です。

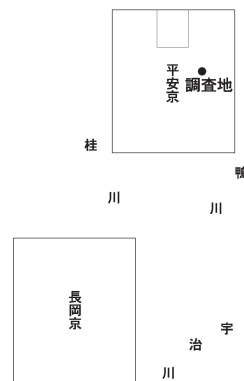
平成 15 年 11 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 川 上 貢

# 例 言

- 1 遺 跡 名 平安京左京四條二坊十四町跡
- 2 調査所在地 京都市中京区蛸薬師通油小路東入元本能寺南町
- 3 委 託 者 京都市
- 4 調査期間 2002年8月5日～2003年8月30日
- 5 調査面積 2,000 m<sup>2</sup>
- 6 調査担当者 平尾政幸・藤村敏之・山口 真
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「壬生」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 種類ごとに通し番号を付した。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 遺物復元 村上 勉・出水みゆき
- 16 基準点測量 宮原健吾
- 17 本書作成 平尾政幸・山口 真
- 18 編集・調整 中村 敦・児玉光世・近藤章子
- 19 調査・遺物整理にあたっては下記の方々から種々のご教示をいただいた。

赤沼多佳、尾野善裕、佐藤 隆、高橋康夫、富岡直人、西田宏子、西山良平、畑中英二、松井 章、丸山真史、吉川義彦、楽吉左衛門（敬称略）



（調査地点図）

0 2 4km



# 目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 構	4
(1) 遺構の概要	4
(2) 第1期の遺構	4
(3) 第2期の遺構	14
(4) 第3期の遺構	19
(5) 第4期の遺構	24
(6) 第5期の遺構	32
(7) 第6期の遺構	36
3. 遺 物	41
(1) 遺物の概要	41
(2) 土器・陶磁器類	41
(3) 瓦類	110
(4) その他の遺物	116
4. ま と め	136
(1) 遺構密度・遺物量からみた土地利用の動向	136
(2) 井戸の分布と時期的変遷	136
(3) 本能寺の位置と下京惣構えの濠	142
(4) 本多甲斐守京邸とゴミ廃棄土壌 SK2053	144
(5) 軟質施釉陶器の生産について	145

# 図 版 目 次

図版1	遺構	1	1区第6期全景（北西から）
		2	1区第5期全景（北から）
図版2	遺構	1	1区第4期全景（北から）
		2	1区第1～3期全景（北から）
図版3	遺構	1	2区第5・6期全景（北西から）
		2	2区第3・4期全景（北西から）
図版4	遺構	1	2区第1・2期全景（北西から）
		2	3区濠 SD2000（東から）

- 図版 5 遺構 1 1区土蔵基礎 SX0046 (西から)  
2 2区土壙 SK2053 (西から)
- 図版 6 遺構 1 1区溝 SD0404 と土取穴群 (北西から)  
2 2区石室 SX2114 縮小後 (北西から)
- 図版 7 遺構 1 1区北拡張区濠 SD2000 (北西から)  
2 濠 SD2000 断面 (西から)
- 図版 8 遺構 1 2区集石 SX2386 とその周辺 (東から)  
2 1区埋喪跡群 (北東から)
- 図版 9 遺構 1 1区北西部第2期ピット群 (北東から)  
2 3区溝 SD2001 (四条坊門小路南側溝) と路面の一部 (南東から)
- 図版 10 遺構 1 1区池状遺構 SG1997 (北から)  
2 1区溝 SD1848 (西から)  
3 2区井戸 SE2469 (東から)
- 図版 11 遺構 1 2区井戸 SE2527 (北から)  
2 2区井戸 SE2222 (東から)
- 図版 12 遺構 1 2区井戸 SE2757 (東から)  
2 1区井戸 SE1111 (北から)
- 図版 13 遺構 1 2区井戸 SE3000 (北西から)  
2 2区井戸 SE3444 (北から)
- 図版 14 遺物 軒丸瓦
- 図版 15 遺物 軒丸瓦
- 図版 16 遺物 軒平瓦
- 図版 17 遺物 軒平瓦
- 図版 18 遺物 SE3444 出土土器
- 図版 19 遺物 SE3444・SE3330・SE1111 出土土器
- 図版 20 遺物 SE1111・SX2322 出土土器
- 図版 21 遺物 SK2276 出土土器
- 図版 22 遺物 SK2276・SK2253・SK0555・SK2185 出土土器
- 図版 23 遺物 SK2185・SK2053 出土土器
- 図版 24 遺物 SK2053 出土土器
- 図版 25 遺物 SK2053 出土土器
- 図版 26 遺物 SK2053 出土土器
- 図版 27 遺物 SK2053 出土土器
- 図版 28 遺物 SK2053 出土土器
- 図版 29 遺物 1 SK2053 出土土器

	2	軟質陶器
図版 30 遺物	1	SK0314 出土内窯
	2	温石
図版 31 遺物	1	石硯
	2	金属製品
図版 32 遺物	1	骨・貝製品
	2	SK2053 出土木製品
図版 33 遺物	1	SK2053 出土下駄
	2	動物遺存体 イヌ
図版 34 遺物	1	動物遺存体 ニホンジカ
	2	動物遺存体 ウシ科
	3	動物遺存体 その他哺乳類
図版 35 遺物	1	動物遺存体 鳥類
	2	動物遺存体 カメ
図版 36 遺物	1	動物遺存体 魚類
	2	動物遺存体 貝類

## 挿 図 目 次

図 1	調査位置図 (1 : 2,500)	1
図 2	調査図配置と地区割り (1 : 500)	2
図 3	調査前全景 (北西から)	3
図 4	現地説明会風景	3
図 5	南壁土層図 - 1 (1 : 50)	6
図 6	南壁土層図 - 2 (1 : 50)	7
図 7	SE3444 実測図 (1 : 50)	11
図 8	第 1 期の遺構 (西半) 実測図 (1 : 200)	12
図 9	第 1 期の遺構 (東半) 実測図 (1 : 200)	13
図 10	SF1999・SD2001 実測図 (1 : 100)	14
図 11	SE1111 実測図 (1 : 50)	15
図 12	SE3108 実測図 (1 : 50)	15
図 13	第 2 期の遺構 (西半) 実測図 (1 : 200)	16
図 14	第 2 期の遺構 (東半) 実測図 (1 : 200)	17
図 15	SE2469 実測図 (1 : 50)	18

図 16	SK2097 実測図 (1 : 50)	18
図 17	SE2222 実測図 (1 : 50)	19
図 18	SX2283 実測図 (1 : 50)	19
図 19	SX2700 断面図 (1 : 50)	20
図 20	SX2322 実測図 (1 : 50)	20
図 21	SE2596 実測図 (1 : 50)	21
図 22	SE2527 実測図 (1 : 50)	21
図 23	第3期の遺構 (西半) 実測図 (1 : 200)	22
図 24	第3期の遺構 (東半) 実測図 (1 : 200)	23
図 25	SE0922 実測図 (1 : 50)	24
図 26	SE0458 実測図 (1 : 50)	24
図 27	SE2197 実測図 (1 : 50)	25
図 28	第4期の遺構 (西半) 実測図 (1 : 200)	26
図 29	第4期の遺構 (東半) 実測図 (1 : 200)	27
図 30	SX2291 実測図 (1 : 50)	28
図 31	SX2114 実測図 (1 : 50)	28
図 32	SX2169 実測図 (1 : 50)	28
図 33	SD2000 断面図 (1 : 100)	29
図 34	SD0404 断面図 (1 : 50)	29
図 35	第5期の遺構 (西半) 実測図 (1 : 200)	30
図 36	第5期の遺構 (東半) 実測図 (1 : 200)	31
図 37	SX2103 実測図 (1 : 50)	32
図 38	SX2086 実測図 (1 : 50)	32
図 39	SX2089 実測図 (1 : 50)	33
図 40	SE2040 実測図 (1 : 50)	33
図 41	SK2053 断面図 (1 : 50)	34
図 42	SE0214 実測図 (1 : 50)	35
図 43	SX0140 実測図 (1 : 50)	35
図 44	SX2120 実測図 (1 : 50)	37
図 45	SK0034・0035・0036・0040 実測図 (1 : 50)	37
図 46	SX0002 実測図 (1 : 50)	37
図 47	第6期の遺構 (西半) 実測図 (1 : 200)	38
図 48	第6期の遺構 (東半) 実測図 (1 : 200)	39
図 49	SE2005 実測図 (1 : 50)	40
図 50	SE3444 出土土器実測図 (1 : 4)	43

图 51	SE3000 出土土器实测图 (1 : 4)	44
图 52	SD3330 出土土器实测图 (1 : 4)	46
图 53	SD3350 出土土器实测图 (1 : 4)	48
图 54	SK3563 出土土器实测图 (1 : 4)	48
图 55	SE1111 出土土器实测图 (1 : 4)	49
图 56	SE3108 出土土器实测图 (1 : 4)	51
图 57	SE2469 出土土器实测图 (1 : 4)	52
图 58	SK2642 出土土器实测图 (1 : 4)	54
图 59	SE2222 出土土器实测图 (1 : 4)	55
图 60	SK0493 出土土器实测图 (1 : 4)	56
图 61	SX2700 出土土器实测图 - 1 (1 : 4)	58
图 62	SX2700 出土土器实测图 - 2 (1 : 4)	59
图 63	SK2344 出土甕实测图 (1 : 6)	59
图 64	SX2322 出土土器实测图 (1 : 4)	60
图 65	SK2276 出土土器实测图 (1 : 4)	62
图 66	SK2253 出土土器实测图 (1 : 4)	63
图 67	SK0555 出土土器实测图 (1 : 4)	64
图 68	SE2527 出土土器实测图 (1 : 4)	66
图 69	SX2459 出土土器实测图 (1 : 4)	67
图 70	SK0344 出土土器实测图 (1 : 4)	68
图 71	SK0684 出土土器实测图 (1 : 4)	70
图 72	SK2091 出土土器实测图 (1 : 4)	70
图 73	SK0336 出土土器实测图 (1 : 4)	72
图 74	SE0922 出土土器实测图 - 1 (1 : 4)	73
图 75	SE0922 出土土器实测图 - 2 (1 : 4)	74
图 76	SK2445 出土土器实测图 (1 : 4)	75
图 77	SE0340 出土土器实测图 (1 : 4)	76
图 78	SK2185 出土土器实测图 (1 : 4)	78
图 79	SE2197 出土土器实测图 (1 : 4)	79
图 80	SE3555 出土土器实测图 (1 : 4)	81
图 81	SK2058 出土土器实测图 (1 : 4)	82
图 82	SK0314 出土土器实测图 - 1 (1 : 4)	84
图 83	SK0314 出土土器实测图 - 2 (1 : 4)	85
图 84	SK0171 出土土器实测图 - 1 (1 : 4)	86
图 85	SK0171 出土土器实测图 - 2 (1 : 4)	87

図 86	SK0171 出土土器実測図 - 3 (1 : 4)	88
図 87	SK0257 出土土器実測図 (1 : 4)	91
図 88	SK2053 出土土器実測図 - 1 (1 : 4)	94
図 89	SK2053 出土土器実測図 - 2 (1 : 4)	95
図 90	SK2053 出土土器実測図 - 3 (1 : 4)	96
図 91	SK2053 出土土器実測図 - 4 (1 : 4)	97
図 92	SK2053 出土土器実測図 - 5 (1 : 4)	98
図 93	SK2053 出土土器実測図 - 6 (1 : 4)	99
図 94	SK2053 出土土器実測図 - 7 (1 : 4)	101
図 95	SK2053 出土土器実測図 - 8 (1 : 4)	102
図 96	SK2053 出土土器実測図 - 9 (1 : 4)	103
図 97	SK2053 出土土器実測図 -10 (1 : 4)	104
図 98	SK2053 出土土器実測図 -11 (1 : 4)	105
図 99	SK2053 出土土器実測図 -12 (1 : 4)	106
図 100	SK2053 出土土器実測図 -13 (1 : 4)	107
図 101	SK2053 出土土器実測図 -14 (1 : 4)	108
図 102	SE2021 出土土器実測図 (1 : 4)	109
図 103	軒丸瓦拓影・実測図 (1 : 4)	111
図 104	軒平瓦拓影・実測図 (1 : 4)	114
図 105	瓦経	116
図 106	土錘実測図 (1 : 4)	117
図 107	滑石製品実測図 (1 : 4)	118
図 108	硯実測図 - 1 (1 : 4)	120
図 109	硯実測図 - 2 (1 : 4)	121
図 110	石臼実測図 (1 : 4)	123
図 111	石塔実測図 (1 : 4)	124
図 112	礎石実測図 (1 : 4)	124
図 113	金属製品実測図 - 1 (1 : 2)	125
図 114	金属製品実測図 - 2 (1 : 2)	127
図 115	銭貨拓影 (1 : 2)	128
図 116	骨・貝製品実測図 (1 ~ 23 は 1 : 2、24 ~ 28 は 1 : 1)	130
図 117	木製品実測図 (1 : 4)	132
図 118	漆器実測図 (1 : 4)	134
図 119	遺構・遺物の動向	136
図 120	井戸数の変化	137

図 121 井戸の分布	137
図 122 井戸断面一覧図 - 1	138
図 123 井戸断面一覧図 - 2	139
図 124 井戸断面一覧図 - 3	140
図 125 下京復元図（洛中洛外より、一部改変）	142
図 126 付近の町名	143
図 127 本多甲斐守京邸と SK2053 の位置	144
図 128 軟質施釉陶器の出土分布	145
図 129 軟質施釉陶器の器形	146

## 表 目 次

表 1 各期の遺構数	4
表 2 遺構概要表	5
表 3 南壁層名 - 1	8
表 4 南壁層名 - 2	9
表 5 南壁層名 - 3	10
表 6 土器・陶磁器の構成（破片数）	41
表 7 SE3444 出土土器の構成（破片数）	42
表 8 SE3000 出土土器の構成（破片数）	44
表 9 SD3330 出土土器の構成（破片数）	45
表 10 SD3350 出土土器の構成（破片数）	47
表 11 SK3563 出土土器の構成（破片数）	47
表 12 SE1111 出土土器の構成（破片数）	50
表 13 SE3108 出土土器の構成（破片数）	50
表 14 SE2469 出土土器の構成（破片数）	53
表 15 SK2642 出土土器の構成（破片数）	53
表 16 SE2222 出土土器の構成（破片数）	55
表 17 SK0493 出土土器の構成（破片数）	55
表 18 SX2700 出土土器の構成（破片数）	57
表 19 SX2322 出土土器の構成（破片数）	60
表 20 SK2276 出土土器の構成（破片数）	61
表 21 SK2253 出土土器の構成（破片数）	61
表 22 SK0555 出土土器の構成（破片数）	64

表 23	SE2527 出土土器の構成 (破片数)	65
表 24	SX2459 出土土器の構成 (破片数)	65
表 25	SK0344 出土土器の構成 (破片数)	68
表 26	SK0684 出土土器の構成 (破片数)	69
表 27	SK2091 出土土器の構成 (破片数)	69
表 28	SK0336 出土土器の構成 (破片数)	71
表 29	SE0922 出土土器の構成 (破片数)	71
表 30	SK2445 出土土器の構成 (破片数)	75
表 31	SE0340 出土土器の構成 (破片数)	76
表 32	SK2185 出土土器の構成 (破片数)	77
表 33	SE2197 出土土器の構成 (破片数)	77
表 34	SE3555 出土土器の構成 (破片数)	80
表 35	SK2058 出土土器の構成 (破片数)	83
表 36	SK0314 出土土器の構成 (破片数)	83
表 37	SK0171 出土土器の構成 (破片数)	89
表 38	SK0257 出土土器の構成 (破片数)	92
表 39	SK2053 出土土器の構成 (破片数)	93
表 40	SK2053 出土焼締陶器の産地構成 (破片数)	100
表 41	SE2021 出土土器の構成 (破片数)	110
表 42	土錘一覧表	117
表 43	硯一覧表	122
表 44	錢貨一覧表	128
表 45	骨・貝製品一覧表	130
表 46	漆器一覧表	134
表 47	遺物概要表	135
表 48	井戸の石種	140
表 49	井戸一覧表	141
表 50	町名の変遷	143
表 51	軟質施釉陶器器形別出土点数	146
表 52	軟質施釉陶器の釉成分比	147

## 付 表 目 次

附表	出土土器類一覧表	149
----	----------	-----



# 平安京左京四條二坊十四町跡

## 1. 調査経過

調査地の本能小学校跡地は現蛸薬師通・油小路通・小川通に囲まれた区域で、平安京では左京四條二坊十四町の北西四分の一町に該当する。『仁和寺所蔵古図』によれば平安時代中期には十四町に縫殿守藤原為兼の邸宅や大和国竹林寺に関わる土地があったと記されているが、それらがこの町のどのあたりに所在したのか正確な位置は不明である。当地北側の十五町は、現在は寺町通御池に所在する本能寺の旧地にあたるが、江戸時代の絵師、森幸安の『中昔京師図』には、「本能寺地」として今回の調査地である十四町を含めた南北2町の範囲が指定されており、その寺地が十四町におよぶ可能性もあった。また、『寛永十四年洛中絵図』などには、周囲の道路に沿って並ぶ町家に囲まれた十四町中央部に、江戸時代の大名家本多甲斐守の京邸があったことが記されている。

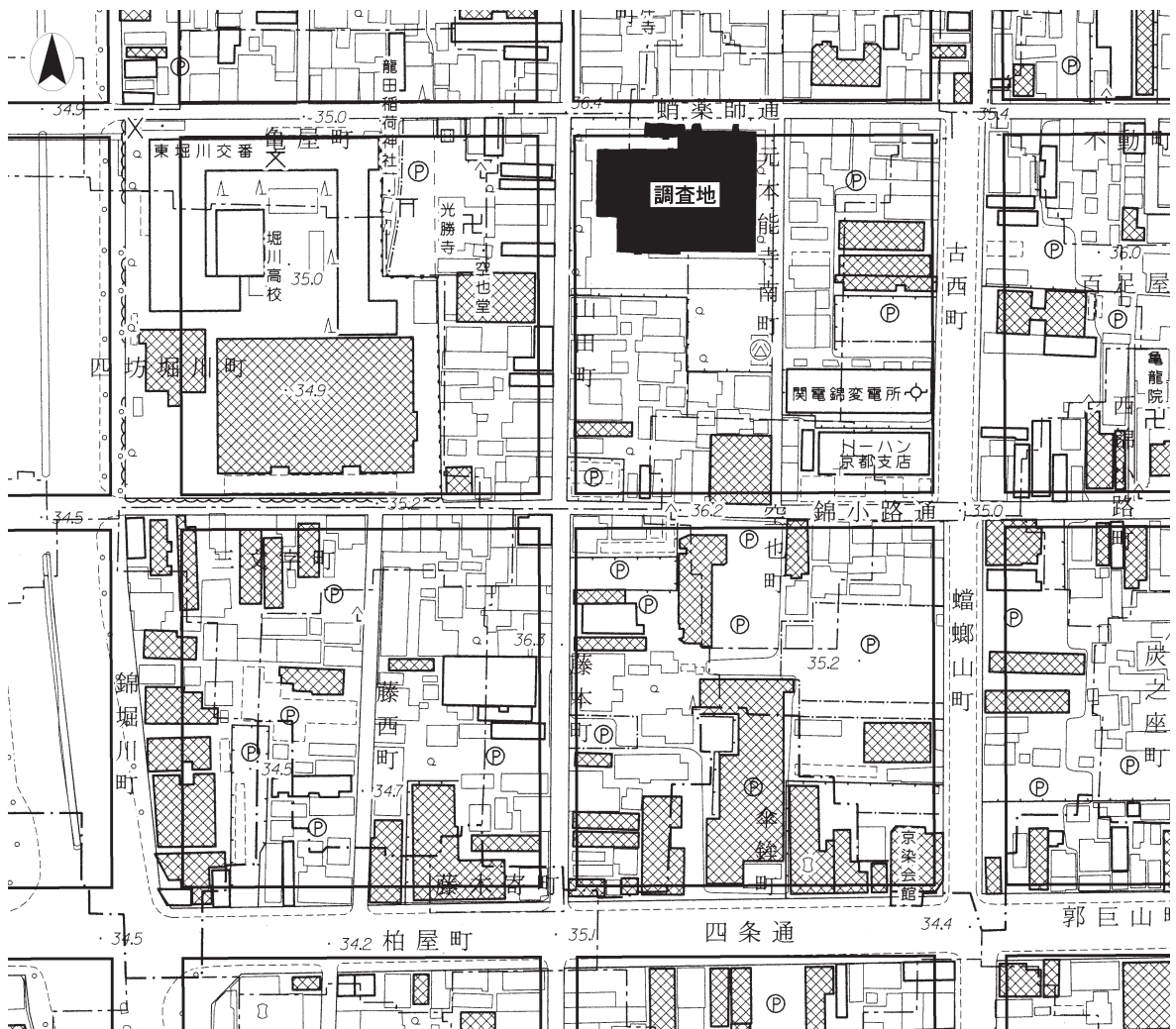


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

当地に京都市により本能特別養護老人ホーム（仮称）の建設が計画され、事前に試掘調査および旧校舎基礎の撤去に伴う立会調査を実施した。その結果、平安時代から近世にかけての遺構が多数重複して遺存していることが確認された。これらの点を踏まえた協議の結果、発掘調査を実施する運びとなった。

発掘調査は周辺の道路事情により残土の搬出が不可能と判断されたため、調査区を東部（1区）・西部（2区）の二つに分け順次作業を進めた。1区では北壁沿いが旧校舎の基礎によってかなり削平を受けていたものの、ほぼ全域で地表下約1mに江戸時代の遺構が良好に残っており、この面から平安時代に至るまでの遺構を調査した。この1区の調査過程で、平安京条坊関連遺構の確認のため、調査区北部の2箇所を拡張区として一部拡張したところ、平安時代の四条坊門小路の南側溝および路面（SD2001・SF1999）の一部とともに、東西方向の大溝（SD2000）を検出した。検出位置や出土遺物の年代からこのSD2000が下京惣構に関連する濠とみられたことから、その確認を目的として2区の北側に新たに3区を設定し、2区とともに調査を進めた。2区の調査では、調査区の北・西・南の三方で旧校舎の基礎が深く、江戸時代の遺構面の残存状況は1区ほどではなく、この逆「コ」字形の部分では現代層を取り除いた時点で室町時代の遺構が現れている箇所もあった。しかし、中央部の残存状況はおおむね良好で、1区と同様に江戸時代から平安時代までの遺構群を6面にわたって調査した。2区の江戸時代の遺構面では、本多甲斐守京邸のゴミ捨て穴と思われる土壌（SK2053）を検出し、多量の遺物を採集した。3区では、目的とした濠（SD2000）を調査区全面で確認することができた。各区での調査の結果、平安時代から近代に至

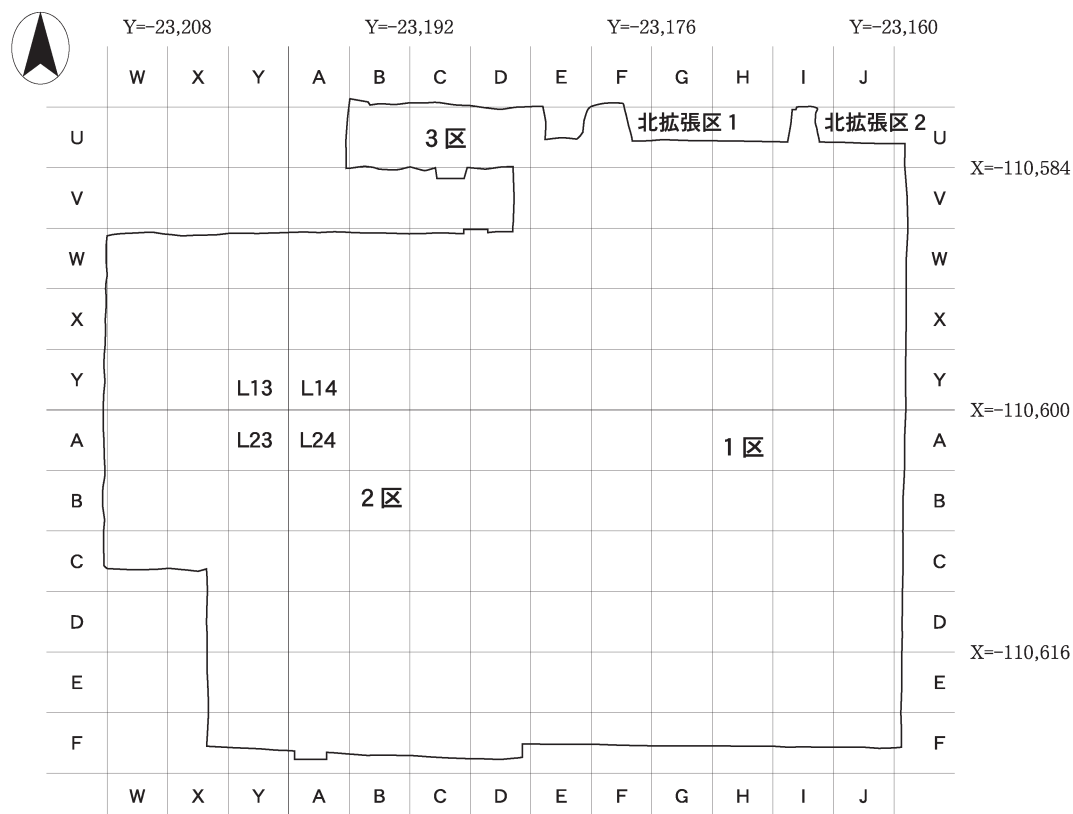


図2 調査区配置と地区割り（1：500）



図3 調査前全景（北西から）



図4 現地説明会風景

る 4,000 を超える遺構や多量の遺物を検出した。遺構の種類も多岐にわたるが、特に各期の井戸跡を 76 基検出し、平安京時代以来当地において継続的に生活が営まれていたことが確認できた。さらに、北拡張区および3区での下京惣構の濠の検出と『洛中洛外図』（上杉本）との検討から、本能寺の位置に関して重要な情報が得られた。また、江戸時代前期の土壙 SK2053 はその位置関係から本多甲斐守京邸敷地の北西隅に設けられたゴミ廃棄土壙と推定され、出土した土器・陶磁器・木製品・金属製品・食物残滓などの多種多量の遺物は、当時の武家屋敷に於ける生活の一端を考察するにあたっての好資料となった。なお、調査期間中に地元対象の成果説明会 2 回、一般対象の現地説明会 1 回および報道発表を通じ、成果の一部を公表している。現地説明会には 1,000 名を超える見学者の参加があった。

## 2. 遺 構

### (1) 遺構の概要

今回の調査の結果、平安時代から近代までの遺構を 4,539 基を検出した。その種類は土壙・井戸・溝・石室・柵・石垣（基底部）・土蔵基礎・ピット（柱穴）・墓・便所など多岐にわたる（表 1）。

時代別にみると平安時代後期の遺構数が特異的に多く、江戸時代前期がそれに次ぐ。これらの数値がこの地域の歴史的な生活密

表 1 各期の遺構数

	ピット	土壙	井戸	溝	その他	計	比率
第 1 期	470	40	2	8	6	526	12.1%
第 2 期	1,808	444	13	15	32	2,312	53.0%
第 3 期	295	250	4	6	21	576	13.2%
第 4 期	120	165	13	5	21	324	7.4%
第 5 期	83	265	12	3	27	390	8.9%
第 6 期	30	157	32	0	12	231	5.3%
計	2,806	1,321	76	37	119	4,359	100.0%

度をそのまま反映しているのかという点については、各期の遺構の内容や遺物の検討を今後さらに進めなければならないが、そのひとつの目安である井戸数の変化からみても、およその傾向が現れていると思われる。ただ、遺構数が多い江戸時代前期の井戸数が少ないのは、やや不自然に見えるが、これは調査区東半部が当該期には本多家の京邸の敷地となっていたことによるものであろう。その後に町屋として分割して利用されるようになった江戸時代後期の井戸数の増加をみれば、この数値の低さが理解できよう。逆に江戸時代後期の井戸数に対する他の遺構数の少なさは、小学校の基礎による破壊や調査時の機械掘削深度より浅い位置に存在した江戸時代後期の遺構が削平された結果であり、本来の遺構数は当然これよりも相当数多かったものと思われる。

この章では、これまでに整理過程で帰属時期が判明している土壙・井戸・溝・建物など、主要な遺構についてその概略を記す。ただし、各期の遺構面については、旧校舎の基礎あるいは後世、特に桃山時代から江戸時代初期の規模の大きな土壙や土取りなどによる削平、また逆に各時期に施された部分的な整地などのため層序は複雑で、単一時期の遺構面の広がりや必ずしも捉えきれたわけではない。そのため、ここでは検出した遺構群を、出土遺物や成立の前後関係をもとに整理し、それを第 1 期（第 6 面—平安時代前期から中期）、第 2 期（第 5 面—平安時代後期から末）、第 3 期（第 4 面—鎌倉時代から室町時代前期（南北朝））、第 4 期（第 3 面—室町時代）、第 5 期（第 2 面—桃山時代から江戸時代前期）、第 6 期（第 1 面—江戸時代中期以降）の 6 段階に区分し（表 2）、時期を追って説明を加えて行くことにしたい。

### (2) 第 1 期の遺構（図 8・9）

第 1 期は 9 世紀初頭からの幅を設定しているが、9 世紀代に遡る遺構はピットが 2 基あるのみで、あとはすべて 10 世紀代のものである。遺構数は 526 で、掘立柱建物 2 棟、溝 8 条、土壙 40 基、井戸 2 基、小規模な池状の遺構 1 基のほかピット 470 基などがある。

井戸 SE3444（図 7、図版 13） 2 区北部で検出した円形縦板組の井戸。掘形は検出面で約 2 m 四方の方形で、底部に向かってすぼまる。井戸側は幅 10 cm 前後、厚さ 4～5 cm の板材を 24 枚用いて内径 0.75 m の円形に組み合わせている。上部は腐蝕していたが、部材の残存状況は良好で、

表2 遺構概要表

時代区分	土器の区分と略年代	遺構群の時期区分	主な遺構 (*印は遺物掲載遺構)							
			ピット	土 壙	井 戸	溝	その他			
奈良時代 長岡京	1	A	750	第1期 (第6面)						
		B	780							
		C	810		Pit1006					
	2	A	840							
		B	870		Pit3222					
		C	900		Pit4204	SK4192	SE3444*			
	3	A	930		Pit2881 Pit2886		SE3000*	SD3330*		
		B	960		Pit3991など(建物1) Pit3673など(建物2)			SD3350*(SD1886*)	SG1997(池?)	
		C	990		Pit1634	SK3666 SK3563*				
	平安時代	4	A		1020	Pit1193	SK3616	SE1111*	SD2001(四条坊門南側溝)	SF1999(四条坊門路面)
			B		1050	Pit1325	SK2753 SK4164	SE3108*		
			C		1080	Pit2957	SK1287	SE2469*		
		5	A		1110	Pit2676	SK2642*	SE3550		
			B		1140	Pit1473	SK2097(埋め壘)	SE2222*		
A		1170	Pit1212	SK0493* SK2283						
鎌倉時代		6	B	1200	Pit1008	SK2344(埋め壘)* SK0358			SX2700*	
			C	1230	Pit1020	SK2283 SK2276*	SE0831		SX2322(墓?)*	
			A	1260	Pit2338	SK2253*				
		7	B	1290	Pit2445	SK0555*	SE2596			
C	1320		Pit0957		SE2527*		SX2459(集石)*			
南北朝	8	A	1350	Pit2536	SK0389	SE0344*				
		B	1380	Pit1471	SK0689	SE2212		SX2294(炉跡?)		
室町時代	9	A	1410	Pit0763	SK0684*			SX2306(集石)		
		B	1440	Pit0382	SK2091*					
		C	1470	Pit0178など(建物3)	SK0336*	SE0922*		SX0279(集石)		
	10	A	1500	Pit2335	SK2445* SK2185*	SE0458 SE0340*		SX2291(石室)		
		B	1530		SK0392	SE2197*		SX2114(石室)		
		C	1560	Pit0449	SK0757	SE2305	SD2000(惣構濠) SD0404	SX2111(円形石室) SX2169(円形石室)		
江戸時代 安土桃山	11	A	1590	Pit0415		SE3555*				
		B	1620	Pit0451	SK2058* SK0314* SK0171* SK0257* SK2053*	SE2040		SX2086(小石室) SX0162(石垣)		
		C	1650	Pit0133など(柵1)	SK2039	SE2238				
	12	A	1680	Pit0074	SK0689	SE2021*		SX2070(小石室)		
		B	1710	Pit0081	SK0127	SE0391		SX0046(土蔵基礎) SX2120(小石室)		
	13	A	1740	Pit0152	SK0033(便所壘) SK0030	SE0023				
		B	1770	Pit0121	SK0048	SE0050		SX0002(石室)		
	14	A	1800		SK0001	SE2033				
		B	1830			SE0026				
				1860						

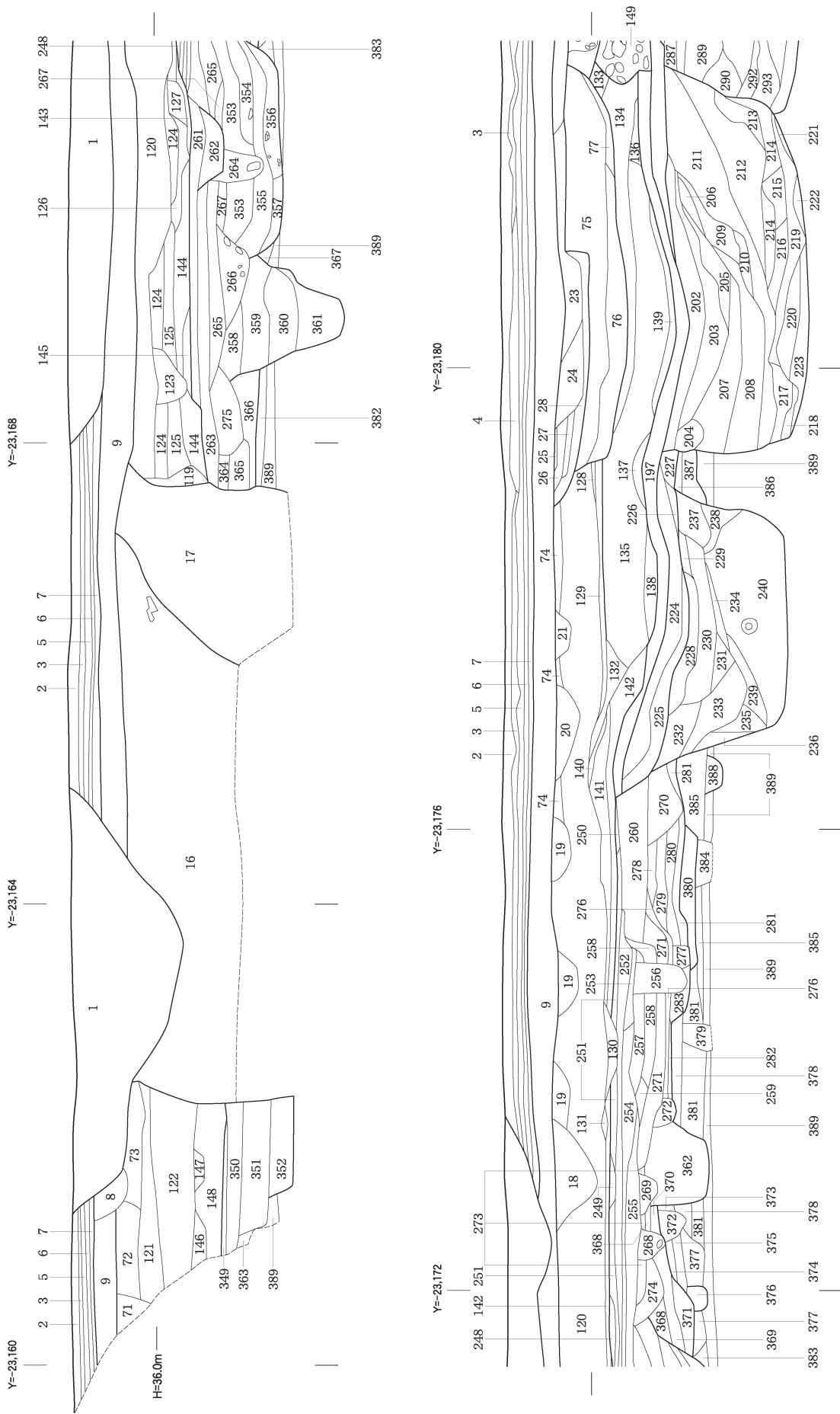


图5 南壁土層圖 - 1 (1 : 50)

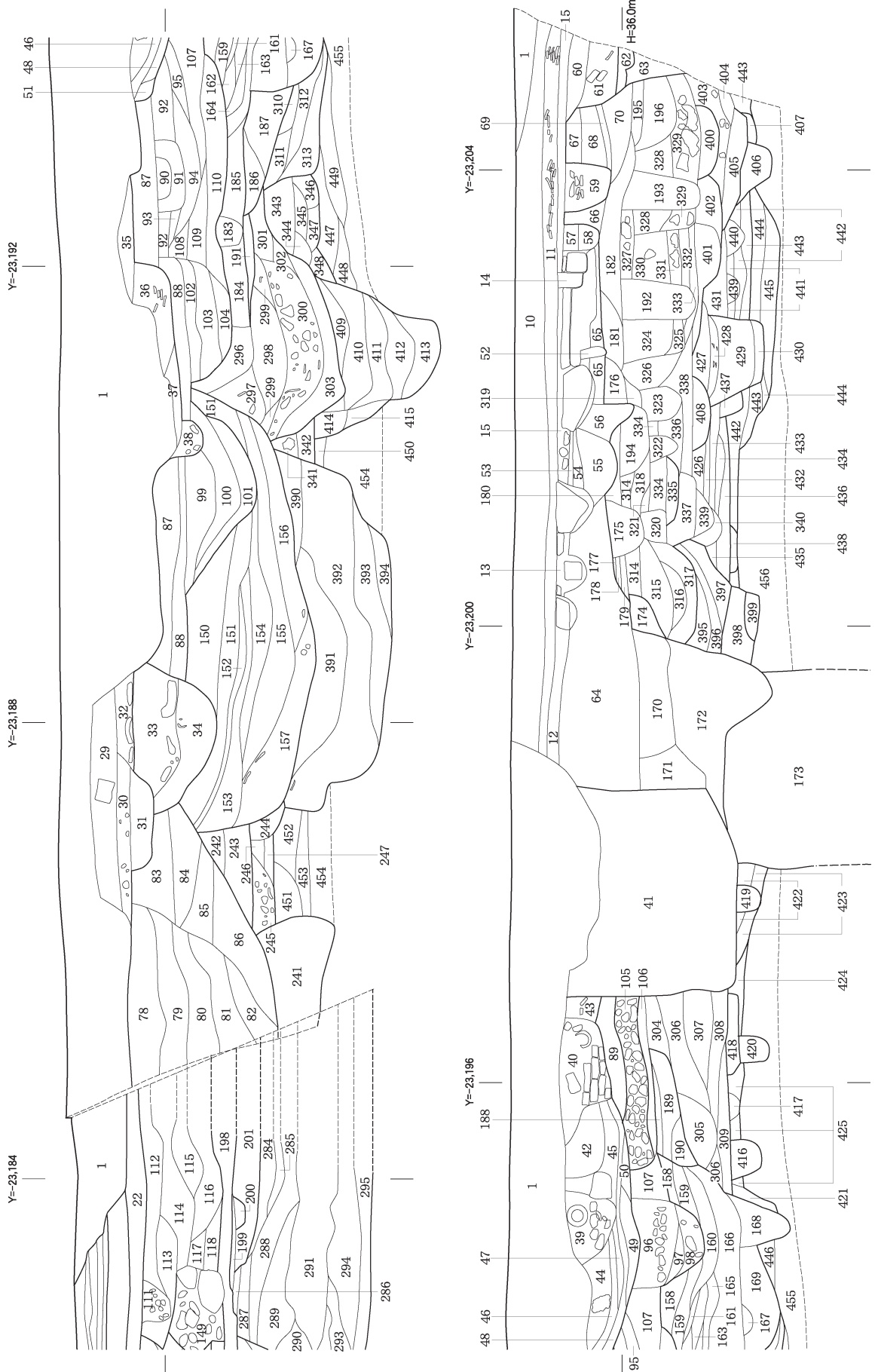


图6 南壁土層图 - 2 (1 : 50)

表3 南壁層名 - 1

1	現代攪乱	80	10YR3/2黒褐色泥砂
2	校庭整地 2.5Y4/3オリーブ褐色砂版築状	81	10YR3/2黒褐色泥砂やや粘質
3	校庭整地 10YR6/8明黄褐色砂	82	10YR3/2黒褐色砂礫
4	校庭整地 2.5Y4/4オリーブ褐色粗粗砂	83	10YR3/2黒褐色砂泥
5	校庭整地 10YR4/2灰黄褐色粗砂	84	10YR2.5/2黒褐色砂泥
6	校庭整地 10YR4/1褐灰色細砂・粗砂の版築状	85	10YR3/2黒褐色泥砂 灰・土器片含む
7	校庭整地 2.5Y5/4黄褐色粗砂 径0.5~3mm	86	10YR4/2灰黄褐色砂泥 粗
8	校庭整地 10YR5/3にぶい黄褐色砂 径5~15cm礫詰まる	87	10YR3/2黒褐色泥砂 炭含む
9	校庭整地 10YR3/4暗褐色砂泥 径5~20cmの礫多量含む	88	7.5YR3/2黒褐色泥砂 炭含む
10	盛り土	89	10YR6/3にぶい黄褐色砂礫
11	学校整地 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 棧瓦含む	90	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
12	10YR3/2黒褐色砂泥	91	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
13	10YR3/1黒褐色砂泥 漆喰含む	92	10YR4/2灰黄褐色砂泥 10YR5/6黄褐色粘土混
14	溝 棧瓦が詰まる	93	10YR3/1黒褐色砂泥 炭混
15	学校整地 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥と10YR2/1締まった黒色砂層 漆喰含む	94	10YR3.5/2灰黄褐色砂泥 粗
16	2.5YR4/8赤褐色焼土 焼け瓦・炭・漆喰多く含む【SK0001】	95	10YR3/3暗褐色砂泥
17	10YR6/4にぶい黄褐色砂礫【SK0846】	96	10YR4/1褐灰色細砂と礫
18	10YR4/3にぶい黄褐色泥砂	97	鉄滓
19	10YR4/2灰黄褐色砂 径2~10cm礫詰まる	98	10YR3/1黒褐色泥土 炭混
20	2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 径2~5cmの礫含む	99	10YR3.5/2灰黄褐色砂泥 炭混
21	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 径2~5cmの礫と煉瓦含む	100	99と同色やや粘質
22	10YR3/2黒褐色砂泥 焼土・焼け瓦多量を含む	101	10YR3/2黒褐色泥砂
23	10YR4/2灰黄褐色砂泥 炭・貝殻混	102	10YR4/2灰黄褐色砂泥
24	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 漆喰・瓦・径3~5cmの礫含む	103	7.5YR4/2.5褐色泥砂
25	2.5Y5/3黄褐色砂泥 やや粘質	104	10YR3/2黒褐色砂泥
26	2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 漆喰・瓦・径1~3cmの礫含む	105	φ10cm程の石が詰まる【SK2085東】
27	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 漆喰・径4~5cmの礫含む	106	10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 密
28	2.5Y5/4黄褐色砂泥 やや粘質	107	10YR3/2黒褐色砂泥 炭・焼土混
29	細砂に漆喰片混	108	10YR4/2灰黄褐色砂泥
30	10YR3/1黒褐色泥土・5/3にぶい黄褐色細砂版築状を呈する	109	107と同色 焼土含まず
31	5YR3/2暗赤褐色泥土 礫混	110	10YR3/2黒褐色砂泥 炭混
32	10YR3/2黒褐色砂泥 焼土・煉瓦含みよく締まる	111	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 径5~6cmの礫多量・炭少量含む
33	10YR3/2黒褐色砂泥 貝殻・漆喰片含む	112	10YR4/4褐色砂泥やや粘質 炭・土師器少量含む
34	10YR3/2黒褐色砂泥 粗	113	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 炭・土師器少量含む
35	7.5YR3/3暗褐色泥土	114	10YR3/2黒褐色砂泥 やや粘質 炭・土師器少量含む
36	10YR3/2黒褐色泥砂 棧瓦・漆喰含む	115	10YR3/3暗褐色砂泥 土師器少量含む
37	7.5YR3/3暗褐色砂泥	116	2.5Y3/2黒褐色砂泥 炭少量含む
38	10YR3/2黒褐色砂泥 鉄滓・コンクリート片含む	117	10YR3/1黒褐色砂泥 炭・土師器片少量含む
39	下水管理設跡 棧瓦・土管が埋まる	118	10YR3/2黒褐色砂泥 炭・瓦・土師器片・径3~5cmの礫含む
40	下水管理設跡 煉瓦・土管が埋まる	119	10YR4/1褐灰色砂泥 10YR3/3暗褐色砂泥塊混
41	校舎解体時の攪乱【SK2082】	120	10YR5/6黄褐色砂泥 径1~15cmの礫多量を含む
42	7.5YR4/2灰褐色砂泥 漆喰・煉瓦含む	121	10YR3/3暗褐色砂泥
43	7.5YR4/2灰褐色砂泥 焼瓦・漆喰片含む	122	10YR3/2黒褐色砂泥・10YR4/2灰黄褐色砂泥
44	10YR4/2灰黄褐色泥土 鉄滓含む	123	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 10YR5/6黄褐色砂泥塊混
45	10YR4/2灰黄褐色泥砂粘質	124	10YR4/2灰黄褐色砂泥粘質
46	10YR3/1黒褐色砂泥・6/1褐灰色砂泥・7.5YR6/6橙色砂泥のMix	125	10YR4/2灰黄褐色砂泥
47	10YR3/1黒褐色砂泥 炭多く含む	126	2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂
48	7.5YR3/1.5黒褐色泥砂 炭含む	127	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
49	10YR6/6明黄褐色漆喰	128	2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥粘質
50	焼瓦	129	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥粘質 土師器片少量含む
51	10YR4/2灰黄褐色砂泥 均質	130	10YR3/2黒褐色砂泥
52	7.5YR3/1黒褐色砂泥 炭・漆喰含む	131	10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質
53	10YR3/2黒褐色細砂と礫	132	2.5Y4/6オリーブ褐色砂泥粘質
54	10YR3/2黒褐色砂泥	133	2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥 径2~5cmの礫少量含む
55	10YR3/2黒褐色砂泥 礫・砂・漆喰小片を含む	134	2.5Y4/1黄灰色砂泥 土師器片・炭少量含む
56	10YR4/2灰黄褐色砂泥 鉄滓細粒含む	135	10YR4/1灰褐色砂泥 やや粘質 土師器片少量含む
57	10YR3/2黒褐色砂泥	136	10YR6/6明黄褐色砂泥 粘質
58	10YR6/4にぶい黄褐色細砂 衣衣塗埋納遺構【SX4211】	137	136と10YR5/1褐灰色粘質砂泥
59	10YR2/3黒褐色砂泥 棧瓦・煉瓦片・小礫含む	138	10YR3/1黒褐色泥砂 粘質
60	10YR3/3暗褐色砂泥 煉瓦・漆喰片含む	139	2.5Y5/2暗灰黄色砂泥 粘質
61	10YR3/3.5暗褐色砂泥 煉瓦・棧瓦・漆喰・炭含む	140	2.5Y3/1 黒褐色砂泥 土師器片含む
62	10YR3/3暗褐色砂泥【SK2081】	141	5Y4/2 灰オリーブ色砂泥
63	10YR3/3暗褐色砂泥 均質 炭混	142	2.5Y4/1 黄灰色砂泥粘質 土師器片含む
64	10YR5/4にぶい黄褐色細砂・礫	143	10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土
65	10YR3/2黒褐色泥砂 漆喰・炭・焼土混	144	10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 径2~10cmの礫多量含む
66	10YR3/3暗褐色砂泥	145	10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 粗砂 炭含む
67	10YR3.5/3暗褐色砂泥 均質	146	10YR4/2 灰黄褐色砂泥 10YR4/6褐色砂泥塊混
68	10YR3/3.5暗褐色砂泥 煉瓦片含む	147	10YR3/2 黒褐色砂泥
69	10YR3/2黒褐色砂泥・2.5Y4/4オリーブ褐色粗砂	148	10YR4/2 灰黄褐色粘質土
70	10YR3/4暗褐色砂泥 粗 漆喰・炭含む	149	10YR4/1褐灰色砂泥 30cm程の切石・径3~15cmの裏込め石多量を含む【SX0162】
71	10YR3/4暗褐色砂泥 漆喰・礫・瓦片含む	150~157	【SK2116】
72	10YR3/2黒褐色砂泥 漆喰・10YR4/4褐色砂泥塊混	150	10YR3/2黒褐色砂泥
73	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 径2~10cmの礫含む	151	10YR3/2黒褐色砂泥
74	10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 やや粘質 径1~3cmの礫含む	152	10YR5/4にぶい黄褐色粘土 整地面
75	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 土師器・漆喰少量含む	153	10YR3/2黒褐色泥砂 よく締まる
76	10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 粘質・5YR3/4暗赤褐色砂泥	154	7.5YR3.5/2灰褐色砂泥
77	10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 粘質	155	10YR2/3黒褐色~7/3にぶい黄褐色灰の堆積
78	7.5YR4/2灰褐色泥砂 漆喰・焼土Mixよく締まる	156	10YR3/2黒褐色泥砂 粗 炭混
79	10YR4/2灰黄褐色泥砂 漆喰・炭混	157	156と同色 砂礫多い



表4 南壁層名 - 2

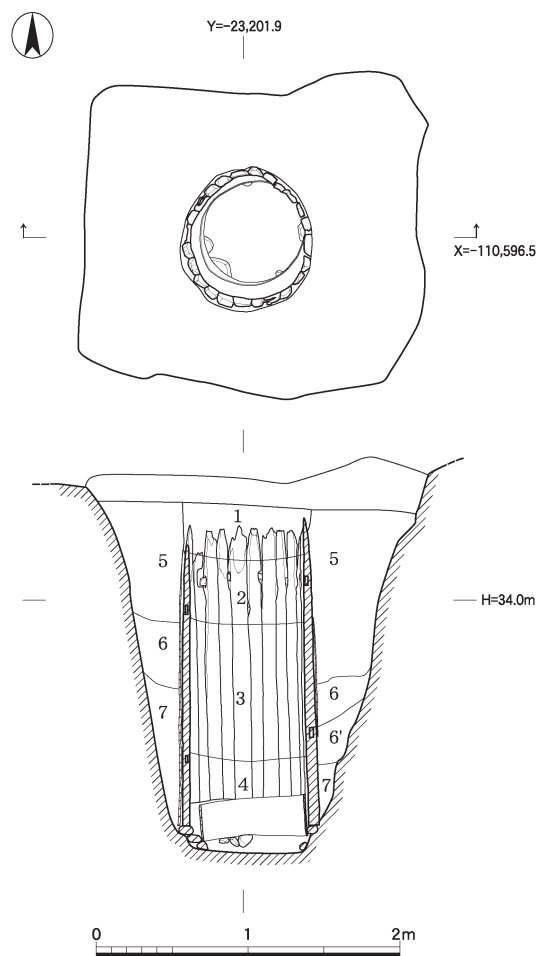
158~169【SK2100】	231 7.5Y3/1オリーブ黒色砂泥 やや粘質
158 10YR3/2黒褐色砂泥	232 10Y4/1灰色砂泥粘質 土師器片含む
159 7.5YR3.5/1褐灰色砂泥 炭混	233 7.5Y4/1灰色砂泥粘質 炭少量含む
160 10YR3/1黒褐色泥土 炭混	234 N2/0黒色砂泥 炭層
161 10YR5/4にぶい黄褐色泥土	235 5Y5/4オリーブ色粘質土
162 10YR3/1黒褐色泥砂 炭混	236 5Y5/3灰オリーブ色粘質土
163 10YR3/1黒褐色泥土	237 7.5Y3/2オリーブ黒色砂泥 強い粘質 土師器片少量含む
164 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 やや粗	238 10Y5/2オリーブ灰色粘質土
165 10YR3/1黒褐色泥土 礫混	239 2.5Y4.5/3オリーブ褐色砂泥 粘質 炭少量含む
166 2.5Y3/1黒褐色泥砂 鉄滓混	240 5YR4/6赤褐色泥土 軟質 炭・鉄分・礫の羽口含む
167 10YR3/1黒褐色泥砂 5Y3/1オリーブ黒色砂泥Mix	241 10YR3/1.5黒褐色泥砂 鉄滓・砂礫・炭混【SK2248】
168 10YR3/1黒褐色砂泥 やや粗	242 10YR3.5/2灰黄褐色砂泥
169 2.5Y3/1黒褐色泥砂 5Y3/1オリーブ黒色砂泥Mix	243 10YR4/2灰黄褐色砂泥 砂質
170【SK2123】	244~247【SK2202】
171 径5~10cm程の石が詰まる	244 10YR3/2黒褐色砂泥 粗
172 171に 鉄滓含む【SX2201】	245 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 礫多く含む
173【SE2218】	246 10YR3/2黒褐色砂泥
174 7.5YR4/2灰褐色砂泥 炭混【SK2085西】	247 2.5Y4.5/2暗灰黄色砂泥 よく締まる
175 10YR5/3にぶい黄褐色細砂礫	248 10YR5/2灰黄褐色砂泥 粗砂含む 固く締まった整地面
176 10YR4/2灰黄褐色泥土・6/2灰黄褐色泥砂のMix	249 10YR3/2黒褐色砂泥
177 10YR4/2灰黄褐色砂泥 砂質	250 2.5Y3/2黒褐色砂泥
178 10YR4/2灰黄褐色泥砂	251 10YR4/2灰黄褐色砂泥粘質
179 7.5YR3/2黒褐色砂泥	252 10YR3/3暗褐色砂泥
180 10YR4/2灰黄褐色砂泥	253 10YR4/2灰黄褐色砂泥やや粘質
181 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粗	254 10YR3/2黒褐色粘質土
182 10YR3/2黒褐色砂泥	255 10YR3/1黒褐色砂泥 やや粘質
183 10YR3/2黒褐色泥砂	256 10YR2/3黒褐色砂泥 径5cmの礫・炭・土師器片少量含む
184 10YR3/1黒褐色泥砂 粗	257 10YR4/2灰黄褐色砂泥
185 10YR3.5/2灰黄褐色砂泥 鉄滓多く含む	258 10YR4/1褐灰色砂泥 炭・土師器片少量含む
186~190【SK2133】	259 10YR3/2黒褐色砂泥 土師器片・鉄滓含む
186 2.5Y3/2黒褐色砂泥	260 10YR3/1黒褐色砂泥 炭・土師器片含む
187 10YR3/1黒褐色砂泥 やや粗	261 10YR4/4褐色砂泥
188 10YR3/1黒褐色泥砂 炭混	262 10YR2/3黒褐色粘質土・10YR4/4褐色砂泥塊混【SD193】
189 10YR4/2灰黄褐色砂泥鉄滓含む	263 10YR2/3黒褐色粘質土
190 10YR3/1黒褐色泥土	264 10YR3/3暗褐色粘質土・10YR4/4褐色砂泥 拳大礫・土師器片含む
191【SK2153】	265 10YR3/3暗褐色砂泥粘質 炭少量含む
192 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	266 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥粘質 拳大礫少量含む
193 10YR3/4暗褐色砂泥 小礫混	267 10YR3/2黒褐色砂泥粘質・10YR5/6黄褐色砂泥塊混
194 10YR4/2灰黄褐色砂泥 やや粘質	268 10YR3/2黒褐色砂泥 拳大礫・瓦片含む
195 2.5Y3/2黒褐色砂泥 締まる	269 10YR4/2灰黄褐色砂泥 土師器片多く含む
196 10YR2/3黒褐色砂泥 土師器片含む	270 2.5Y3/2黒褐色砂泥 炭・土師器片含む
197 2.5Y3/2黒褐色砂泥粘質【SX322整地面】	271 10YR4/2灰黄褐色砂泥 炭少量・土師器片多量含む
198 7.5YR3/1黒褐色砂泥・7.5YR6/8燈色砂泥 土師器・瓦片含む	272 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
199 5Y3/2オリーブ黒色砂泥 炭少量含む	273 10YR2/3黒褐色砂泥粘質
200 5Y2/2オリーブ黒色砂泥 やや粘質 炭・土師器片含む【Pit0309】	274 10YR4/2灰黄褐色砂泥軟質
201 5Y2/2オリーブ黒色砂泥 炭・土師器片少量含む【SK0308】	275 10YR3/1黒褐色砂泥粘質
202~223【SK0338】	276 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 粘質
202 10YR3/1黒褐色砂泥 炭・土師器片少量含む	277 10YR4/1褐灰色砂泥
203 2.5Y4/1黄灰色砂泥 炭・土師器片含む	278 2.5Y3/2.5暗オリーブ褐色砂泥 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質土塊混
204 2.5Y3/2黒褐色砂泥 炭少量含む	279 2.5Y4/5暗灰黄色砂泥
205 7.5YR5/1褐灰色粘質土・7.5YR4/3褐色砂泥 炭少量含む	280 2.5Y4/1黄灰色砂泥 土師器片少量含む
206 5Y4/1灰色砂泥 強い粘質 炭少量含む	281 2.5Y4/1黄灰色砂泥 径0.5~5cmの礫・土師器片少量含む
207 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 土師器片中量・炭少量含む	282 10YR4/2灰黄褐色砂泥 粘質
208 7.5YR4/2灰褐色砂泥 炭・鉄分多量含む	283 10YR3/1黒褐色砂泥
209 10YR5/1褐灰色砂泥 強い粘質土・炭・瓦・土師器片含む	284~295【SK0345】
210 5YR4/4にぶい赤褐色砂泥 径3~5cmの礫・炭・瓦含む	284 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥 炭・土師器片含む
211 10YR6/4にぶい黄燈色粘質土・2.5Y4/1黄灰色砂泥 粘質 土師器片含む	285 10Y3/1オリーブ黒色砂泥 炭少量含む
212 5Y3/1オリーブ黒色砂泥やや粘質 土師器片・炭少量含む	286 10YR3/1黒褐色砂泥 径2cmの礫・炭少量含む
213 212に径3~10cmの礫含む	287 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 やや粘質 炭・鉄分少量含む
214 7.5Y4/1灰色砂泥 粘質・5Y6/4オリーブ黄色粘質土 径1~5cmの礫含む	288 7.5Y4/1灰色砂泥 炭・土師器片少量含む
215 10Y4/1灰色砂泥粘質	289 7.5Y3/2オリーブ黒色砂泥 やや粘質 鉄分・土師器片少量含む
216 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥粘質 土師器片含む	290 10YR2/2黒褐色砂泥粘質 径3~10cmの礫含む
217 7.5Y3/1オリーブ黒色砂泥 強い粘質	291 7.5Y2/1黒色砂泥 炭・土師器片少量含む
218 5Y4/1灰色粘質土	292 2.5Y5/3黄褐色粘質土
219 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥・10Y4/1灰色粘質土	293 5Y2/1黒色砂泥
220 10Y3/1オリーブ黒色砂泥 やや粘質 鉄分・炭含む	294 7.5Y4/1灰色砂泥粘質・2.5Y5/6黄褐色粘質土のマーブル状
221 10Y5/1灰色粘質土	295 10YR4/2オリーブ灰色粘質土・10YR5/6黄褐色粘質土
222 7.5Y4/1灰色粘質土	296 10YR2/3黒褐色砂泥 炭混
223 5Y5/2灰オリーブ色粘質土	297 10YR3/2黒褐色砂泥
224~227【SX0337】	298~303【SK4265】
224 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 やや粘質 炭少量含む	298 10YR3/1黒褐色砂泥
225 5Y3/1オリーブ黒色砂泥 炭・土師器片・唐津碗含む	299 10YR3/2黒褐色砂泥 鉄滓含む
226 10YR4/1褐灰色砂泥	300 10YR3/1黒褐色砂泥 土器片・瓦・礫を含む
227 10YR2/2黒褐色砂泥 土師器片少量含む	301 10YR3/2黒褐色砂泥 鉄滓含む
228~240【SX0337下層】	302 301と2.5Y4/2暗灰黄色砂泥のMix
228 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 強い粘質 炭少量含む	303 10YR3/1黒褐色泥土 鉄滓含む
229 2.5Y3/3暗褐色砂泥粘質	304 5YR4/4にぶい赤褐色鉄滓
230 2.5Y3/1黒褐色砂泥 炭・鉄分少量・唐津碗含む	305 2.5Y3/1黒褐色泥砂 鉄滓多く含む
	306 10YR4/2灰黄褐色砂泥 5Y4/1灰色砂泥鉄滓混
	307 306とほぼ同じ やや粗

表5 南壁層名 - 3

308	306とほぼ同じ 7.5YR4/4泥土混	385	2.5Y4/2暗灰黄色粘質土
309	10YR3/1黒褐色砂泥 やや粗	386	2.5Y3/2黒褐色砂泥 やや粘質 炭少量含む
310	2.5Y4/1黄灰色泥砂	387	2.5Y3/2黒褐色砂泥 【SK1673】
311	10YR4/2灰黄褐色泥砂 瓦・礫混	388	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥・5Y4/4暗オリープ色砂泥 【SD1883】
312	10YR5/3にぶい黄褐色粘土塊 鉄滓含む	389	5Y4/4暗オリープ色砂泥 【第6層】
313	2.5Y3/1黒褐色砂泥 やや粗	390~394	【SK2206】
314	10YR4/2灰黄褐色砂泥	390	7.5YR4/1.5灰褐色砂泥
315	314と同色 鉄滓多く含む	391	7.5YR3/1黒褐色砂泥 炭混
316	10YR3/1黒褐色砂泥	392	10YR3/1.5黒褐色砂泥
317	10YR3/1黒褐色砂泥・5YR4/4鉄滓のMix	393	10YR5/4にぶい黄褐色粘質土塊 394含む
318	10YR4/2灰黄褐色砂泥 均質	394	2.5Y2.5/1黒褐色泥砂
319	10YR4/2灰黄褐色泥砂 やや粘質	395~397	【SK2563】
320	10YR3/2黒褐色泥砂	395	10YR4/1褐色泥砂・10YR4/3黄褐色砂泥Mix
321	2.5YR3/2暗赤褐色鉄滓塊	396	10YR4/2灰黄褐色泥砂 細砂・黄色泥土を含む
322	7.5YR2/2黒褐色砂泥 鉄滓多く含む	397	7.5YR3/1黒褐色泥砂 やや粘質
323	10YR3/1.5黒褐色砂泥 炭混	398	10YR3/1黒褐色泥砂 鉄滓含む 締まらず 【SK2761】
324	10YR3/2黒褐色砂泥 やや粘質	399	10YR3/1黒褐色黒褐色泥砂 礫が詰まる 【SK3475】
325	10YR3/2黒褐色砂泥 鉄滓含む	400	10YR2/2.5黒褐色砂泥 土師器片・炭混 【SK2564】
326	10YR3/2黒褐色砂泥	401~402	【SK2565B】
327	10YR2/3黒褐色砂泥 礫混	401	7.5YR3/1黒褐色砂泥 炭・焼土混
328	10YR3/2黒褐色砂泥	402	10YR3/2黒褐色砂泥 炭混
329	10YR2/3黒褐色砂泥 鉄滓多く含む	403	10YR2/3黒褐色砂泥 鉄滓混
330	10YR3/2黒褐色砂泥 やや粘質	404	10YR3/2黒褐色砂泥
331	10YR3/2黒褐色砂泥 鉄滓多く含む	405	10YR3/2黒褐色砂泥 10YR4/4褐色シルト混 【SK2621】
332	10YR3/2黒褐色砂泥 炭含む	406~407	【SK2843】
333	10YR3/2黒褐色砂泥 炭多く含む	406	2.5Y3/1黒褐色砂泥 土師器・炭混
334	7.5YR6/8橙色泥土 鉄滓含みマーブル状	407	2.5Y3/1黒褐色砂泥 2.5Y4/6オリープ褐色シルト混
335	7.5YR3/2黒褐色砂泥 【Pit2264】	408	【SK2560】
336	7.5YR3/2黒褐色泥砂 鉄滓・黄色粘土を含む	409~415	【SD2239】
337	10YR3/2黒褐色泥砂 鉄滓・礫含みよく締まる	409	10YR5/2灰黄褐色泥土・10YR3/2黒褐色砂泥Mix
338	10YR6/2灰黄褐色微砂・7.5YR3/2黒褐色砂泥・焼土Mix	410	2.5Y3/1黒褐色泥土 炭・細砂礫混
339	7.5YR4/1褐色泥砂・黄色粘土・炭混	411	10YR2/1黒色泥土 密
340	339とほぼ同色 やや密	412	10Y2/1黒色粘質土
341	10YR3/2黒褐色泥砂 鉄滓塊含む	413	10YR2/1黒色粘質土 細砂・木片・腐植土含む
342	10YR4/2灰黄褐色泥砂	414	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥・10YR4/4褐色砂泥Mix
343	10YR3/1黒褐色泥土 礫・鉄滓混	415	2.5Y4/4オリープ褐色砂泥 砂質
344	10YR3/1黒褐色泥砂 鉄滓塊混	416	2.5Y3/1黒褐色泥砂 【Pit3462】
345	10YR3/1黒褐色砂泥 砂粒多く含む	417	2.5Y3.5/1黄灰色泥砂
346	2.5Y3/1黒褐色泥砂	418	10YR3/1黒褐色泥砂 【Pit3393】
347	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 地山塊Mix	419	【Pit3465】
348	2.5Y4/1.5黄灰色泥砂 やや粘質	420	2.5Y3/1黒褐色泥砂 ウグイス色砂泥混 【Pit3413】
349	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	421	10YR3/1黒褐色砂泥・2.5Y4/2暗灰黄色泥砂Mix
350	10YR3/2黒褐色砂泥粘質	422	10YR4/4褐色泥砂・2.5Y4/2暗灰黄色砂泥Mix
351	2.5Y3/2黒褐色砂泥 拳大礫含む	423	10YR4/4褐色泥砂
352	2.5Y4/1黄灰色砂泥 径約5cmの礫多量を含む 【SK1418】	424	2.5Y3/2黒褐色砂礫
353~357	【SK0684】	425	2.5Y4/2暗灰黄色泥砂
353	10YR3/2黒褐色砂泥	426	5YR3/1黒褐色砂泥 灰・炭・焼土混
354	10YR2/1黒色泥土 Ⅹ期土師器皿含む	427	10YR3/1黒褐色泥土・炭・礫などのMix
355	2.5Y2/1黒色泥土 炭多量含む	428~430	【SK2845】
356	2.5Y3/2黒褐色砂泥 Ⅹ期土師器皿多量を含む	428	7.5YR3/1黒褐色泥土 土師器多く含む
357	2.5Y3/2黒褐色砂泥	429	10YR3/1黒褐色泥砂 粘質
358~361	【SK0860】	430	10YR3/1黒褐色・2.5Y4/2砂泥Mix
358	10YR2/2黒褐色砂泥	431	7.5YR3/1黒褐色砂泥 第4層下として掘り下げ
359	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 2.5Y4/4オリープ褐色砂泥塊混	432	7.5YR3/1黒褐色砂泥 炭混
360	2.5Y3/2黒褐色砂泥 10YR6/8明黄褐色砂泥塊混	433	10YR3/2黒褐色泥砂 やや粘質
361	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥	434	10YR3/2黒褐色泥砂 Ⅲ期の土師器多く含む
362	10YR3/2黒褐色砂泥 2.5Y4/3オリープ褐色砂泥少量混 【SK0502】	435	7.5YR3/2黒褐色泥砂
363	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥	436	10YR4/2灰黄褐色砂泥
364	10YR3/1黒褐色砂泥 炭少量含む	437	10YR3/1黒褐色泥砂 粘質 【Pit4384】
365	10YR4/1褐色砂泥 2.5Y4/6オリープ褐色砂泥塊混	438	【Pit2960】
366	10YR4/1褐色砂泥 径5~10cm礫含む	439	2.5Y4/2ウグイス色砂泥・10YR3/1黒褐色砂泥Mix
367	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥	440	439と同色
368	10YR4/4褐色砂泥	441	2.5Y3/2黒褐色砂泥
369	2.5Y3/2黒褐色砂泥	442	2.5Y4/2ウグイス色砂泥
370	10YR4/2灰黄褐色砂泥 炭少量含む	443	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
371	10YR3/2黒褐色砂泥 炭多量含む 【SK855】	444	2.5Y4/2.5オリープ褐色砂泥
372	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	445	5Y4/2灰オリープ色粗砂
373	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 5Y5/4オリープ色砂泥塊混	446~456	【地山】
374	2.5Y4/3オリープ褐色砂泥 10YR5/6黄褐色砂泥塊混	446	2.5Y5/2暗灰黄色砂礫
375	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥	447	2.5Y5/6黄褐色砂泥 非常に固く締まる
376	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥・2.5Y5/3黄褐色砂泥粘質 【Pit1667】	448	10YR4.5/4褐色泥砂
377	2.5Y5/2暗灰黄色砂泥	449	10YR4/4褐色泥砂
378	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 2.5Y5/4黄褐色砂泥塊混	450	10YR4/3.5にぶい黄褐色~褐色粘質土
379	2.5Y5/1黄灰色粘質土	451	2.5Y5/3黄褐色砂泥
380	2.5Y4/1黄灰色砂泥粘質 【SK1161】	452	2.5Y4/4オリープ褐色シルト
381	2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 炭少量含む	453	10YR4/3.5にぶい黄褐色~褐色粘質土
382	2.5Y5/2暗灰黄色砂泥 【SK1492】	454	10YR4/6褐色シルト
383	2.5Y5/4黄褐色砂泥	455	10YR3/3暗褐色砂礫
384	2.5Y5/1黄灰色粘質土	456	10YR4/6褐色シルト

底部から約2 mが遺存していた。各部材は上下2箇所ではぞ組みされ隙間なく丁寧に合わされている。底部には径70 cm、高さ25 cmの曲げ物が設置されている。木組み外面に腐蝕した縄の痕跡が巡っていたが、これはおそらく地上で組み立てた井戸枠を掘形に設置する際に枠を補強あるいは懸架するために縛った縄が放置されたものと考えられる。遺物は2-C（表2、以下土器類の時期表記は同表による）の土器類が主で、大半が枠内の上層部（断面図1・2）から集中して出土し、中層以下の堆積土にはほとんど含まれていなかった。底部の標高は32.3 m。

井戸 SE3000（図版13） 2区南部、SE3444の南東約18 mに位置する井戸。掘形平面は楕円形を呈し、東西約3.5 m、南北2.5 mと井戸の規模の割には大きい。井戸枠は東寄りに設置されており、構造や部材はSE3444と同様の円形縦板組みであるが、底部に曲げ物などの施設はない。内径70 cm、底部から約1 m残存し、それより上部は腐蝕して痕跡をとどめるのみであった。遺物は多くないが3-Aの特徴を示す土器類が出土した。SE3444 廃絶後に作り替えられた井戸と思われる。底部の標高は32.4 mである。



- 1 7.5Y7/1 灰白色シルト
- 2 5B6/1 青灰色シルト
- 3 7.5Y4/1 灰色シルト この層以下遺物少ない
- 4 10GY4/1 泥砂
- 5 7.5Y4/1 灰色シルト + 7.5Y2/1 黒色粘質土 +
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト + 10YR4/6 褐色粗砂
- 6' 2より粘性強い
- 7 5Y3/2 オリーブ黒色粘質土 + 2.5Y5/1 黄灰色粘質土

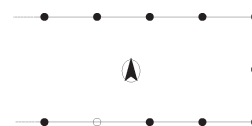
図7 SE3444 実測図（1：50）

溝SD3330 2区南壁際に検出した東西方向の溝。溝心は建物2の南柱筋から約3 mに位置する。西壁から約8 mを確認したが、それより東は後世の遺構によって破壊されており不明である。溝幅は0.5～0.6 m、深さは約0.1 mと浅いが遺物は多く、3-Aの土器類が多量に出土した。

建物1 2区西壁寄りに位置する南北方向の掘立柱建物。東西2間×南北を3間分検出した。妻柱は北側を確認したが、南は不明で、さらに延びる可能性もある。柱間は東西・南北共に2.4 m（8尺）等間。柱掘形は径0.6 m前後である。遺物は小片で量もわずかであるが、3-Bに属する。



建物2 2区南西部に検出した東西方向の掘立柱建物。東西4間×南北を2間分を検出したが西妻柱は未確認で、西へ延びる可能性がある。柱間は東西・南北共に2.1 m（7尺）等間。柱掘形は径0.4 m前後とやや小振りである。遺物は土師器の小片ばかりであるが、この土器群も建物1のものと同様



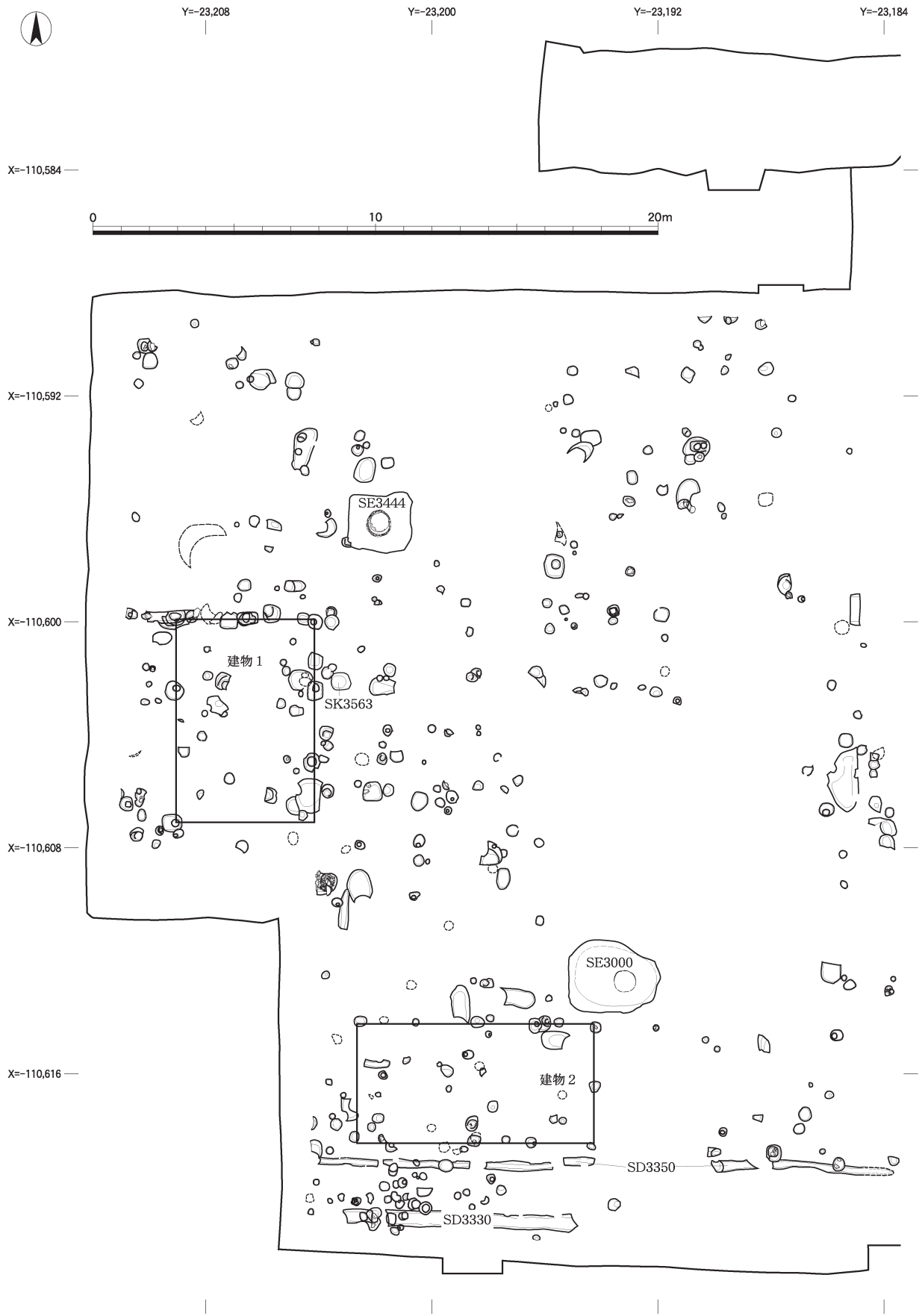


図8 第1期の遺構（西半）実測図（1：200）

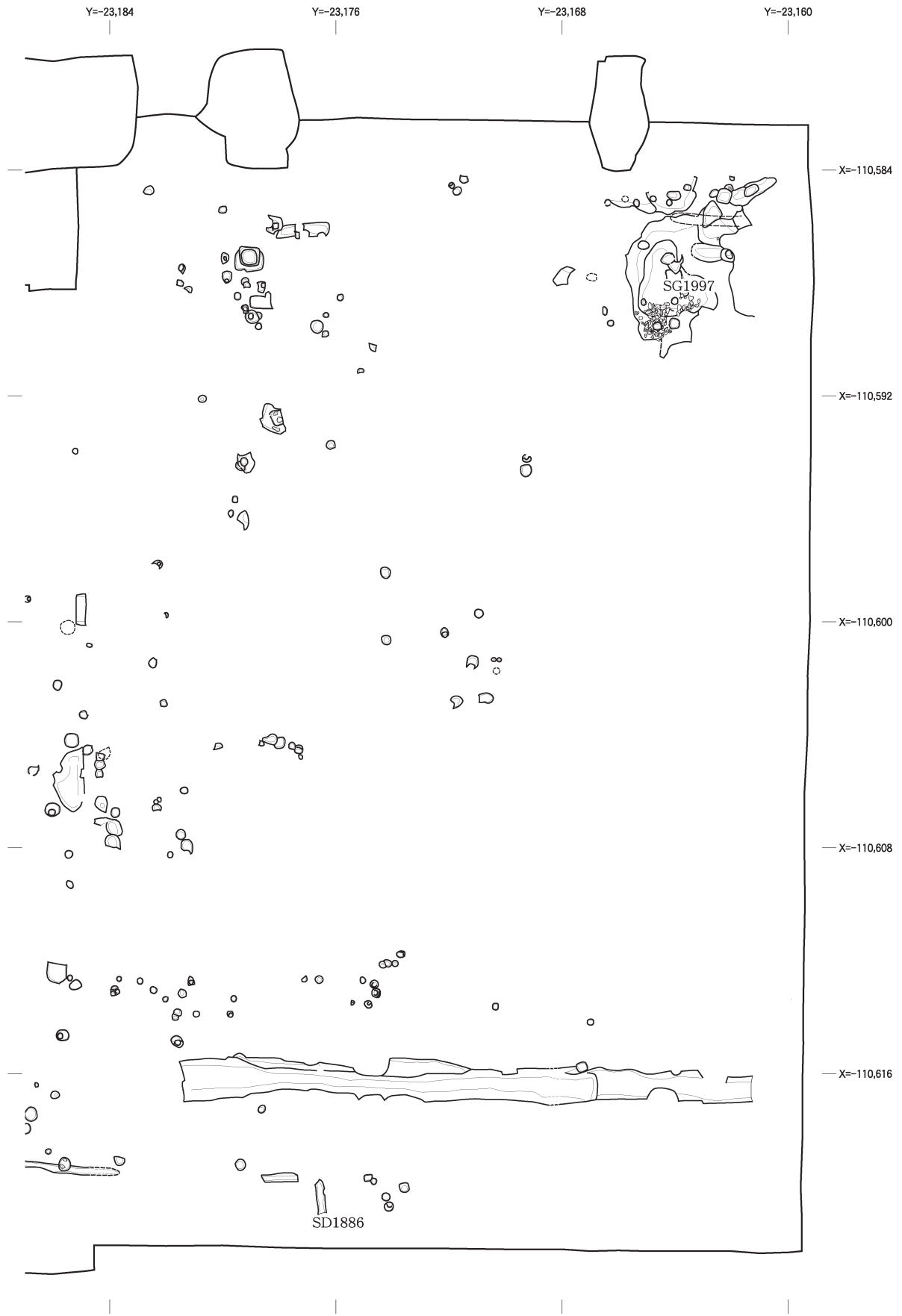


図9 第1期の遺構（東半）実測図（1：200）

3-Bに属するものである。

池 SG1997 (図版 10) 1区北東隅付近に位置する不整形な窪み。南部および東部が後世の遺構により破壊され、正確な規模は不明である。堆積土は腐植土を含む灰色の粘質土で南肩付近の傾斜に沿って拳大の礫が集中する。遺物の大半は瓦であるが、3-Bの土器類が少量出土している。

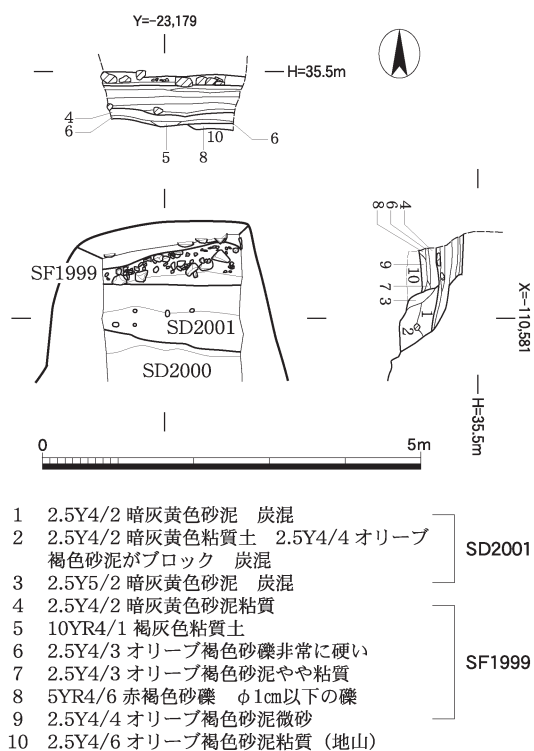
溝 SD3350・1886 建物2の南辺に沿う東西方向の溝。2区西壁から約27mの地点でほぼ直角に南に向きを変える。近世の土壌などにより寸断されていたため調査時には1区で検出した1886とは別番号を与えたが、方向や規模、出土遺物の時期を検討した結果、同一の溝であると判断した。幅0.2～0.3m、深さ0.1～0.15mの小規模な溝である。出土土器は3-Bに属する。

第1期の遺構群全体について見ると、少数の遺構はあるもののこの地域が9世紀代に活発に利用されている様子はうかがえない。遺構数が増加するのは2-C以降で、ほぼ同時期に存在したであろう複数の建物・土壇・井戸・溝などの明確な遺構があり、宅地として利用されていたことが確認できる。2-B以前の遺構が後続する遺構によって破壊され消滅した可能性もあるが、該当する時期の遺物も限られていることから、本来の遺構密度もあまり高いとは考えられない。

### (3) 第2期の遺構 (図13・14)

遺構数は2,312で他の期に較べ圧倒的に多いが、その大半は1,808基の小規模なピットであり、そのほか土壇444基、井戸13基、溝15条、その他32基の遺構がある。

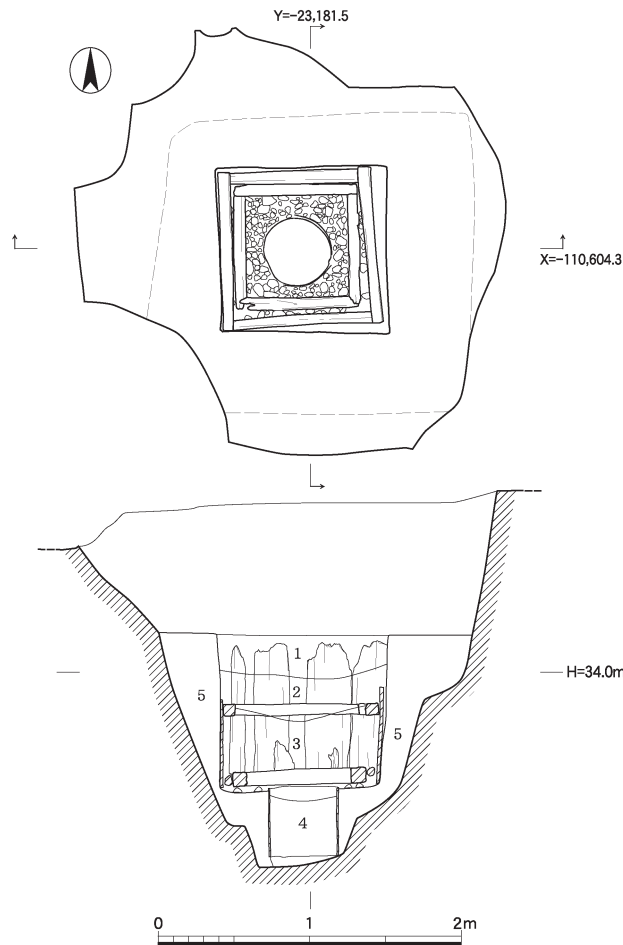
路面 SF1999・溝 SD2001 (図10、図版9) 1区北拡張区と3区で検出した四条坊門小路路面および南側溝である。調査地の敷地北端に位置しているため十分な調査範囲を設定することができ



なかつたが、東西約30mを確認できた。路面 SF1999 は厚さ約0.2mで礫を含み固く締まった3～5層の整地層からなる平安時代のもとの、その上部0.4～0.5mにわたる鎌倉時代から室町時代のものを検出した。南側溝 SD2001 は南半を16世紀後半の惣構の濠 SD2000 によって破壊されており、北肩部から幅0.75m程を確認したが、南肩は不明である。深さは約0.5mで、炭片を含んだ暗黄灰色の砂泥および粘質土が堆積していた。遺物は少量だが、4-Aに属する土師器・灰釉陶器などが少量出土している。

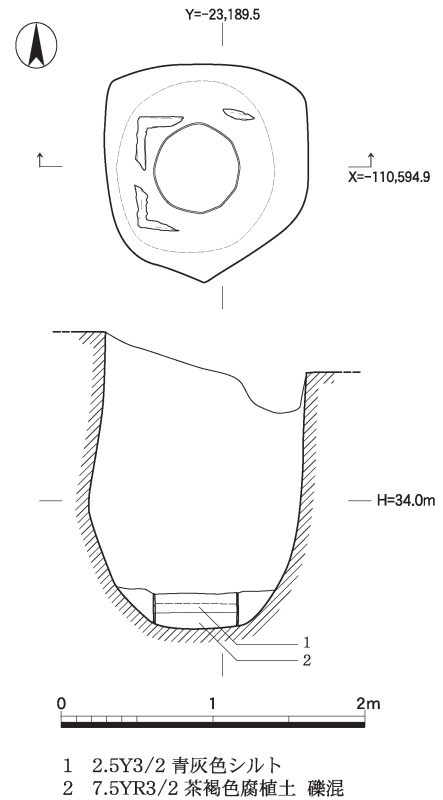
井戸 SE1111 (図11、図版12) 1区南北中央の西寄りに位置する方形縦板組の井戸。掘形の平面形は約2.5mの方形で底部にかけて段状に狭まる。井戸枠は一辺約1mで、各辺に4枚

図10 SF1999・SD2001 実測図 (1:100)



- 1 2.5Y5/3 黄褐色砂泥粘質
- 2 10YR5/1 灰色シルト
- 3 7.5B4/2 青灰色シルト
- 4 2.5Y3/2 暗灰黄色シルト 水分多く腐植土混
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 木炭多量に含む

図 11 SE1111 実測図 (1:50)



- 1 2.5Y3/2 青灰色シルト
- 2 7.5YR3/2 茶褐色腐植土 礫混

図 12 SE3108 実測図 (1:50)

ずつの縦板を用い、内側から横棧で支持している。横棧は縦板下端部とその上方約 0.5 m の 2 箇所に残っていた。下段の横棧は 10 cm 角と太めの部材を使用しているが、一辺が 0.9 m と井戸枠の内寸より小さく、生じた隙間に拳大の石を詰めて縦板を支えている。上段の横棧は 8 cm 角の部材で、井戸枠に密着している。底部には径 45 cm、高さ 45 cm の曲げ物を設置し、その周囲に礫を敷き詰めている。遺物は最上層から 4-B の土師器、下層（主に 3 層）からは 4-A の土師器・須恵器・緑釉陶器が出土している。掘形埋土には多量の木炭が含まれていた。底部の標高は 32.7 m。

井戸 SE3108(図 12) 2 区北東部で検出した井戸。掘形平面形は一辺約 1.5 m のやや崩れた方形。断面が「U」字形を呈する。部材が抜き取られたか腐蝕したためか、ほとんど失われていたため構造は明らかではないが、最下段の方形の横棧が痕跡的に残っていたことから、方形縦板組の井戸かと推測される。底部には径 55 cm、高さ 23 cm の曲げ物が据えられている。曲げ物の直上まで小礫と腐植土の混じった粘質土が堆積し、量はさほど多くないが、4-B の土器類が出土した。底部の標高は 33.2 m。

井戸 SE2469 (図 15、図版 10) 2 区東西中央部北寄りに位置する方形縦板組の井戸。掘形の平面は南北が 3.2 m、東西は西側を 8-B の井戸 2212 に切られており不明だが 3 m 以上はある。断面の形状は北側が緩い斜面をなす歪んだ「U」字形を呈する。井戸枠は各辺に 4 ないし 5 枚の縦

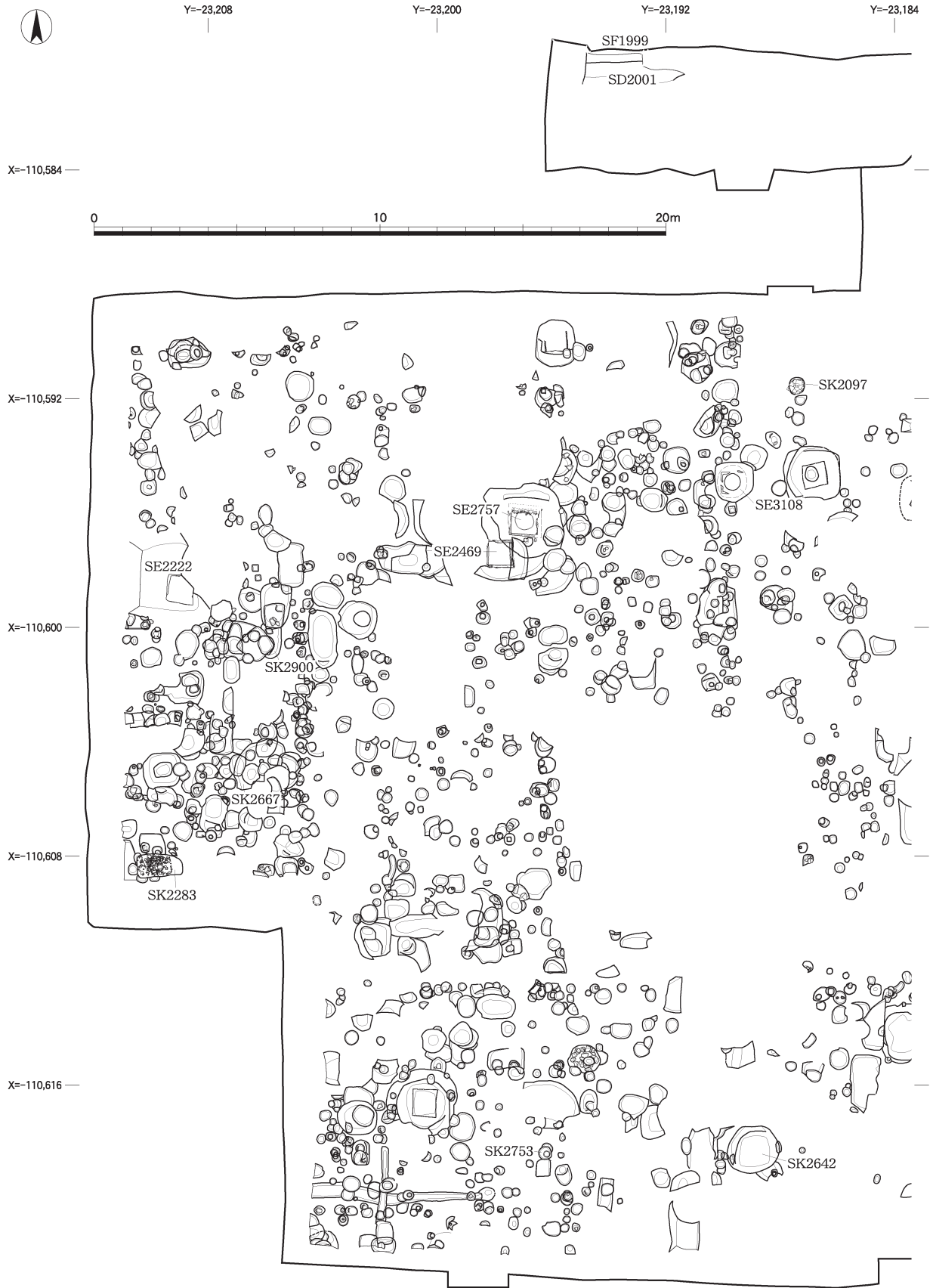


図13 第2期の遺構(西半)実測図(1:200)



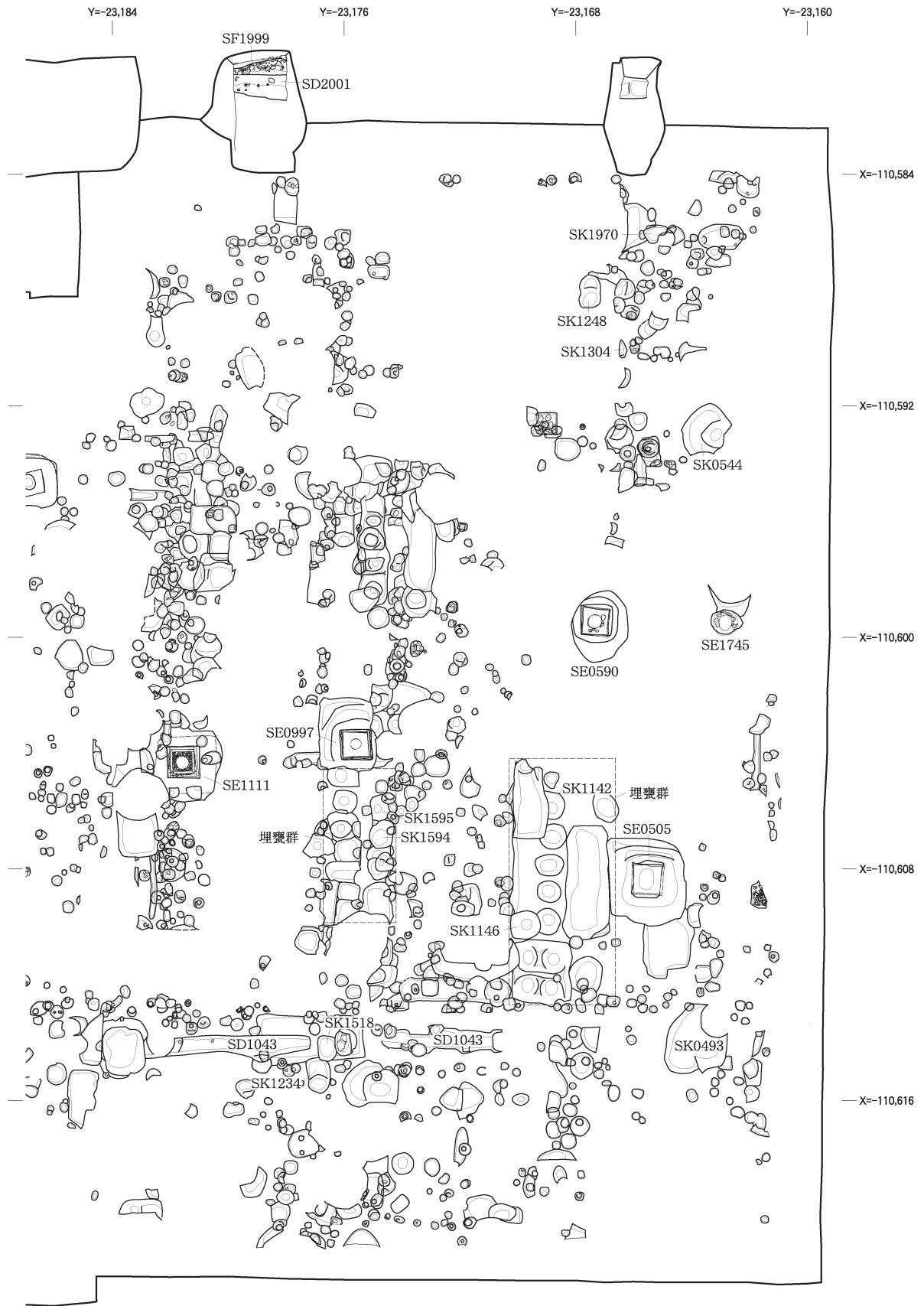
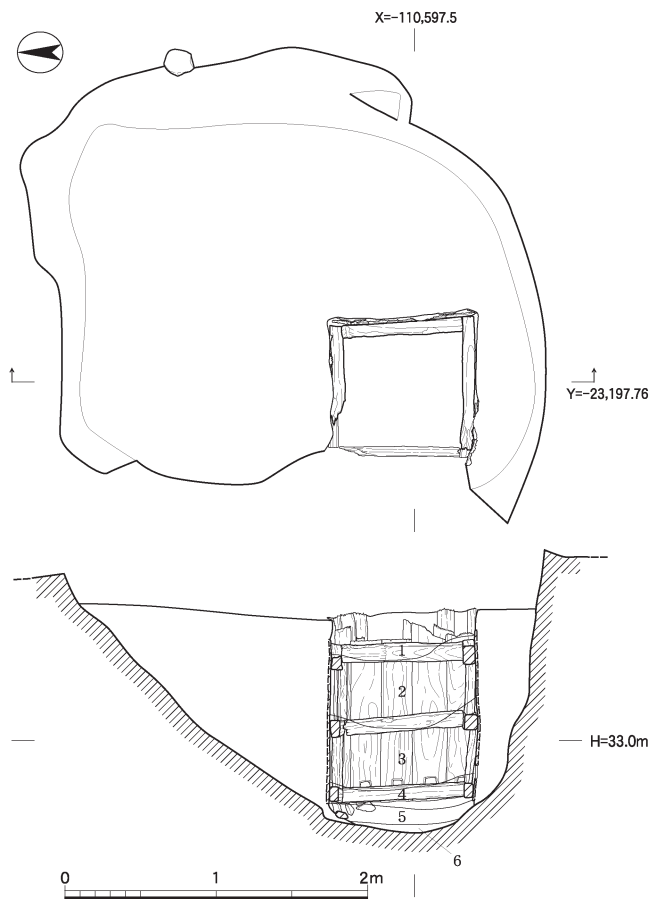


図14 第2期の遺構（東半）実測図（1：200）



- 1 2.5Y3/1 黒褐色砂泥 粘質
- 2 5Y3/1 オリーブ黒色シルト 2' 粘質性強
- 3 2.5Y3/1 黒褐色シルト
- 4 10GY3/1 暗緑灰色シルト
- 5 5GY3/1 暗オリーブ灰色シルト
- 6 10YR1.7/1 黒褐色砂泥 炭多い

図 15 SE2469 実測図 (1 : 50)

板を7×10 cm程の角材で組んだ横棧で支持し、内寸0.95 mの方形に組む。縦板の継ぎ目には裏側から薄い割板をあてがっている。横棧は3段確認したが、0.3～0.35 m間隔に四隅を縦棧で支えている。井戸内には水分を多く含むシルト質の土層が堆積し、4-Cの遺物が出土している。底部の標高は32.4 mである。この井戸の掘形形状とそれに対する井戸枠位置が変則的なのは、北東に近接して4-Bの井戸SE2757があり、掘形掘削時に残存していたその井戸枠を避けた結果であろう。

土壌 SK2642 2区南東隅付近に位置する径1.8 mの円形の土壌。検出時には平面形から井戸の可能性を考えたが、深さは約0.5 mで枠などの形跡も無かった。5-Aの遺物が出土。

土壌 SK2097 (図 16) 2区北東で検出した埋め糞遺構。上部が削平され、挿鉢状の掘形に据えられた糞の底部が残存していた。糞は常滑系の製品と思

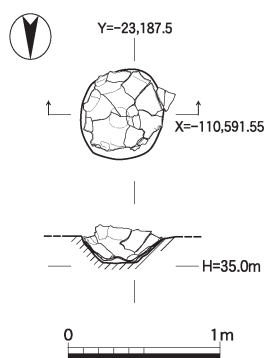


図 16 SK2097 実測図 (1 :

われる。遺物はわずかであるが、5-Bの土師器が糞内から出土している。埋め糞遺構はこのほかにも数箇所を確認した。単独のものが多いが、1区中央部付近ではSK1142～1146や1594・1595など、南北約8 mにわたって糞を2列ずつ設置したと思われる土壌列を約4 m間隔で2箇所検出した。いずれの土壌も糞を据え付けた状態では検出していないが、整然と配置された大半の土壌の断面形状が挿鉢状を呈し、土壌内の遺物には糞片が多いことなどから埋め糞を集積した遺構と捉えられる。遺物は焼締陶器の糞片のほかSK2097と同様5-Bの土師器が出土している。

井戸 SE2222 (図 17、図版 11) 2区西壁沿い北寄りに検出した方形縦板組の井戸。掘形は西が調査区外、東が近世の井戸 SE2021 などに破壊され、全体の形状は明らかではないが、南北3.2 mが確認できる。掘形南端に寄せて設置された井戸枠は内寸約0.95 mで、各面は9～10枚の縦板を、横棧には断面10×4 cmの板状の部材を使用している。底部は平坦で、曲げ物などの施設は

ない。井戸内には礫や土器片を多量に含んだ茶灰色の粘質土が一様に堆積していた。底部の標高は 32.2 m。遺物は 5 - B に属する。

土壌 SK2283 (図 18) 2 区張り出し部の南西に位置する土壌。規模は東西 1.6 m、南北 0.8 m で、底部は凹凸が激しく不整形である。土壌内の埋土は礫と多量の土師器を含んだ暗灰黄色の砂泥である。土器類は 6 - A に属する。

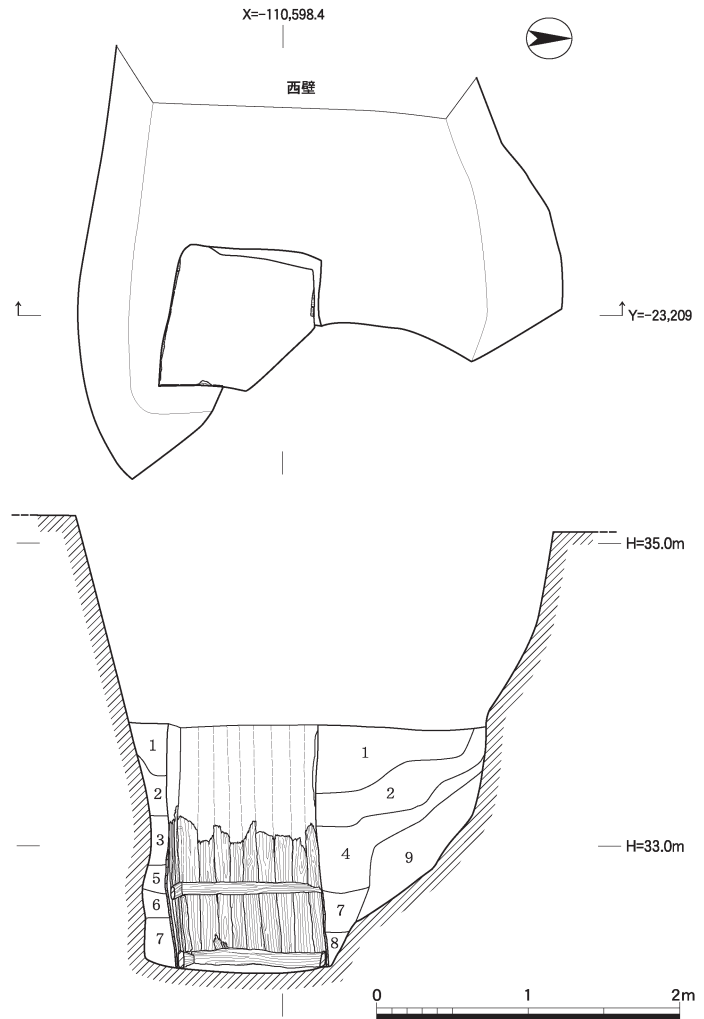
土壌 SK0493 1 区南東隅に位置する土壌。平面形は北東の一部を他の土壌によって削平されているが、長径約 2.6 m の斜方向の楕円形を呈している。断面は浅い皿形で、深さ約 0.3 m。6 - A に属する土師器を主とする多量の土器類が出土した。

第 2 期の遺構は小規模なピットが主体を占めるが、井戸や土壌なども多数検出され、遺構総数は第 1 期に比べて飛躍的に増加している。遺構数の増加は特に 4 - B から顕著で、これはこの地域の利用が 11 世紀中頃から活発になったことを示すものであろう。

#### (4) 第 3 期の遺構 (図 23・24)

第 3 期は第 2 期に較べ遺構数が激減する。遺構数 576 の過半を占める 295 基がピットで、そのほかに土壌 250 基、井戸 4 基、溝 6 条、その他 21 基がある。

土壌 SX2700 (図 19) 2 区東西中央の南寄りに検出した東西方向の溝状の土壌。規模は東西約 4.5 m、南北 1.3



- 1 2.5Y5/3 黄褐色粘質土+2.5Y3/2 黒褐色砂泥粘質、土師器・瓦片含む 炭混
- 2 2.5Y4/2 暗褐色粘質土+10YR3/4 暗褐色砂泥粘質上層より締まる、土師片・炭混
- 3 2.5Y2/1 黒色砂泥やや粘質、土師片含む
- 4 2.5Y3/1 黒褐色砂泥粘質+2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土、土師片・炭混
- 5 2.5Y4/1 黄灰色粘質土
- 6 2.5Y5/4 黄褐色砂泥φ10cm前後の大礫含む
- 7 2.5Y3/1 黒褐色砂泥やや粘質φ2~3cmの礫少量含む
- 8 2.5Y5/1 黄灰色粘質土φ2~5cmの礫少量含む、炭混
- 9 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土、炭混

図 17 SE2222 実測図 (1 : 50)

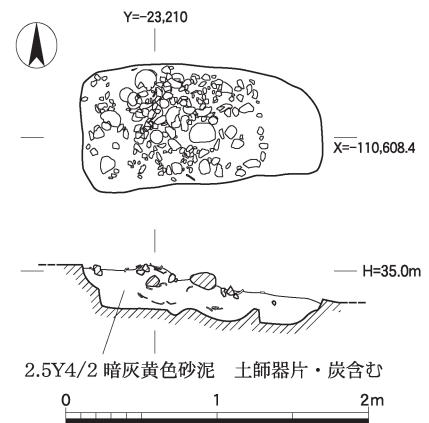


図 18 SX2283 実測図 (1 : 50)

m、深さ約 0.7 m 前後で、断面はゆるい「U」字形を呈する。土師器・須恵器・瓦器・輸入陶磁器など 6-B の土器類が多量に出土した。

土壌 SK2344 2 区中央のやや北寄りに位置する土壌。土壌内には多量の常滑系の甕片が重なっていたが、甕底部が土壌の最下部に正位置で出土し、接合の結果 1 個体に復元できたため、埋め甕遺構と判断される。常滑の甕としては古い型式に属するが、共に出土した土師器皿は 6-B に位置づけられる。設置から廃絶までの時間経過を示すものだろうか。

井戸 SE0831 1 区南東部に位置する六角形縦板組の井戸。掘形は径約 2.2 m の円形。井戸枠は腐蝕が激しく詳細をつかめなかったが、幅約 50 cm の縦板を 1 枚ずつ用い、ほぼ正六角形に組み合わせていることが確認できた。板同士の接合や構造の支持などの方法は不明である。底部の標高は 32.0 m。6-C の土器類が出土した。

墓 SX2322 (図 20) 2 区中央の北寄りで検出した。東側の一部を 10-B の井戸 SE2197 に切られているが、南北 1.35 m、東西 0.6 m の土壌。底部は平坦である。埋土中に小礫・炭片・土器片を多く含む。中央南寄りで渥美産の壺が 1 個体、北側で土師器皿と白磁皿が重なった状態で出土している。骨や棺の痕跡は確認できなかったが、土壌の形状や遺物の出土状況からみて壺を蔵骨器とした火葬墓の可能性が高い。共伴する土師器皿は 6-C に属する。

土壌 SK2276 2 区西端部付近で検出した土壌。平面位置が下部の井戸 SE2222 と重複しており、当初同一の遺構と考えたが、堆積状況や出土遺物の時期に大きな開きがあり別の土壌と判断した。6-C の土器類が多量に出土している。

土壌 SK2253 2 区東西中央南壁近くに位置する、東西約 2.3 m、南北 1.6 m、深さ 0.3 m の平面長方形を呈する土壌。土師器を主とする 7-A の土器類が出土。

井戸 SE2596 (図 21) 2 区北東寄りに位置する方形縦板組の井戸。掘形は隅丸方形で、1.4 m 四方と比較的規模は小さく、底部付近では井戸枠に接する程である。井戸枠は部材の腐蝕が激しく、とくに縦板は痕跡的にしか確認できない部分もあったが、各面に幅 10 cm 前後の板材を 7~8 枚使用している。内寸は 0.8 m で、最下段の横棧と四隅に縦棧が残存し、底部には径 38 cm、高さ 35 cm の曲げ物が設置されていた。底部の標高は 32.2 m。曲げ物内から常滑系甕の底部が出土した。遺物は 7-B に位置づけられる。

土壌 SK0555 1 区東西中央の北寄りに検出した土壌。南北約 3.5 m、深さ 1 m、近世の土取り

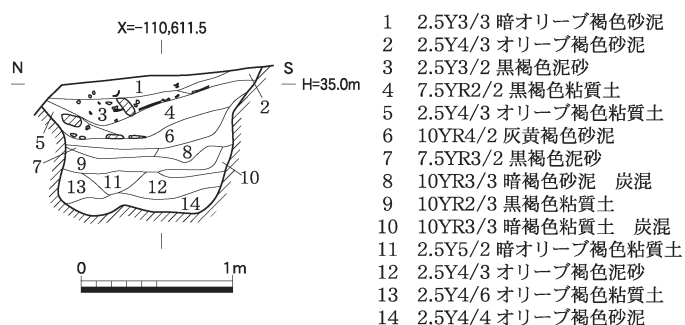


図 19 SX2700 断面図 (1:50)

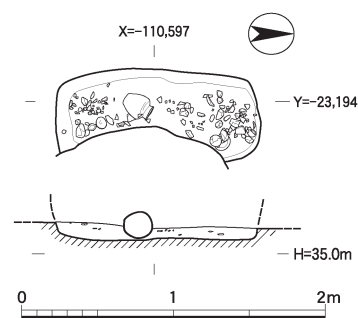
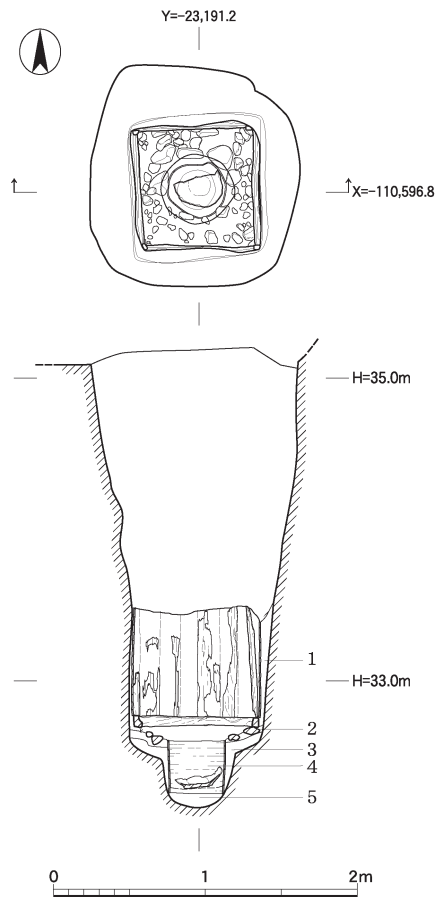


図 20 SX2322 実測図 (1:50)



- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 小礫含む
- 2 10YR3/3 暗褐色砂泥 石敷きの層
- 3 2.5Y4/4 オリーブ褐色泥砂 小礫多い 曲物掘形
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 砂多い 底部に常滑の甕
- 5 10YR2/1 黒色泥土 炭片多量に混

図 21 SE2596 実測図 (1 : 50)

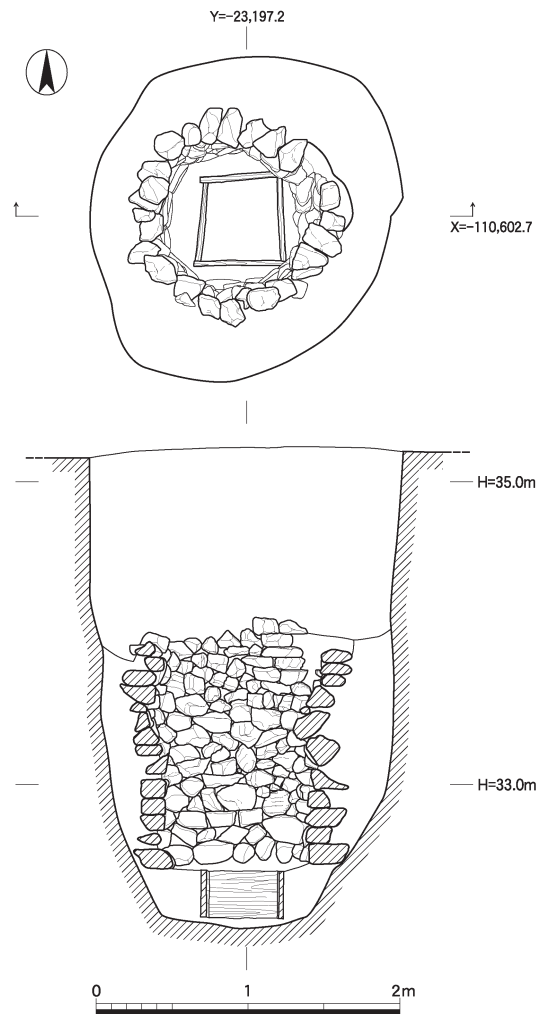


図 22 SE2527 実測図 (1 : 50)

穴や井戸に切られ東西規模は不明である。埋土は均一な茶褐色砂泥で、量は多くないが他地域産ロクロ成形の土師器を含む7-Bの土器類が出土している。

井戸 SE2527 (図 22、図版 11) 2区中央部付近に位置する円形石組井戸。石組内径は約1mで高さ約1.5m残存。石材は砂岩・チャートなどの自然石が主体で、花崗岩が少量混じる。底部には横板を組んだ一辺0.5m、高さ0.3mの木枠を据える。底部の標高は32.1mである。井戸内から7-Cに属する多量の土器類が出土した。

集石 SX2459 2区北西部で検出した集石遺構。南北2.5m、東西1m程の範囲に拳大の礫が広がり、掘り込まれた形跡はない。礫の隙間や上面に土器片が散布していた。土器類は7-Cに属する。南西約5mにも同様の集石遺構 SX2300 を検出している。

土壌 SK0344 1区中央やや西寄りに位置する土壌。平面位置は6-Aの井戸 SE0997 の井戸枠部分と重複するが、明らかに成立面が異なり、出土遺物の時期にも大きな開きがある。井戸の堆積物や構造が腐蝕し、後世に陥没した結果生じた窪みとも考えられる。8-Aの土器類が出土した。

井戸 SE2212 2区中央部の北西に検出した縦板組の井戸。掘形は径1.8mの円形。井戸枠は腐蝕し一部しか残存してはなかったため正確な辺数は不明だが、9ないし10枚の縦板を内寸約1.1

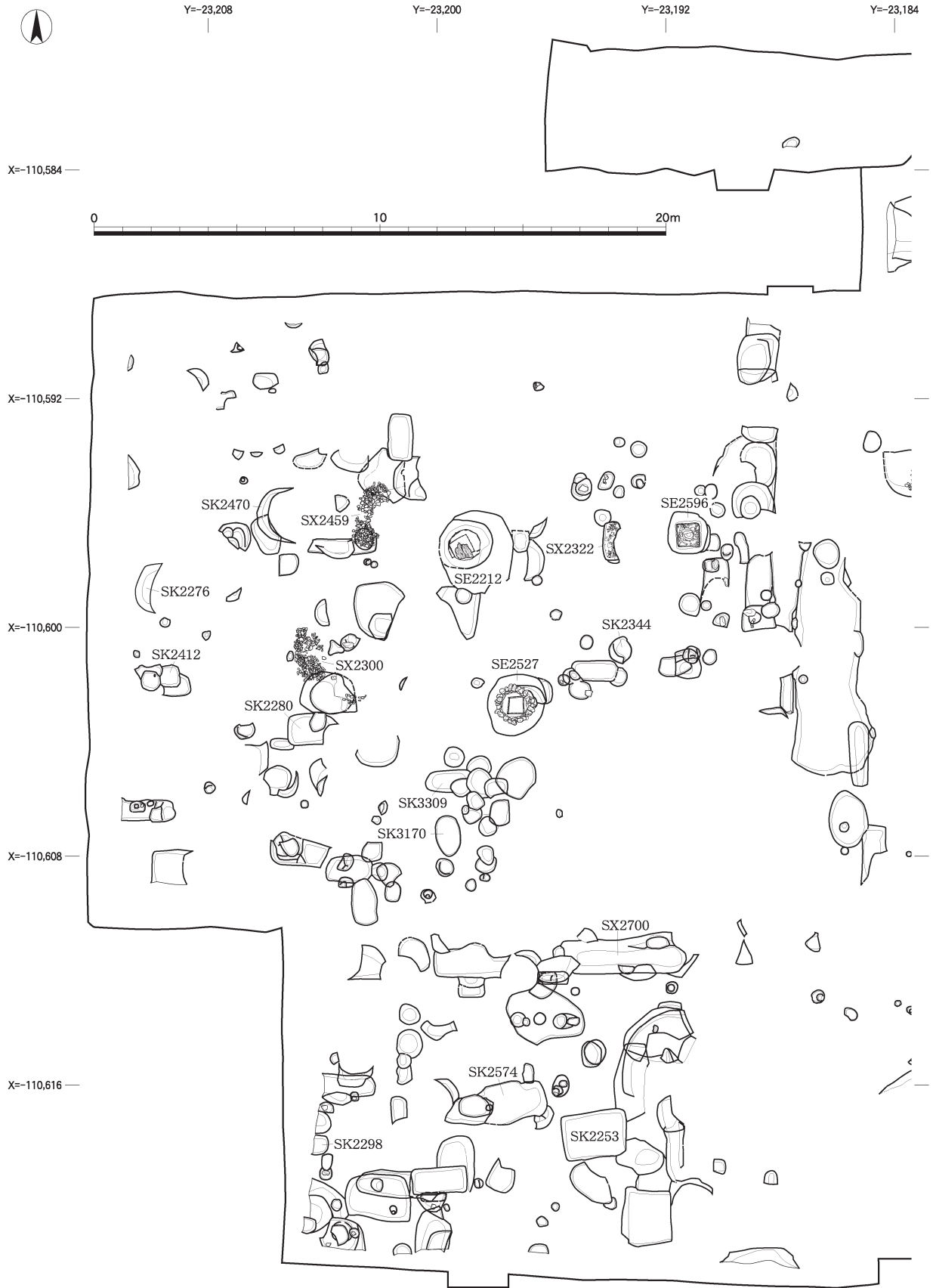


図23 第3期の遺構(西半)実測図(1:200)

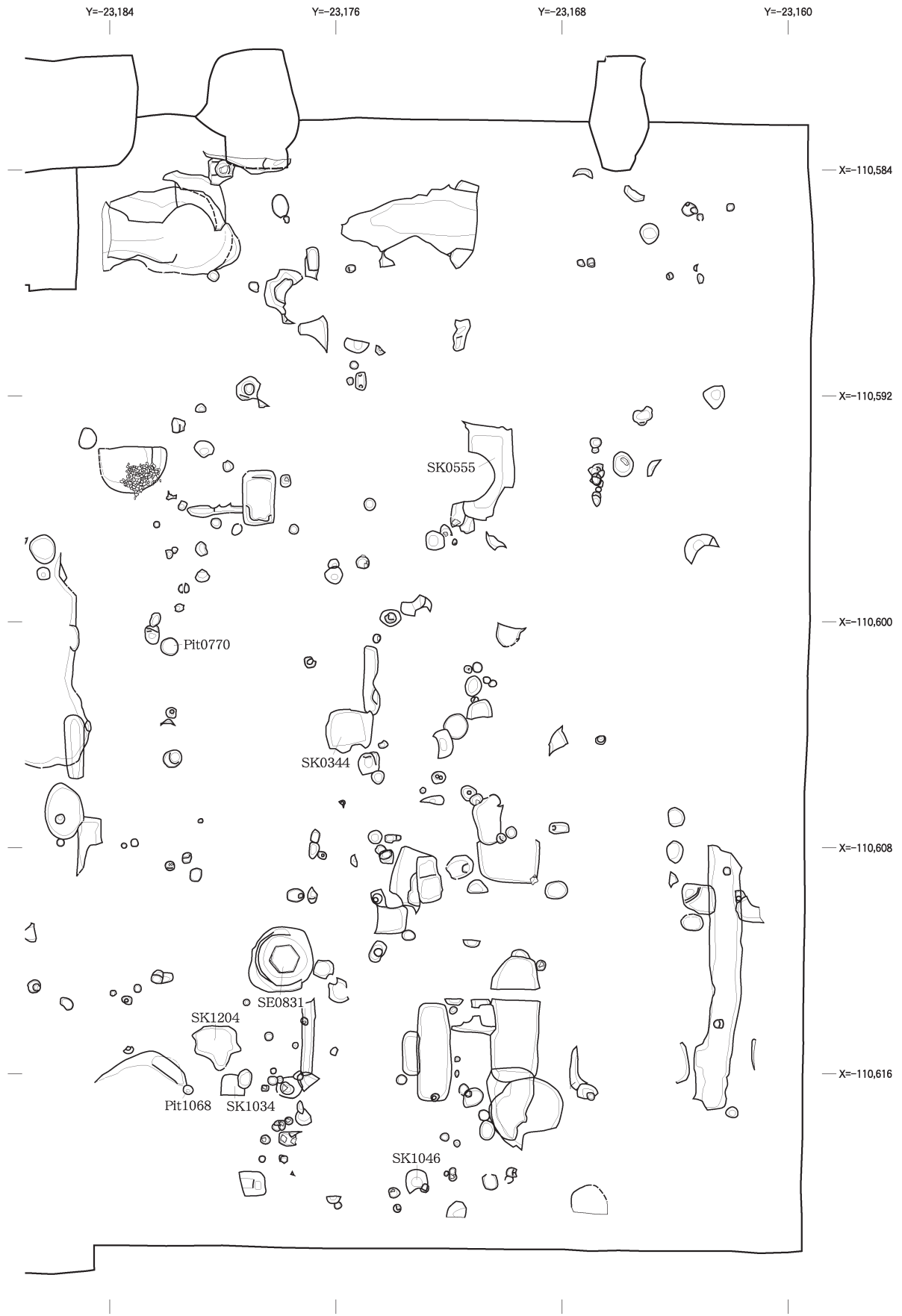


図24 第3期の遺構(東半)実測図(1:200)

mの多角形に組み合わせた構造である。底部に一辺0.7 mの方形の木枠を据えた痕跡が認められた。底部標高は 32.0 m。出土遺物の時期は 8 - B に属する。

第 3 期は、遺構密度の低い第 1 期を除くと井戸数が最も少なく、土地利用が前時期に比べ、やや低調になっていたことがうかがえるが、土壇やピットの数からみると、ある程度継続的に利用されていたように思われる。

#### (5) 第 4 期の遺構 (図 28・29)

第 4 期は 15 世紀初頭から 16 世紀末頃までを想定しており、期の後半は本能寺が存在した時期にあたる。遺構数は 324 基で、ピット 120 基、土壇 165 基、井戸 13 基、溝 5 条、その他 21 基がある。

土壇 SK0684 1 区の東西中央南端に検出した土壇。東西約 2 m、南北は北肩部から約 1 m で調査区外に延びており不明。深さは約 1 m で、土壇内には 9 - A の土師器を多量に含む黒褐色砂泥が堆積していた。建物 3 の南東隅のピット 0301 に切られている。

土壇 SK2091 2 区南北中央西側に位置する土壇。南北 0.8 m、東西は西から約 0.8 m で 9 - C の土壇 SK2090 に切られており不明。9 - B の土師器皿類が多量に出土した。

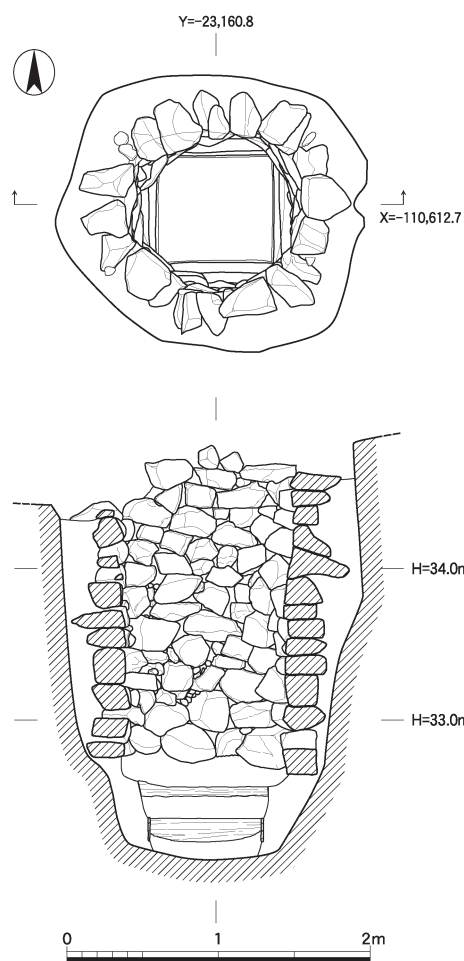


図 25 SE0922 実測図 (1 : 50)

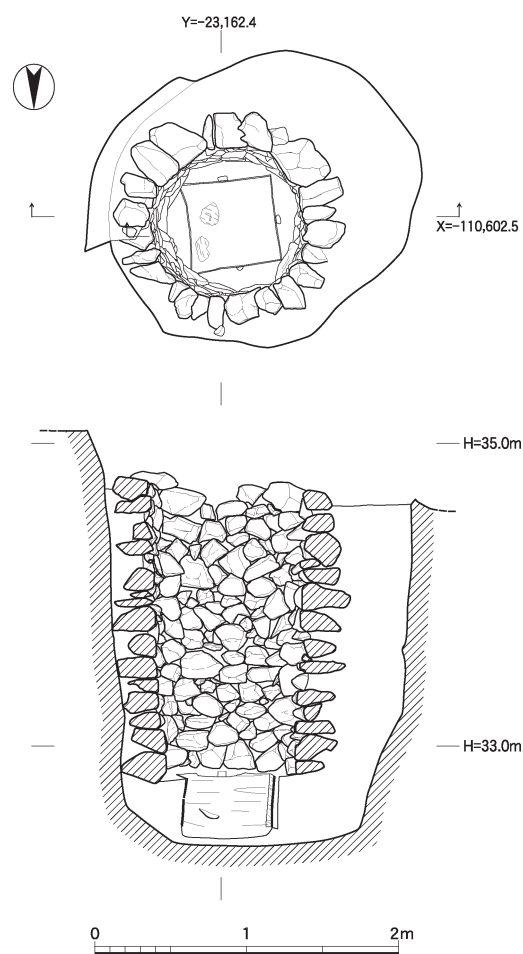


図 26 SE0458 実測図 (1 : 50)



井戸 SE0922 (図 25) 1区南部東壁寄りに位置する円形石組井戸。掘形は径約 1.8～2 mの歪んだ円形で断面「U」字形を呈する。石組は内径約 1 mで高さ約 2 mが残存していた。石材は9割以上が花崗岩で、他に砂岩や礫岩などが補助的に使われている。底部には一辺 0.85 mと 0.75 mの横板組の方形の木枠が二段設置されていた。底部の標高は 32.1 m。井戸内の堆積は腐植土の混じるシルト層で、9- Cに属する遺物が出土した。

建物 3 1区南部に位置する東西1間×南北4間の南北方向の小規模な掘立柱建物。柱間は東西 2.7 m、南北 1.95 mで、柱掘形の平面形は径 0.5～0.7 mの円形あるいは楕円形を呈し、底部に石が据えられていたピットもある。遺物は少量だが、各ピットから9- Cに属する土師器などが出土している。



井戸 SE0458 (図 26) 1区南北中央の東壁寄りに位置する円形石組井戸。掘形は長径 2.2 m、短径 1.8 mの楕円形。石組は内径約 1 mで、高さ約 2 m残存していた。石組に使用されている石材は砂岩・チャートなどの自然石が主で、その他少量の花崗岩が含まれている。底部には横板を一辺約 0.6 mの方形に組んだ木枠が設置されていた。井戸内の堆積は底部の木枠までは礫を含んだ茶褐色砂泥、木枠内は腐植土の混じる茶灰色のシルト層である。底部の標高は 32.3 m。遺物は主に木枠内から 10- Aに属する土師器皿などが出土した。

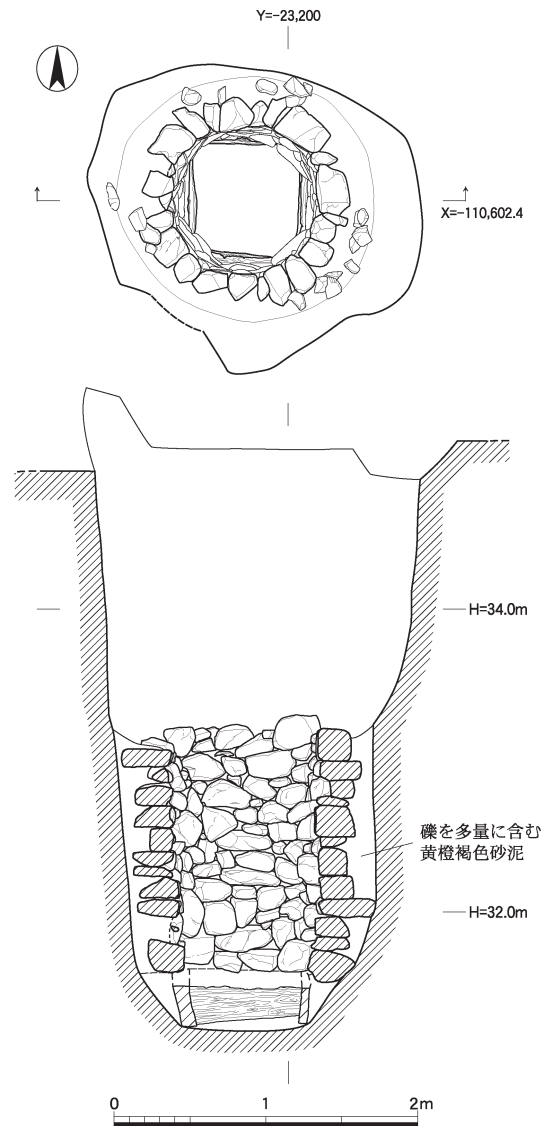


図 27 SE2197 実測図 (1 : 50)

井戸 SE0340 1区中央部やや東寄りに検出した井戸。掘形は長径約 3.1 mの楕円形。底部は平坦でラッパ状に上方に開く。石組などの痕跡は認められず、全体の構造は不明であるが、底部に径 0.9 m程の桶の痕跡が確認できた。遺物は少量だが、10- Aの土器類が出土した。

土壌 SK2185 2区中央部に位置する土壌。南北 1.7 m、東肩部が 11- Bの土壌 SK2053により破壊されているが、底部の立ち上がりを確認しており、東西もほぼ同様の規模が想定できる。深さは約 1.1 mでほぼ垂直に掘り込まれている。土壌内の埋土は炭片や土器を多量に含む暗褐色砂泥である。出土土器類は 10- Aの特徴を持つ良好な資料である。

井戸 SE2197 (図 27) 2区中央部やや北に位置する円形石組井戸。掘形は径約 2.2 mの歪んだ円形。石組は内径 0.95 m、高さ約 1.7 mが

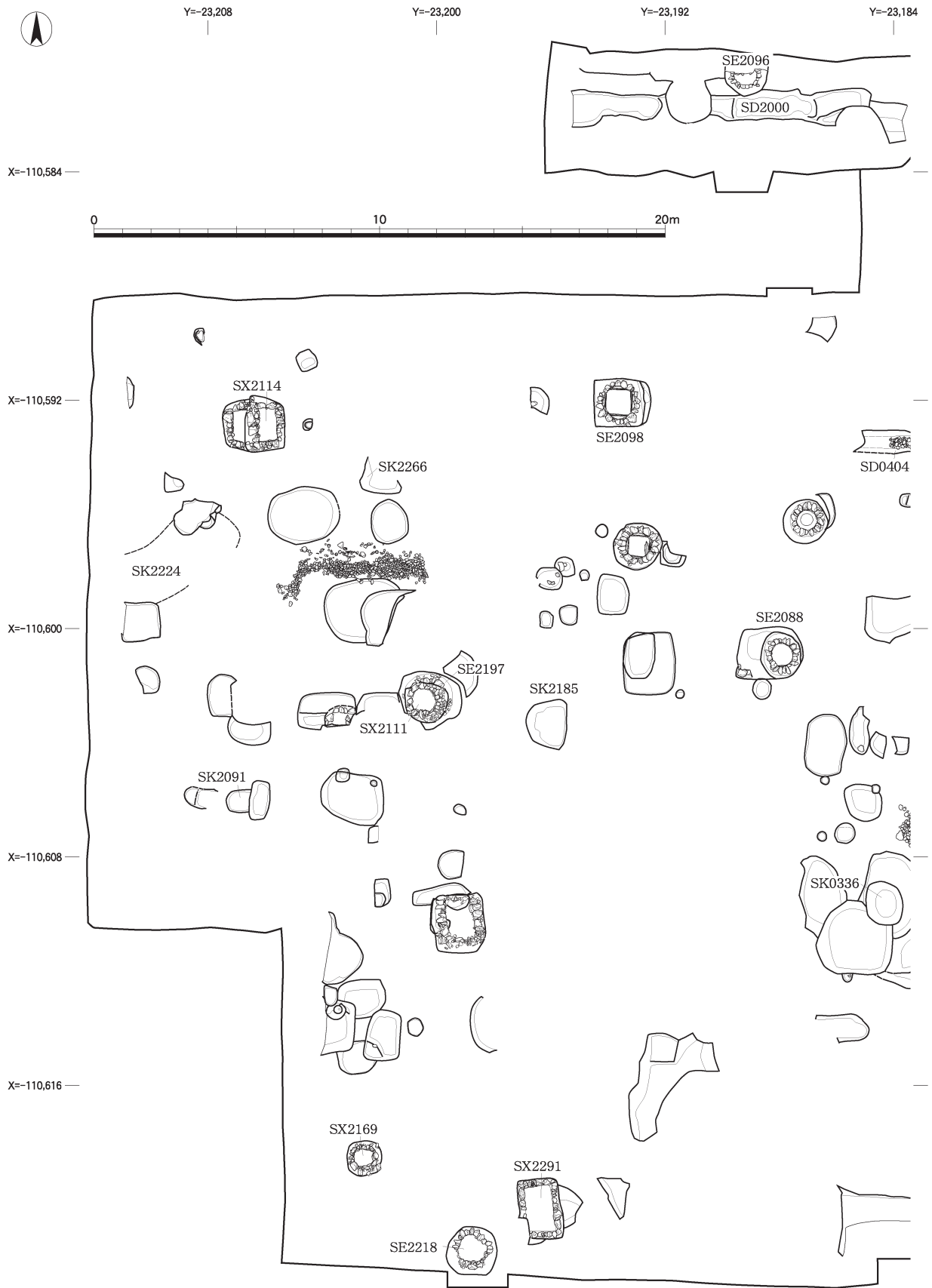


図 28 第 4 期の遺構 (西半) 実測図 (1 : 200)

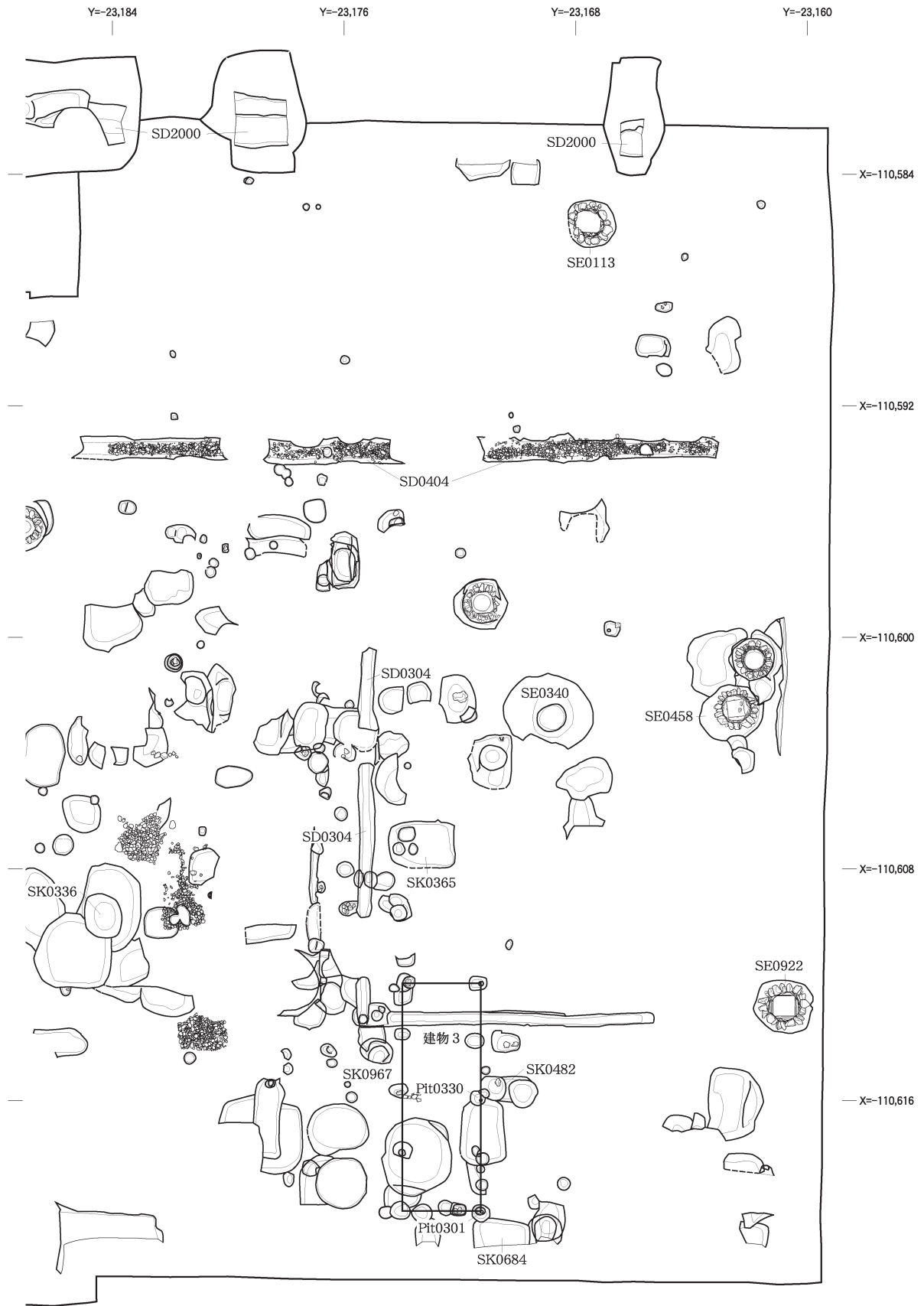


図 29 第 4 期の遺構（東半）実測図（1 : 200）

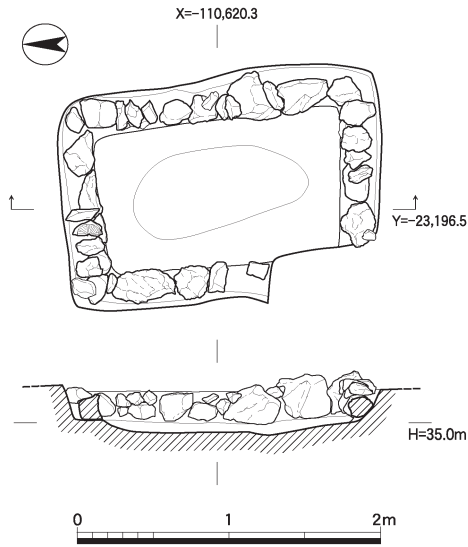


図30 SX2291 実測図 (1 : 50)

残存していた。石組の石材は8割が砂岩で、その他にチャート・花崗岩などが使用されている。井戸内の堆積は石組中段までが小礫を含む暗茶灰色泥砂。それ以下木枠までは粘性の強い茶灰色砂泥、木枠内には同色のシルト層がみられた。出土遺物には土師器のほか、瓦器・焼締陶器・国産あるいは輸入陶磁器など、10- B (新相) に位置づけられる土器類がある。

石室 SX2291 (図30) 2区南端付近に位置する長方形の石室。南西隅の一部が近代の土壌で壊されている。掘形は東西約1.5m、南北2.2mで、石組の内寸は東西0.9m、南北1.6m。石組は1~2段が残存していた。底部は中央がやや窪むが、ほぼ平坦で特に施設はない。出土遺物は10- Aに属する。

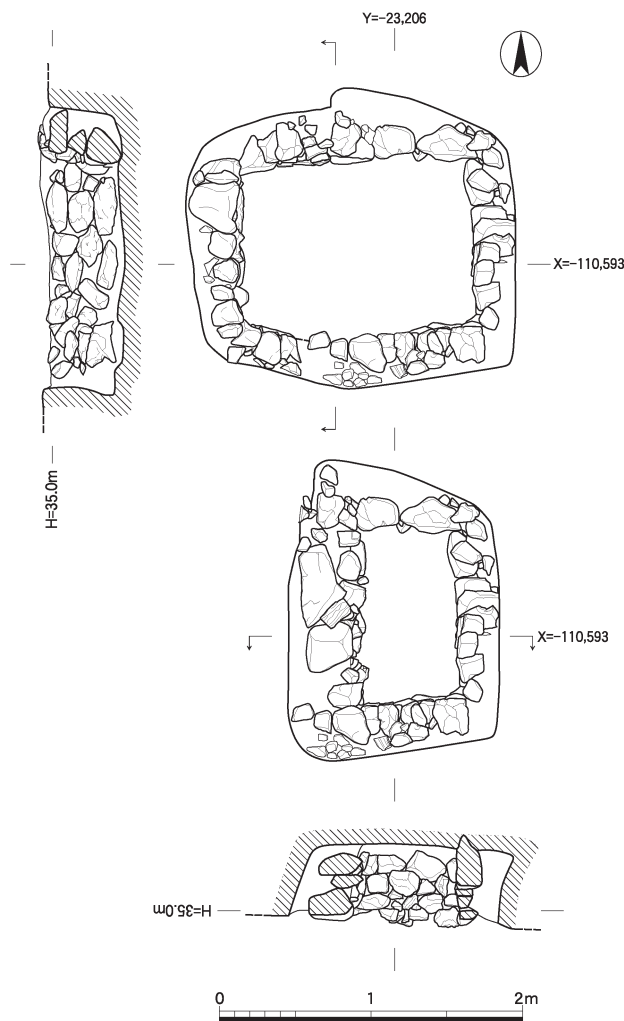


図31 SX2114 実測図 (1 : 50)

石室 SX2114 (図31、図版6) 2区北西部に位置する長方形の石室。掘形は東西約2.2m、南北2mで、石組の内寸は東西1.5m、南北1.1mだが、後に西側を埋め戻し新たに石を組んで幅0.7mに縮小している。西面以外の石組はそのまま利用している。石組は約0.5m、3段分が遺存していた。底部はほぼ平坦である。新旧とも埋土から10- Bに属する土器類が出土している。

石室 SX2169 (図32) 2区南西隅に位

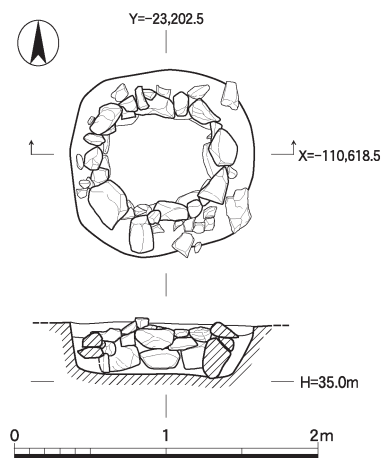


図32 SX2169 実測図 (1 : 50)

置する円形の小型石室。掘形は径約 1.2 m、石組の内径は 0.7 m。石組井戸のような構造であるが、深さは約 0.3 m と浅い。石組は 2 段しかなく、底面は平坦である。石室としても小規模で、性格は明らかではない。10- C の土器類が少量出土した。

2 区南北中央西壁寄りでもこの遺構と同様の円形の石室 SX2111 を検出した。構造や規模、出土遺物の時期なども近似している。

濠 SD2000 (図 33、図版 4・7) 1 区北拡張区および 3 区で検出した東西方向の濠状遺構。南肩部は旧校舎の基礎掘形に削平されており、正確な幅は不明であるが、北肩部と同様の傾斜を持つと想定すれば、幅 4 m を超えるものと思われる。底部の幅は約 2 m だが、中央部の幅 1 m がさらに 0.3 m 深くなり、全体では約 1.3 ~ 1.4 m の深さとなる。拡張区と 3 区で合わせて約 30 m 分を確認しているが、北肩部が下層の四条坊門小路南側溝と重複しており、四条坊門小路の南側に沿って掘られた下京惣構えの濠と考えられる。底部付近では水の存在をうかがわせる粘質土の堆積が認められたが、上部には礫を含んだ泥砂層が重なり、短期間の内に埋め戻されたものと思われる。遺物は少なく、10- C に属する土師器皿などが出土。

溝 SD0404 (図 34、図版 6) 1 区北寄り、SD2000 の南約 10 m を東西に走る溝。幅約 1 m、深さ 0.4 m 前後。溝内には多量の礫を含む土砂で埋められている。途中を土取り穴や井戸などにより破壊されていたが、断続的に約 22 m を検出したが、2 区には延長していなかったようである。出土遺物は 10- C に属し、SD2000 と同時期のものである。この溝と SD2000 に挟まれた地区では同時期の遺構がほとんど確認できなかった。惣構えの濠 SD2000 と SD0404 の間に他の遺構の成立を許さない事情—土塀あるいは土塁などが築かれていた？—を示すものだろうか。

第 4 期は遺構数が減じた第 3 期と比較してもさらに遺構数が減少している。しかし井戸に焦点を当てると、最も遺構密度の高い第 2 期に匹敵する 13 基を検出しており、しかもこのうちの大半がこの期の中頃に集中している。遺構数の変動を単純に生活密度の低下に結びつけることはでき

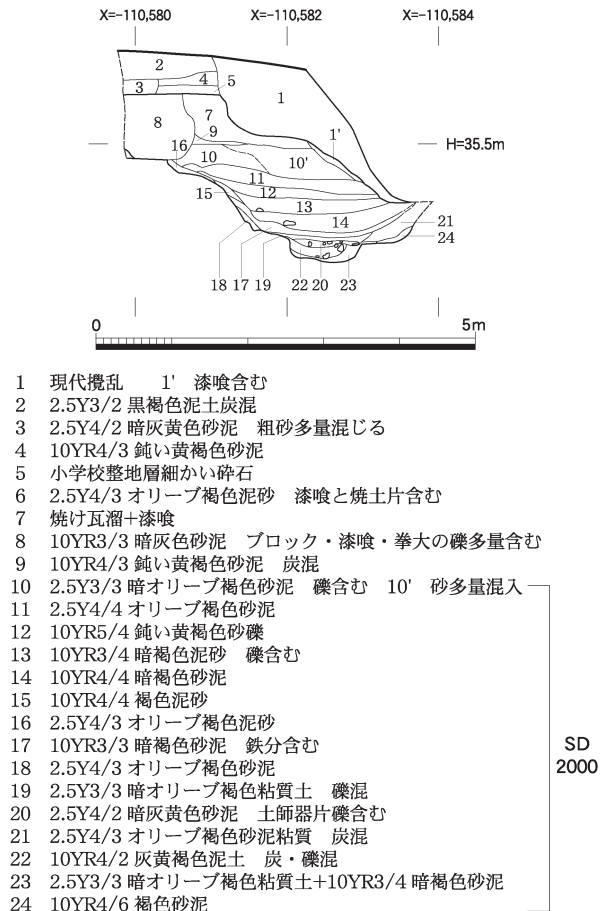


図 33 SD2000 断面図 (1:100)

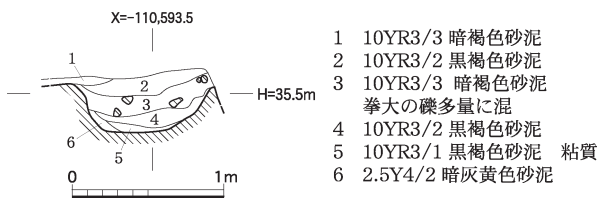


図 34 SD0404 断面図 (1:50)

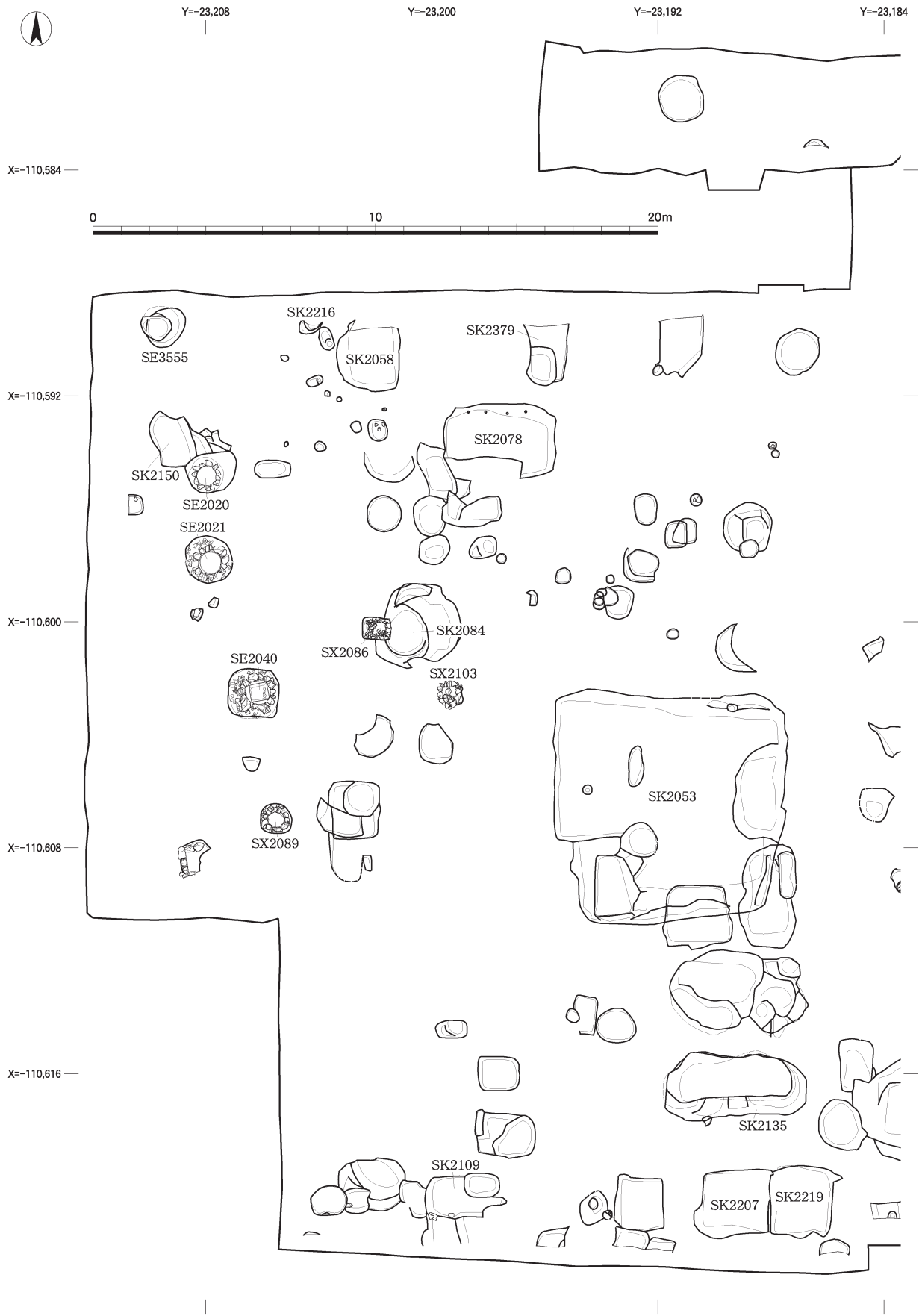


図 35 第 5 期の遺構 (西半) 実測図 (1 : 200)

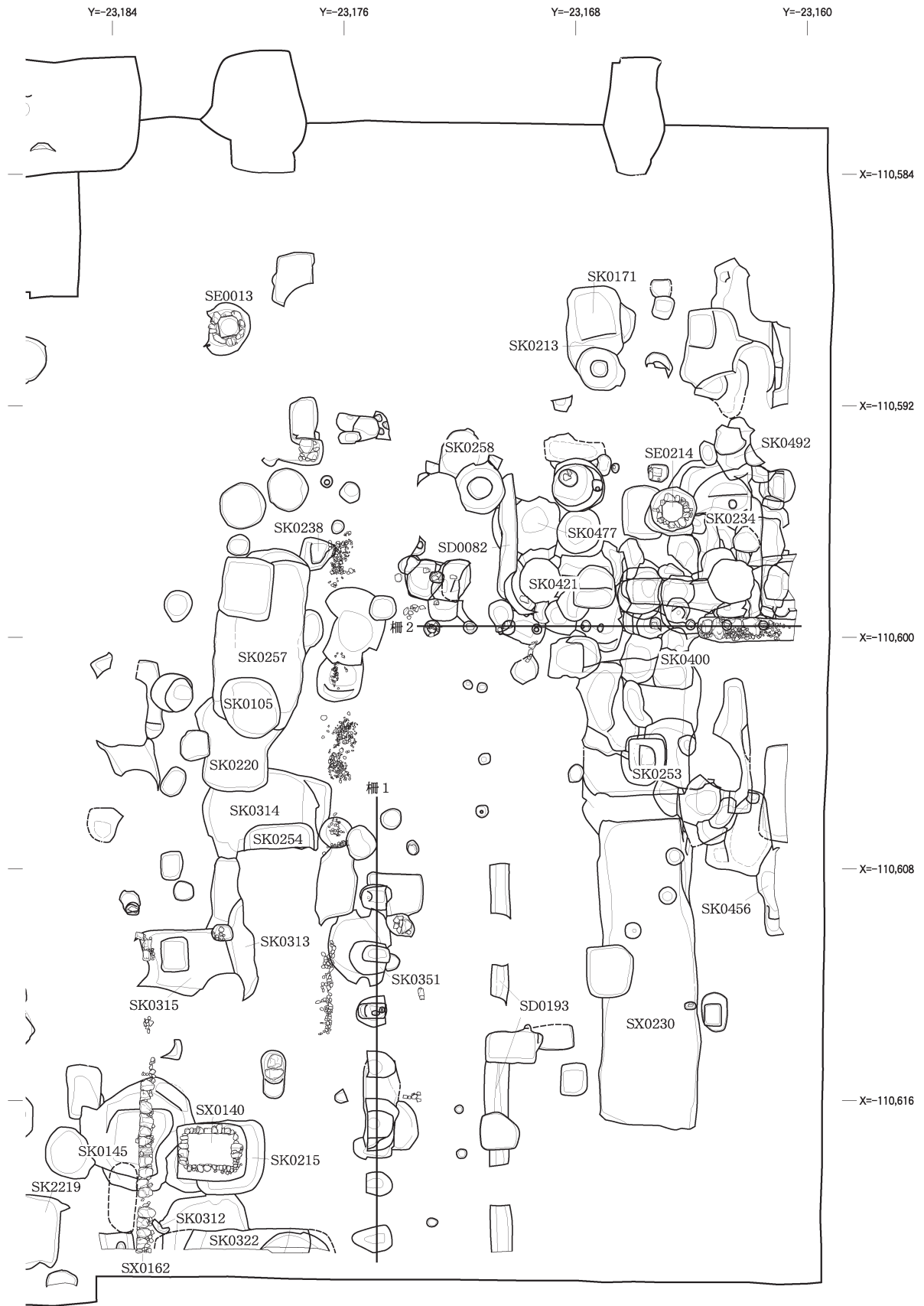


図 36 第 5 期の遺構 (東半) 実測図 (1 : 200)

ないが、土地利用状況に何らかの変化があった可能性は考慮しておくべきだろう。期の中頃を挟む前後の時期では遺構数自体も極めて少数で、この時期の土地利用が低調であった可能性はある。

## (6) 第5期の遺構 (図 35・36)

遺構数は 390 で、ピットが 83 基、土壇が 265 基と最も多く、そのほか井戸 12 基、溝 3 条、その他 27 基がある。土壇数の占める割合が高いが、その多くが地山の黄褐色粘質土が砂礫層に変わる深度で掘り止まっており、この黄褐色粘質土を採取する目的を持った土取り穴と思われる。これらの土取り穴は形態や分布状況から大きく 2 群に分けることができる。ひとつは SK0477 付近から SK0456 にかけて 1 区中東部に集中する相互の切り合い関係が不明瞭で不整形な土壇群と、1 区西部および 2 区に分布する SK0257・0314・2219・2207・2058・2078 など、隣接するものもあるが互いに独立し、方形に近い整った掘形を持つ一群である。この 2 群には時期的にも前後関係が認められ、前者のほぼすべては 11- A に属するが、後者は 11- B に属する。また、前者は遺物が非常に少ないのに対して、後者では土の採取後に廃棄物の処理に利用されたらしく遺物が多量に含まれている例が多い。

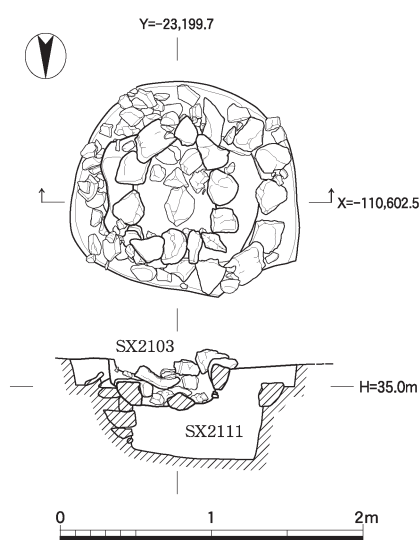


図 37 SX2103 実測図 (1 : 50)

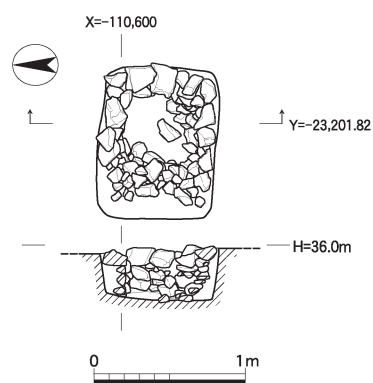


図 38 SX2086 実測図 (1 : 50)

井戸 SE3555 2 区北西隅で検出した井戸。掘形は長径約 1.5 m の歪んだ円形で、断面形状も変則的である。掘形最下部が桶を据えた跡のような形状を示すが、石材や木材など構造をうかがわせる遺物が全く出土せず、素掘井戸である可能性も考慮される。底部標高は 32.5 m。井戸埋土には 11- A の土器類が含まれていた。

石室 SX2103 (図 37) 2 区中央部付近に位置する円形の小型石室。石材を内径約 0.5 m の円形に 2 段積んでいる。底面はほぼ平らで、径 20 cm 前後の石が散布していた。出土遺物は 11- A に属すが、点数は少ない。この遺構の直下に、内径約 1 m、深さ 0.5 m のやや大型の円形小型石室 SX2111 (出土遺物は 10- C) があるが、遺構の類似性と出土遺物の時期の連続性から見て SX2111 を埋め戻した後に、ほぼ同じ場所に規模を縮小してこの SX2103 が構築された可能性が高い。

石室 SX2086 (図 38) 2 区中央やや北西寄りに位置する小型石室。掘形は南北 0.8 m、東西 1 m の方形だが、石組は掘形東部に寄せて内径約 0.5 m の円形に組んでいる。石組の東半と西半で石材や積み方が異なっており、本来方形に組んでいたものを後に改変したのかもしれない。深さは約 0.35 m で底部は平坦である。出土遺物は



11- Bに属する。

石室 SX2089 (図 39) 2区中央部の南西寄りに位置する小型石室。掘形は径約 1.1 m の円形。石組は長径 30 cm 前後の大きめの石材を 3 段積み上げ、内径 0.6 m の円形に組んでいる。深さは 0.4 m。平坦な底部には厚さ約 3 cm ほど粒子の細かい粘質土が堆積していた。11- B の土器類が出土した。

井戸 SE2040 (図 40) 2区南北中央西壁寄りに位置する円形石組井戸。掘形は 1.7 ~ 1.8 m の隅丸方形。石組は上部の大半が抜き取られ、2 ~ 3 段が残存するばかりであった。残存部での内径は 0.9 m。石材は砂岩が主で、チャート・花崗岩が補助的に使用されている。底部には上端で一辺 0.6 m の方形、高さ 0.8 m の木枠が設置されており、木枠外側を砂礫層で充填している。底部の標高は 31.6 m。出土遺物は 11- B に属する。

土壌 SK2058 2区北壁沿いに検出した土壌。東西 2.2 m、南北は 2.5 m 以上、深さ 1.5 m。土取り穴として掘削された土壌と思われるが、土の採取後に廃棄物の処理に利用されている。土壌内には炭片や木片を含む灰混じりの砂泥層が堆積し、多量の 11- B に属する土器類が出土した。

土壌 SK0314 1区中央のやや南西に位置する土壌。東西 3.5 m、南を SK0030 などに切られているが、南北は約 2.7 m 確認した。深さは約 0.8 m。炭片を多量に含む茶灰色砂泥と灰層が交互に堆積し、11- B に属する土器類とともに軟質施釉陶器や素地、あるいはその焼成に用いた内窯の一部と思われる側面に小孔を開けた筒状の遺物が出土した。

土壌 SK0171 1区北部で検出した土壌。東西約 2 m、南北は南端を 11- C の井戸 SE0173 に壊されているが約 3 m と推測される。深さは 1.2 m。この土壌も土取り穴として掘削され、その後に廃棄物の処理に利用されたものと思われる。土壌内からは 11- B に属する多量の遺物が出土したが、その中に

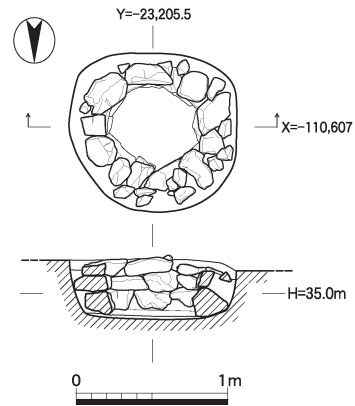
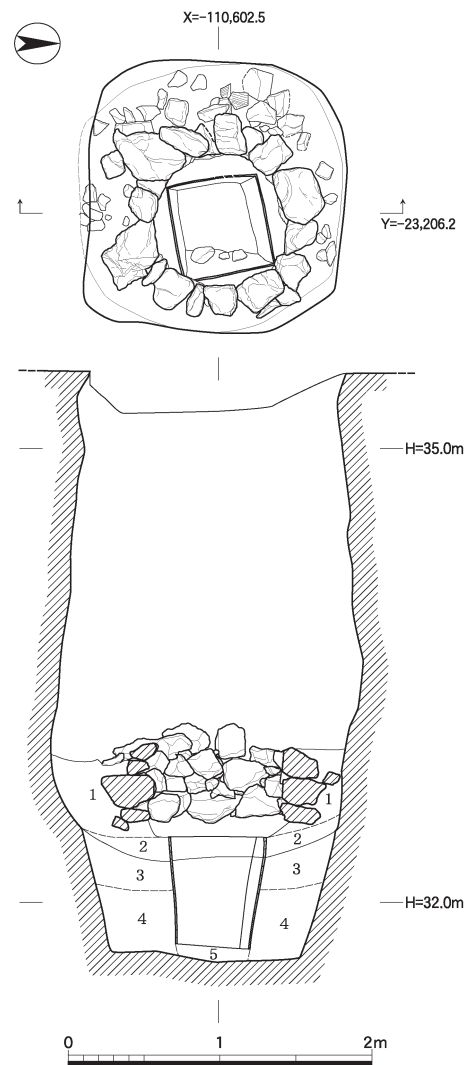
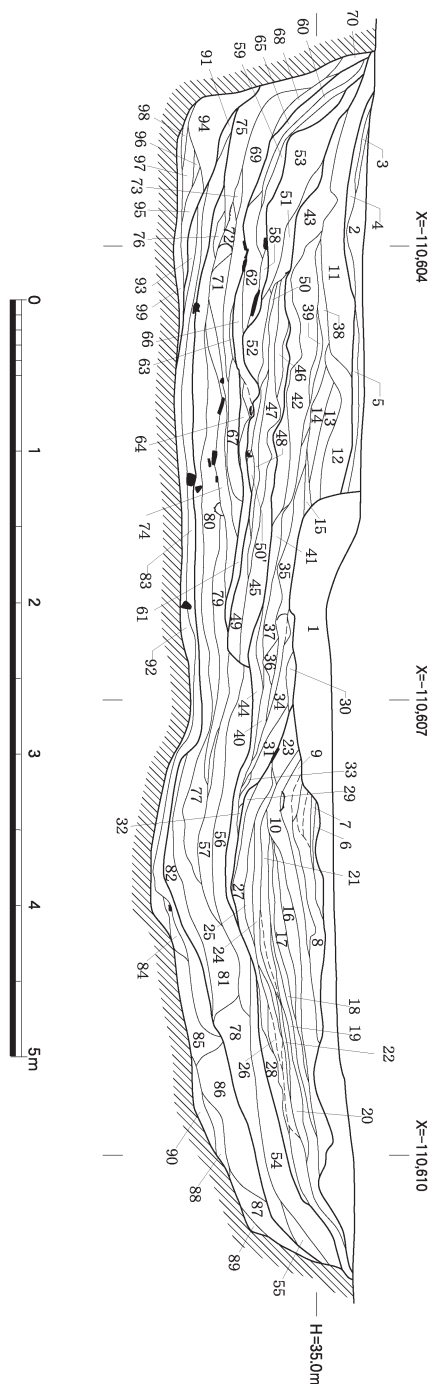


図 39 SX2089 実測図 (1 : 50)



- 1 7.5YR3/3 暗褐色泥砂やや粘質 拳大の礫多量含む
- 2 2.5YR4/2 暗灰褐色砂礫
- 3 2.5Y4/2 暗黄灰色砂礫 20cm以上の大礫多く含む
- 4 2.5Y5/2 暗黄灰色砂礫 上層に比べ礫が小粒
- 5 2.5Y5/4 黄褐色砂礫

図 40 SE2040 実測図 (1 : 50)



- |    |                    |           |    |                  |           |    |                  |       |    |                   |            |
|----|--------------------|-----------|----|------------------|-----------|----|------------------|-------|----|-------------------|------------|
| 1  | 5YR3/2 暗赤褐色砂泥      | 灰・炭・焼土混   | 25 | 10YR3/3 暗褐色腐植土   | 腐植土混      | 49 | 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 | 炭・貝片混 | 74 | 10YR2/1 黒色腐植土層    | 炭混         |
| 2  | 2.5YR2/2 暗褐色砂泥     | 灰・炭混      | 26 | 2.5Y2/2 黒色砂泥     | 腐植土混      | 50 | 10YR5/4 にぶい黄褐色灰層 | 砂     | 75 | 2.5Y5/2 暗黄灰色砂泥    | 砂混         |
| 3  | 5YR5/4 にぶい赤褐色灰層    | 炭混        | 26 | 10YR2/3 黒褐色腐植土   | 砂・小礫混     | 51 | 2.5Y5/2 灰層       | 砂・小礫混 | 76 | 7.5R3/1 黒褐色シルト    | 砂混         |
| 4  | 7.5YR3/3 暗褐色泥砂     | 炭混        | 26 | 2.5Y4/1 黄灰色泥砂    | 炭混        | 52 | 7.5YR6/4 灰層      | 炭少量混  | 77 | 2.5Y3/2 黒褐色腐植土層   | 腐植土混       |
| 5  | 10YR4/6 褐色灰層       | 炭混        | 27 | 2.5Y3/2 暗赤褐色微砂   | 腐植土混      | 53 | 10YR6/4 にぶい黄褐色灰層 | 炭混    | 78 | 10YR4/1 褐色シルト     | 砂混         |
| 6  | 7.5Y1.7/1 黒色炭(糞灰)層 | 炭混        | 28 | 7.5YR3/1 黒褐色泥砂   | 下部砂質      | 54 | 2.5Y4/1 黄灰色シルト   | 炭混    | 79 | 10YR2/3 黒褐色腐植土    | 砂混         |
| 7  | 2.5Y3/2 黒褐色灰層      | 炭混        | 29 | 5Y4/1 褐色シルト      | 下部砂質      | 55 | 2.5Y3/2 黒褐色砂泥    | 炭混    | 80 | 2.5Y3/2 腐植土       | 植物質多含む     |
| 8  | 10YR1.7/1 黒色炭(糞灰)層 | 炭混        | 30 | 2.5Y5/2 暗灰黄色灰層   | 炭・焼土混     | 56 | 10YR2/2 黒褐色腐植土層  | 炭混    | 81 | 10YR2/2 腐植土       | 木片多い       |
| 9  | 10YR4/2 灰黄褐色灰層     | 炭混        | 31 | 2.5Y5/2 暗灰黄色灰層   | 炭・焼土片・小礫混 | 57 | 2.5Y2/1 黒色腐植土    | 炭混    | 82 | 10YR2/2 腐植土       | 木片多い       |
| 10 | 2.5Y2/1 炭(糞灰)層     | 炭混        | 32 | 10YR3/3 暗褐色微砂    | 砂         | 58 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色泥砂 | 炭混    | 83 | 2.5Y4/1 黄灰色シルト    | 炭混         |
| 11 | 7.5YR4/4 褐色灰層      | 炭・焼土片混    | 33 | 10YR3/4 暗褐色腐植土   | 砂混        | 59 | 10YR5/2 灰黄褐色砂泥   | 炭片・炭混 | 84 | 5Y3/1 オリーブ黒色シルト   | 木片・礫混      |
| 12 | 7.5YR5/4 にぶい褐色灰層   | 炭混        | 34 | 2.5Y5/1 黄灰色灰層    | 砂混        | 60 | 10YR3/1 黒褐色灰層    | 炭混    | 85 | 2.5Y5/1 砂泥        | 木片多い       |
| 13 | 7.5YR5/3 にぶい褐色灰層   | 炭混        | 35 | 2.5Y5/1 黄灰色灰層    | 砂混        | 61 | 10YR3/3 暗褐色灰層    | 炭混    | 86 | 10YR5/2 灰黄色砂泥     | 礫混         |
| 14 | 10YR3/2 灰黄色灰層      | 炭混        | 36 | 10YR4/2 灰黄褐色シルト  | 砂混        | 62 | 2.5Y3/2 黒褐色泥砂    | 炭混    | 87 | 10YR3/1 黒褐色砂泥     | 小礫混        |
| 15 | 10YR3/1 黒褐色砂泥      | 小礫・炭片混    | 37 | 2.5Y3/2 暗赤褐色泥砂   | 炭・炭混      | 63 | 10YR4/1 褐色シルト    | 炭混    | 88 | 10YR5/1 褐色シルト     | 砂混         |
| 16 | 10YR2/1 黒色炭(糞灰)層   | 炭・炭片混     | 38 | 10YR3/4 暗褐色灰層    | 砂・炭混      | 64 | 2.5Y5/2 暗黄灰色砂泥   | 炭混    | 89 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト | 小礫混        |
| 17 | 10YR2/1 黒色炭(糞灰)層   | 炭・炭片混     | 39 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色灰層 | 小礫混       | 65 | 2.5Y4/1 黄灰色砂泥    | 炭混    | 90 | 2.5Y5/3 砂泥        | 黄色粘質土ブロック混 |
| 18 | 10YR2/3 黒褐色腐植土層    | 炭・灰多い     | 40 | 2.5Y6/2 灰黄色灰層    | 炭混        | 66 | 10YR2/3 腐植土層     | 炭混    | 91 | 5Y4/1 灰色シルト       | 炭混         |
| 19 | 2.5Y2/1 黒色炭(糞灰)層   | 炭・灰多い     | 41 | 2.5Y4/2 灰黄色灰層    | 炭混        | 67 | 10YR2/2 暗灰黄色砂泥   | 礫混    | 92 | 2.5Y2/2 黒褐色細砂     | 腐植土        |
| 20 | 10YR2/2 黒褐色腐植土層    | 小礫混       | 42 | 7.5YR5/3 にぶい褐色灰層 | 炭混        | 68 | 10YR4/1 褐色砂泥     | 炭混    | 93 | 10YR2/1 黒色シルト     | 腐植土混       |
| 21 | 10YR2/2 黒褐色腐植土層    | 小礫混       | 43 | 7.5YR6/3 にぶい褐色灰層 | 炭混        | 69 | 10YR4/1 褐色砂泥     | 炭混    | 94 | 2.5Y3/2 黒褐色砂泥     | 腐植土混       |
| 22 | 2.5Y3/1 黒褐色シルト     | 腐植土混      | 44 | 10YR5/1 褐色灰層     | 炭・細砂混     | 70 | 10YR3/2 暗褐色砂泥    | 炭混    | 95 | 10YR3/3 黒褐色泥砂     | 腐植土混       |
| 23 | 10YR3/2 黒褐色微砂      | 木片・炭・腐植土混 | 45 | 10YR4/6 灰層       | 炭混        | 71 | 10YR2/2 暗褐色砂泥    | 炭・木片混 | 96 | 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト | 砂混         |
| 24 | 10YR1.7/1 黒色炭(糞灰)層 | 炭混        | 46 | 10YR4/6 灰層       | 炭混        | 72 | 2.5Y3/1 黒褐色砂泥    | 炭・木片混 | 97 | 5Y2/2 オリーブ黒色シルト   | 砂混         |
|    |                    |           | 47 | 2.5Y6/4 にぶい黄色腐植土 | 炭混        | 73 | 5Y3/1 オリーブ黒色細砂   | 炭・木片混 | 98 | 5Y2/2 オリーブ黒色シルト   | 砂混         |
|    |                    |           | 48 | 10YR3/2 黒褐色砂泥    | 腐植土・炭混    |    |                  |       | 99 | 10Y3/1 黒褐色シルト     | 木片・植物質多い   |

41 5K2053 断面図 (1 : 50)

は軟質施釉陶器の素地や半製品が 700 片近く含まれており、SK0314 から出土した内窯の存在と合わせて、この種の陶器が付近で生産されていたことをうかがわせる資料である。

土壌 SK0257 1 区中央部西寄り、SK0314 の北部に位置する東西約 3 m、南北 5.8 m、深さ 0.7 m の土壌。堆積は炭片や礫を含む土層が薄くレンズ状に重なる。軟質施釉陶器やその素地を含む 11- B の土器類が出土した。

土壌 SK2053 (図 41、図版 5) 2 区中央部南東寄りに位置する東西、南北ともに約 8 m の大規模な土壌。深さは 1.2 ~ 1.4 m。検出位置や出土遺物の時期から本多甲斐守京邸のゴミ廃棄土壌と推定している。土壌内には、シルト層・砂層・灰層・炭化物層・腐植土層・焼土を含んだ層など多数の層が重層している。最下層には加工痕のある板材や、ほぞ孔を取った角材の切れ端・鉋屑・大鋸屑などの建築廃材が多量に堆積していた。各層からは 11- B に属する土器・陶磁器類や貝殻・魚骨・鳥骨などの食物残渣、イヌ・ネコ・シカ・カメなどの獣骨、木製品、漆製品、煙管などの金属製品といった豊富な遺物が出土している。最下層の建築廃材は本多家造営に関わる可能性が高い。土壌内に堆積していた塵芥の中には、灰や炭片など他の場所から運ばれてきたものばかりでなく、木片や生ゴミをこの土壌内で焼却した形跡も認められた。また堆積状況からみても一時期に埋め戻されたのではなく、おそらくこの土壌は造営時に廃材の捨て場として掘られ、その後ある程度の期間、ゴミの廃棄場所として使用されていたものと推測できる。土器類の年代観は本

多家が当地に存在した寛永年間にほぼ一致している。

柵 1 1 区南部中央付近に位置する南北方向の柱穴列。柱掘形の平面形が幅 0.8 m 前後、長さ 1.3 ~ 1.5 m と横長の楕円形を呈し、深さは 0.6 ~ 0.7

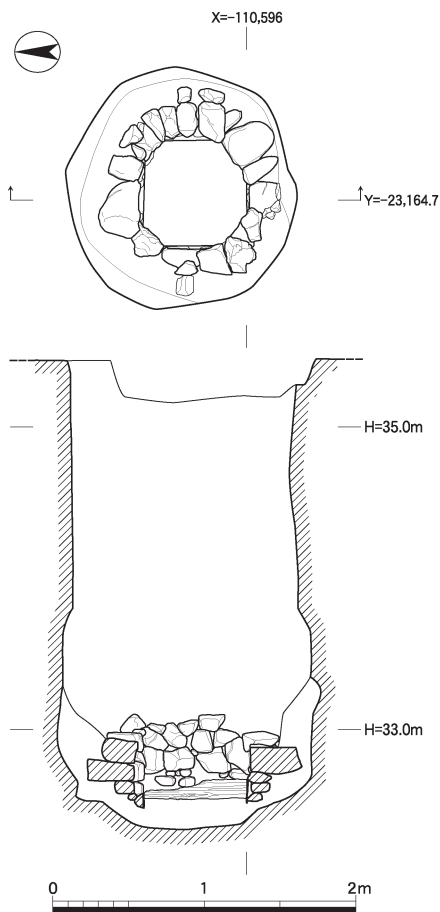


図 42 SE0214 実測図 (1 : 50)

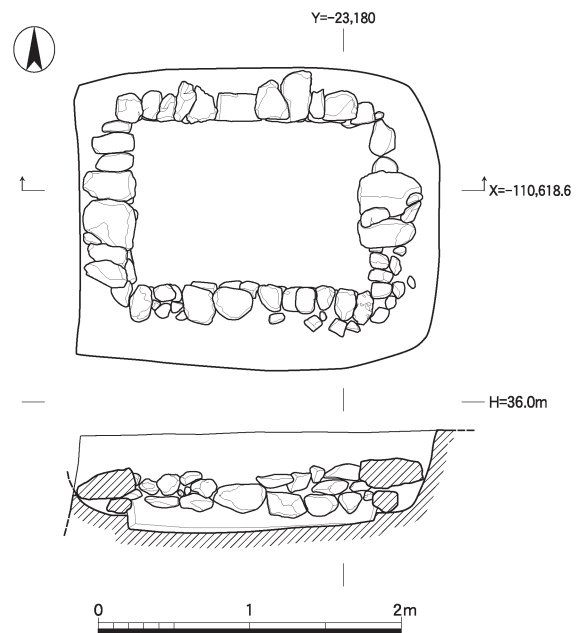


図 43 SX0140 実測図 (1 : 50)

m。柱間は1.96 m等間で、6間分検出している。北端は1区南壁から北に約12 mで終わっているが、南には延長している可能性がある。11- Bの土師器皿が出土している。

柵2 1区南北中央やや北寄りから東壁にかけて東西に並ぶ柱穴列。柱間は1.25～1.32 mと変則的である。柱掘形は径0.5 m前後の円形で底部に石を据えているものが多い。惣構えの濠SD2000 廃絶後の四条坊門小路南端の正確な位置は不明だが、現在の蛸薬師通南端から約21 mに位置する。出土遺物の時期は11- B。

溝SD0193 1区南部中央付近、柵1の東約6 mで検出した南北方向の溝。北延長部に同時期の溝SD0082があり、おそらく同一の溝と思われる。合わせると南北長27 mになる。幅は0.8 m、深さは0.1 m前後の非常に浅い溝である。均一な細砂が堆積しており、遺物は少ないが、11- Bの土師器などが出土している。

石列SX0162 1区南西隅に位置する南北方向の石列。長辺0.5 m前後の花崗岩の切石を並べている。検出した区間では石は1段のみであったが、南壁断面で2段の石垣であったことを確認している。裏込めから11- Bの土器類が出土した。

井戸SE0214 (図42) 1区北東部に位置する円形石組井戸。掘形は径1.5～1.6 mの円形。石組は内径0.7 mで、大半の石材が抜き取られ、底部から2～3段残存していただけである。石材は8割が砂岩、花崗岩が約1割、他にチャートや泥岩が使用されている。底部には幅10 cm程の横板を一辺0.65 mの方形に組んだ木枠が設置されていた。井戸内には拳大の礫が多量に混じった土砂が堆積しており、石を抜き取った後に一時に埋め戻されたように思われる。底部の標高は32.3 m。遺物は11- Cに属する。

石室SX0140 (図43) 1区南西隅付近に位置する方形の石室。掘形は東西2.4 m強、南北2 m。石組の内寸は東西1.5 m、南北1 mで2段の石積みが残っていたが、掘形の深さ0.6 mからみて少なくともあと1段はあったと考えられる。11- Cの土器類が出土している。

井戸SE2021 2区北西部に位置する円形石組井戸。掘形は径1.6～1.8 mの歪んだ円形。石組の内径は約0.8 mで、底部から2～3段を残して抜き去られている。残存していた石組の石材の約7割が砂岩、2割が花崗岩でその他にチャートなどが使用されている。底部には径0.8 m、高さ0.9 mの桶が設置されていたが、腐蝕していて板材の単位などは不明である。底部の標高は31.6 mである。出土遺物は12- Aに属する。

第5期の遺構としては、1区中東部の土取り群を除くと、SE3555などのほか11- Aに属する遺構は少数であり、この遺構密度の低さは10- Cから継続する傾向として注目される。11- Bになると遺構数が漸増し、江戸時代前期頃から再び土地利用が活発化していったことがうかがえる。

## (7) 第6期の遺構 (図47・48)

第6期の遺構は231基検出した。ピット30基、土壇157基、井戸32基、その他12基がある。土壇の数が目立つが、その多くは近代以降に属し、江戸時代後期の遺構は少ない。これら近代の土壇や調査直前に撤去された校舎の基礎によって江戸時代後期、特に浅い位置に存在していた遺

構がかなりの数が失われたであろうことは、井戸数の多さから見ても充分推測できる。したがって今回検出した第6期の遺構群からは、この地域の状況を推測することは困難である。

基礎 SX0046 (図版5) 1区南西部で検出した土蔵の基礎。規模は東西7.8m、南北6.8m。布掘り掘形は幅1m前後で、内部には粘質土と砂礫層を交互に重ねた版築が施されていた。西辺の一部と南および東では掘形が1段深まり、そこに長径0.5~1mの石や拳大の礫を充填していた。

その範囲には下層に土取り穴などの深い土壌が存在しており、基礎工事にあって下層遺構の軟弱な土壌を取り除き、地盤改良を施したものと考えられる。12-Bの土器類が出土して

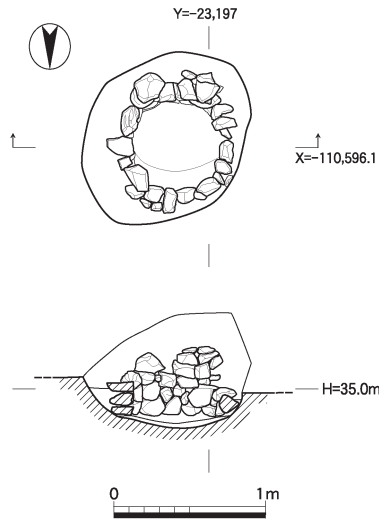


図44 SX2120 実測図 (1:50)

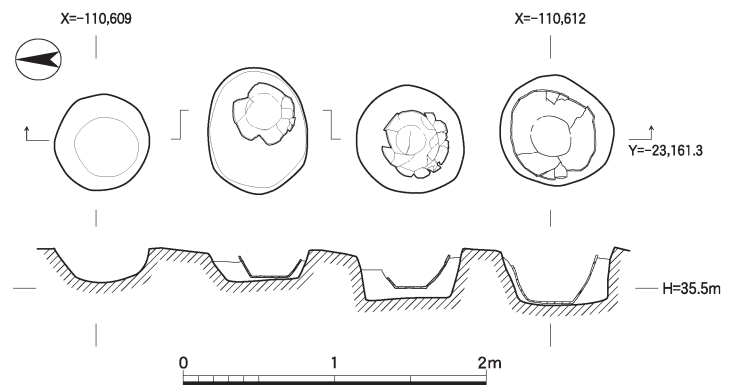


図45 SK0034・0035・0036・0040 実測図 (1:50)

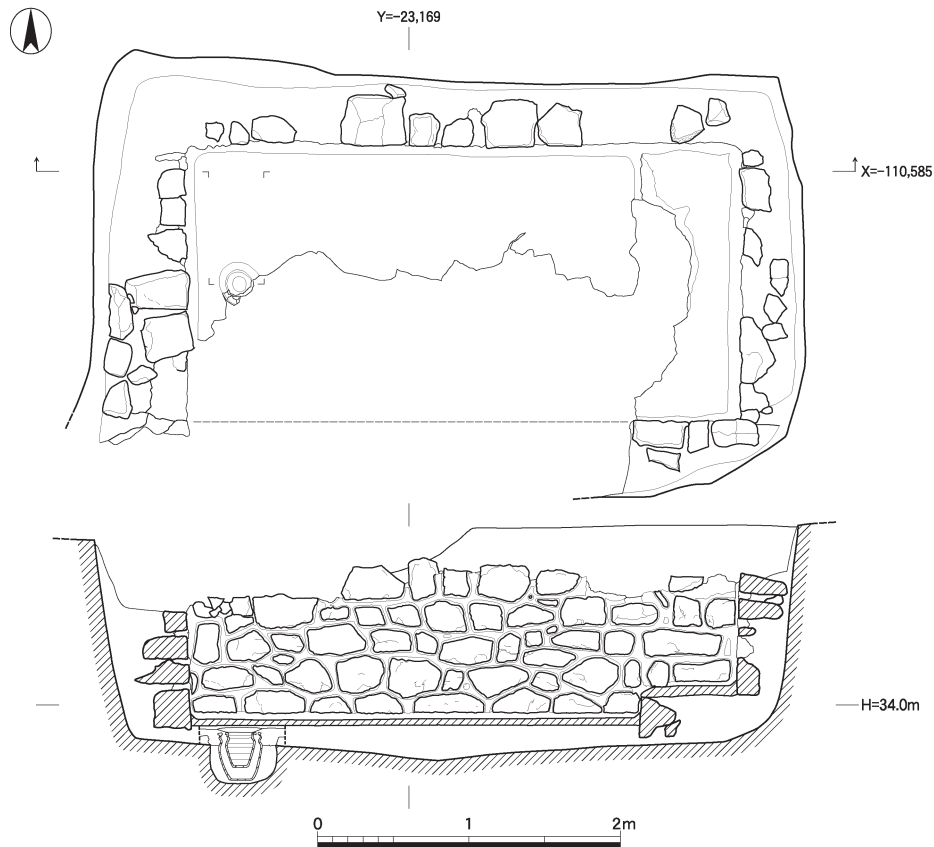


図46 SX0002 実測図 (1:50)

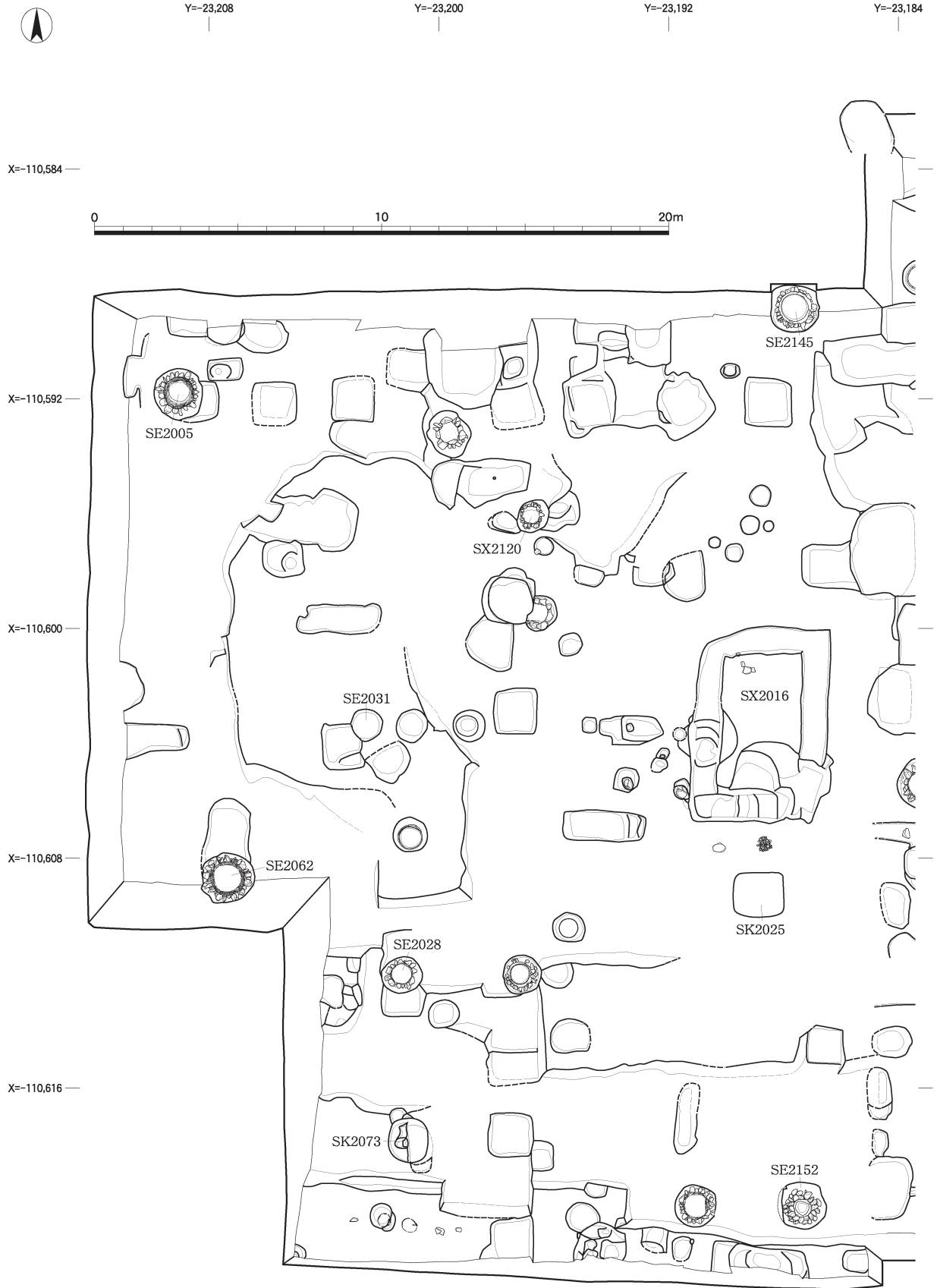


図 47 第 6 期の遺構 (西半) 実測図 (1 : 200)

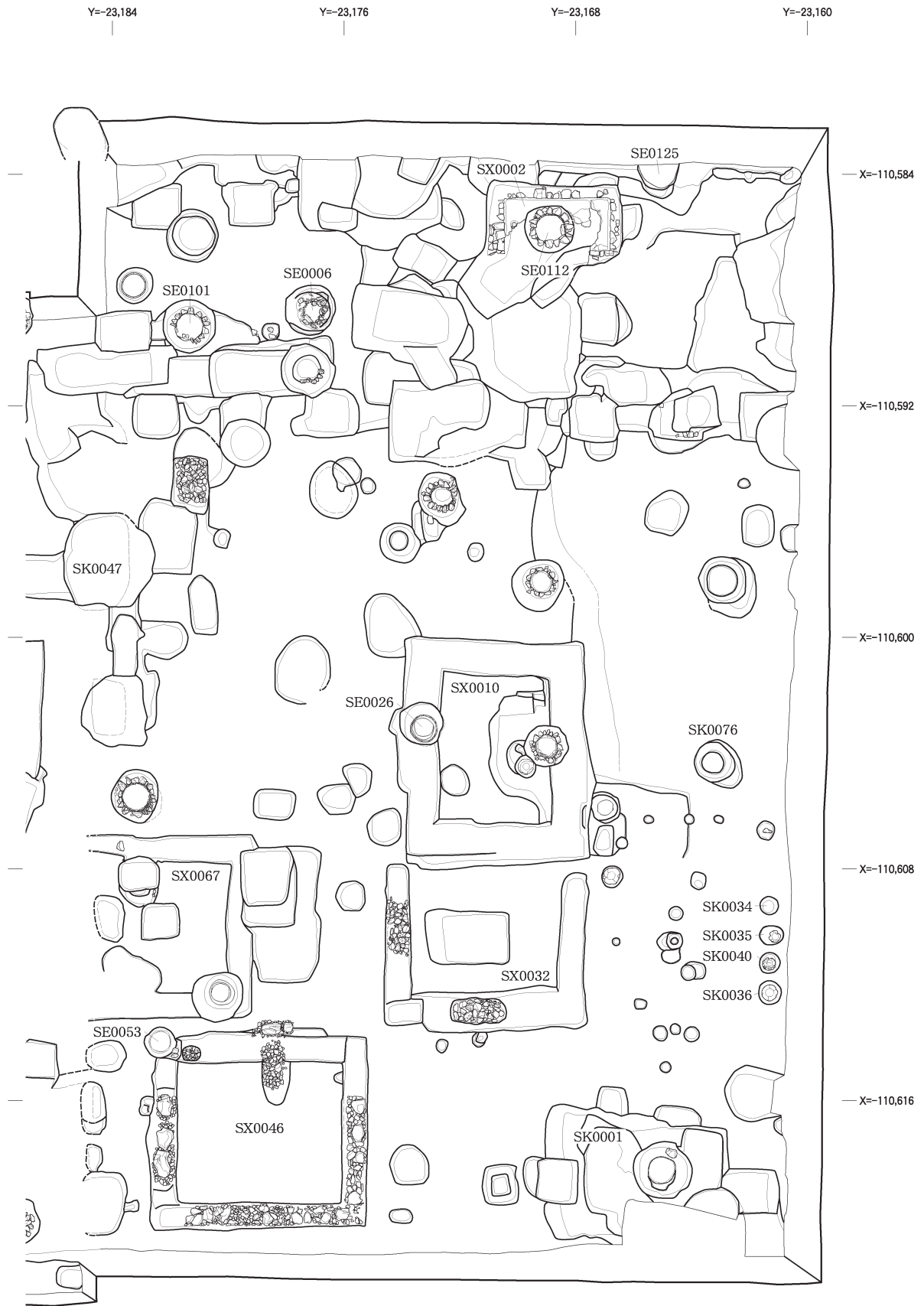


図 48 第 6 期の遺構（東半）実測図（1 : 200）

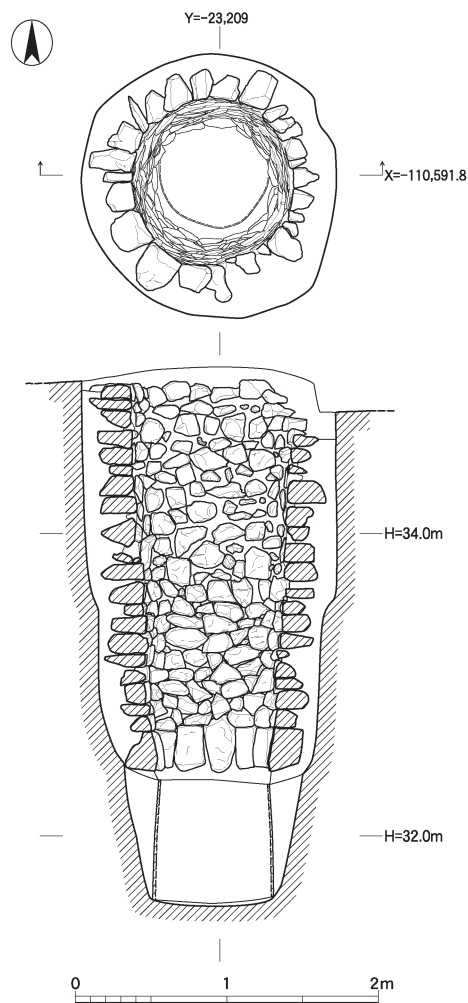


図 49 SE2005 実測図 (1 : 50)

さ 0.1 mほどの漆喰が貼られ、石組の目地にも漆喰が詰められている。床面の東側には幅 0.6 m、高さ 0.25 mの段が作られており、西壁から 0.3 mには径 29 cm、高さ 32 cmと径 20 cm、高さ 23 cmの鉄釉甕が入れ子状に重ねて設置されていた。甕と甕の隙間には漆喰が充填されていた。出土遺物は 13- Bに属する。

井戸 SE2005 (図 49) 2区北西隅に位置する円形石組井戸。掘形は径 1.7 ~ 1.8 mの円形。石組の内径は上部で 1.05 m、最下段で 0.75 mと下方に向かって狭まっている。石積みは 18 段前後の約 2.5 mが残存しており、底部から約 1.3 mより上部の石組目地には漆喰を施している。底部には径 0.7 mの円筒形の木杵が設置されていた。14- Aの土器・陶磁器類が出土した。

いる。このほか同様の遺構には SX0010・0032・0067・2016 がある。

石室 SX2120 (図 44) 2区中央部北寄りに位置する円形の小型石室。掘形は長径 1.3 mの楕円形。石組の内径は 0.55 m、高さ 0.5 mの 5 段が残存する。底部中央がわずかに窪む。出土遺物は 12- Bに属する。

埋め甕 SK0034・0035・0036・0040 (図 45) 1区東壁沿いに位置する埋め甕群。掘形は径 0.6 ~ 0.7 mの円形 (SK0035 は長径 0.8 mの楕円)。SK0034 を除いて底部に甕が据えられていた。甕は上部が削平され下半部しか残っていなかったが、すべて信楽の製品である。いずれの土層にも漆喰片を含む類似した土層が堆積しており、同時期に廃棄されたものとみられる。13- Aの土器類が少量ずつ出土している。

石室 SX0002 (図 46) 1区北部に位置する石室。掘形は東西 4.7 m、南北 2.8 m、石組は内寸東西 3.7 m、南北 1.8 mで 5 段残存していたが、掘形との関係で見れば、少なくともあと 1 段はあったことが想定できる。石材はすべて花崗岩である。床面には厚



### 3. 遺 物

#### (1) 遺物の概要

平安時代前半から明治時代にいたる各時代の遺物が整理箱にして1441箱出土した。1㎡あたり0.686箱の出土になる。その内容は土器・陶磁器類、瓦類、土製品、石製品、金属製品、木製品、貝骨製品、動植物遺体など多岐にわたるが、その大半は土器・陶磁器類や瓦類である。以下に、これらの遺物について概説する。

#### (2) 土器・陶磁器類

**土器・陶磁器類の概要** 土器・陶磁器類は破片総数404,540点が出土した。その内容は国産陶磁器が増加する江戸時代を除き、各期を通じて土師器が最も多く、全体の7～8割を占めている。ここでは前章の表2に示した土器群と遺構群の区分に従って、各期の土器様相の概観と主な遺構から出土した土器群について時期を追って概説を加えたい。

**第1期の土器類の概観** 第1期は1-B～3-C、実年代で言えば9世紀から10世紀に該当するが、9世紀に属する土器類の出土はわずかある。したがって、表6に示した数値には、当遺跡におけるほぼ10世紀代の様相が表れているとみて良いだろう。土器類全体での比率をみると須恵器が土師器に次ぐ順位にあるが、その主体は甕・壺・瓶などの貯蔵具であり、土師器を除いた食器類（椀・杯・皿など）に着目すると、緑釉陶器31.2%、黒色土器・瓦器30.9%、灰釉陶器16.2%、白色土器12.5%、須恵器6.0%、輸入陶磁器3.2%となる。施釉陶器や黒色土器に対して須恵器の食器類が極めて少量であったことがわかる。一方、白色土器がこの時期としてはやや高い比率を示している点は注目される。輸入陶磁器は須恵器の半数ほどであるが、越州窯青磁を主に白磁や長沙窯の製品も少量出土している。

SE3444 出土土器（図50、図版18・19、表7）

表6 土器・陶磁器の構成（破片数）

種類	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期		第6期		総計	
土師器	7,855	77.2%	152,382	86.0%	68,402	79.7%	42,515	76.7%	34,175	59.8%	3,941	21.1%	309,270	76.4%
黒色土器	616	6.1%	468	0.3%	-	-	-	-	-	-	-	-	1,084	0.3%
瓦器	-	-	3,013	1.7%	5,964	7.0%	4,557	8.2%	3,054	5.3%	326	1.7%	16,914	4.2%
須恵器	763	7.5%	11,765	6.6%	5,430	6.3%	424	0.8%	-	-	-	-	18,382	4.5%
緑釉陶器	540	5.3%	986	0.6%	-	-	-	-	-	-	-	-	1,526	0.4%
灰釉陶器	306	3.0%	1,143	0.6%	-	-	-	-	-	-	-	-	1,449	0.4%
白色土器	38	0.4%	575	0.3%	48	0.1%	-	-	-	-	-	-	661	0.2%
瀬戸・美濃	-	-	32	0.0%	177	0.2%	735	1.3%	4,350	7.6%	338	1.8%	5,632	1.4%
唐津	-	-	-	-	-	-	-	-	5,080	8.9%	1,986	10.6%	7,066	1.7%
伊万里	-	-	-	-	-	-	-	-	2,506	4.4%	4,109	22.0%	6,615	1.6%
京焼	-	-	-	-	-	-	-	-	346	0.6%	2,645	14.1%	2,991	0.7%
軟質施釉	-	-	-	-	-	-	-	-	1,078	1.9%	108	0.6%	1,186	0.3%
他の国産陶磁器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,550	19.0%	3,550	0.9%
焼締陶器	-	-	1,760	1.0%	3,970	4.6%	6,665	12.0%	5,001	8.8%	2,663	14.2%	20,059	5.0%
輸入陶磁器	56	0.6%	5,136	2.9%	1,801	2.1%	511	0.9%	1,552	2.7%	36	0.2%	9,092	2.2%
その他・不明	1	0.0%	29	0.0%	8	0.0%	9	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	47	0.0%
総数	10,175	100.0%	177,289	100.0%	85,800	100.0%	55,416	100.0%	57,142	100.0%	18,718	100.0%	404,540	100.0%

SE3444の土器類は総破片数983片あり、その内容は表7のとおりである。機能別に見ると椀皿などの供膳具が多く、供膳具89.7%、貯蔵具5.1%、煮炊具4.8%となり、そのうちでは土師器が81.3%と大半を占めている。土師器以外の食器類についてみると、黒色土器31.6%、須恵器22.2%、緑釉陶器23.5%、白色土器7.2%、灰釉陶器14.1%、輸入陶磁器1.3%である。2-Cに属する土器群である。

土師器には皿AⅡ(1~4)、椀A(5~11)、杯A(12~19)、杯L(20)、高杯(21・22)、甕(23)などがある。皿AⅡは口径12.8~13.3cm、高さ1.8cm。口縁部が屈曲し端部を小さくつまみ上げている。椀Aは口径13.3~14.2cm、高さ2.2~2.5cmである。杯類には口径14.8~16.0cm、高さ2.4~2.9cmの杯Aのほか口径20.2cm、高さ4.3cmの杯Lがある。いずれも手法や形態の特徴は皿と類似する。高杯は杯部から裾部まで全体の形状のわかるものはない。杯部(21)は口径28.0cm、軸部(22)の面取りは粗い。甕は緩やかに屈曲する短い口縁が付くもので、内面をコテで滑らかに仕上げている。黒色土器には椀(24~27)、鉢(28)、甕(29・30)があり、すべて内面のみを黒色化させたA類である。椀には口径12.1cmの小型のものと16.7cmの大型のものがある。いずれも内面のみミガキ、貼り付け高台。27は内面底部に暗文を施す。鉢は口径11.2cm、高さ4.7cm、底径6.0cm。体部の立ち上がりが強く椀とは形態が異なる。外面体部ケズリ、高台は貼り付け。甕(29)は口径25.6cm。口縁部内面ハケメ調整、体部はコテで平滑に調整している。

表7 SE3444出土土器の構成(破片数)

器種	器形	破片数	比率(%)
土師器	杯・椀・皿	656	87.6%
	高杯・盤・鉢	61	8.1%
	甕・釜・鍋	30	4.0%
	その他	0	0.0%
	不明	2	0.3%
	小計	749	100.0%
黒色土器	杯・椀・皿	55	74.3%
	甕	17	23.0%
	鉢	2	2.7%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	74	100.0%
須恵器	杯・椀・皿	9	17.3%
	壺・瓶	4	7.7%
	鉢	21	40.4%
	甕・大型壺	17	32.7%
	その他	0	0.0%
	不明	1	1.9%
小計	52	100.0%	
緑釉陶器	杯・椀・皿	52	94.5%
	壺・瓶	3	5.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	55	100.0%
灰釉陶器	杯・椀・皿	28	84.8%
	壺・瓶	5	15.2%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	33	100.0%
白色土器	杯・椀・皿	16	94.1%
	高杯	0	0.0%
	盤	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	1	5.9%
	小計	17	100.0%
輸入陶磁器	杯・椀・皿	3	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	3	100.0%
他	その他・不明	0	- 0.0%
総数		983	100.0%

須恵器には椀(31・32)、鉢(33・34)、壺(35)がある。椀(31)は口径12.8cm、高さ4.6cm、底径6.4cm。緑釉陶器と同様の形態のもので、底部の形態は削り出しの輪高台。平安京近郊の生産地で作られたものである。鉢には口径17.0cmの小型のものと、口径22.0cmの大型のものがある。いずれも口縁部は玉縁状を呈する。白色土器には椀(36・37)がある。36は体部下段以下をケズリ、底部は削り出し高台、底部以外の部位には粗いミガキが施される。37は底径7.0cm、貼り付けの高台内に糸切りを残すもので、東海系の製品か。緑釉陶器には皿(38~42)、椀(43~53)、壺(54)がある。皿には山城(39)、猿投(38)、東濃あるいは近江(40・41)と長門系のもの(42)がある。山城系の39は削り出し高台、口縁部の4方に輪花を持つ。他はいずれも貼り付け高台。椀も同様に山城(43・45・46・53)、猿投(48~51)、東濃または近江系のもの(44・47・52)がある。44は口縁部の5方にヘラで押さえた輪花が付く。壺は外面体部下半をケズリのち粗いミガキ、内面にも薄く施釉される。灰釉陶

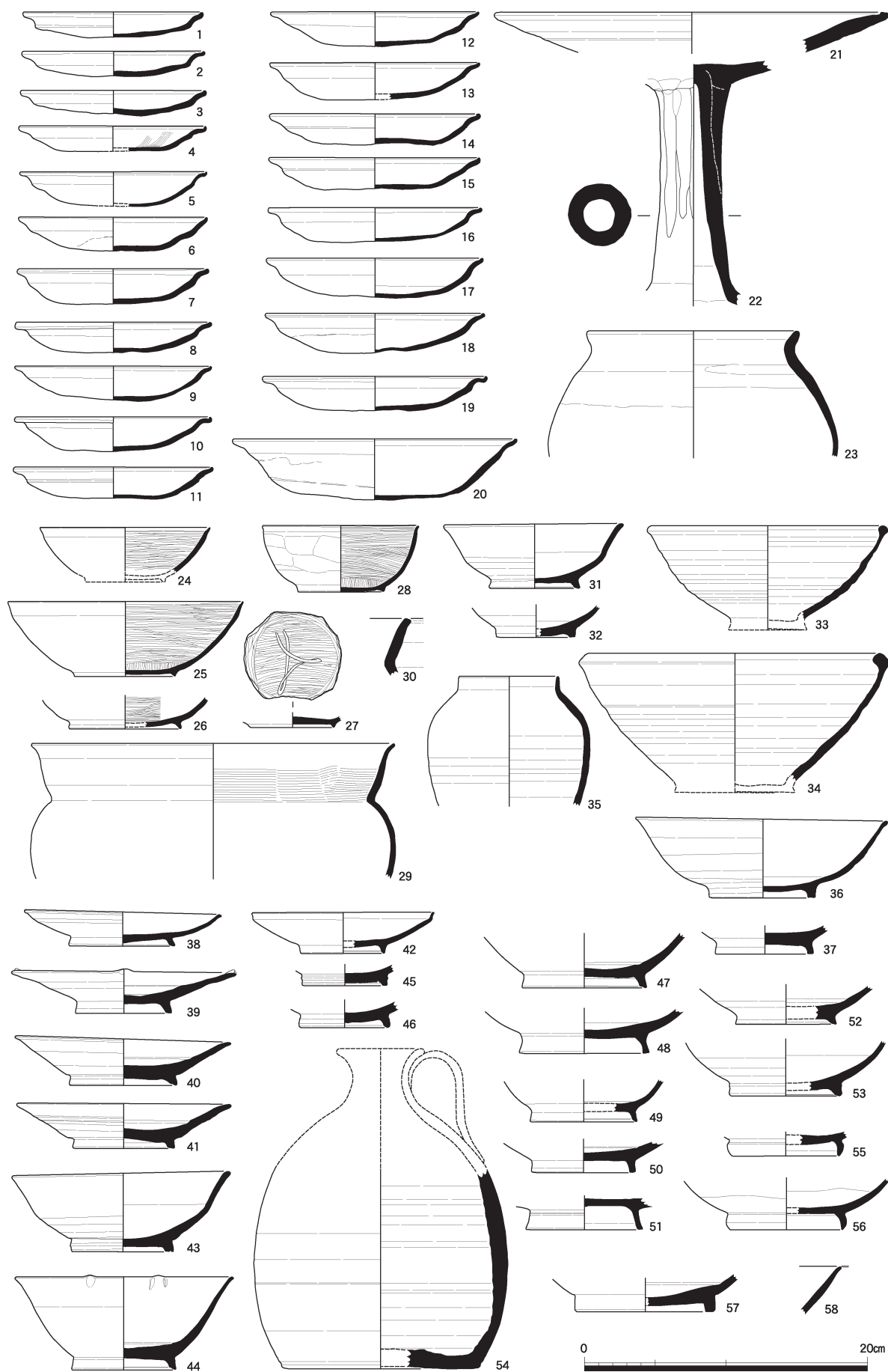


图 50 SE3444 出土土器实测图 (1 : 4)

器には貼り付け高台の椀底部（55・56）がある。大半が東濃の製品と思われる。輸入陶磁器には白磁椀（57）、越州窯青磁椀（58）がある。白磁椀は底径 10.0 cm。外面底部以外を均一に施釉する。越州窯青磁椀は小片のため口径不明。

SE3000 出土土器（図 51、表 8）

SE3000 出土土器は総破片数 346 片あり、その内容は表 8 のとおりである。形態別に見ると椀皿などの供膳具が多く、供膳具 61.3%、貯蔵具 34.4%、煮炊具 2.9% となっている。供膳具のうちでは土師器が 53.8% である。土師器以外の食器類では黒色土器 8.7%、須恵器 57.8%、緑釉陶器 19.7%、白色土器 6.0%、灰釉陶器 6.0%、輸入陶磁器 1.8% と須恵器が多く、この時期の比率としてはやや特異である。土器類は 3-A に属する。

土師器には皿 A（59・60）がある。口径 13.2～14.0 cm、高さ 1.6～2.4 cm。小片が多く図示できるものは少ない。黒色土器には甕の口縁部（61）がある。須恵器には皿（62）、鉢（63）、大型壺（64）、甕（65）などがある。皿は口径 14.4 cm、高さ 2.4 cm、底径 7.6 cm。底部は削り出しの輪高台。胎土は須恵質で山城系緑釉陶器と共通する形態である。鉢は口径 27.0 cm。口縁部は屈曲し端部は玉縁状を呈する。大型壺は口径 23.2 cm、口縁部中段に 2 条の沈線を巡らす。甕は口径 25.0 cm。体部はタタキ、口縁部はシャープに作られている。白

表 8 SE3000 出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	杯・椀・皿	101	78.9%
	高杯・盤・鉢	13	10.2%
	甕・釜・鍋	10	7.8%
	その他	2	1.6%
	不明	2	1.6%
	小計	128	100.0%
黒色土器	杯・椀・皿	19	100.0%
	甕	0	0.0%
	鉢	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	19	100.0%
須恵器	杯・椀・皿	16	12.7%
	壺・瓶	31	24.6%
	鉢	23	18.3%
	甕・大型壺	56	44.4%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	126	100.0%	
緑釉陶器	杯・椀・皿	35	81.4%
	壺・瓶	8	18.6%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	43	100.0%
灰釉陶器	杯・椀・皿	11	84.6%
	壺・瓶	1	7.7%
	その他	1	7.7%
	不明	0	0.0%
	小計	13	100.0%
白色土器	杯・椀・皿	13	100.0%
	高杯	0	0.0%
	盤	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	13	100.0%
輸入陶磁器	杯・椀・皿	4	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	4	100.0%
他	その他・不明	0	-
総数		346	100.0%

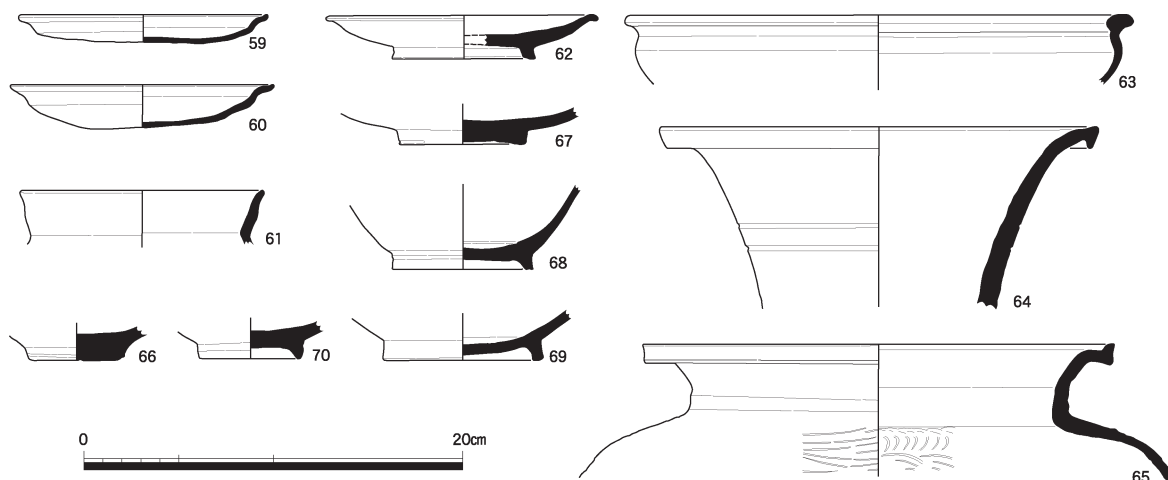


図 51 SE3000 出土土器実測図（1：4）

色土器は糸切り未調整の椀底部（66）がある。緑釉陶器では図示できるものは椀・皿の底部のみで、全形をあらわせるものはない。皿（67）は削り出しの蛇の目高台。全面に刷毛塗り施釉される。山城産。椀（68）は貼り付けの輪高台。外面底部には施釉しない。近江産。椀（69）は全面に施釉し、内面には陰刻花文の一部が認められる。貼り付け高台。尾張産。灰釉陶器は貼り付け高台の底部（70）で底径は 5.4 cm。

SD3330 出土土器（図 52、図版 19、表 9）

SD3330 出土土器は総破片数 2,027 片あり、その内容は表 9 に示した。形態別に見ると供膳具 94.4%、貯蔵具 2.0%、煮炊具 3.4% と供膳具が多い。供膳具のうちでは土師器が 84.8% と大半を占めている。土師器以外の食器類について比率をみれば、黒色土器 19.4%、須恵器 4.0%、緑釉陶器 31.5%、白色土器 37.4%、灰釉陶器 6.2%、輸入陶磁器 1.5% と平安京内における白色土器の出土例としてはかなり高い比率を示す。この土器群の持つ特徴的な要素といえよう。3-A に属する土器群である。

土師器には皿 A（71～77）、皿 M（78・79）、皿 L（80～84）、杯 L（85～88）、椀（89）、甕（90）、羽釜（91・92）がある。食器類は非常に薄く作られ、口縁の屈曲は強く端部は小さくつまみ上げている。椀皿類は形態・手法とも共通し、その区別はあまり明瞭ではない。皿 A は口径 11.5～12.2 cm、高さ 1.1～1.9 cm。皿 M は口径 13.1～14.1 cm、高さ 2.0 cm。皿 L は口径 15.3～17.9 cm、高さ 1.8～2.7 cm。杯 L は口径 18.1～20.2 cm。

85 は内面底部にハケメを残している。椀（89）は口径 18.1 cm、高さ 6.1 cm、径 9.3 cm の高い貼り付け高台を持つもので、主体を成す食器類とは形態や技法の特徴が異なり他地域産のものと思われる。甕は口径 15.2 cm。口縁部は短く、調整はナデとオサエでおさめる。羽釜は口径 21.2 と 24.2 cm。鏝以下を縦方向のハケメ、以上をナデ。胎土は粗く砂粒を含む。黒色土器には椀（93）、甕（94）がある。椀は口径 16.8 cm、全面にミガキを密に施す。内外面とも黒色化させた B 類。甕は内面のみ黒色化させた A 類で口径 13.0 cm、ミガキは認められない。須恵器には壺蓋（95）、鉢（96・97）がある。壺蓋は直立した口縁を持ち、天井部には宝珠形ツマミが付く。天井部の調整はヘラ切り後ナデ。鉢は口径 19 cm 台。口縁端部の玉縁は明瞭さを欠く。白色土器では椀・皿（98～103）、三足盤（104）、蓋（105）、高杯（107）などが出土している。椀は口径 15.7～16.4 cm。103 は底部中央に径 0.8 cm 程の孔を穿つ。皿は口径 15.3 cm。形態や成形技法は椀皿共に

表 9 SD3330 出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	杯・椀・皿	1631	95.7%
	高杯・盤・鉢	9	0.5%
	甕・釜・鍋	59	3.5%
	その他	0	0.0%
	不明	6	0.4%
	小計	1705	100.0%
黒色土器	杯・椀・皿	52	83.9%
	甕	9	14.5%
	鉢	1	1.6%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	62	100.0%
須恵器	杯・椀・皿	11	22.4%
	壺・瓶	12	24.5%
	鉢	14	28.6%
	甕・大型壺	12	24.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	49	100.0%	
緑釉陶器	杯・椀・皿	86	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	86	100.0%
灰釉陶器	杯・椀・皿	17	89.5%
	壺・瓶	2	10.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	19	100.0%
白色土器	杯・椀・皿	81	79.4%
	高杯	21	20.6%
	盤	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	102	100.0%
輸入陶磁器	杯・椀・皿	4	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	4	100.0%
他	その他・不明	0	-
総数		2027	100.0%

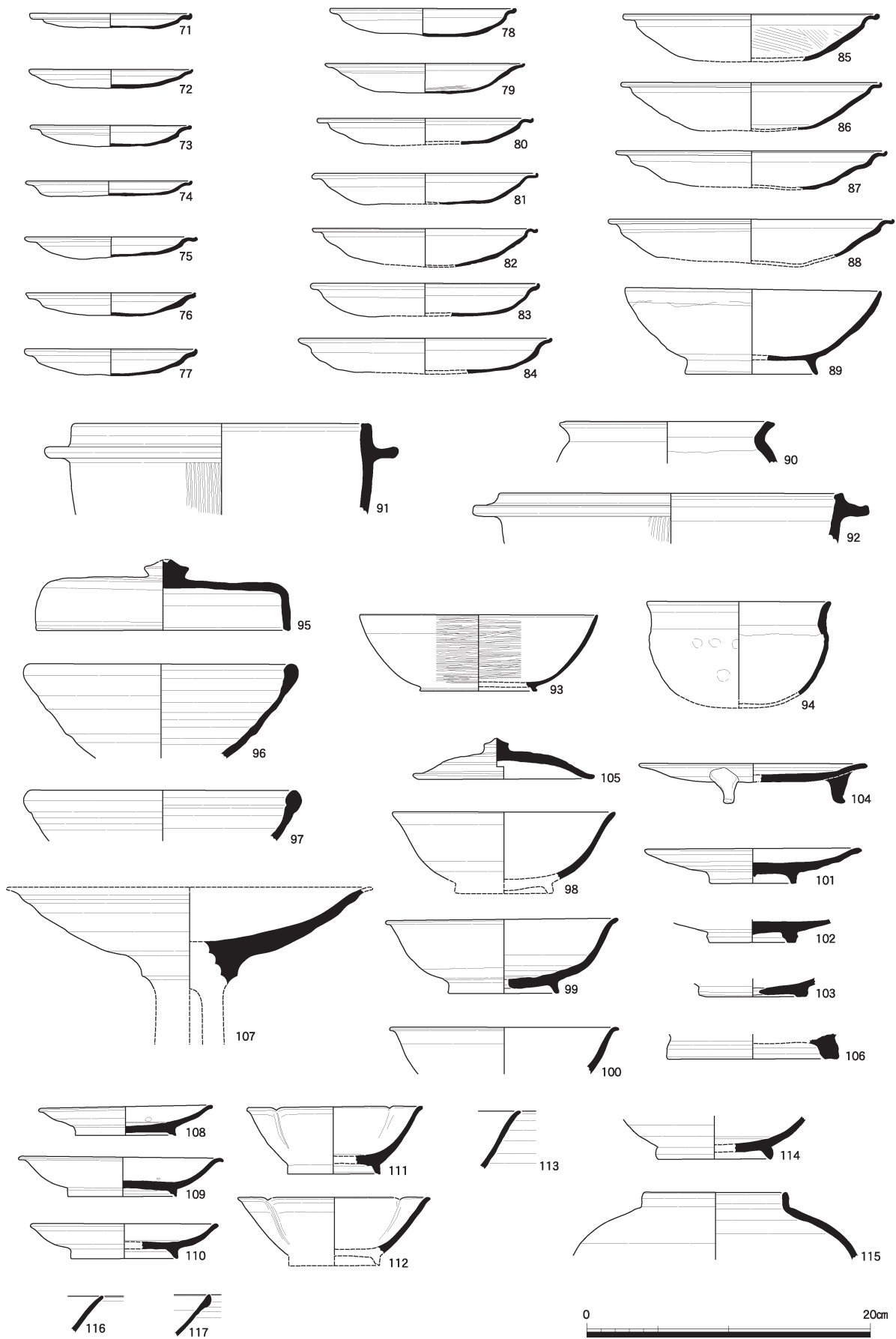


图 52 SD3330 出土土器实测图 (1 : 4)

山城系緑釉陶器に共通する。三足盤は口径 16.1 cm。脚の面取りは省かれている。蓋は口径 12.9 cmで出土している椀皿類との口径とは一致しない。106 は高台部分の破片であるが器形不明。緑釉陶器には皿(108～110)、椀(111～113)がある。皿は口径 12.3～14.5 cm、高さ 2.1～2.8 cm。108・109 の胎土は軟質で濃緑色の釉を厚く掛けている。近江系。110 は山城系。椀は口径 12.4 cmと 13.6 cm。いずれも口縁部の 4 方にへらによる輪花を施す。胎土は硬質、近江系。灰釉陶器は椀(114)と短頸壺(115)が出土している。輸入陶磁器には越州窯青磁椀(116)と白磁椀(117)がある。

#### SD3350 出土土器 (図 53、表 10)

SD3350 出土土器は総破片数 842 片あり、その内容は表 10 のとおりである。形態別に見ると椀皿などの供膳具が多く、供膳具 93.5%、貯蔵具 4.3%、煮炊具 2.0%となっている。供膳具のうちでは土師器が 86.1%と大半を占めている。土師器以外の食器類について比率を示せば、黒色土器 46.8%、須恵器 8.3%、緑釉陶器 35.8%、白色土器 7.3%、灰釉陶器 0.9%、輸入陶磁器 0.9%である。土器類は 3-B に属する。

土師器には口径 10 cm 台の皿 A (118～125)、13 cm 台の皿 L (126)、15～16 cm 台の杯 L (127・128) やロクロ成形土師器の皿 X (129・130)、皿 L に高台を貼り付けた脚付きの皿 (131) がある。黒色土器には椀 (132) がある。内面は密なミガキ、外面はケズリ調整、高台は貼り付け。A 類。

表 10 SD3350 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	杯・椀・皿	672	89.7%
	高杯・盤・鉢	6	0.8%
	甕・釜・鍋	13	1.7%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	749	100.0%
黒色土器	杯・椀・皿	51	92.7%
	甕	4	7.3%
	鉢	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	55	100.0%
須恵器	杯・椀・皿	9	19.6%
	壺・瓶	9	19.6%
	鉢	17	37.0%
	甕・大型壺	10	21.7%
	その他	0	0.0%
	不明	1	2.2%
小計	46	100.0%	
緑釉陶器	杯・椀・皿	39	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	39	100.0%
灰釉陶器	杯・椀・皿	1	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	1	100.0%
白色土器	杯・椀・皿	8	100.0%
	高杯	0	0.0%
	盤	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	1	12.5%
	小計	9	112.5%
輸入陶磁器	杯・椀・皿	1	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	1	100.0%
他	その他・不明	0	- 0.0%
総数		842	100.0%

表 11 SK3563 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	杯・椀・皿	150	88.8%
	高杯・盤・鉢	5	3.0%
	甕・釜・鍋	10	5.9%
	その他	0	0.0%
	不明	4	2.4%
	小計	169	100.0%
黒色土器	杯・椀・皿	3	10.7%
	甕	25	89.3%
	鉢	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	28	100.0%
須恵器	杯・椀・皿	0	0.0%
	壺・瓶	1	25.0%
	鉢	0	0.0%
	甕・大型壺	2	50.0%
	その他	0	0.0%
	不明	1	25.0%
小計	4	100.0%	
緑釉陶器	杯・椀・皿	7	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	7	100.0%
灰釉陶器	杯・椀・皿	4	80.0%
	壺・瓶	1	20.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	5	100.0%
	白色土器	杯・椀・皿	0
高杯		0	-
盤		0	-
その他		0	-
不明		0	-
小計		0	-
輸入陶磁器		杯・椀・皿	0
壺・瓶	0	-	
その他	0	-	
不明	0	-	
小計	0	-	
他	その他・不明	0	- 0.0%
総数		213	100.0%

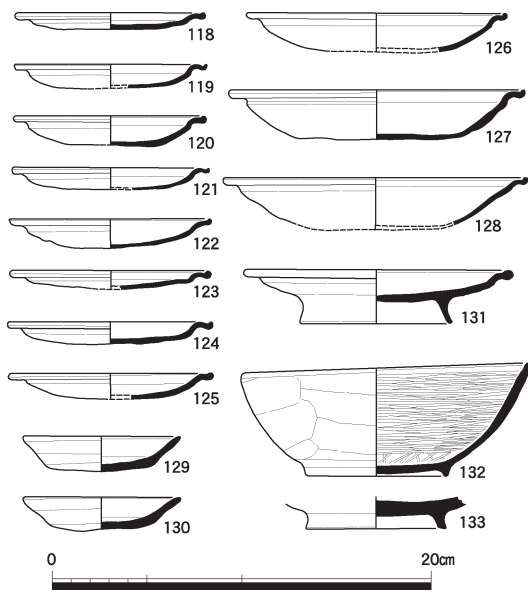


図 53 SD3350 出土土器実測図（1：4）

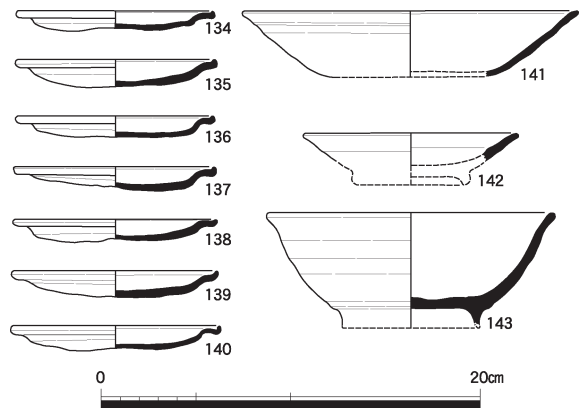


図 54 SK3563 出土土器実測図（1：4）

緑釉陶器（133）は貼り付け高台の底部で碗皿の  
区別はつけがたい。全面施釉。尾張産。

SK3563 出土土器（図 54、表 11）

SK3563 出土土器は表 11 のとおり総破片数 213 片と少量である。その内容は土師器 79.3%、  
黒色土器 13.1%、須恵器 1.9%、緑釉陶器 3.3%、白色土器 0.0%、灰釉陶器 2.3%である。土器  
類 3 - C に属するが、4 - A 的な様相を持つ土器群である。

土師器には口径 10 cm 台後半の皿 A（134～140）と口径 17.8 cm の皿 N（141）がある。緑釉  
陶器碗（143）は口径 15.1 cm、底部外面以外に暗緑色の釉を厚く施釉する。高台は貼り付け、近  
江産。灰釉陶器段皿（142）は口縁部の小片である。

第 2 期の土器類の概観 第 2 期は 4 - A～6 - A、実年代では 11 世紀初頭から 12 世紀末頃まで  
に該当する幅を想定している。土器類の構成（表 6）は土師器が 80%以上を占めている。須恵器  
は 6.6%と第 1 期と大きく変わらず、内容もやはり貯蔵具が主体であるが、貯蔵具にはこの期の後  
半には焼締陶器や古瀬戸が加わってくる。第 1 期と様相が一変するのは食膳具で、その比率は輸  
入陶磁器 44.8%、黒色土器・瓦器 18.6%、須恵器 12.1%、緑釉陶器 9.8%、灰釉陶器 9.7%、白色  
土器 4.9%と、多数を占めていた緑釉・灰釉に代わって白磁や青磁など輸入陶磁器が半数近くを占  
めている。また期の前半から黒色土器に代わり瓦器が増加してくる。

SE1111 出土土器（図 55、図版 19・20、表 12）

SE1111 出土土器は総破片数 943 片あり、その内容は表 12 のとおりである。形態別の比率  
を見ると供膳具 74.9%、貯蔵具 21.8%、煮炊具 2.0%となっている。土師器以外の食器類につ  
いての比率は、黒色土器 17.6%、須恵器 2.5%、緑釉陶器 29.1%、白色土器 16.6%、灰釉陶器  
26.6%、輸入陶磁器 7.5%と施釉陶磁器が過半数を占める。最上層から出土した土師器皿 A（144  
～150）は 4 - B に位置づけられるが、それら以外の下層出土の土器群に付いては 4 - A に属する  
ものである。

土師器には皿 A（144～158）、皿 N（159～164）、甕（165・166）がある。皿 A の口径は  
144～150 が 9.7～11.2 cm、151～157 が 10.7～11.4 cm と幅はあるが均等に分布する。158



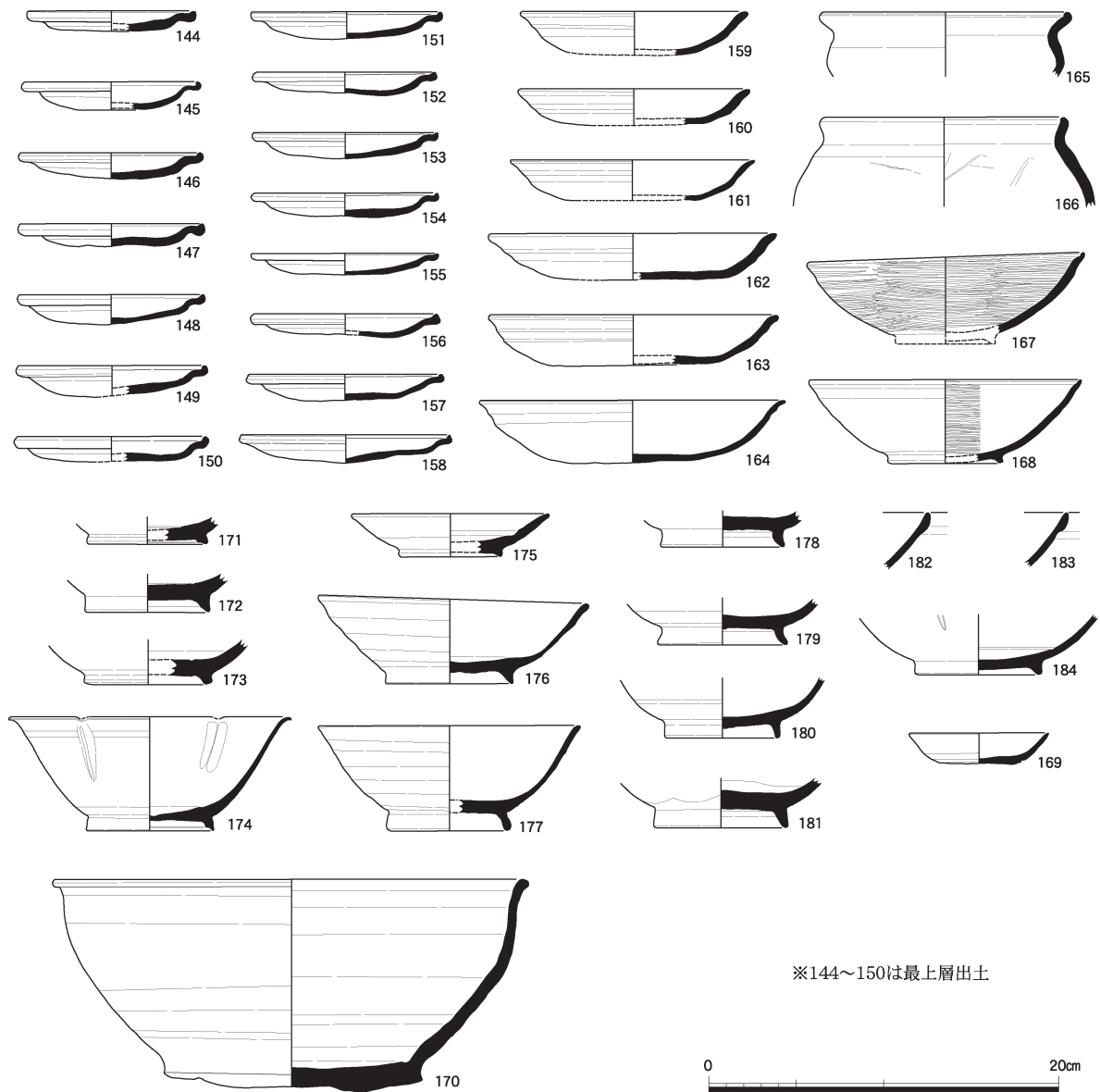


図 55 SE1111 出土土器実測図 (1 : 4)

は 12.2 cm とやや大型である。皿 N には口径 13.0 ~ 14.0 cm ・高さ 2.1 ~ 2.6 cm と、口径 16.5 ~ 17.5 cm ・高さ 2.6 ~ 3.6 cm の 2 群がある。口縁部が外反し二重のナデ痕を残す。皿 A の口径が縮小化し、皿 N が定形化している。黒色土器碗 (167・168) は口径 15.6 ~ 15.9 cm、168 は内面のみ、167 は内外面ともに密なミガキを施す。B 類。須恵器には鉢 (170)、皿 (169) がある。鉢は口径 27.3 cm、高さ 12.1 cm、底径 14.8 cm。底部糸切り後中央部をヘラで軽く調整をしている。内面底部の一部が磨滅している。170・174 は井戸掘形から出土している。皿は口径 8.0 cm の小さなもので底部は糸切り未調整。緑釉陶器碗 (171 ~ 174) はいずれも近江産。172 は外面底部以外を施釉、他は全面施釉。174 は 4 方にヘラにより輪花を施す。174 以外は底部の糸切りをナデ消している。灰釉陶器には碗 (176 ~ 181)、段皿 (175) がある。碗は口径 15.0 ~ 15.5 cm、底径 6.6 ~ 7.7 cm。底部に糸切りを残すものがあられる。段皿は口径 11.3 cm、高さ 2.4 cm、底径 5.7 cm。底部に糸切りを残す。輸入陶磁器では白磁碗 (182 ~ 184) がある。184 には輪花の切り込

表 12 SE1111 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	杯・碗・皿	504	94.9%
	高杯・盤・鉢	3	0.6%
	甕・釜・鍋	17	3.2%
	その他	7	1.3%
	不明	0	0.0%
	小計	531	100.0%
黒色土器	杯・碗・皿	35	94.6%
	甕	2	5.4%
	鉢	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	37	100.0%
須恵器	杯・碗・皿	5	2.6%
	壺・瓶	15	7.9%
	鉢	42	22.0%
	甕・大型壺	129	67.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	191	100.0%	
緑釉陶器	杯・碗・皿	58	96.7%
	壺・瓶	2	3.3%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	60	100.0%
灰釉陶器	杯・碗・皿	53	74.6%
	壺・瓶	12	16.9%
	その他	6	8.5%
	不明	0	0.0%
	小計	71	100.0%
白色土器	杯・碗・皿	29	85.3%
	高杯	4	11.8%
	盤	0	0.0%
	その他	1	2.9%
	不明	0	0.0%
小計	34	100.0%	
輸入陶磁器	杯・碗・皿	15	71.4%
	壺・瓶	6	28.6%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	21	100.0%
他	その他・不明	0	- 0.0%
総数		943	100.0%

みが一部残る。

#### SE3108 出土土器 (図 56、表 13)

SE3108 出土土器は総破片数 695 片で、その

内容は表 13 に示すとおりである。形態別に見ると碗皿などの供膳具が主体で、供膳具 78.0%、貯蔵具 21.3%、煮炊具 0.6%となっている。4-B に属する土器群である。土師器を除いた食器類の比率は、輸入陶磁器 29.9%、灰釉陶器 20.9%、白色土器 17.9%、須恵器 13.4%、緑釉陶器 13.4%、瓦器 4.5% と、白磁を主とする輸入陶磁器が最も多くなっている。

土師器には皿 A (185 ~ 190)、皿 Ac (191)、皿 N (192 ~ 200)、盤 (201) がある。皿 A は口径 10.3 ~ 11.0 cm、高さ 1.7 ~ 1.9 cm、器壁は厚い。皿 Ac は口縁部を内側に折り曲げたコースター形のもので、口径 10.3 cm、高さ 1.0 cm。皿 N には口径 10 ~ 11 cm 台の小型のもの (192 ~ 195)、15 cm 台後半から 17 cm 台前半までの大型のもの (197 ~ 200) と、その間に口径 13.5 cm (196) の 3 群がある。盤は外方に張り出す高い高台が付く。須恵器には杯 A (205)、壺 (206)、甕 (207・208) がある。杯 A は底部へラ切りで胎土はやや軟質。壺は底径 14.6 cm。甕 (207) は口径 30.2 cm、頸部に接合痕が認められ、口縁部内外面に鉄泥を刷毛塗りしている。猿投窯の製品か。208 は口径 27.8 cm、外面はヨコ方向の規則正しいタタキ、一部にハケメを施す。内面は粗いハケメ調整。白色土器には碗 (202・203)、皿 (204) がある。碗は口径 13 cm 台、底部は糸

表 13 SE3108 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	杯・碗・皿	465	97.7%
	高杯・盤・鉢	7	1.5%
	甕・釜・鍋	4	0.8%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	476	100.0%
黒色土器	杯・碗・皿	3	100.0%
	甕	0	0.0%
	鉢	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	3	100.0%
瓦器	杯・碗・皿	3	75.0%
	鍋・釜	0	0.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	1	25.0%
小計	4	100.0%	
須恵器	杯・碗・皿	9	5.9%
	壺・瓶	9	5.9%
	鉢	6	3.9%
	甕・大型壺	129	84.3%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	153	100.0%	
緑釉陶器	杯・碗・皿	9	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	9	100.0%
灰釉陶器	杯・碗・皿	14	87.5%
	壺・瓶	2	12.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	16	100.0%
白色土器	杯・碗・皿	12	100.0%
	高杯	0	0.0%
	盤	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	12	100.0%
輸入陶磁器	杯・碗・皿	20	90.9%
	壺・瓶	2	9.1%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	22	100.0%
	他	その他・不明	0
総数		695	100.0%

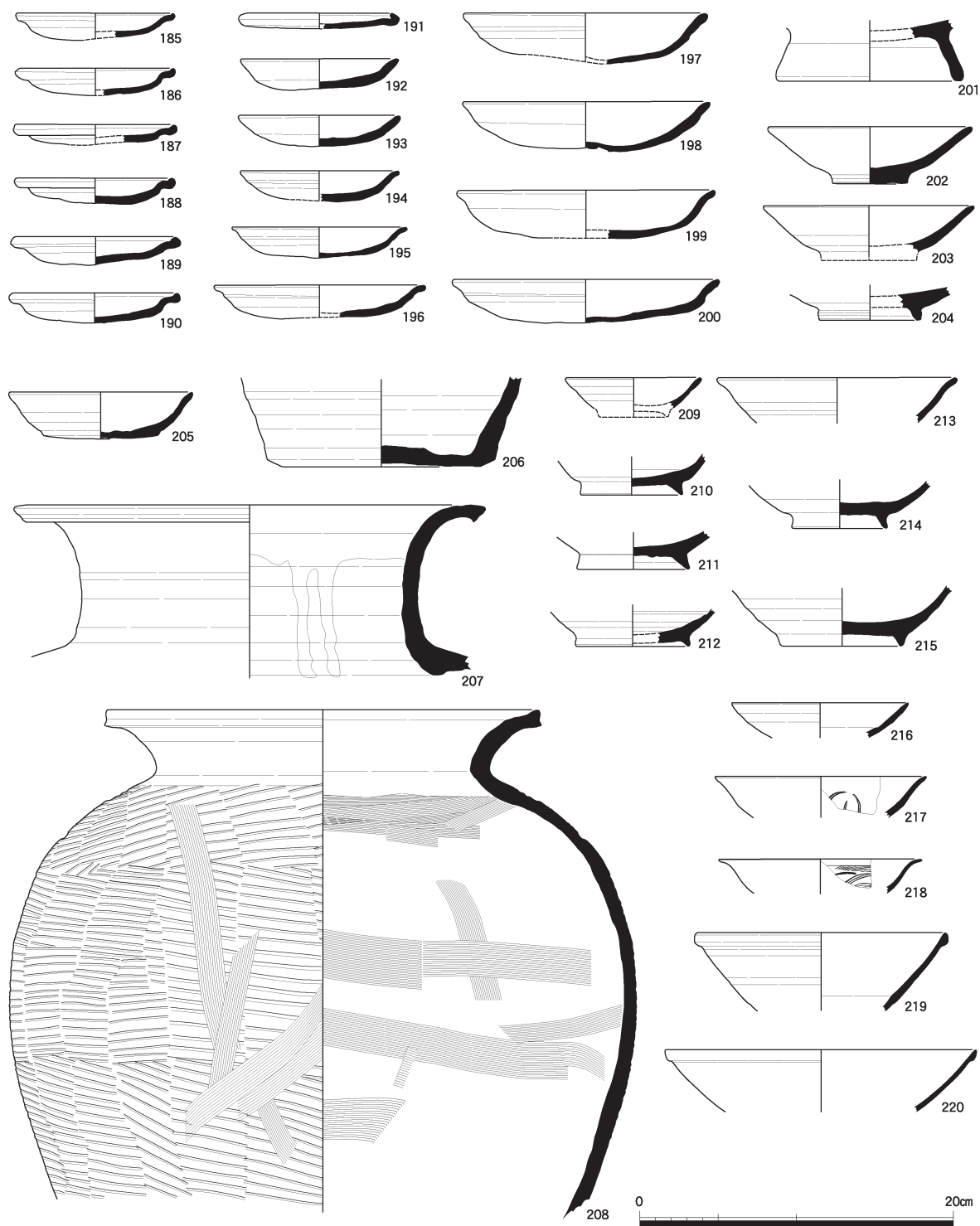


図 56 SE3108 出土土器実測図（1：4）

切りを残した円盤高台。皿は削り出しの輪高台である。灰釉陶器としたもの（209～215）には、施釉痕が確認できず、底部外面に糸切り跡を残し粗雑な高台を付けた山茶碗化したもの（210～213）が含まれている。口径 8.7 cm の小椀（209）、口径 15.4 cm の椀（213）の他は底部のみ残存する。底径は 5.0～7.9 cm。輸入陶磁器には白磁の皿（216）・椀（217・219）・鉢（220）、青白磁椀（218）などがある。白磁椀（217）の内面には劃花文が認められる。椀・鉢はいずれも口縁

部は折り返されて玉縁状を呈する。青白磁碗は内面に劃花文を配する。

SE2469 出土土器 (図 57、表 14)

SE2469 出土土器は総破片数 1,768 片あり、内容は表 14 に示したとおりである。土師器以外の食器類の比率は、黒色土器 2.5%、瓦器 14.8%、須恵器 14.8%、緑釉陶器 6.3%、白色土器 6.0%、灰釉陶器 7.9%、輸入陶磁器 47.6% である。4-C に属する。

土師器には皿 N (221 ~ 228)、甕 (229) がある。皿 N には口径 9.0 ~ 10.1 cm の小型のもの (221 ~ 224) と 13.9 ~ 15.6 cm の大型 (225 ~ 228) のものがあるが、口縁残存率の少ない資料が多く、口径計測値の信頼度は高くない。甕 (229) は口径 21.7 cm、やや扁平でずんぐりとした体部に強く外反した短い口縁が付く。体部下方には台型で受けた痕が凹線状に認められる。瓦器には碗 (230・231) がある。231 は粗雑な作りの二重高台底部である。白色土器には皿 (232)、高杯 (233) がある。皿は口径 8.8 cm、高さ 1.2 cm。底部はケズリ。高杯は軸部と杯部の接合部分である。軸の面取りは 12 面。須恵器甕 (234) は口径 22.6 cm。体部外面はヨコ方向のタタキ。東

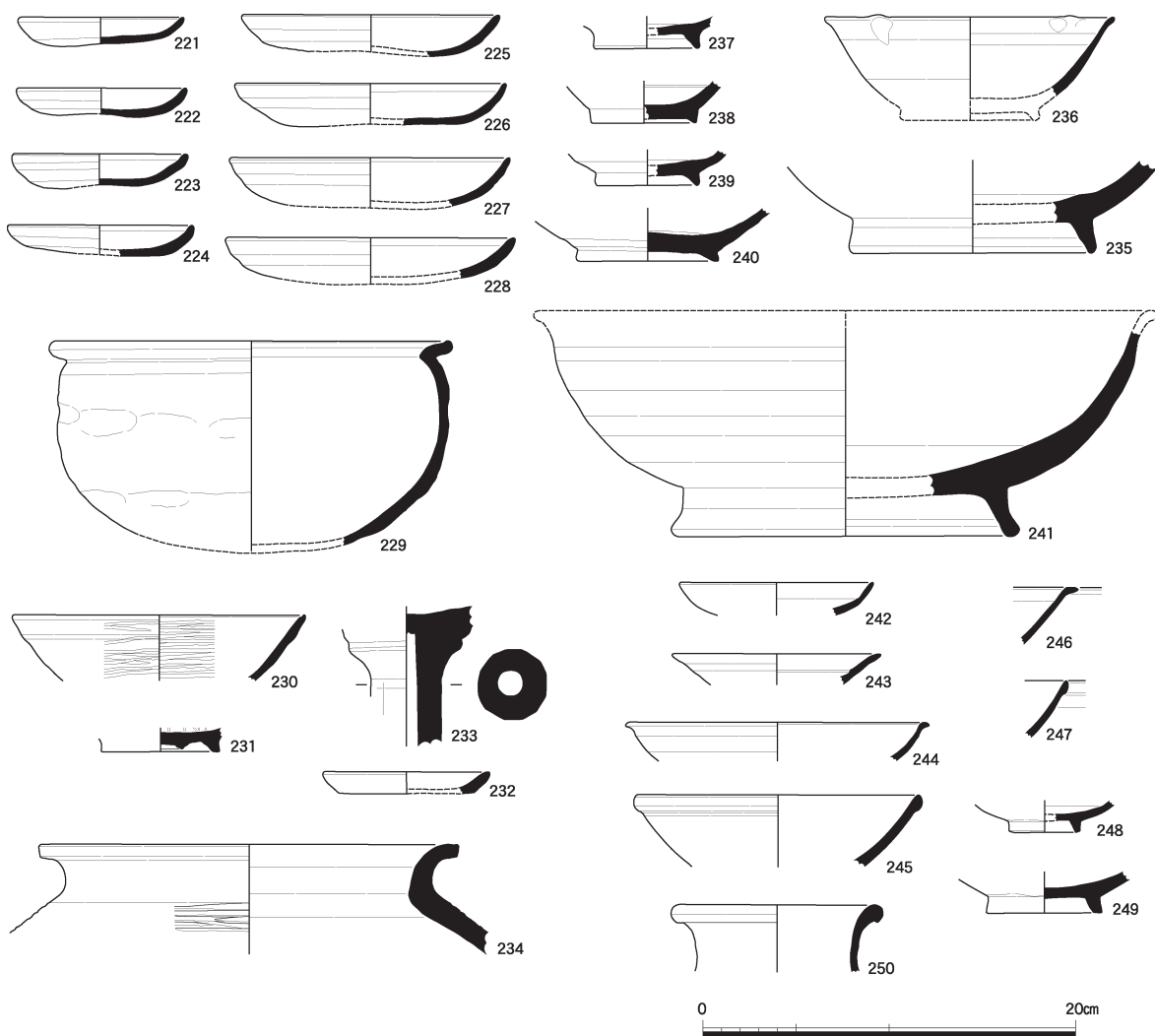


図 57 SE2469 出土土器実測図 (1 : 4)

表 14 SE2469 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	杯・椀・皿	1178	96.3%
	高杯・盤・鉢	7	0.6%
	甕・釜・鍋	34	2.8%
	その他	1	0.1%
	不明	3	0.2%
	小計	1223	100.0%
黒色土器	杯・椀・皿	8	100.0%
	甕	0	0.0%
	鉢	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	8	100.0%
瓦器	杯・椀・皿	47	94.0%
	鍋・釜	0	0.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	0	0.0%
	その他	1	2.0%
	不明	2	4.0%
小計	50	100.0%	
須恵器	杯・椀・皿	47	18.7%
	壺・瓶	24	9.6%
	鉢	62	24.7%
	甕・大型壺	114	45.4%
	その他	0	0.0%
	不明	4	1.6%
小計	251	100.0%	
緑釉陶器	杯・椀・皿	20	95.2%
	壺・瓶	1	4.8%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	21	100.0%
灰釉陶器	杯・椀・皿	25	89.3%
	壺・瓶	3	10.7%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	28	100.0%
白色土器	杯・椀・皿	16	84.2%
	高杯	2	10.5%
	盤	1	5.3%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	19	100.0%
輸入陶磁器	杯・椀・皿	151	89.9%
	壺・瓶	17	10.1%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	168	100.0%
他	その他・不明	0	-
総数		1768	100.0%

表 15 SK2642 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	椀・皿	323	97.9%
	鉢・盤	2	0.6%
	甕・鍋・釜	5	1.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	330	100.0%
瓦器	椀・皿	7	43.8%
	鍋・釜	3	18.8%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	6	37.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	16	100.0%	
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	6	10.5%
	鉢	4	7.0%
	壺・瓶	6	10.5%
	甕	41	71.9%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	57	100.0%	
白色土器	杯・椀・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
焼締陶器	壺	0	0.0%
	甕	9	100.0%
	鉢・盤	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	9	100.0%
輸入陶磁器	椀・皿	21	84.0%
	壺・瓶	3	12.0%
	その他	1	4.0%
	不明	0	0.0%
	小計	25	100.0%
他	その他・不明	0	-
総数		437	100.0%

播系の製品か。緑釉陶器鉢 (235) は底径 15.2 cm。外面の高台内以外を刷毛塗り施釉する。内面は磨滅し平滑である。241 の灰釉陶器鉢と形態・手法とも共通する。灰釉系陶器には椀 (236 ~ 240)、鉢 (241) がある。椀 (236) は口径 15.6 cm、口縁部の 4 方を指で押して輪花とする。施釉痕は無い。底部は 237 以外は高台内に糸切りを残す。鉢は底径 18.8 cm と大型のものである。内面の重ね焼き部分を外して薄く刷毛塗り施釉する。高台内には墨が付着する。内面底部は磨滅し平滑になっている。輸入陶磁器には白磁皿 (242・243・248)・椀 (244 ~ 247・249)、褐釉壺 (250) がある。243 は段皿。椀には口縁端部が小さく外反するのものと、玉縁状に肥厚するものがある。褐釉壺は丸く折り返された玉縁状の口縁部。内面は刷毛塗りで薄く、外面には鉄分の多い灰釉を厚く施釉している。器面は焼成時の炭素が抜けきらず、暗オリーブ色を呈する。

## SK2642 出土土器 (図 58、表 15)

総数 437 片と量は多くないが、土師器を主に瓦器・須恵器・焼締陶器・輸入陶磁器など 5-A に属する土器類があり、土師器皿には完形品や破片の大きな資料が多い。

土師器には皿 Ac (257・258)、皿 N (251 ~ 256・259 ~ 268)、甕 (269) がある。皿 Ac は口径 9.0 ~ 10.0 cm。皿 N には口径 9.5 cm 前後 (251 ~ 256)、14.5 cm 前後 (259 ~ 263)、15.7 cm 前後 (264 ~ 267) と 25.0 cm の大型品 (268) の 4 群がある。口縁部の外反は少なく直

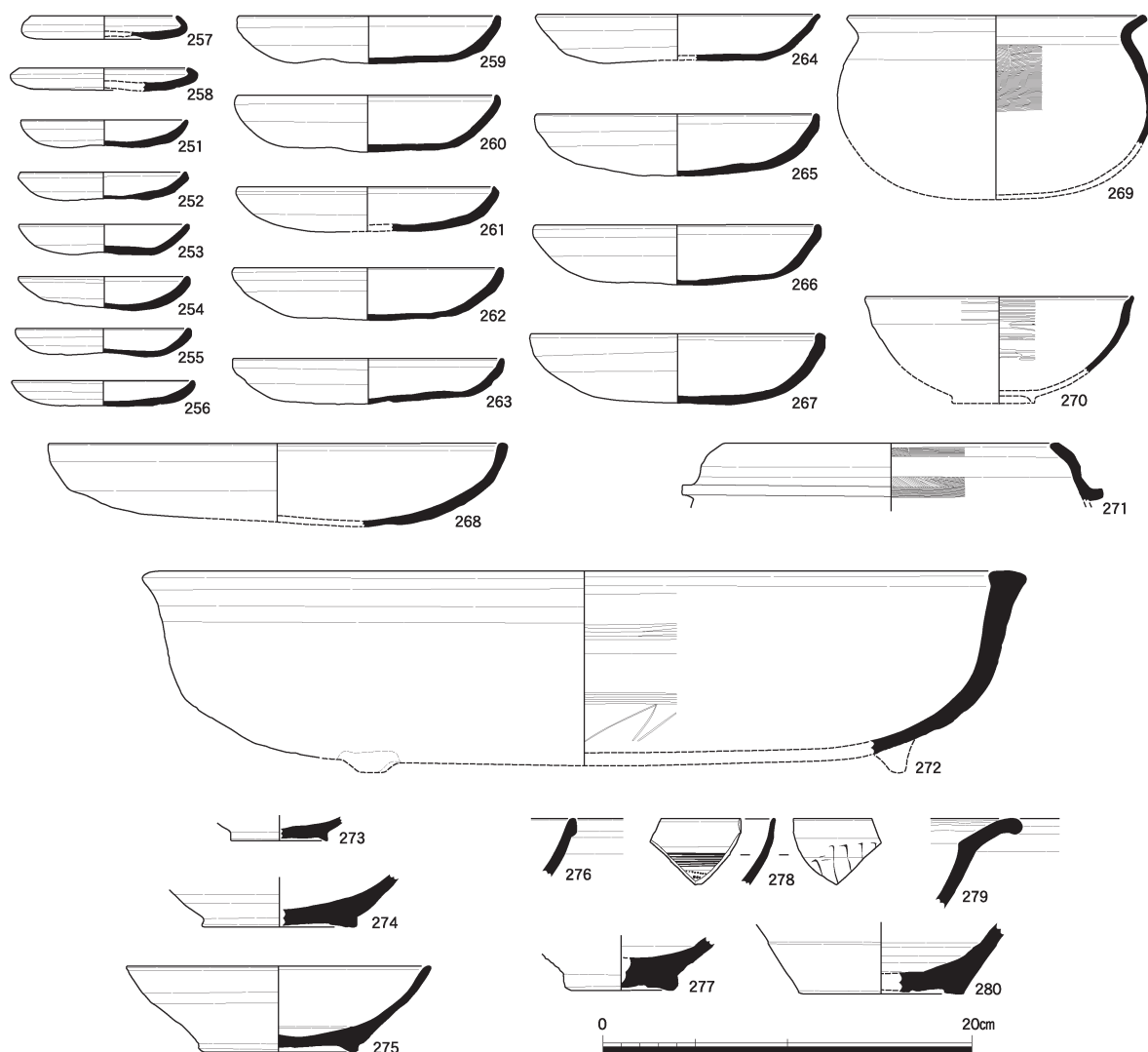


図 58 SK2642 出土土器実測図（1：4）

立気味であるが、ナデは二段に施されている。甕は口径 16.3 cm、扁平な球形の体部をもち、外面は丁寧なオサエ、内面にはハケメ調整を施す。瓦器には椀（270）、羽釜（271）、火鉢（272）がある。椀は口径 14.6 cm、口縁端部内側に沈線が巡る。ミガキは内外面ともやや粗い。羽釜は口径 18.0 cm、内傾する口縁部下方に短い鑿を付ける。おそらく三足が付くものだろう。火鉢は平底で上端部が幅広の口縁を持ち内面に粗いミガキが施されている。山茶椀（273～275）275 は口径 16.6 cm、高さ 4.7 cm、底径 8.0 cm。糸切りの底部に粗雑な高台を貼り付ける。施釉痕は認められない。輸入陶磁器には白磁椀（276・277）、青磁椀（278）、黄釉盤（279）、褐釉壺（280）などがある。白磁椀は玉縁の口縁と、露胎の底部である。青磁椀は内面に櫛描文、外面には片切り彫りを施す。同安窯。黄釉盤はくの字状に折れ曲がり外反する口縁部で、内面にのみ施釉している。褐釉壺は外面の底部以外を施釉している。

SE2222 出土土器（図 59、表 16）

SE2222 出土土器は総破片数 383 片あり、その内容は土師器 58.7%、瓦器 9.1%、須恵器・山茶椀 26.6%、白色土器 1.6%、輸入陶磁器 3.9%である。5-B に属する土器群である。

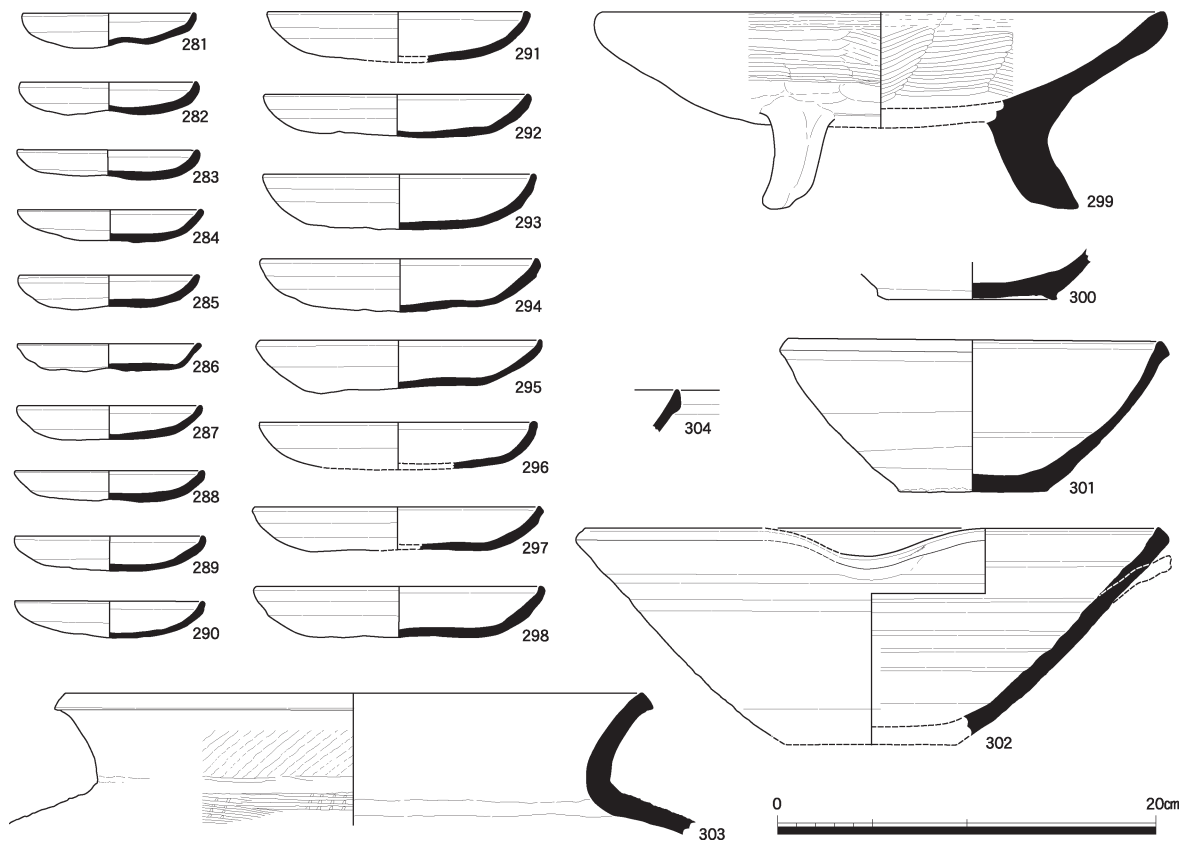


図 59 SE2222 出土土器実測図 (1 : 4)

表 16 SE2222 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	218	96.9%
	鉢・盤	1	0.4%
	甕・鍋・釜	4	1.8%
	その他	1	0.4%
	不明	1	0.4%
	小計	225	100.0%
瓦器	碗・皿	31	88.6%
	鍋・釜	0	0.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	3	8.6%
	その他	0	0.0%
	不明	1	2.9%
	小計	35	100.0%
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	4	3.9%
	鉢	4	3.9%
	壺・瓶	35	34.3%
	甕	59	57.8%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	102	100.0%	
白色土器	杯・碗・皿	6	100.0%
	高杯	0	0.0%
	盤	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	6	100.0%
焼締陶器	壺	0	-
	甕	0	-
	鉢・盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
輸入陶磁器	碗・皿	15	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	15	100.0%
他	その他・不明	0	-
総数		383	100.0%

表 17 SK0493 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	61996	100.0%
	鉢・盤	6	0.0%
	甕・鍋・釜	7	0.0%
	その他	2	0.0%
	不明	7	0.0%
	小計	62018	100.0%
瓦器	碗・皿	16	40.0%
	鍋・釜	17	42.5%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	3	7.5%
	その他	1	2.5%
	不明	3	7.5%
	小計	40	100.0%
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	6	5.6%
	鉢	8	7.5%
	壺・瓶	31	29.0%
	甕	61	57.0%
	その他	0	0.0%
	不明	1	0.9%
小計	107	100.0%	
白色土器	杯・碗・皿	6	85.7%
	高杯	1	14.3%
	盤	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	7	100.0%
焼締陶器	壺	3	11.5%
	甕	22	84.6%
	鉢・盤	0	0.0%
	その他	1	3.8%
	不明	0	0.0%
	小計	26	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	17	53.1%
	壺・瓶	15	46.9%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	32	100.0%
他	その他・不明	1	-
総数		62231	100.0%

土師器には皿 N 小(281 ~ 290)、皿 N 大(291 ~ 298)、三足盤(299)がある。皿 N 小は口径 9.3 ~ 10.2 cm、皿 N 大は 14.0 ~ 15.5 cm。三足盤は厚造りで底部には不釣り合いとも思える大きな脚が付く。内外面ともミガキ調整。須恵器鉢(301・302)には口径 20 cm 台のものと 30 cm 台の 2 種類がある。体部は直線的に開き、口縁端部は体部の厚みのまま単純におさめる。302 には片口が残る。須恵器甕(303)は口径 31.8 cm、体部は格子目タタキ、鉢ともに東播系の製品と思われる。その他に山茶椀(300)、玉縁の口縁をもつ白磁椀(304)などがある。

SK0493 出土土器 (図 60、表 17)

SK0493 出土土器は総破片数 62,231 片あり、その内容は土師器 99.7%、瓦器 0.1%、須恵器 0.2%、輸入陶磁器 0.1% と出土土器の大半を土師器が占める。6 - A に属する。

土師器には皿 N (305 ~ 322・326 ~ 341)、皿 Ac (323 ~ 325) がある。皿 N には口径 9.5 cm 前後 (305 ~ 319)、11.9 cm 前後 (320 ~ 322)、14.5 cm 前後 (326 ~ 341) の 3 群があり、各群には口径に対して深みの強いもの (315・321・337 など) が少数ある。これらの形態は、この土壌の資料には含まれていないが、6 - B から明確に出土が確認できる白色系の土師器 (皿 S) に類似している。土師器皿類の口縁部のナデが二段ではなく一段に見えるものが大半を占める。輸入陶磁器には白磁皿 (342・343)・椀 (344・345・347)・壺 (348)、青白磁椀 (346) がある。

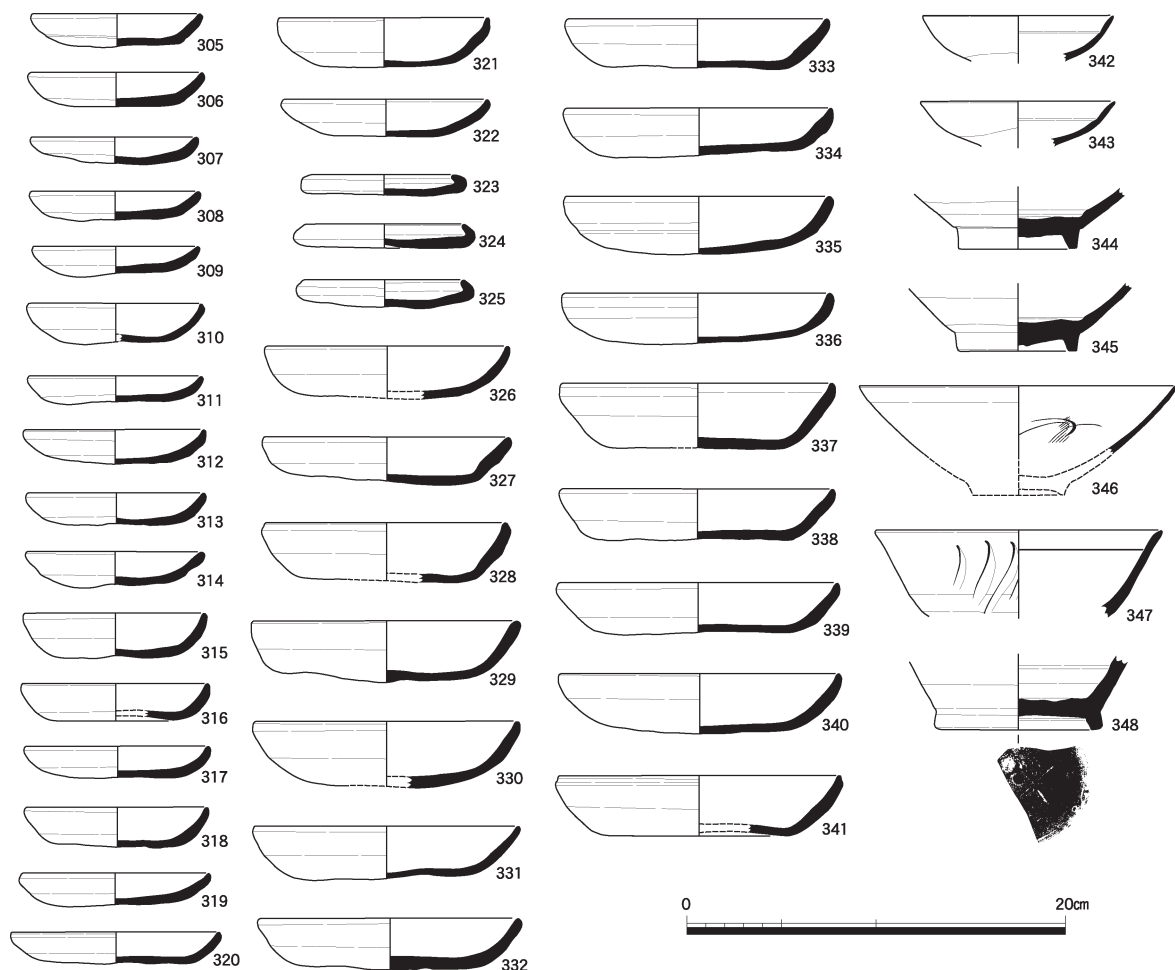


図 60 SK0493 出土土器実測図 (1 : 4)



白磁皿はやや黄色みのかかる透明感のない釉を外面上部以外に施す。白磁碗は図示した2点とも高台部分には施釉せず、対応するように内面重ね部分の釉を掻き取っている。347は外面に片切り彫りで蓮弁をあらわし、内面口縁部付近に沈線が一条巡る。白磁壺は高台内に「×」のヘラ記号がある。青白磁碗の内面には櫛描文が施されている。

第3期の土器類の概観 第3期は6-B～8-B、実年代では13世紀初めから15世紀の初頭に該当する。土師器が約80%と最多数を占めるのは第1・第2期と同様であるが、瓦器が7.0%、焼締陶器が4.6%と第2期と比較して増加している。瓦器の増加は碗・皿などの食器類だけでなくそれに鍋・釜類や炉・火鉢が多量に加わることによる。焼締陶器では常滑や渥美など東海系の製品に加え、期の後半には備前や信楽の製品が含まれるようになる。また少量ではあるが古瀬戸を含む土器群が目立ってくるのもこの期の特徴といえる。食膳具では緑釉陶器・灰釉陶器が姿を消し、輸入陶磁器52.3%、瓦器35.8%、須恵器（大半が山茶碗）8.9%、古瀬戸2.5%、白色土器0.6%と、青磁を主とする輸入陶磁器が過半を占める。

#### SX2700 出土土器 (図61・62、表18)

SX2700 出土土器は総破片数5,359片あり、その内容は表18に示したとおりである。形態別に見るとやはり碗皿などの供膳具が多く、供膳具85.5%、貯蔵具8.6%、煮炊具4.3%となっている。6-Aに属する土器群である。

土師器の食器類では、コースター形の皿Ac、皿N(349～375)、白色系の皿S(380～389)、コースター形の皿Sc(376～379)がある。皿Acは口径9.7cmのものが1点ある。皿Nには口径8.5cm前後(363～375)、12.8cm前後(349～361)、13.8cm前後(362)の3群、皿Sは口径9.5cm前後、11.0cm前後(382～387)、12.7cm前後(388・389)のほか形態が皿Nに類似する口径9.5cmの皿(380・381)がある。皿Scには5.8cm前後(376・377)、7.0cm前後(378・379)の2種がある。皿390は口径11.8cm、主体を成す土器群とは胎土・形態が異なり、産地の違いが考えられる。土師器には他に火鉢(395・396)がある。平底に低い足が付き、水平に近い上端面を持った厚い口縁は瓦器火鉢と共通の形態である。瓦器には碗(391)、羽釜(392)、羽釜の脚部(394)、鍋(393)がある。碗には体部外面に輪花のヘラ痕が認められる。羽釜(392)はやや浅く、脚は付かない。鍋は蓋の受けが付くもので、内面には細かなハケメ調整を施す。須恵器には鉢(397～399)、甕(400・401)がある。

表18 SX2700 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	4411	98.2%
	鉢・盤	60	1.3%
	甕・鍋・釜	15	0.3%
	その他	1	0.0%
	不明	7	0.2%
	小計	4494	100.0%
瓦器	碗・皿	16	5.4%
	鍋・釜	218	72.9%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	60	20.1%
	その他	4	1.3%
	不明	1	0.3%
	小計	299	100.0%
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	7	2.5%
	壺・瓶	7	2.5%
	鉢	125	45.1%
	甕	138	49.8%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	277	100.0%
白色土器	杯・碗・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	碗・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
	焼締陶器	壺	1
甕		166	99.4%
鉢・盤		0	0.0%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		167	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	89	73.0%
	壺・瓶	26	21.3%
	その他	7	5.7%
	不明	0	0.0%
	小計	122	100.0%
他	その他・不明	0	-
総数		5359	100.0%

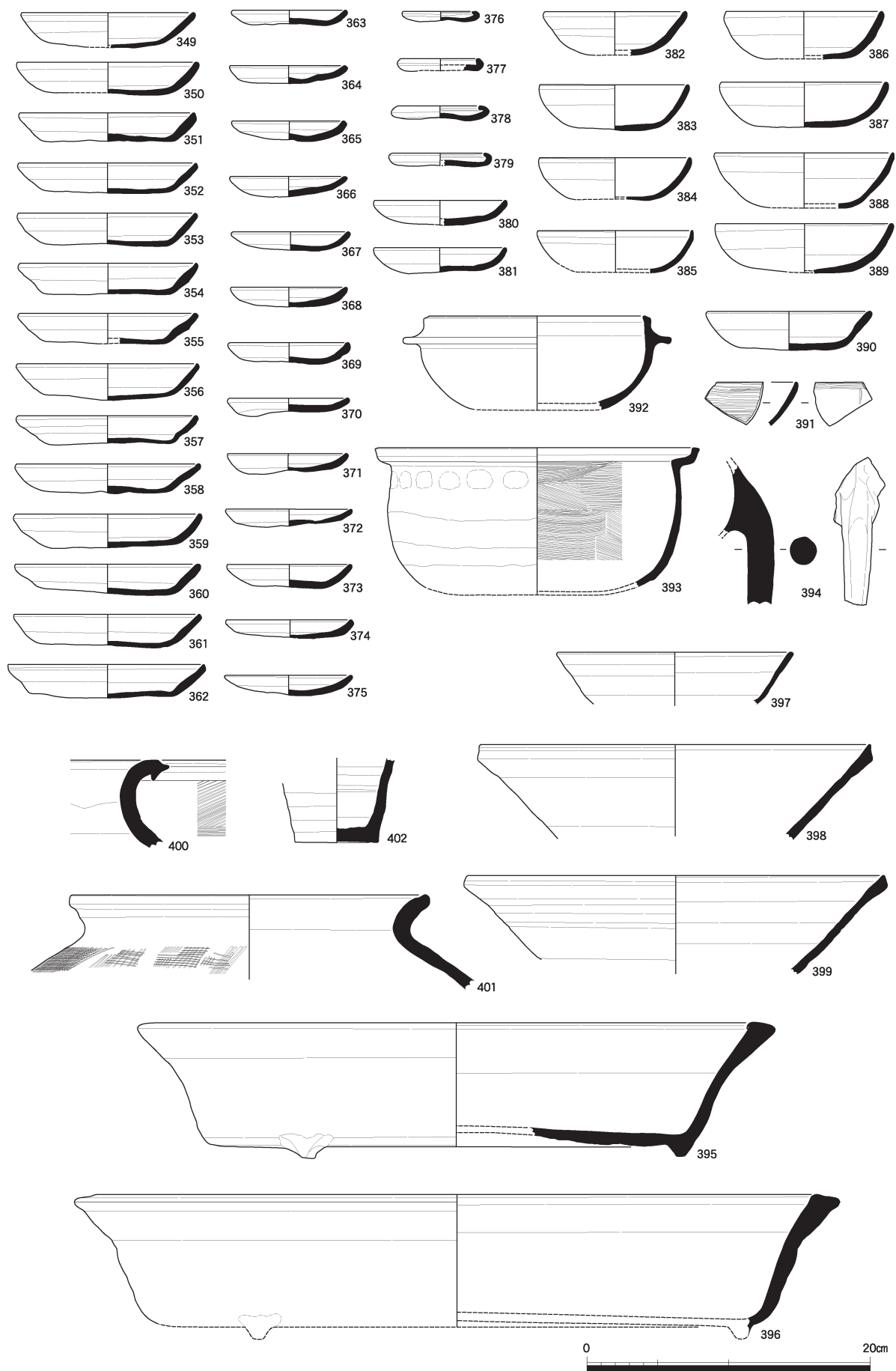


图 61 SX2700 出土土器实测图 - 1 (1 : 4)

鉢は口径 16.8 cm と小振りで口縁端部を丸く収めているものと、口径 30 cm 前後で直線的に開き口縁端部は器壁の厚さと等しい端面を持つものがある。甕は口縁端部の形態が帯状をなすものと、丸くつまむように締めたものがある。白色土器壺（402）は糸切り未調整の底部。輸入陶磁器には白磁碗（406～408・410・411）・皿（403・409）、青磁碗（404・405・412～414）・皿（415）、

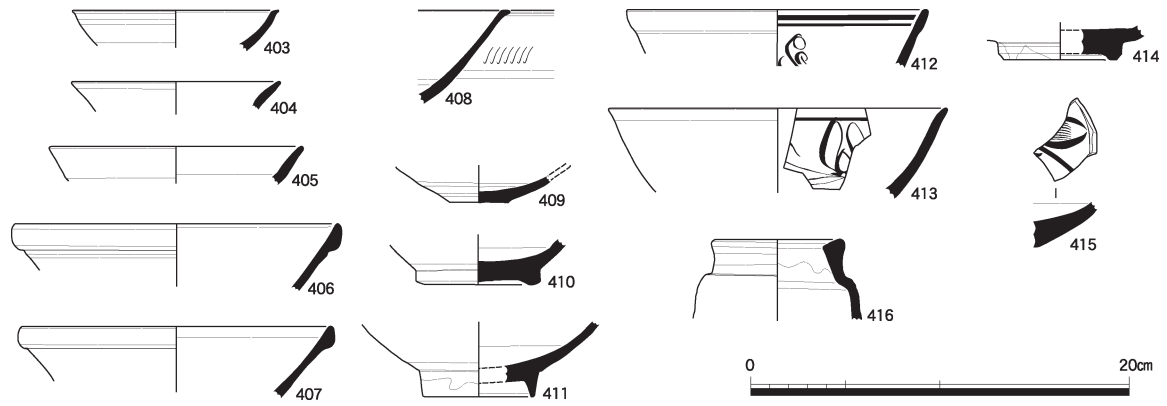


図 62 SX2700 出土土器実測図 - 2 (1 : 4)

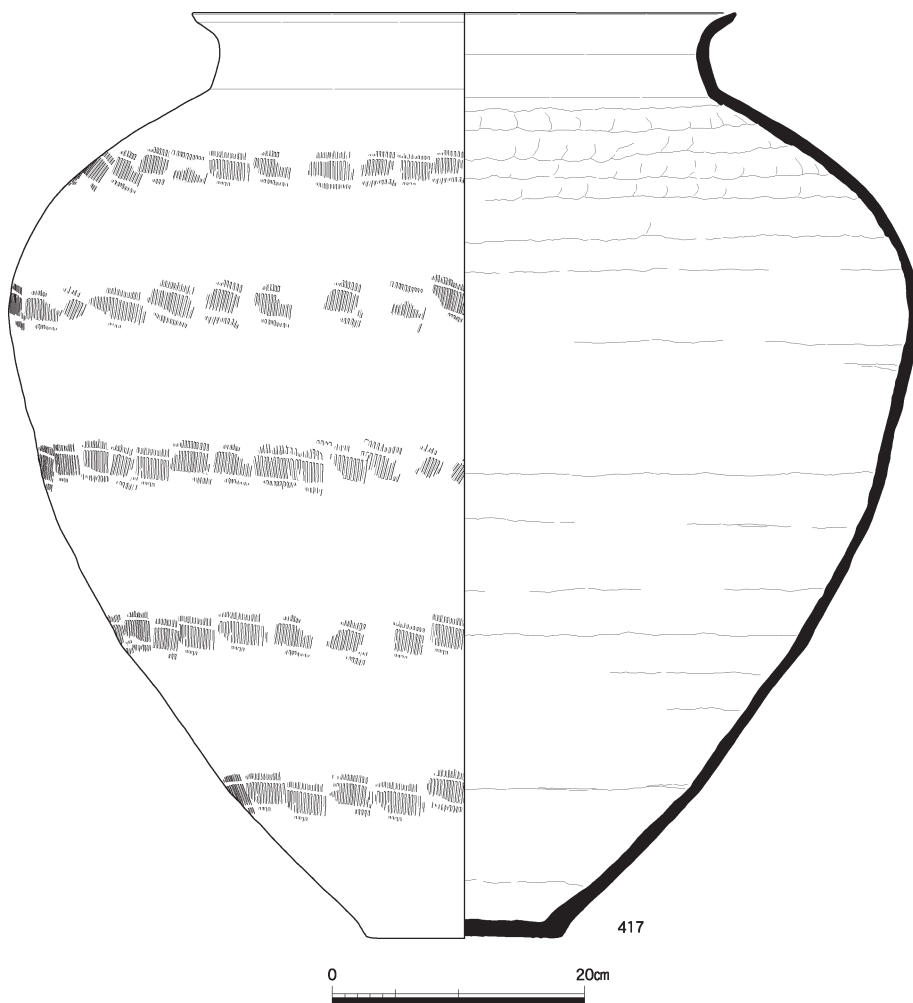


図 63 SK2344 出土甕実測図 (1 : 6)

褐釉陶器壺（416）がある。白磁碗には口縁部が外反する薄手のものと、玉縁状に肥厚するものがある。底部も2種類ありそれぞれに合う。皿は小さな平底のものである。青磁碗・皿には内面に片切り彫りの花文があらわされているものがある。褐釉壺は口縁部および外面に施釉。直立する口縁は厚く、上端面は内傾する。

SK2344 出土土器（図 63）

SK2344 からは常滑産の大甕（417）が出土している。その他にも土師器が数点出土しているが、いずれも磨滅が激しいうえに小片のため図示していない。大甕は口径 43.2 cm、高さ 73.7 cm を測る大型のものである。細めの粘土紐積み上げにより器壁は薄く作られている。粘土紐を数段積み上げたのち、ある程度の堅さまで乾燥を待ち、上部の段を順次積み上げる。外面にその作業の単位ごとに施された5段のタタキ目が残る。

SX2322 出土土器（図 64、図版 20、表 19）

SX2322 出土土器は総破片数 280 片と少量であるが、おそらく墓と考えられる遺構で、一括遺物として評価できる資料である。6-C に属し、内容は表 19 に示したとおりである。土師器皿 N には口径 8 cm 台（418～422）と 12 cm 台（423～425）の2種がある。焼締陶器壺（426）は肩部から口縁部に灰を薄く刷毛塗りしている。肩部にはヘラ記号がある。胎土や技法からみて渥

表 19 SX2322 出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	247	99.2%
	鉢・盤	2	0.8%
	甕・鍋・釜	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	249	100.0%
瓦器	碗・皿	0	0.0%
	鍋・釜	5	55.6%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	4	44.4%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	9	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	0	0.0%
	壺・瓶	1	7.7%
	鉢	7	53.8%
	甕	5	38.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	13	100.0%	
白色土器	杯・碗・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	碗・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
	焼締陶器	壺	0
甕		0	-
鉢・盤		0	-
その他		0	-
不明		0	-
小計		0	-
輸入陶磁器	碗・皿	6	66.7%
	壺・瓶	3	33.3%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	9	100.0%
	他	その他・不明	0
総数		280	100.0%

美窯の製品と思われる。内容物は確認されていないが、蔵骨器として使用されたものと考えられる。白磁皿（427）は平底無高台のもので、内面には花文が押印されている。壺の蓋として使用された可能性がある。

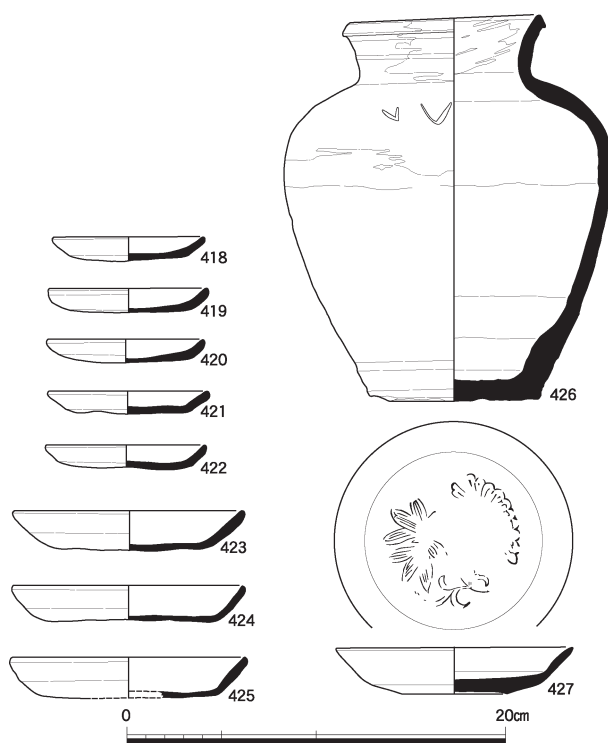


図 64 SX2322 出土土器実測図（1：4）

SK2276 出土土器 (図 65、図版 21・22、表 20)

SK2276 出土土器は総破片数 283 片で、その内容は表 20 のとおりである。瓦器碗や白磁皿が多く含まれている。6-C に属する土器群である。

土師器には皿 N (428 ~ 449)、皿 Sc (450 ~ 452)、皿 S (453 ~ 466) がある。皿 N には口径 8.3 cm 前後 (428 ~ 439) と 12.1 cm 前後 (440 ~ 449) の 2 群がある。皿 Sc は口径 5.2 ~ 6.8 cm。皿 S には 7.7 cm 前後 (453・454)、11.0 cm 前後 (455 ~ 458)、12.8 cm 前後 (459 ~ 466) のほか図示していないが、14 cm を超えるものや口径 8.2 cm の皿 N に類似する形態のものがある。瓦器は皿 (467 ~ 470)、碗 (471 ~ 477)、盤 (478)、鍋 (479)、羽釜 (480・481) がある。碗や皿には全面が密なミガキのものと、内面のみ粗いミガキのものがあり、口縁部の形態にも差異があり、複数の生産地のものが混在している。ミガキを密に施す 474 ~ 477 は口縁端部内面に一条の沈線がめぐり、粗いミガキの 471 ~ 473 は口縁を丸くおさめわずかに肥厚する。盤は口径に対してやや深く、底部に足は付かない。鍋の内面の調整は丁寧で、ハケメをほとんど残さない。羽釜には鏝の長さ、角度の異なる 2 種がある。須恵器には口縁の一部を引き出した片口の付く鉢 (482) がある。輸入陶磁器には青磁皿 (483)、白磁皿 (484 ~ 487)、青白磁合子身 (488) がある。青磁皿は無高台で内面底部に櫛描文を施す。同安窯系。白磁皿は口径 9 cm 台、総釉で口縁

表 20 SK2276 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	247	100.0%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	247	100.0%
瓦器	碗・皿	5	62.5%
	鍋・釜	2	25.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	1	12.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	8	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	0	0.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	鉢	3	13.0%
	甕	20	87.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	23	100.0%	
白色土器	杯・碗・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	碗・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
	焼締陶器	壺	0
甕		3	100.0%
鉢・盤		0	0.0%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		3	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	1	50.0%
	壺・瓶	1	50.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	2	100.0%
	他	その他・不明	0
総数		283	100.0%

表 21 SK2253 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	4487	99.2%
	鉢・盤	11	0.2%
	甕・鍋・釜	4	0.1%
	その他	17	0.4%
	不明	2	0.0%
	小計	4521	100.0%
瓦器	碗・皿	7	3.3%
	鍋・釜	180	85.3%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	19	9.0%
	その他	2	0.9%
	不明	3	1.4%
小計	211	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	3	3.5%
	壺・瓶	3	3.5%
	鉢	43	50.6%
	甕	36	42.4%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	85	100.0%	
白色土器	杯・碗・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	碗・皿	0	0.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	1	100.0%
	不明	0	0.0%
	小計	1	100.0%
	焼締陶器	壺	0
甕		36	78.3%
鉢・盤		10	21.7%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		46	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	23	92.0%
	壺・瓶	1	4.0%
	その他	1	4.0%
	不明	0	0.0%
	小計	25	100.0%
	他	その他・不明	0
総数		4889	100.0%

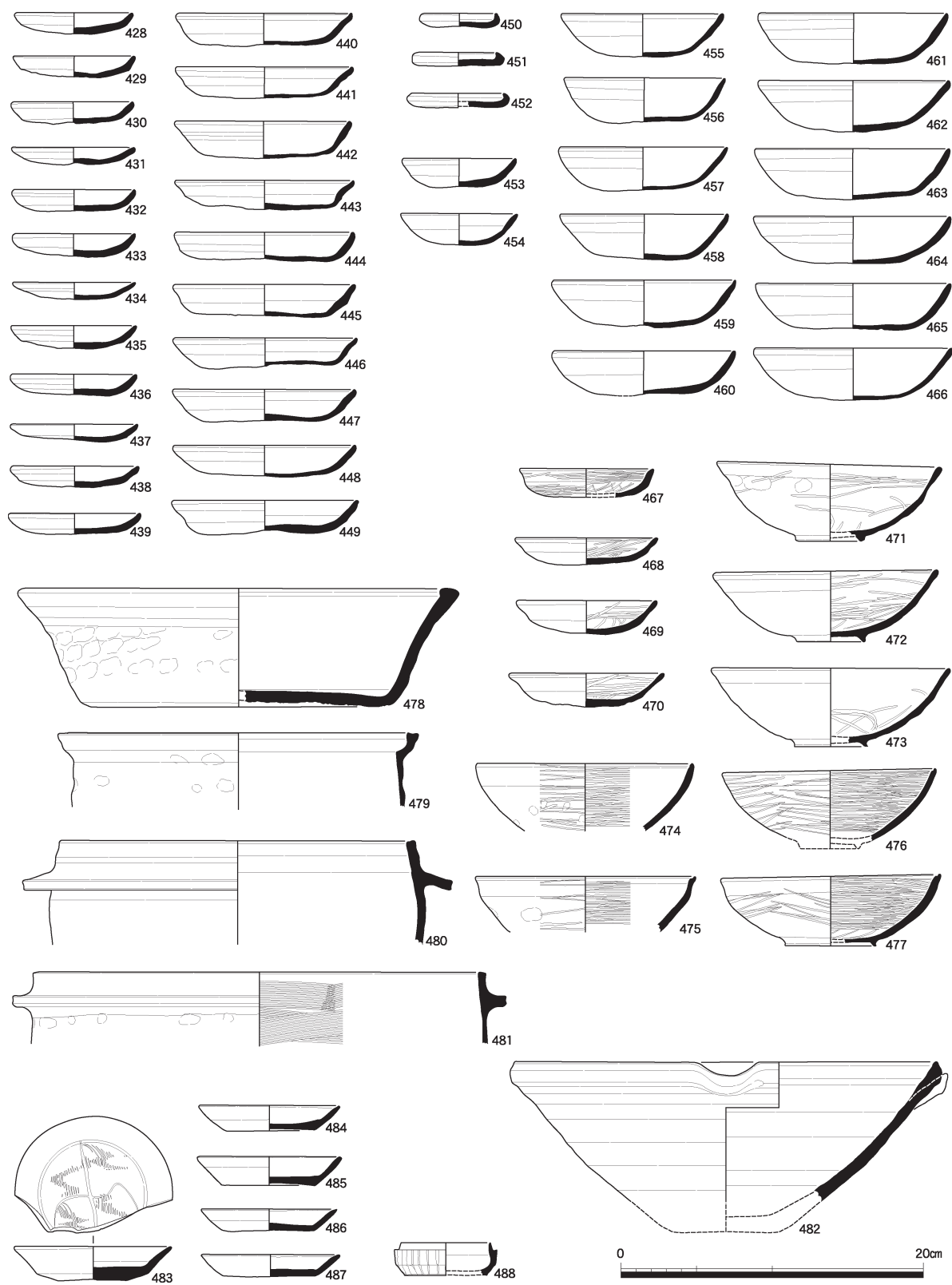


図 65 SK2276 出土土器実測図 (1 : 4)

端部のみ釉を掻き取る。

SK2253 出土土器 (図 66、図版 22、表 21)

SK2253 出土土器は総破片数 4,889 片あり、その内容は表 21 のとおりである。形態別では供膳

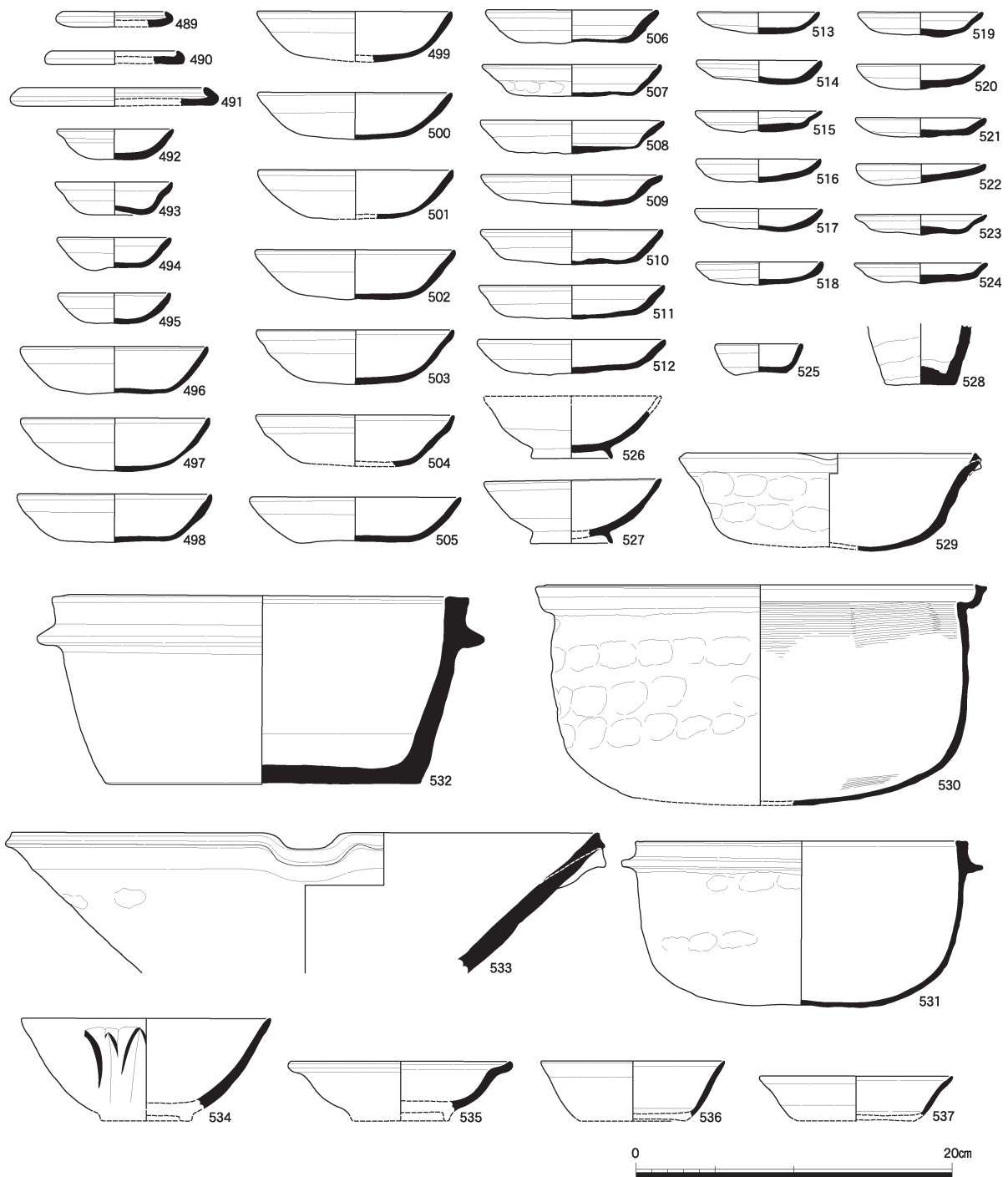


図 66 SK2253 出土土器実測図 (1 : 4)

具が多く、供膳具 92.7%、貯蔵具 2.6%、煮炊具 3.8%となっている。供膳具のうちでは土師器が 99.3%と大半を占めている。7 - A に属する土器群。

土師器には皿 N (506 ~ 524)、皿 Sc (489 ~ 491)、皿 S (492 ~ 505)、皿 X (525)、椀 (526・527)、鉢 (528) がある。皿 N は口径 8.6 cm 前後 (513 ~ 524) と 12.5 cm 前後 (506 ~ 512) の 2 群。皿 Sc は 7 ~ 8 cm 台のもの (489・490) と 13 cm 台のもの (491) がある。皿 S には 7.4 cm 前後 (492 ~ 495) と 12.5 cm 前後のもの (496 ~ 504) があるほか、口径 13.4 cm で口径に対してやや浅いもの (505) がある。皿には他に胎土は皿 S に類似するが、ロクロ成形の皿 X (525)

がある。椀は貼り付け高台が付くもので、胎土は白色を呈する。瀬戸内系の土師器と思われる。鉢は粘土紐の痕跡を強く残す。瓦器には鍋（529・530）、羽釜（531・532）がある。鍋（529）は口縁が緩やかに外反し片口を有する。鍋（530）は内面にハケメ、外面にはオサエの指痕が明瞭に残る。羽釜（532）は滑石製の羽釜を模したもので、作りは非常に厚く、外面底部は未調整、他の部位はナデ。531の体部の形態や調整は鍋と共通する。焼締陶器には常滑系と思われる片口鉢（533）がある。輸入陶磁器には青磁、白磁がある。青磁椀（534）は外面に片切彫りで蓮弁をあらわす。青磁皿（535）は折れ縁の口縁を持つ。ともに龍泉窯系の製品である。白磁皿（536・537）は総釉で口縁端部のみ釉を掻き取る。

SK0555 出土土器（図 67、図版 22、表 22）

SK0555 出土土器は総破片数 596 片あり、その内容は表 22 のとおりである。7-B に属する土器群である。

土師器には皿 N（552～556）、皿 Sh（545～551）、皿 S（538～544）、ロクロ成形によ

表 22 SK0555 出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	椀・皿	439	84.7%
	鉢・盤	1	0.2%
	甗・鍋・釜	0	0.0%
	その他	76	14.7%
	不明	2	0.4%
	小計	518	100.0%
瓦器	椀・皿	1	2.9%
	鍋・釜	24	70.6%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	9	26.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	34	100.0%	
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	0	0.0%
	壺・瓶	3	23.1%
	鉢	4	30.8%
	甗	6	46.2%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	13	100.0%	
白色土器	杯・椀・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	椀・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
	焼締陶器	壺	0
甗		12	100.0%
鉢・盤		0	0.0%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		12	100.0%
輸入陶磁器	椀・皿	14	73.7%
	壺・瓶	4	21.1%
	その他	1	5.3%
	不明	0	0.0%
	小計	19	100.0%
	他	その他・不明	0
総数		596	100.0%

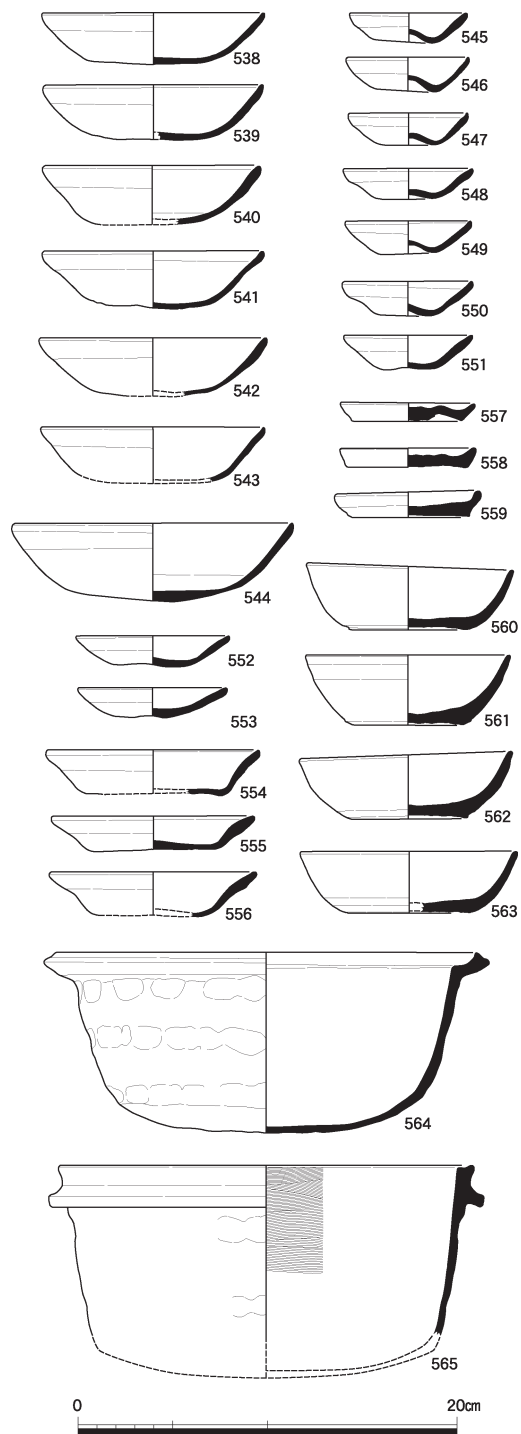


図 67 SK0555 出土土器実測図（1：4）



る椀X・皿X(557～563)がある。皿Nには口径8.1cm前後(552・553)、11.1cm前後のもの(554～556)がある。皿Shは口径6cm台で、底部中央を上方へ押し上げるいわゆるヘソ皿である。皿Sには口径11.3cm前後のもの(538～543)と口径14.9cmの大型品(544)がある。ロクロ成形の皿X(557～559)は口径7cm台、底部糸切りとヘラ切りのものがある。椀X(560～563)は口径10.7～11.5cm、底部はいずれも糸切り未調整。瓦器には鍋(564)、羽釜(565)がある。鍋は体部が外傾し、蓋受け部も開く。外面にはオサエの指痕が明瞭に残る。羽釜は内面ハケメ調整、口縁端部上端面の形態は鍋と共通する。

SE2527 出土土器 (図 68、表 23)

SE2527 からは総破片数 5,420 片と 7-C に属する多量の土器類が出土している。その内容は表 23 に示すとおりである。

土師器には皿 Sh (566～574)、皿 Sc (575・576)、皿 S (577～591)、皿 N (592～611) がある。皿 Sh は口径 6.0～6.8 cm。皿 S は 11.0～11.8 cm。皿 N には口径 7.4～8.0 cm のもの(592～599)と口径 10.4～11.5 cm (600～610) の 2 群がある。611 は形態が通常の皿 N と異なり、底部が大きく押し上げられている。口径も 12.8 cm と一群の中におさまらない。他地域の製品である可能性が高い。瓦器には皿 (614)、椀 (615)、盤 (616)、鍋 (617・618)、羽釜 (619・

表 23 SE2527 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	椀・皿	4951	98.6%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	1	0.0%
	その他	69	1.4%
	不明	1	0.0%
	小計	5022	100.0%
瓦器	椀・皿	6	3.3%
	鍋・釜	159	86.4%
	壺・瓶	4	2.2%
	火舎・火鉢	12	6.5%
	その他	1	0.5%
	不明	2	1.1%
小計	184	100.0%	
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	9	8.0%
	壺・瓶	12	10.6%
	鉢	42	37.2%
	甕	50	44.2%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	113	100.0%	
白色土器	杯・椀・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	椀・皿	1	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	1	100.0%
	焼締陶器	壺	2
甕		63	96.9%
鉢・盤		0	0.0%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		65	100.0%
輸入陶磁器	椀・皿	23	65.7%
	壺・瓶	7	20.0%
	その他	5	14.3%
	不明	0	0.0%
	小計	35	100.0%
	他	その他・不明	0
総数		5420	100.0%

表 24 SX2459 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	椀・皿	612	93.4%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	31	4.7%
	その他	10	1.5%
	不明	2	0.3%
	小計	655	100.0%
瓦器	椀・皿	0	0.0%
	鍋・釜	109	87.9%
	壺・瓶	1	0.8%
	火舎・火鉢	10	8.1%
	その他	2	1.6%
	不明	2	1.6%
小計	124	100.0%	
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	2	10.0%
	壺・瓶	2	10.0%
	鉢	5	25.0%
	甕	11	55.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	20	100.0%	
白色土器	杯・椀・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	椀・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
	焼締陶器	壺	0
甕		14	93.3%
鉢・盤		1	6.7%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		15	100.0%
輸入陶磁器	椀・皿	5	83.3%
	壺・瓶	1	16.7%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	6	100.0%
	他	その他・不明	1
総数		821	100.0%

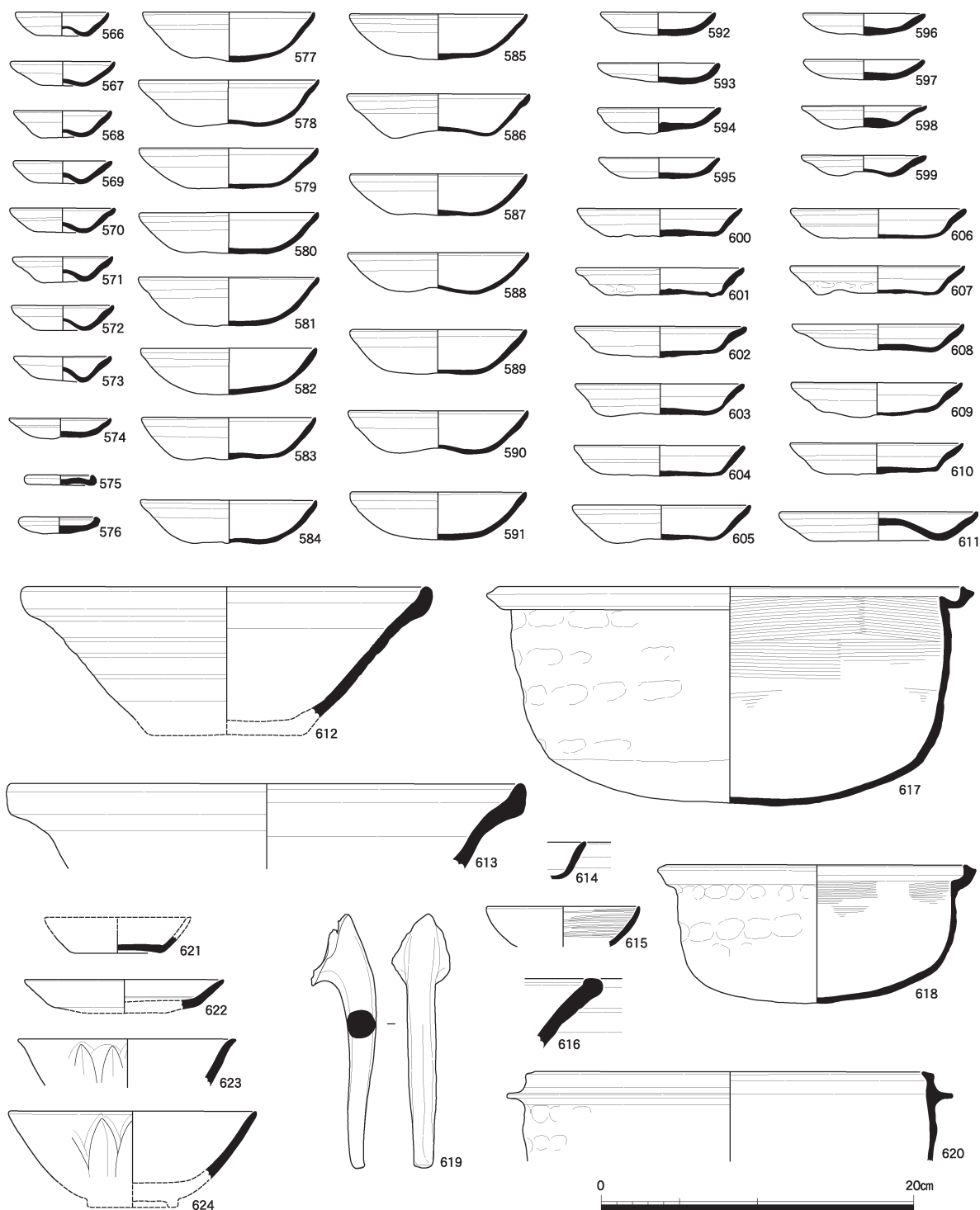


図 68 SE2527 出土土器実測図 (1 : 4)

620) がある。鍋は蓋受けが付くタイプの大小。内面はハケメ調整。須恵器には東播系の鉢 (612・613) がある。輸入陶磁器には青磁・白磁がある。白磁皿 (621・622) はいずれも小片だが残存部にはすべて釉が掛けられている。青磁碗 (623・624) は外面に片切彫りで蓮弁をあらわす。

#### SX2459 出土土器 (図 69、表 24)

SX2459 出土土器は総破片数 821 片あり、その内容は表 24 のとおりである。7-C に属する土器群である。

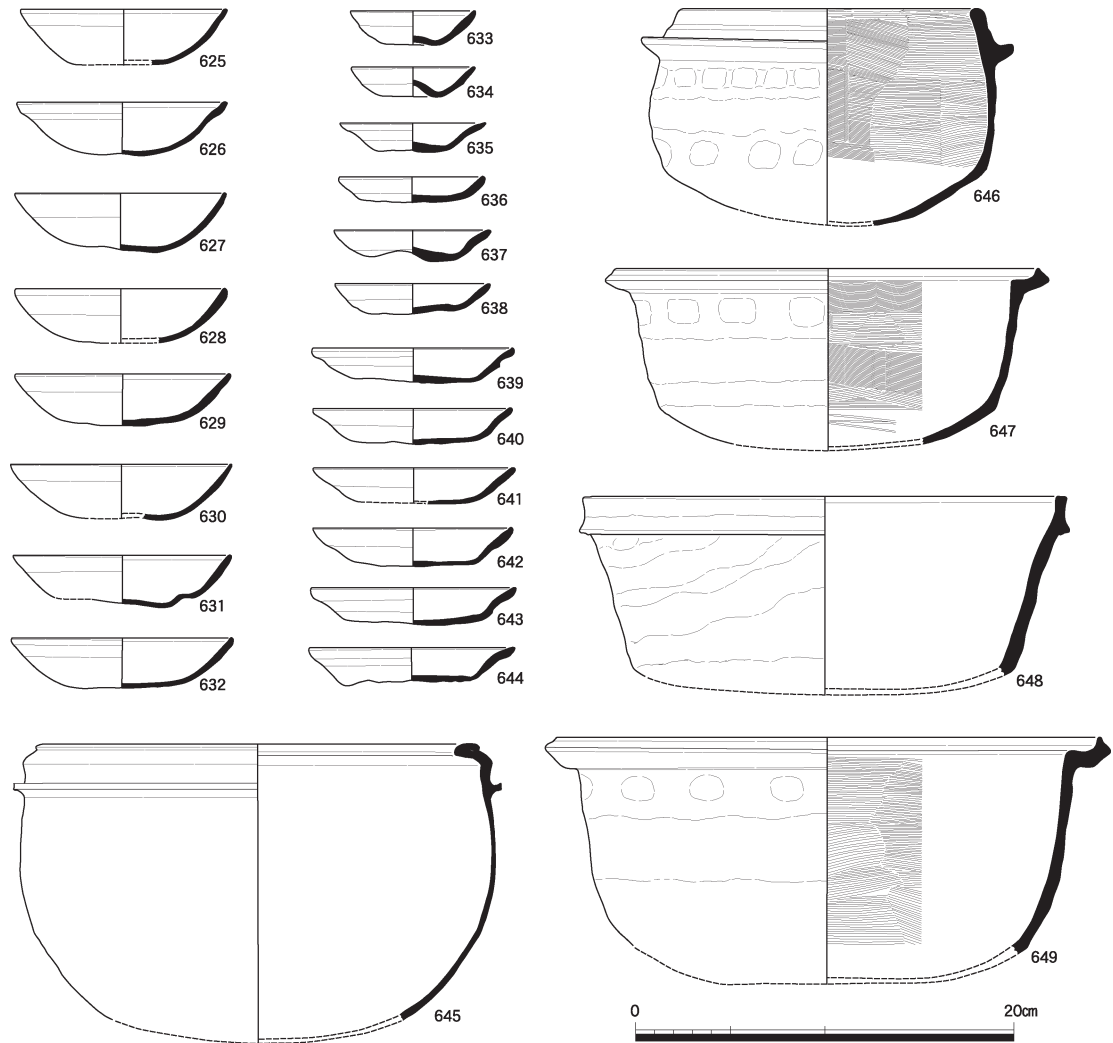


図 69 SX2459 出土土器実測図（1：4）

土師器には皿 S（625～632）、皿 Sh（633・634）、皿 N（635～644）、羽釜（645）がある。皿 S には非常に薄く仕上げられているものが多い。口径 7.8～8.3 cm のものと 11 cm 台のもの（625～632）があるが、小口径のものはわずかである。皿 Sh は 6 cm 台。皿 N は口径 8.1 cm 前後のもの（635～638）と 10.8 cm 前後のもの（639～644）がある。羽釜は口縁部が抱え込むように内湾し、端部は外方に折り曲げ玉縁状に肥厚する。瓦器には鍋（647・649）、羽釜（646・648）がある。鍋は蓋受けが付くタイプの大小。内面ハケメ調整。羽釜（646）は内面ハケメ、口縁端部は丸くおさめる。648 は口縁部がやや広がり直下に粗雑な鏝を付ける。

#### SK0344 出土土器（図 70、表 25）

SK0344 出土土器は総破片数 468 片あり、その内容は表 25 のとおりである。8-A に属する土器群である。

土師器には皿 S（650～659）、皿 Sh（660～666）、皿 N（667～674）がある。皿 S には 11.2 cm 前後のもの（656～659）と 13.3 cm 前後のもの（650～655）がある。皿 Sh は 6 cm 台後半から 7.0 cm。皿 N は口径 10 cm 台が中心のもの（667～671）と 12 cm 台でやや深いもの（672

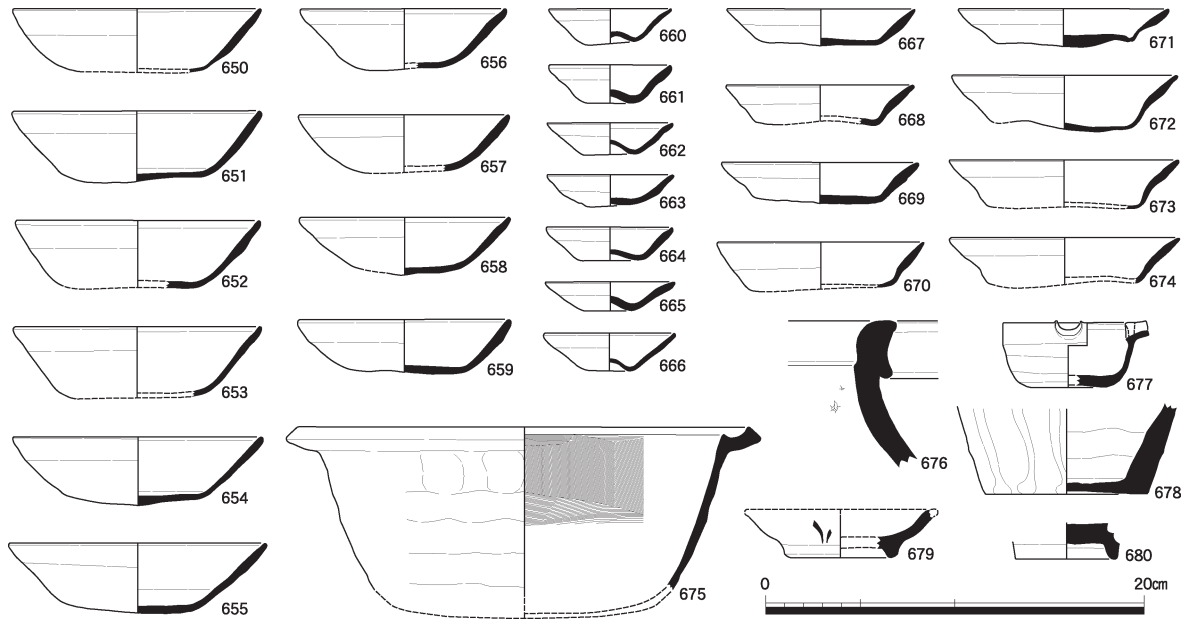


図 70 SK0344 出土土器実測図（1：4）

表 25 SK0344 出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	椀・皿	344	91.2%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	6	1.6%
	その他	24	6.4%
	不明	3	0.8%
	小計	377	100.0%
瓦器	椀・皿	2	4.7%
	鍋・釜	33	76.7%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	8	18.6%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	43	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・椀・皿	0	0.0%
	壺・瓶	1	100.0%
	鉢	0	0.0%
	甕	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	1	100.0%	
白色土器	杯・椀・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	椀・皿	0	0.0%
	壺・瓶	3	75.0%
	その他	1	25.0%
	不明	0	0.0%
	小計	4	100.0%
焼締陶器	壺	4	10.0%
	甕	36	90.0%
	鉢・盤	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	40	100.0%	
輸入陶磁器	椀・皿	3	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	3	100.0%
他	その他・不明	0	0.0%
総数		468	100.0%

～674）がある。瓦器には体部が外方に開き、口縁部に蓋受けが付く鍋（675）がある。内面には細かなハケメ調整。焼締陶器には信楽甕（676）がある。幅広く折り返された口縁部の破片である。国産施釉陶器では瀬戸灰釉片口小鉢（677）と壺底部（678）がある。片口小鉢は口縁部の一部を半円形に欠き込み、半筒状の口を付ける。外面底部以外に施釉する。壺は外面に透明なオリーブ色の釉が数条流下する。輸入陶磁器は龍泉窯青磁皿（679）と青白磁椀（680）がある。青磁皿は外面に片切り彫りによる蓮弁がわずかに認められる。

第4期の土器類の概観 第4期は9-A～10-C、15世紀初頭から16世紀末頃までの年代に該当する。土器類全体の中ではやはり土師器が76.7%と多数を占めるが、焼締陶器が12.0%と第3期に比してかなり増加し、瓦器には食器類が姿を消す反面、鍋・釜や火鉢などが一定量出土し全体では8.2%とやや増加傾向がみえる。焼締陶器ではそれまで主体であった常滑系の製品が減少し、備前や信楽が目立つ。丹波の製品も確認できるようになる。土師器を除く食膳具での比率は青磁・白磁などの輸入陶磁器が54.1%、灰釉・鉄釉な

表 26 SK0684 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)	
土師器	碗・皿	3184	90.7%	98.1%
	鉢・盤	0	0.0%	
	甕・鍋・釜	2	0.1%	
	その他	87	2.5%	
	不明	236	6.7%	
	小計	3509	100.0%	
瓦器	碗・皿	0	0.0%	1.0%
	鍋・釜	16	43.2%	
	壺・瓶	0	0.0%	
	火舎・火鉢	18	48.6%	
	その他	0	0.0%	
	不明	3	8.1%	
	小計	37	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	0	-	0.0%
	壺・瓶	0	-	
	鉢	0	-	
	甕	0	-	
	その他	0	-	
	不明	0	-	
	小計	0	-	
白色土器	杯・碗・皿	0	-	0.0%
	高杯	0	-	
	盤	0	-	
	その他	0	-	
	不明	0	-	
	小計	0	-	
国産施釉陶器	碗・皿	5	100.0%	0.1%
	壺・瓶	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	
	不明	0	0.0%	
	小計	5	100.0%	
焼締陶器	壺	0	0.0%	0.8%
	甕	24	88.9%	
	鉢・盤	3	11.1%	
	その他	0	0.0%	
	不明	0	0.0%	
	小計	27	100.0%	
輸入陶磁器	碗・皿	0	-	0.0%
	壺・瓶	0	-	
	その他	0	-	
	不明	0	-	
	小計	0	-	
他	その他・不明	0	-	0.0%
総数		3578	100.0%	

表 27 SK2091 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)	
土師器	碗・皿	1248	89.7%	99.8%
	鉢・盤	0	0.0%	
	甕・鍋・釜	0	0.0%	
	その他	32	2.3%	
	不明	112	8.0%	
	小計	1392	100.0%	
瓦器	碗・皿	0	0.0%	0.1%
	鍋・釜	1	100.0%	
	壺・瓶	0	0.0%	
	火舎・火鉢	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	
	不明	0	0.0%	
	小計	1	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	0	-	0.0%
	壺・瓶	0	-	
	鉢	0	-	
	甕	0	-	
	その他	0	-	
	不明	0	-	
	小計	0	-	
白色土器	杯・碗・皿	0	-	0.0%
	高杯	0	-	
	盤	0	-	
	その他	0	-	
	不明	0	-	
	小計	0	-	
国産施釉陶器	碗・皿	0	-	0.0%
	壺・瓶	0	-	
	その他	0	-	
	不明	0	-	
	小計	0	-	
焼締陶器	壺	0	0.0%	0.1%
	甕	1	100.0%	
	鉢・盤	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	
	不明	0	0.0%	
	小計	1	100.0%	
輸入陶磁器	碗・皿	1	100.0%	0.1%
	壺・瓶	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	
	不明	0	0.0%	
	小計	1	100.0%	
他	その他・不明	0	-	0.0%
総数		1395	100.0%	

ど瀬戸・美濃の製品が 40.6%と大多数がこの 2 者で占められている。

#### SK0684 出土土器 (図 71、表 26)

SK0684 出土土器は総破片数 3,578 片あり、9 - A に属する土器群である。その内容は表 26 のとおり土師器が大半を占め、そのほかに少量の瓦器・古瀬戸・焼締陶器がある。

土師器には皿 Sh (681 ~ 688)、皿 S (689 ~ 699)、皿 N (700 ~ 716) がある。皿 Sh は口径 7.1 cm 前後、底部中央を上方に突出させる。皿 S には口径 6.6 cm・高さ 2.0 cm (689) と 12.3 cm 前後 (690 ~ 694)、14.5 cm (695)、16.1 cm 前後 (696 ~ 699) の 4 群がある。皿 N には口径 7.8 cm 前後 (700 ~ 704)、9.6 cm 前後 (705 ~ 714) と 12.4 cm 前後 (715・716) の 3 群がある。皿 N は平底からの立ち上がり部分は屈曲が強い。口縁部の歪みも大きく、皿 S に対して粗雑な作りの印象を受ける。瓦器には火鉢 (717・718) がある。平底で丸みを持つ体部から口縁部は抱え込むように内湾し上端は水平な端面をもつ。底部の 3 箇所足が付く。718 は外面をヘラミガキ調整するだけであるが、717 には口縁部直下に 2 状の凸帯をめぐらせ、凸帯間に花菱文を連続して押印する。国産施釉陶器では瀬戸灰釉碗 (719) などがある。

#### SK2091 出土土器 (図 72、表 27)

SK2091 出土土器は総破片数 1,395 片あり、9 - B に属する土器群であるが、表 27 のとおりほ

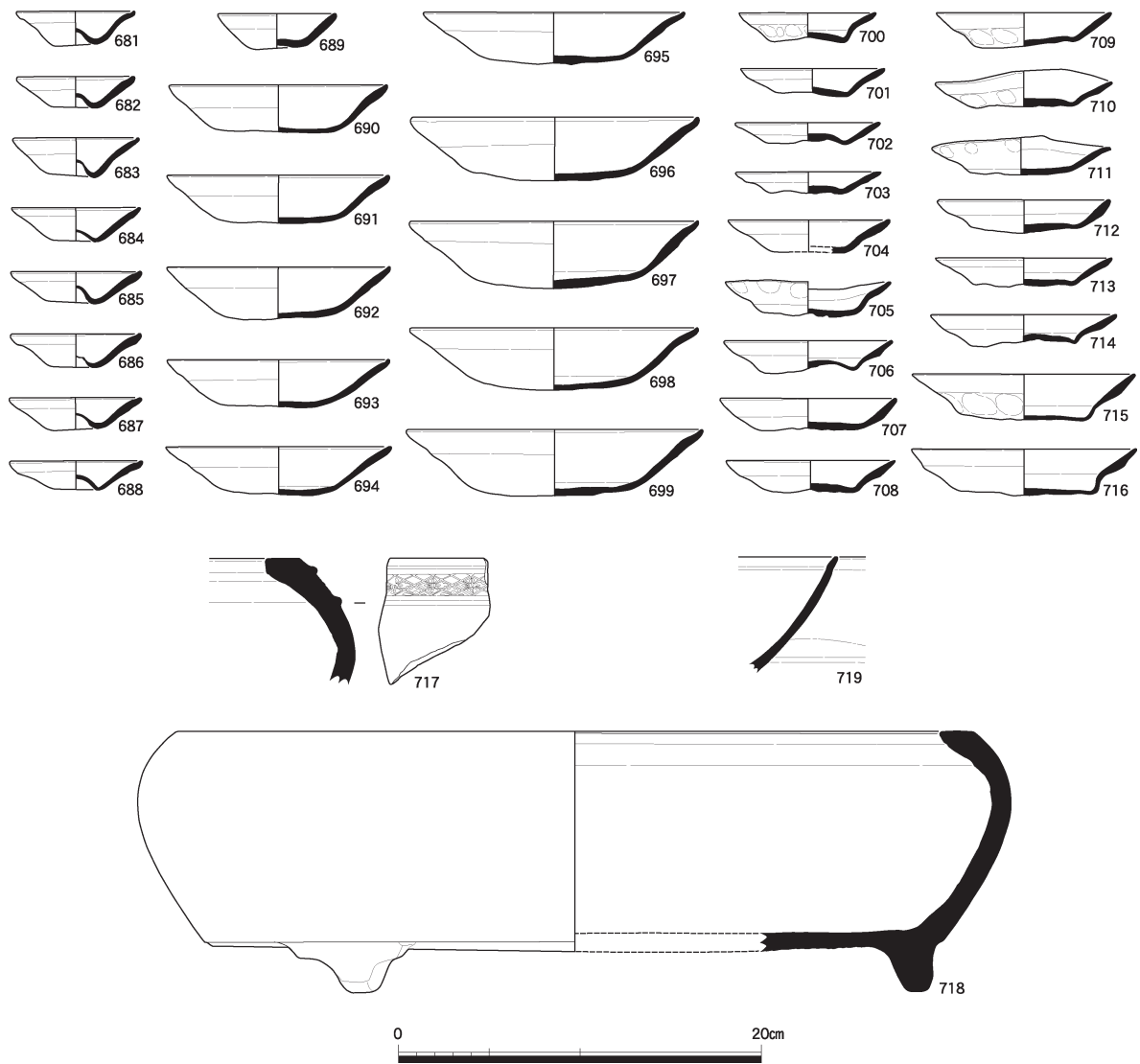


图 71 SK0684 出土土器实测图 (1 : 4)

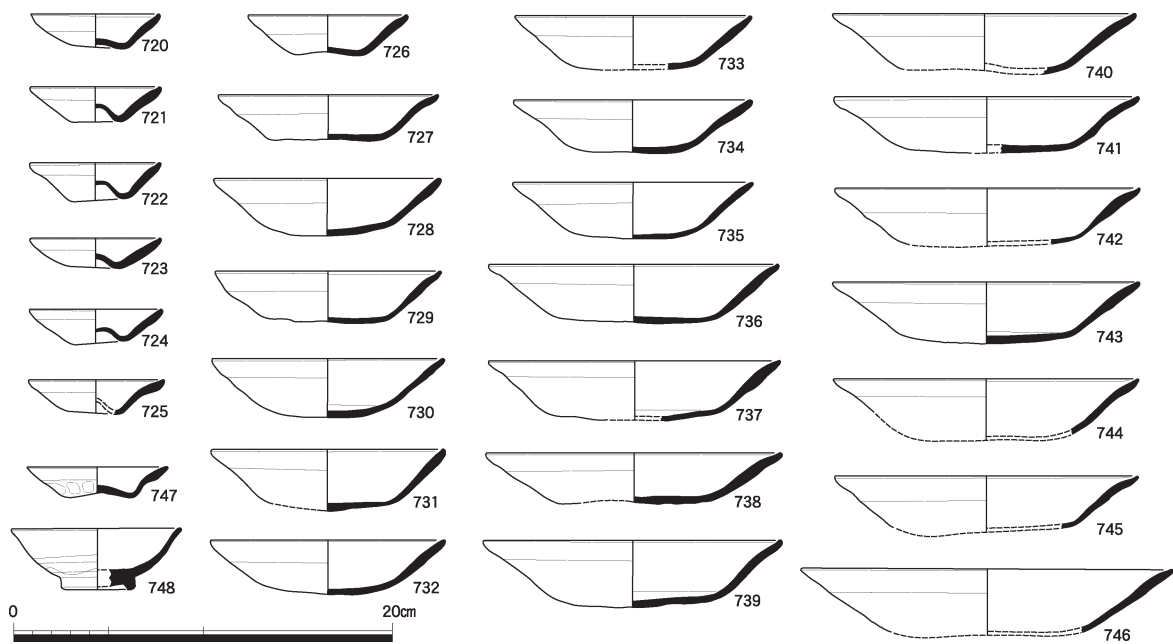


图 72 SK2091 出土土器实测图 (1 : 4)

表 28 SK0336 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	1540	94.7%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	4	0.2%
	その他	2	0.1%
	不明	80	4.9%
	小計	1626	100.0%
瓦器	碗・皿	0	0.0%
	鍋・釜	28	57.1%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	18	36.7%
	その他	1	2.0%
	不明	2	4.1%
小計	49	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	鉢	0	-
	甕	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
小計	0	-	
白色土器	杯・碗・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	碗・皿	4	57.1%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	3	42.9%
	不明	0	0.0%
	小計	7	100.0%
	焼締陶器	壺	1
甕		59	89.4%
鉢・盤		5	7.6%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		66	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
	他	0	-
他	その他・不明	0	0.0%
総数		1748	100.0%

表 29 SE0922 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	972	95.3%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	0	0.0%
	その他	14	1.4%
	不明	34	3.3%
	小計	1020	100.0%
瓦器	碗・皿	0	0.0%
	鍋・釜	161	78.5%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	42	20.5%
	その他	2	1.0%
	不明	0	0.0%
小計	205	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	0	0.0%
	壺・瓶	3	25.0%
	鉢	5	41.7%
	甕	4	33.3%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	12	100.0%	
白色土器	杯・碗・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	碗・皿	24	64.9%
	壺・瓶	1	2.7%
	その他	12	32.4%
	不明	0	0.0%
	小計	37	100.0%
	焼締陶器	壺	0
甕		140	97.2%
鉢・盤		4	2.8%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		144	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	4	80.0%
	壺・瓶	1	20.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	5	100.0%
	他	その他・不明	0
他	その他・不明	0	0.0%
総数		1423	100.0%

とんど土師器である。

土師器には皿 Sh (720～725)、皿 S (726～746)、皿 N (747) がある。ほとんどが白色系の皿 S で、赤色系の皿 N で図示できたものは 747 の 1 点だけである。皿 Sh は口径 7.1 cm 前後、高さ 1.7 cm～2.1 cm。皿 S には口径 8.5 cm・高さ 2.2 cm と皿 Sh より一回り大きいもの (726) と口径 12.4 cm 前後 (727～735)、16.0 cm 前後 (736～745) のほか口径 19.7 cm の大型品 (746) がある。皿 S の各法量とも口縁部の開きが大きくなり、特に口径の大きなものにその傾向が顕著である。輸入陶磁器には白磁の小碗 (748) がある。

#### SK0336 出土土器 (図 73、表 28)

SK0336 出土土器は総破片数 1,748 片あり、表 28 のとおり 9 割以上を土師器が占める。そのほかには少量の瓦器・古瀬戸・焼締陶器があるが、輸入陶磁器は含まれていない。この土器群は 9-C に属する。

土師器には皿 Sh (749～752)、皿 S (753～759)、皿 N (760～783) がある。皿 Sh は口径 7.3 cm、高さ 1.9 cm 前後。皿 S には口径 8.5 cm・高さ 2.2 cm (753)、口径 11.2 cm・高さ 2.2 cm (754)、口径 12.4 cm・高さ 2.6 cm (755)、口径 14.8 cm・高さ 2.7 cm 前後 (756～758)、口径 16.0 cm・高さ 2.8 cm (759) の 5 群があり、皿 N には口径 7.1 cm・高さ 1.5 cm 前後 (760～768)、口径 8.2

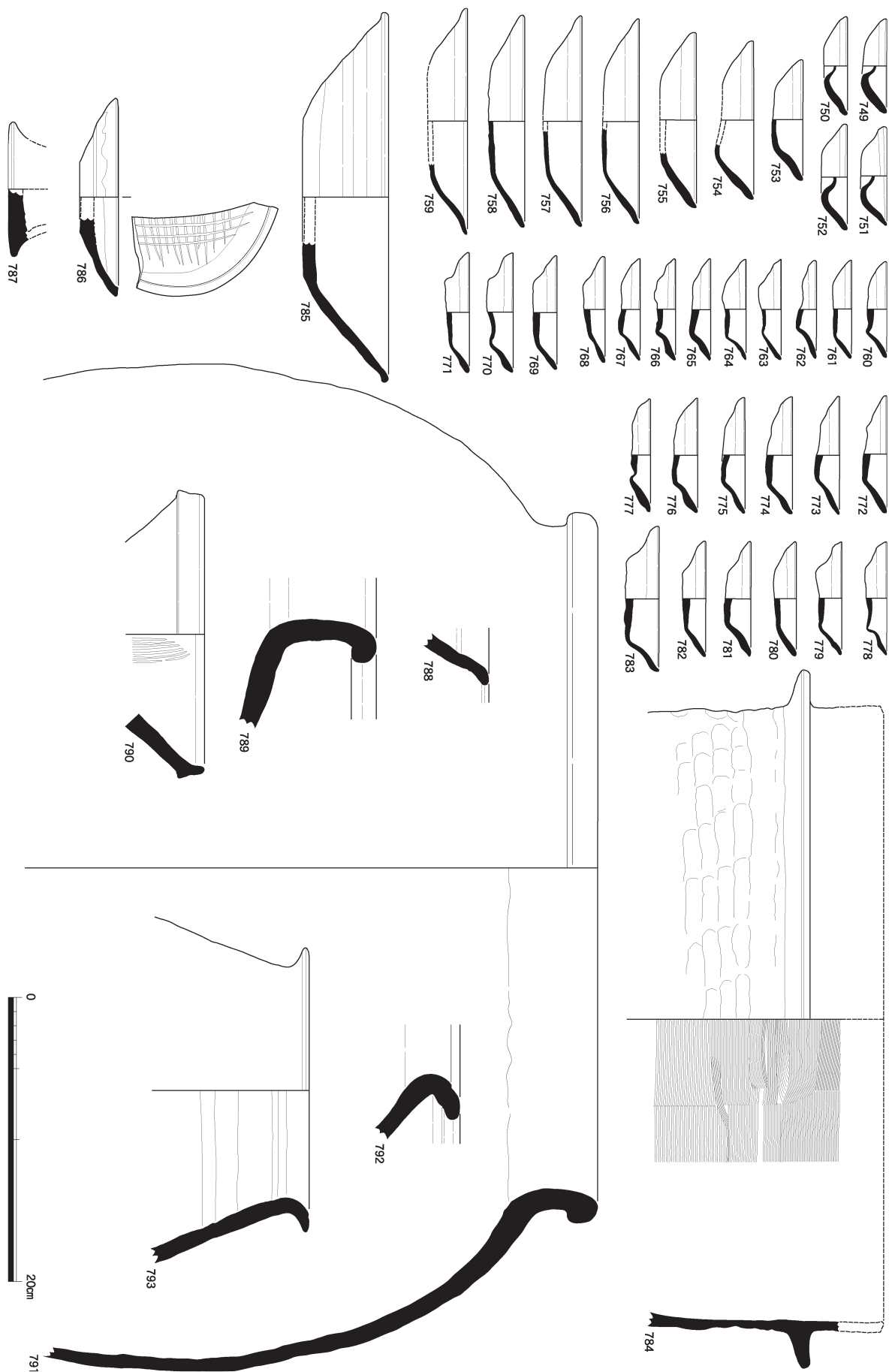


图 73 SK0336 出土土器实测图 (1 : 4)



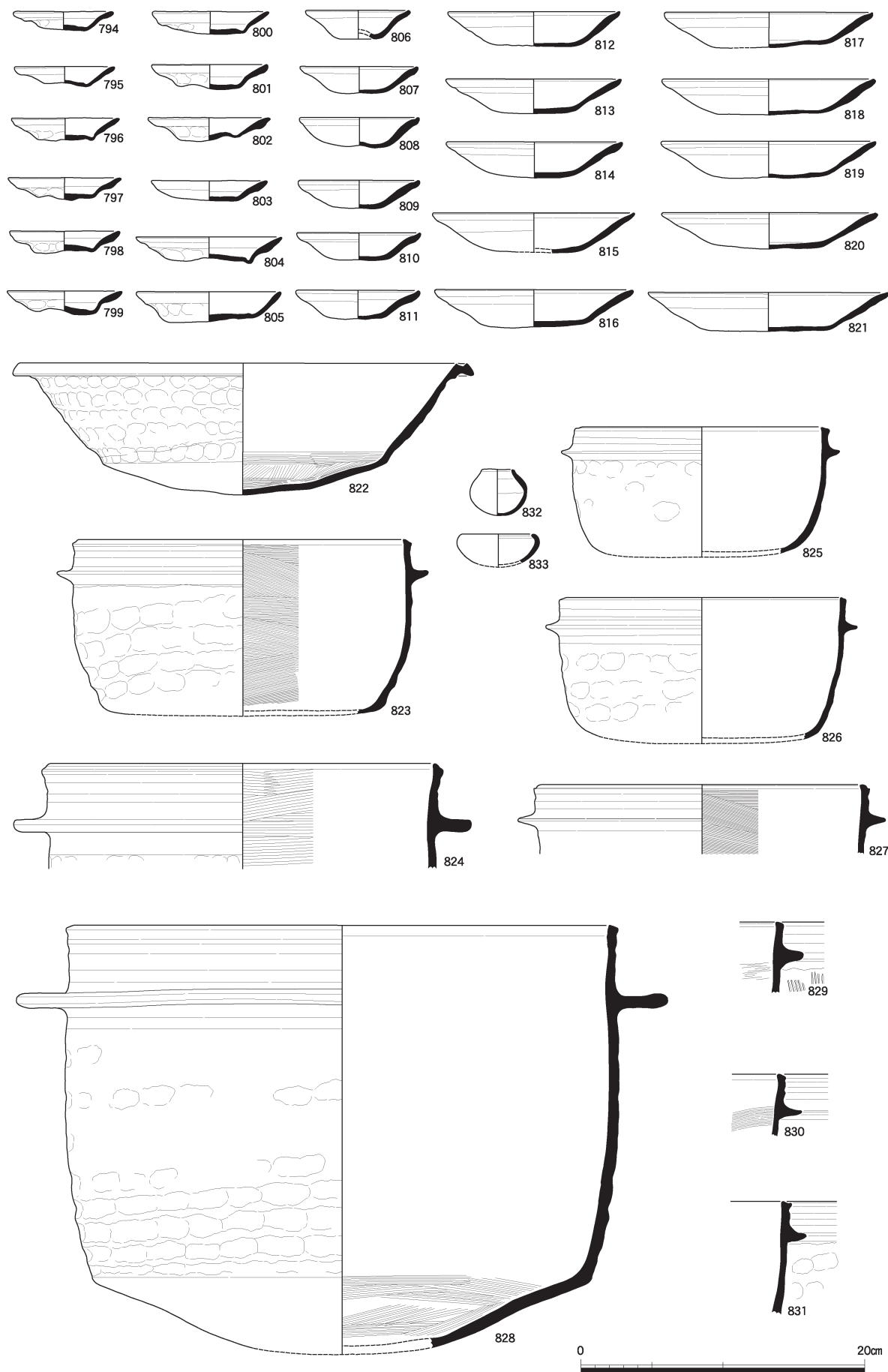


图 74 SE0922 出土土器实测图 - 1 (1 : 4)

cm・高さ 1.8 cm前後 (769～782)、口径 10.3 cm・高さ 2.5 cm (783) の 3 群がある。皿 S の体部は 9-B のものと比較してさらに大きく外方に開き、器高が減少している。瓦器には口縁部は欠失しているが鏝径で 50.0 cm の大型の羽釜 (784) などがある。内面に細かなハケメ、外面には指痕を残す。古瀬戸には灰釉鉢・おろし目皿・壺がある。鉢 (785) は外面底部以外に施釉している。おろし目皿 (786) は底部糸切り痕を残し、口縁部のみ施釉する。へら刻のおろし目は内面底部全面に広がる。壺 (787) の底部も糸切り未調整で底部外面の立ち上がり角度から花瓶と思われる。焼締陶器には備前大甕 (791)・壺 (789)・播鉢 (790)、信楽播鉢 (788)、丹波甕 (792・793) などがある。

SE0922 出土土器 (図 74・75、表 29)

SE0922 出土土器は総破片数 1,423 片あり、その内容は表 29 のとおりである。この土器群も

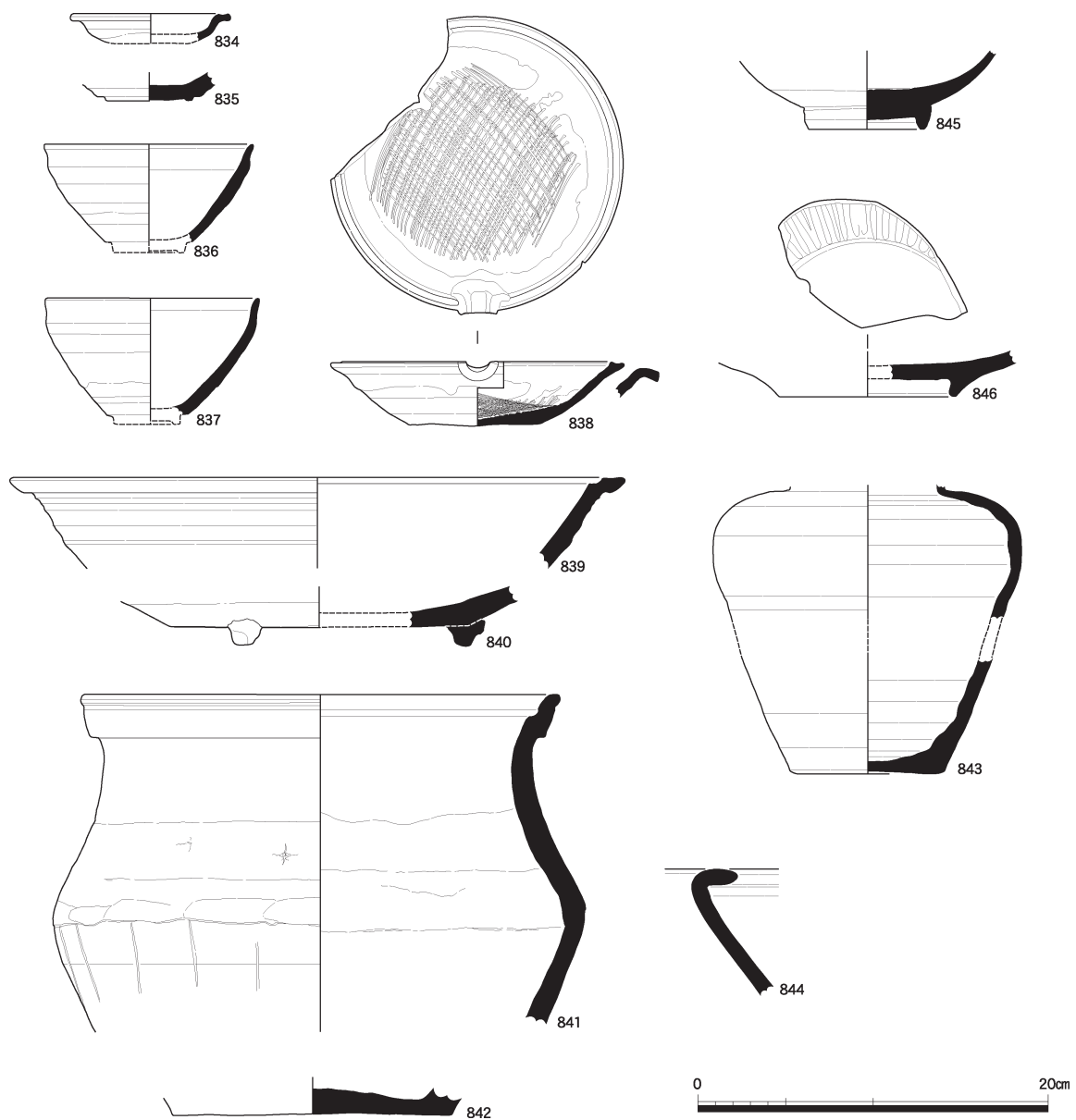


図 75 SE0922 出土土器実測図 - 2 (1 : 4)

SK0366 のものと同様9-Cに属すが、土師器が71.7%とやや比率が低く、その分瓦器の煮炊具や焼締陶器あるいは古瀬戸などが高い比率を示している。

土師器には皿 N (794～805)、皿 Sh (806)、皿 S (807～821) がある。皿 N には口径 7.1 cm・高さ 1.4 cm 前後 (794・795)、口径 8.1 cm・高さ 1.7 cm 前後 (796～803)、口径 10.3 cm・高さ 2.2 cm 前後 (804・805) の 3 群がある。皿 Sh は口径 7.4 cm、高さ 2.0 cm。皿 S には口径 8.6 cm・高さ 2.1 cm 前後 (807～811)、口径 12.4 cm・高さ 2.5 cm 前後 (812～814)、口径 14.2 cm・高さ 2.8 cm 前後 (815・816)、口径 15.2 cm・高さ 2.6 cm 前後 (817～820)、口径 17.0 cm・高さ 2.8 cm (821) の 5 群がある。瓦器には鍋 (822)、羽釜 (823～831)、小型の丸底壺 (832)、小型鉢 (833) がある。鍋は体部が大きく外傾して広がり、口縁部には蓋受けが付く。底部を台型に置いた状態で積み上げている。底部内面はハケメ調整、体部外面には積み上げ時の指痕が残る。羽釜は口径 18.0～39.0 cm と様々だが、形態・手法は共通している。大型の 828 は鍋と同様に底部を台型に置いた状態で成形している。国産施釉陶器には瀬戸灰釉皿 (834・835)・天目茶椀 (836・837)・おろし目皿 (838)・灰釉折縁鉢 (839・840) がある。天目茶椀は外面底部以外に鉄釉を施釉。おろし目皿は底部糸切り未調整で、口縁部にのみ施釉する。ヘラ刻のおろし目は内面底部全面に広がる。折縁鉢は透明なオリーブ色の釉が厚く掛かる。底部には粘土を丸めたも

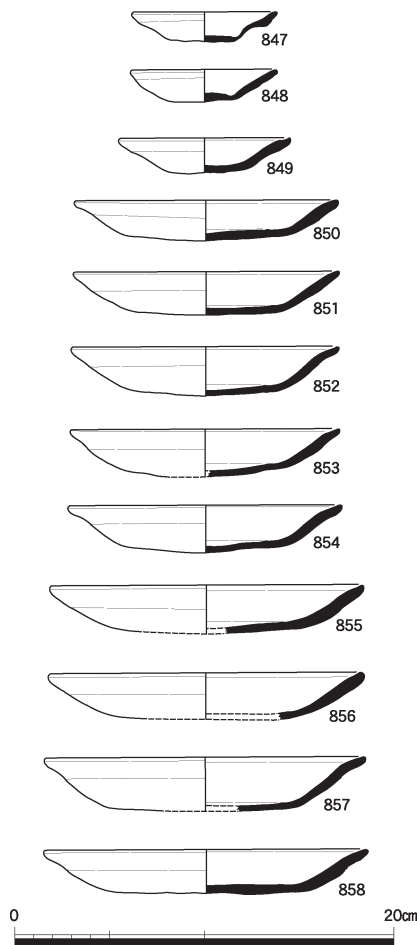


図 76 SK2445 出土土器実測図 (1 : 4)

表 30 SK2445 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	278	100.0%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	278	100.0%
瓦器	碗・皿	0	0.0%
	鍋・釜	8	80.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	2	20.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	10	100.0%	
須恵器・山茶椀	杯・碗・皿	0	0.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	鉢	0	0.0%
	甕	1	100.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	1	100.0%	
白色土器	杯・碗・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	碗・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
	焼締陶器	壺	0
甕		8	88.9%
鉢・盤		1	11.1%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		9	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	1	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	1	100.0%
	他	その他・不明	0
総数		299	100.0%

表 31 SE0340 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	椀・皿	378	94.3%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	0	0.0%
	その他	7	1.7%
	不明	16	4.0%
	小計	401	100.0%
瓦器	椀・皿	0	0.0%
	鍋・釜	23	28.8%
	甕・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	55	68.8%
	その他	1	1.3%
	不明	1	1.3%
小計	80	100.0%	
須恵器・山茶椀	杯・椀・皿	0	0.0%
	甕・瓶	0	0.0%
	鉢	3	37.5%
	甕	5	62.5%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	8	100.0%	
白色土器	杯・椀・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	椀・皿	5	45.5%
	甕・瓶	1	9.1%
	その他	5	45.5%
	不明	0	0.0%
	小計	11	100.0%
	焼締陶器	甕	0
甕		221	96.1%
鉢・盤		9	3.9%
その他		0	0.0%
不明		0	0.0%
小計		230	100.0%
輸入陶磁器	椀・皿	0	-
	甕・瓶	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
	他	0	-
その他・不明	0	-	
総数		730	100.0%

のを押し付けて三足を付ける。839 と 840 は直接接合しないが、同一個体である可能性が高い。焼締陶器には信楽甕 (841・842)、丹波甕 (844) などがある。須恵器には肩の力強く張った壺 (843) のほか鉢類の細片がある。輸入陶磁器には青磁の椀(845)と皿(846)があり、どちらもオリーブがかかった緑色の釉が厚く施されている。

SK2445 出土土器 (図 76、表 30)

SK2445 出土土器は総破片数 299 片と少量であるが、10- A に属する土師器がまとまって出土している。

土師器には皿 N (847・848)、皿 S (849～858) があるが大半が皿 S である。皿 N は口径 7.7～7.8 cm、高さ 1.6～1.7 cm。皿 S には口径 9.1 cm・高さ 1.9 cm (849)、口径 14.3 cm・高さ 2.6 cm 前後 (850～854)、口径 17.1 cm・高さ 2.6 cm 前後 (855～858) の 3 群がある。いずれも内面底部と口縁部とのナデ方向の変換部分に泥漿の盛り上がりが見える。器壁はやや厚みのあるものが多い。

SE0340 出土土器 (図 77、表 31)

SE0340 からは 10- A に属する総破片数 730 片の土

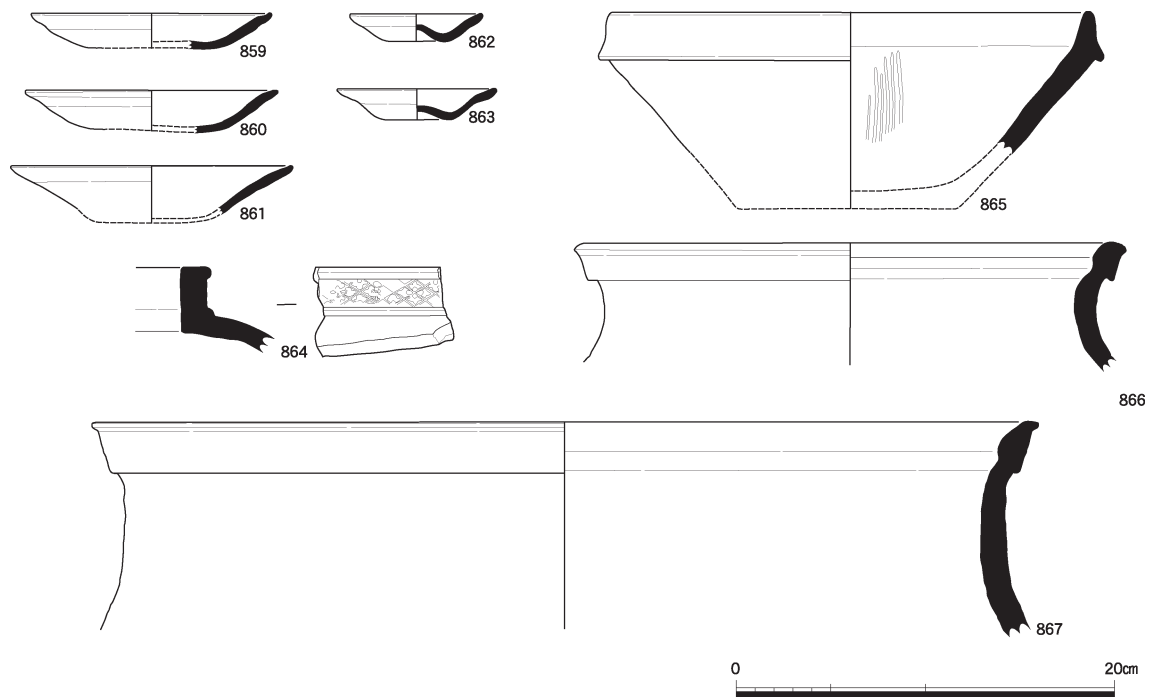


図 77 SE0340 出土土器実測図 (1 : 4)

器類が出土した。その内容は表 31 のとおりで、焼締陶器の比率の高い資料である。

土師器には図示できるものは少ないが、皿 S (859～861)、皿 Sh (862)、皿 N (863) がある。皿 S は口径 13.1 cm・高さ 2.2 cm 前後 (859・860) と、それらより口径の大きなもの (861) があるが、861 は小片のため正確な口径は不明で図示したよりも大きくなる可能性がある。皿 Sh は口径 7.1 cm、高さ 1.5 cm。皿 N は口径 8.5 cm、高さ 1.7 cm。瓦器には火鉢 (864) がある。直立する口縁は外面口縁端部と立ち上がり部分に凸線が巡り、その間に花菱文を連続して押印する。焼締陶器には備前播鉢 (865)、信楽甕 (866・867) などがある。

SK2185 出土土器 (図 78、図版 22・23、表 32)

SK2185 出土土器は 10-A に属する。総破片数 2,023 片で、その内容は表 32 に示すとおり土師器が約 9 割を占めるが、瓦器の鍋・釜や火鉢の良好な資料も含まれている。

土師器には皿 Sh (868・869)、皿 Sb (870・871)、皿 S (872・873・883～907)、皿 N (874～882) がある。皿 Sh は口径 7.3 cm、高さ 1.6 cm。皿 Sb は口径 8.6 cm、高さ 1.6 cm 前後。皿 S には多くの口径群に分かれ、口径 11.7 cm・高さ 2.1 cm (872・873)、口径 14.4 cm・高さ 2.4 cm (883～902)、口径 15.2 cm・高さ 2.9 cm (903)、口径 16.2 cm・高さ 2.6 cm (904)、口径 17.0 cm・高さ 2.6 cm (905)、口径 18.8 cm・高さ 2.7 cm (906)、口径 20.0 cm・高さ 2.7 cm (907) の

表 32 SK2185 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	1749	95.3%
	鉢・盤	2	0.1%
	甕・鍋・釜	3	0.2%
	その他	8	0.4%
	不明	74	4.0%
	小計	1836	100.0%
瓦器	碗・皿	0	0.0%
	鍋・釜	98	82.4%
	壺・瓶	1	0.8%
	火舎・火鉢	19	16.0%
	その他	1	0.8%
	不明	0	0.0%
小計	119	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	鉢	0	-
	甕	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
小計	0	-	
白色土器	杯・碗・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	碗・皿	5	41.7%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	7	58.3%
	不明	0	0.0%
	小計	12	100.0%
焼締陶器	壺	0	0.0%
	甕	44	97.8%
	鉢・盤	1	2.2%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
小計	45	100.0%	
輸入陶磁器	碗・皿	11	100.0%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	11	100.0%
他	その他・不明	0	-
総数		2023	100.0%

表 33 SE2197 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)
土師器	碗・皿	367	79.3%
	鉢・盤	0	0.0%
	甕・鍋・釜	28	6.0%
	その他	4	0.9%
	不明	64	13.8%
	小計	463	100.0%
瓦器	碗・皿	0	0.0%
	鍋・釜	12	21.4%
	壺・瓶	0	0.0%
	火舎・火鉢	43	76.8%
	その他	1	1.8%
	不明	0	0.0%
小計	56	100.0%	
須恵器・山茶碗	杯・碗・皿	0	-
	壺・瓶	0	-
	鉢	0	-
	甕	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
小計	0	-	
白色土器	杯・碗・皿	0	-
	高杯	0	-
	盤	0	-
	その他	0	-
	不明	0	-
	小計	0	-
国産施釉陶器	碗・皿	10	76.9%
	壺・瓶	1	7.7%
	その他	2	15.4%
	不明	0	0.0%
	小計	13	100.0%
焼締陶器	壺	1	0.8%
	甕	51	43.2%
	鉢・盤	66	55.9%
	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	小計	118	100.0%
輸入陶磁器	碗・皿	18	94.7%
	壺・瓶	0	0.0%
	その他	1	5.3%
	不明	0	0.0%
	小計	19	100.0%
他	その他・不明	0	-
総数		669	100.0%

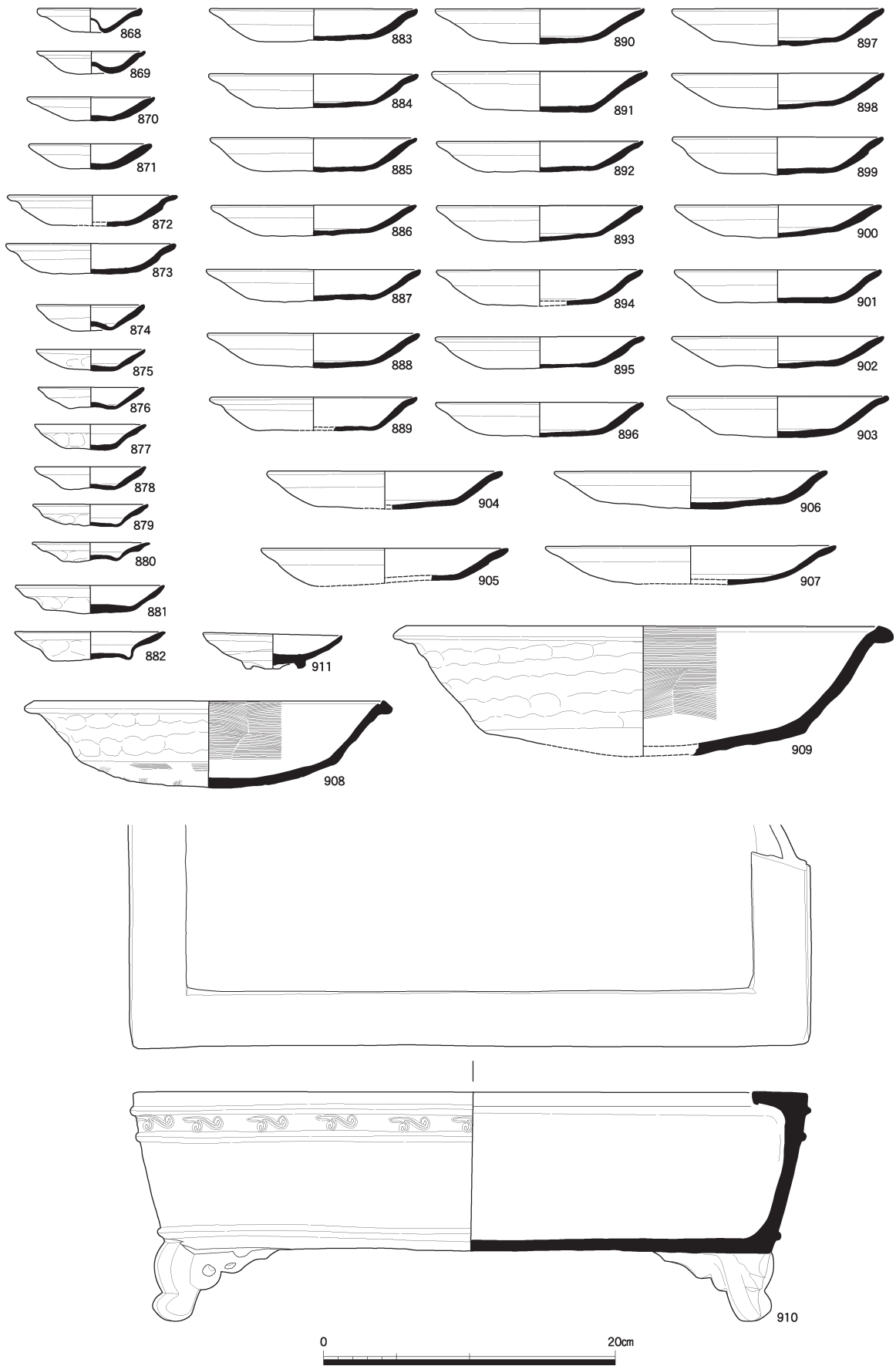


图 78 SK2185 出土土器实测图 (1 : 4)

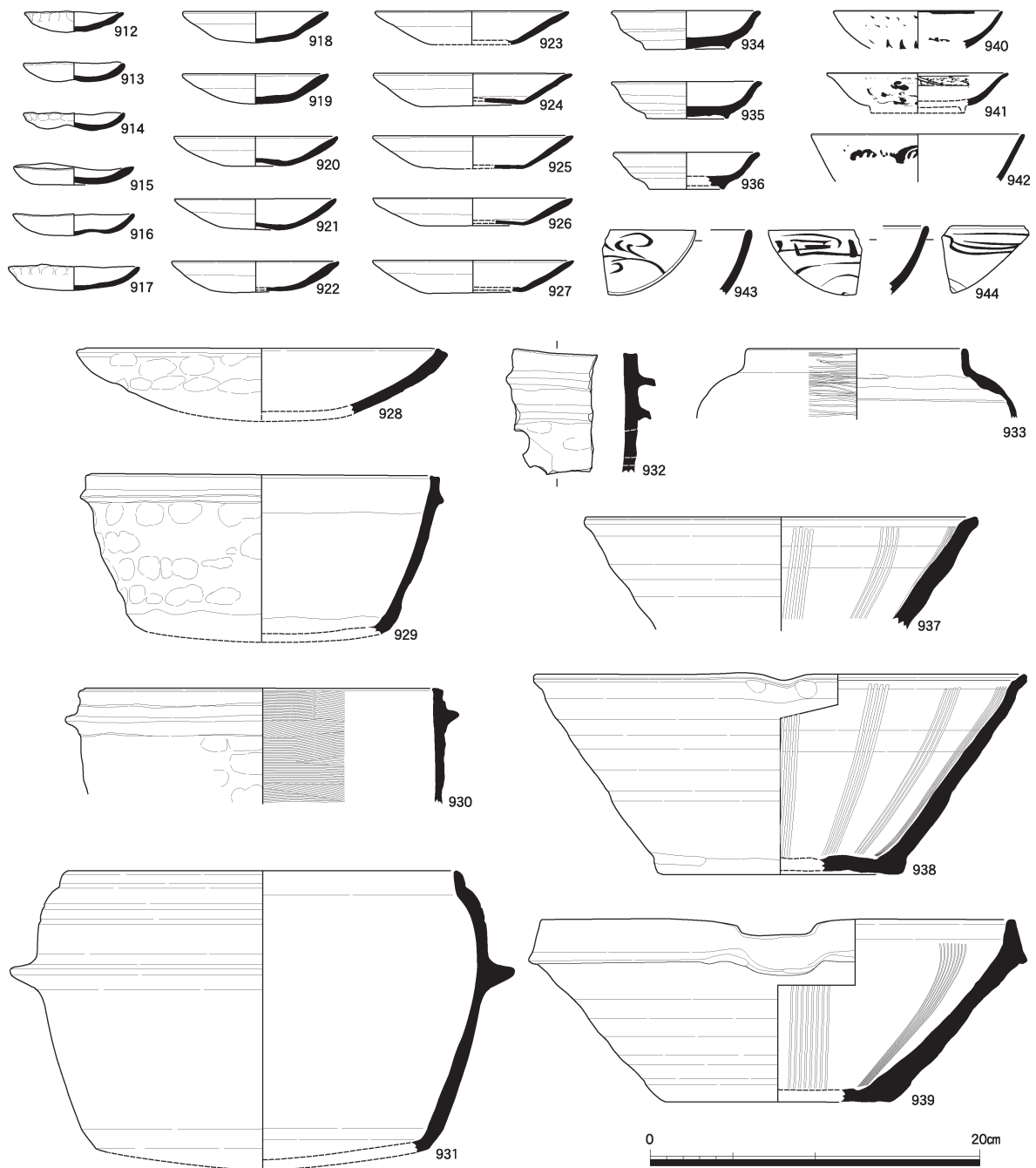


図 79 SE2197 出土土器実測図 (1 : 4)

7 群が認められるが、14 cm 台のものが多数を占めている。瓦器にはほぼ同型の大小の鍋 (908・909)、火鉢 (910) などがある。火鉢は長辺 46.7 cm を測る大型のもので、底部の四隅には丁寧な面取りを施した足が付く。上部の 2 条の凸線間には唐草が連続して押印されている。輸入陶磁器には白磁碗 (911) がある。碗は小型のもので高台下端の 4 方を抉るように削り取っている。

SE2197 出土土器 (図 79、表 33)

SE2197 出土土器は総破片数 669 片あり、その内容は表 33 のとおりである。10-B でも新しい様相を持つ土器群である。

土師器には皿 N (912 ~ 917)、皿 Sb (918 ~ 922)、皿 S (923 ~ 927) がある。皿 N には口径 6.1

cm前後のもの（912～914）と7.6 cm前後（915～917）の2群がある。口縁部のナデと底部からの立ち上がり部の屈曲を失い小型化している。皿 Sb は口径 8.9 cm、高さ 1.8 cm（918・919）と、口径 10.1 cm・高さ 1.9 cm前後（920～922）の2群がある。口縁部に沿って内面を底部近くまでナデた後、底部中央に指先で小さくナデた痕跡を残すものが多い。皿 S は口径 12.2 cm・高さ 1.9 cm前後である。立ち上がり部ナデ際の泥漿の盛り上がりが顕著で、その外側に凹みをもつ圈線となる。瓦器には焙烙（928）、羽釜（929～931）、壺（933、あるいは釜か）などがある。焙烙・羽釜は共に底部を台型に置いた状態で成形する技法を用いる。933 は外面を密なミガキで仕上げる。932 は器形不明。口縁下段に雑な鏝状の凸帯を2条巡らせ、その下方には径 1.5 cm程の円形の透かしが2箇所確認できる。国産施釉陶器には美濃大窯の製品と思われる灰釉皿（934～936）がある。口径 9.0～9.2 cm、高さ 2.3～2.4 cm。いずれも全釉で935には高台内に輪トチン痕が残る。焼締陶器には信楽播鉢（937・938）、備前播鉢（939）などがある。信楽播鉢は外方に小さく折れ曲がる口縁をもち、櫛目は4本単位。備前播鉢は口縁が折り返され、幅広の帯状を呈する。櫛目は8本単位。輸入陶磁器には明染付皿（940・941）・椀（942）、青磁椀（943・944）がある。

第5期の土器類の概観 第5期は11-A～12-A、16世紀末から17世紀末頃（桃山時代から江戸時代前期）に該当する時期である。この第5期では土器類全体に占める土師器の比率が

表 34 SE3555 出土土器の構成（破片数）

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	107	93.9%	64.8%	
	鍋・釜	6	5.3%		
	炉・火鉢	0	0.0%		
	他・不明	1	0.9%		
	小計	114	100.0%		
瓦器	炉・火鉢	4	80.0%	2.8%	
	鉢	0	0.0%		
	他・不明	1	20.0%		
	小計	5	100.0%		
	国産施釉陶磁器	瀬戸・美濃	椀・皿		15
鉢・向付			1	5.6%	
壺・瓶			0	0.0%	
盤・大皿			2	11.1%	
他・不明			0	0.0%	
小計			18	100.0%	
唐津		椀・皿	0	-	0.0%
		鉢・向付	0	-	
		壺・瓶	0	-	
		盤・大皿	0	-	
		他・不明	0	-	
		小計	0	-	
伊万里		椀・皿	0	-	0.0%
		鉢・大皿	0	-	
		壺・瓶	0	-	
		他・不明	0	-	
		小計	0	-	
		京焼・他	椀・皿	0	
鉢・大皿	0		-		
壺・瓶	0		-		
他・不明	0		-		
小計	0		-		
国産施釉陶磁器計	18		100.0%	10.2%	
焼締陶器	襷	16	47.1%	19.3%	
	壺	0	0.0%		
	播鉢	18	52.9%		
	盤・大皿	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	34	100.0%		
輸入陶磁器	椀・皿	5	100.0%	2.8%	
	鉢	0	0.0%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	5	100.0%		
総数		177		100.0%	

59.6%と減少し、その一方で国産施釉陶磁器類が著しく増加している。この変化は、それまでも出土がみられた瀬戸・美濃系陶器が増加するとともに、この期に出土し始める唐津系陶器、さらにそれにやや遅れて出現する伊万里系磁器など北九州地域の製品や京焼系の陶器などが多量に加わることによる。また、明染付などの輸入陶磁器についても2.7%と、全体の中では依然少数ではあるが第4期と比較すれば3倍の比率を示しており、この期に内外の施釉陶磁器類が急激に普及していったことがわかる。土師器以外の食膳具の大半はこれらの施釉陶磁器類であり、なかでも国産陶磁器類が88.3%と大多数を占めている。また第5期の陶磁器関係の遺物として注目されるのは、多量の軟質施釉陶器の素地や半製品などが内窯と思われる筒状の有孔土製品とともに出土していることである。これらの遺物はこの近辺で軟質施釉陶器の生産が行われていたことを示唆する貴重な資料である。さらに本多甲斐守京邸のゴミ廃棄土壌と推定さ



れる 11- B に属する土壌 SK2053 から出土した  
 廃棄時期を江戸時代前期（寛永年間）にはぼ限  
 定できる多量の土器・陶磁器類も重要な資料で  
 ある。

SE3555 出土土器（図 80、表 34）

SE3555 出土土器は総破片数 177 片と少量で  
 あるが、美濃製品や信楽産の焼締陶器、輸入陶  
 磁器を含む 11- A の好資料である。その内容は  
 表 34 のとおりである。

土師器には皿 N（945）、皿 S（946～950）、  
 焙烙（951）がある。皿 N は口径 5.6 cm、高さ 1.0  
 cm。内面立ち上がり部に圈線をもつ皿 S には口  
 径 10.6 cm・高さ 2.2 cm（946・947）、口径 11.3 cm・  
 高さ 2.3 cm（948・949）、口径 12.0 cm・高さ  
 2.1 cm（950）の 3 群がある。焙烙は体部を台型  
 で成形、口縁部を継ぎ足す。国産施釉陶器には、  
 美濃鉄釉丸椀（952）・天目茶椀（953・954）・  
 灰釉折縁ソギ皿（955）・長石釉皿（956）・黄瀬  
 戸鉢（957）などがある。唐津は含まれてない。  
 焼締陶器には信楽播鉢（960・961）・甕（958・  
 959）がある。信楽播鉢は外方に小さく折れ曲  
 がる口縁で、櫛目の単位は 960 が 5 本、961  
 が 6 本である。甕は大きく折り返された幅広の  
 口縁をもつ。輸入陶磁器には明染付皿（962・  
 963）・赤絵椀（964）、白磁椀（965）がある。  
 白磁椀は体部内外面に蓮弁をあらわす。

SK2058 出土土器（図 81、表 35）

SK2058 出土土器は総破片数 701 片あり、そ  
 の内容は表 35 に示したが、美濃や唐津など国  
 産施釉陶器を多く含む 11- B に属する良好な資  
 料である。

土師器には皿 N（966～970）、皿 Sb（971  
 ～974）、皿 S（975～980）、鉢（981）、炉  
 （982）などがある。皿 N には口径 5.2 cm・高さ  
 1.0 cm（966）、口径 6.0 cm・高さ 1 cm 前後（967・

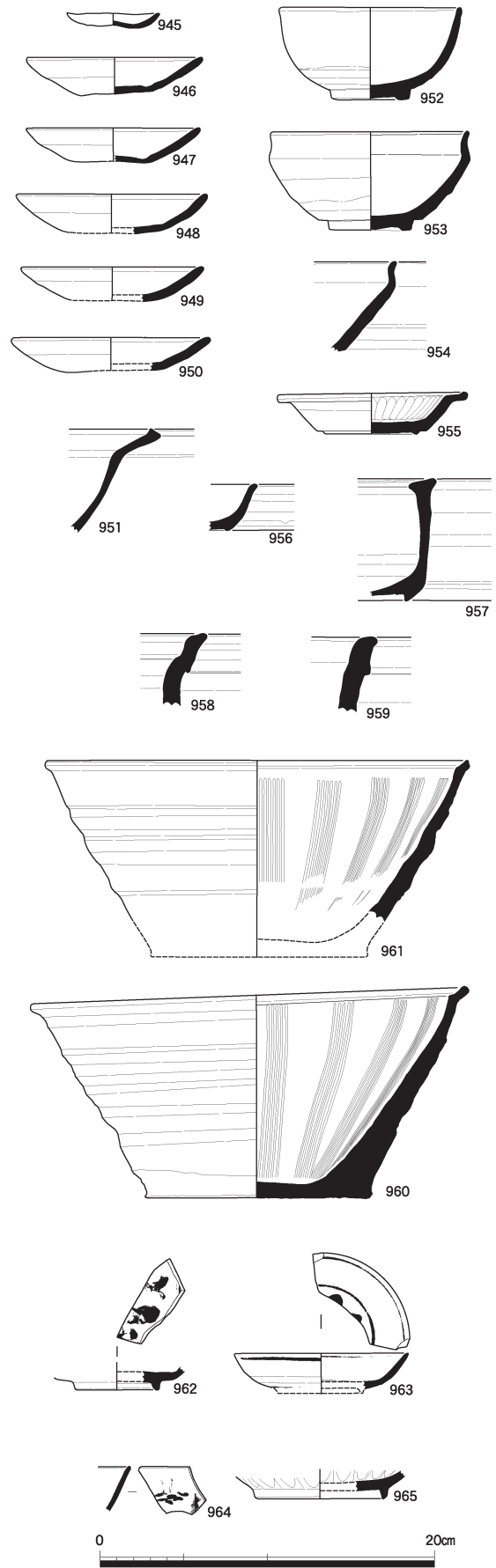


図 80 SE3555 出土土器実測図（1：4）

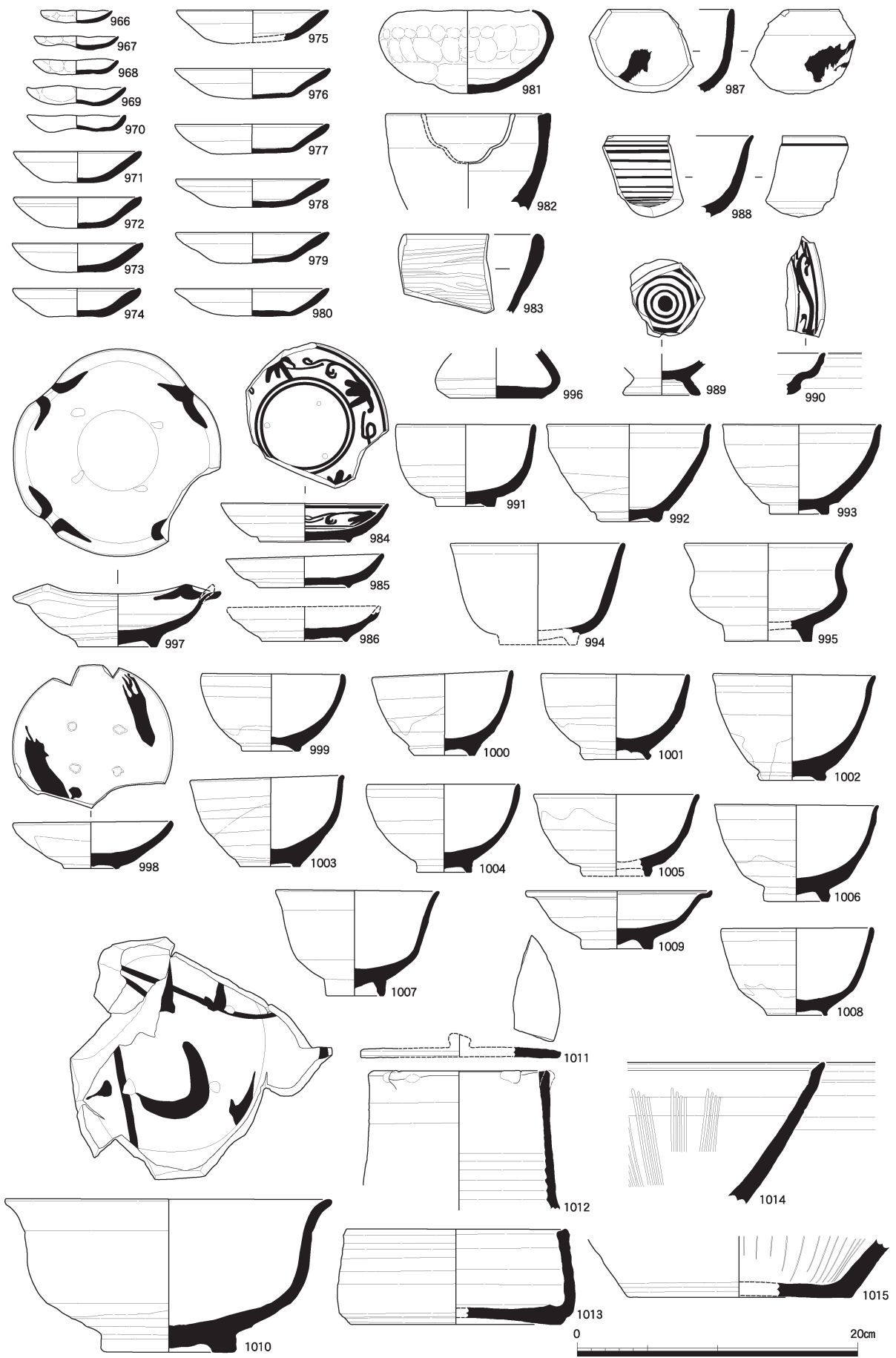


图 81 SK2058 出土土器实测图 (1 : 4)

表 35 SK2058 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土 師 器	皿	440	97.3%	64.5%	
	鍋・釜	8	1.8%		
	炉・火鉢	0	0.0%		
	他・不明	4	0.9%		
	小計	452	100.0%		
瓦 器	炉・火鉢	0	0.0%	1.4%	
	鉢	2	20.0%		
	他・不明	8	80.0%		
	小計	10	100.0%		
国 産 施 釉 陶 磁 器	瀬 戸 ・ 美 濃	碗・皿	41	85.4%	27.1%
		鉢・向付	6	12.5%	
		壺・瓶	1	2.1%	
		盤・大皿	0	0.0%	
		他・不明	0	0.0%	
		小計	48	100.0%	
	唐 津	碗・皿	88	71.5%	69.5%
		鉢・向付	6	4.9%	
		壺・瓶	10	8.1%	
		盤・大皿	3	2.4%	
		他・不明	16	13.0%	
		小計	123	100.0%	
伊 万 里	碗・皿	0	-	0.0%	
	鉢・大皿	0	-		
	壺・瓶	0	-		
	他・不明	0	-		
	小計	0	-		
京 焼 ・ 他	碗・皿	5	83.3%	3.4%	
	鉢・大皿	1	16.7%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	6	100.0%		
	国産施釉陶磁器計	177	100.0%	25.2%	
焼 締 陶 器	甕	2	5.6%	5.1%	
	壺	2	5.6%		
	播鉢	26	72.2%		
	盤・大皿	3	8.3%		
	他・不明	3	8.3%		
	小計	36	100.0%		
輸 入 陶 磁 器	碗・皿	26	100.0%	3.7%	
	鉢	0	0.0%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	26	100.0%		
総数		701		100.0%	

表 36 SK0314 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土 師 器	皿	124	66.3%	33.0%	
	鍋・釜	19	10.2%		
	炉・火鉢	17	9.1%		
	他・不明	27	14.4%		
	小計	187	100.0%		
瓦 器	炉・火鉢	11	15.9%	12.2%	
	鉢	0	0.0%		
	他・不明	58	84.1%		
	小計	69	100.0%		
国 産 施 釉 陶 磁 器	瀬 戸 ・ 美 濃	碗・皿	53	79.1%	40.4%
		鉢・向付	14	20.9%	
		壺・瓶	0	0.0%	
		盤・大皿	0	0.0%	
		他・不明	0	0.0%	
		小計	67	100.0%	
	唐 津	碗・皿	41	75.9%	32.5%
		鉢・向付	1	1.9%	
		壺・瓶	10	18.5%	
		盤・大皿	2	3.7%	
		他・不明	0	0.0%	
		小計	54	100.0%	
伊 万 里	碗・皿	0	-	0.0%	
	鉢・大皿	0	-		
	壺・瓶	0	-		
	他・不明	0	-		
	小計	0	-		
京 焼 ・ 他	碗・皿	20	44.4%	27.1%	
	鉢・大皿	24	53.3%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	1	2.2%		
	小計	45	100.0%		
	国産施釉陶磁器計	166	100.0%	29.3%	
焼 締 陶 器	甕	14	18.4%	13.4%	
	壺	1	1.3%		
	播鉢	42	55.3%		
	盤・大皿	18	23.7%		
	他・不明	1	1.3%		
	小計	76	100.0%		
輸 入 陶 磁 器	碗・皿	69	100.0%	12.2%	
	鉢	0	0.0%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	69	100.0%		
総数		567		100.0%	

968)、口径 7.1 cm・高さ 1.3 cm前後 (969・970) の 3 群がある。皿 Sb は口径 9.3 cm、高さは 2.2 cm前後。11-A のものと較べ器壁の厚さは増している。圏線をもつ皿 S は口径 11.1 cm、高さ 2.0～2.4 cm前後のものが 1 種あるのみで大型のものは出土していない。鉢は手づくねの丸底鉢で口縁は抱え込むように内湾する。982 は口縁部に欠き込みがある小型の炉である。瓦器には外面へラミガキの鉢 (983) がある。国産施釉陶器には美濃碗 (987～989・991～995)・向付 (990)・皿 (984～986)・壺 (996)、唐津碗 (999～1008)・皿 (998・1009)・向付 (997)・鉢 (1010) のほか少量の軟質施釉陶器がある。産地別の比率は美濃 27.1% に対して唐津が 69.5% と高い比率を占めている。美濃碗には丸碗・天目茶碗・端反り碗や織部がある。天目茶碗は鉄釉。丸碗には鉄釉の一部に灰釉の垂らし掛けをしたものや長石釉のものがある。織部茶碗は同心円文の鉄絵の上に灰釉を掛ける。その他 994 は灰釉、995 は長石釉の総掛けである。美濃皿は口径 11.3～12.0 cm。鉄絵のもの (984)、長石釉の無文のもの (985)、灰釉のもの (986) があり、いずれも総掛け。唐津碗はいずれも土灰釉が掛けられている。1007 はやや長石が多めの灰釉で総釉である。唐津皿では 1009 が無文の折れ縁皿、長石が多い土灰釉を総掛けする。998 は絵唐津皿、997 は 4 方にタメを入れた向付。どちらも 4 箇所メアトが残る。焼締陶器には信楽蓋 (1011)・播鉢 (1014)、丹波水指 (1012)・播鉢 (1015)、備前建水 (1013) がある。信楽播鉢は櫛目の単位が 4 本。丹

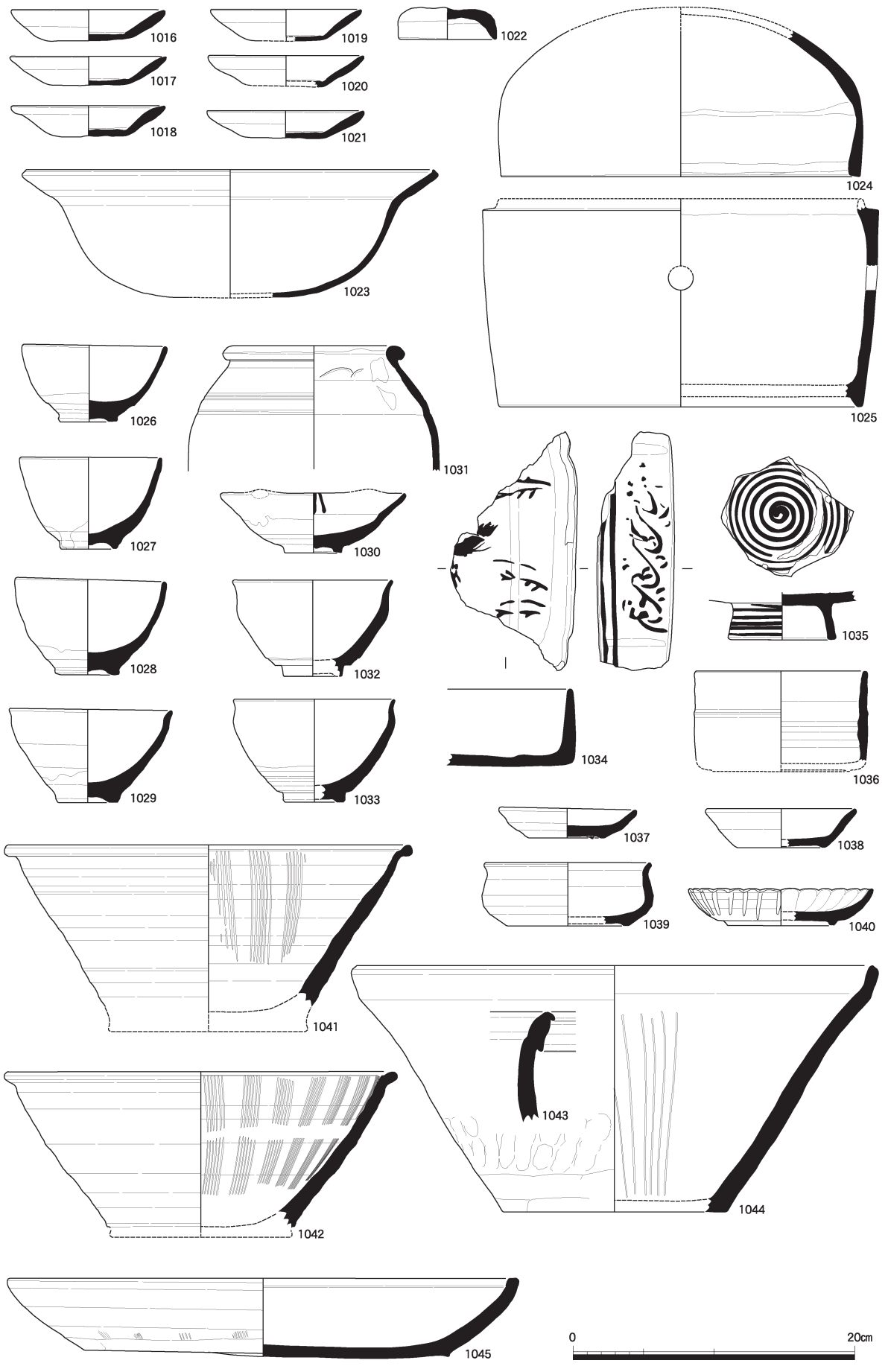


图 82 SK0314 出土土器实测图 - 1 (1 : 4)

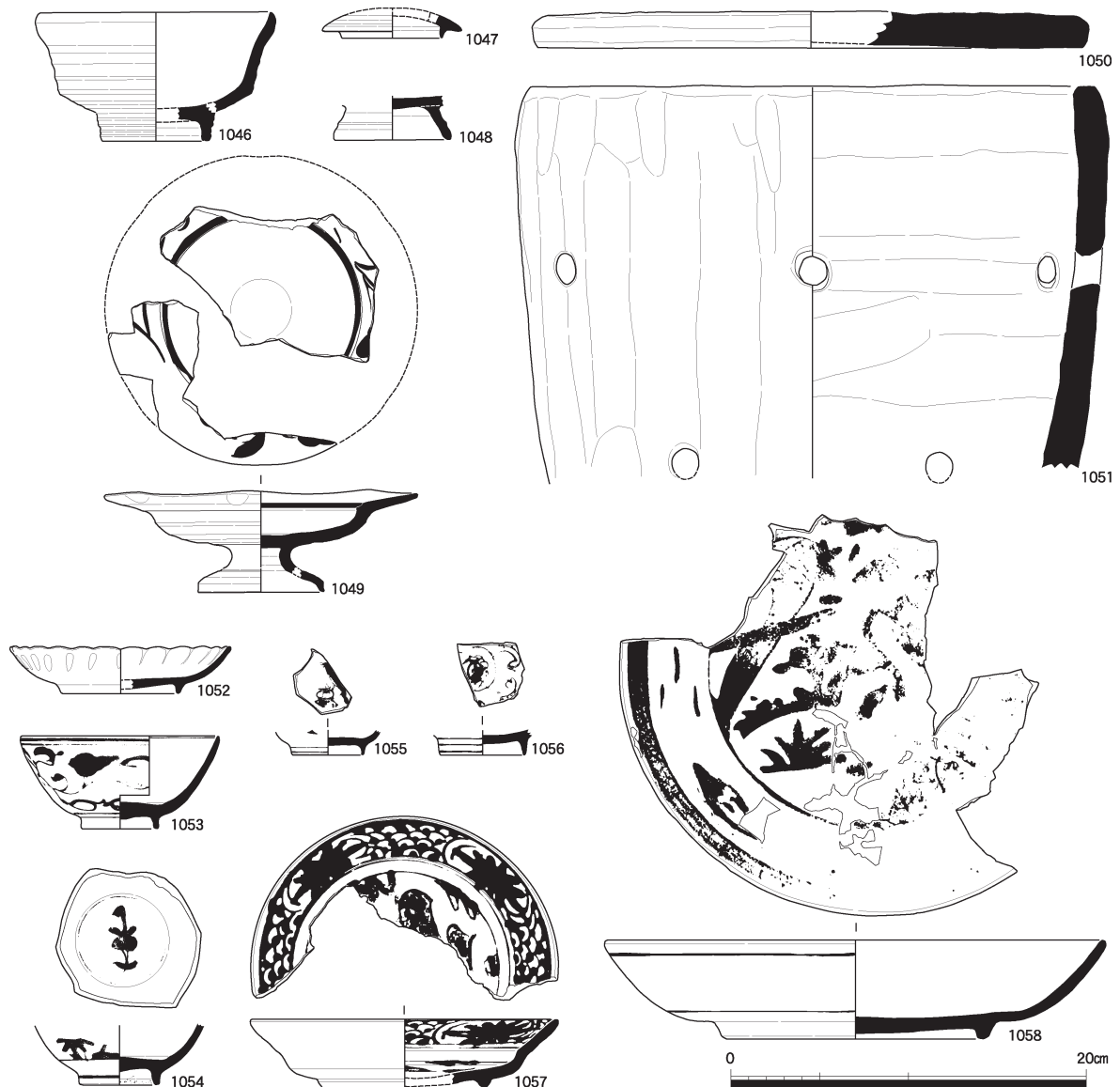


図 83 SK0314 出土土器実測図 - 2 (1 : 4)

波播鉢は単線のすり目を施す。

SK0314 出土土器 (図 82・83、図版 29・30、表 36)

SK0314 出土土器は総破片数 567 片あり、その内容は表 36 に示すとおりである。施釉陶磁器類や焼締陶器が多く、土師器の比率がこの時期の標準値に較べやや低くなっている。11- B に属する土器群である。

土師器には皿 S (1016 ~ 1021)、塩壺蓋 (1022)、焙烙 (1023) がある。皿 S は圈線をもつもので、口径 11.1 cm、高さ 2.1 cm 前後。塩壺蓋は口径 8.0 cm。焙烙は口径 29.6 cm、体部は台型成型で口縁部を継ぎ足す。瓦器には火鉢 (1024・1025) がある。1024 は半球形を呈する蓋、口縁部は水平な端面を持つ。1025 は直立する体部の火鉢。上端には蓋受けがあり、体部中央に径 1.8 cm の円形の孔をあける。国産施釉陶器には唐津椀 (1026 ~ 1029)・絵唐津皿 (1030)・唐津壺 (1031)、美濃皿 (1037・1038・1040)・美濃天目茶椀 (1032・1033)・志野向付 (1034・1036)・織部

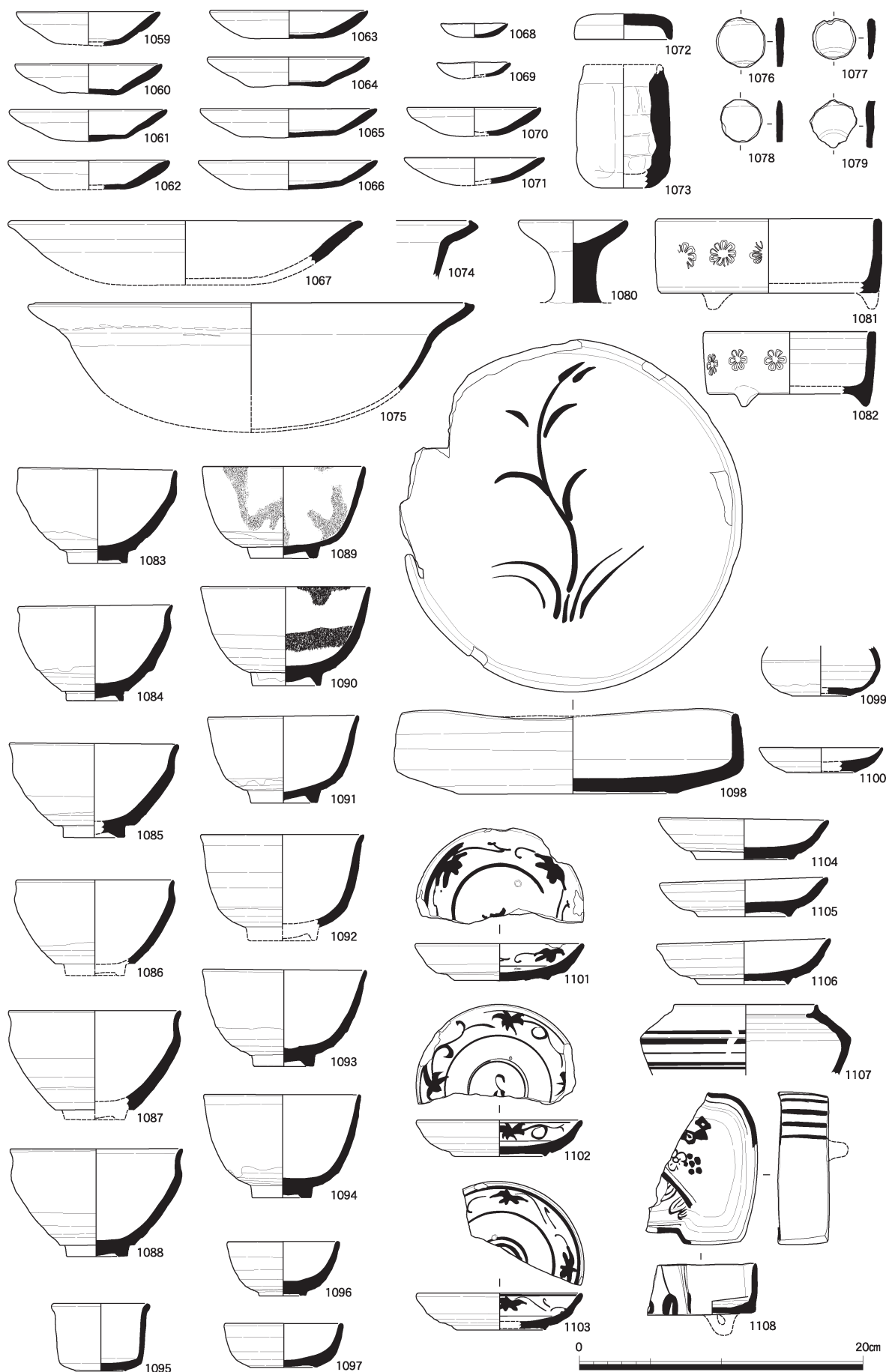


图 84 SK0171 出土土器实测图 - 1 (1 : 4)

鉢 (1035)・黄瀬戸鉢 (1039)、軟質施釉陶器 (1046～1049) などがある。産地別の比率は美濃 40.4%・唐津 32.5%・軟質施釉陶器 (京都) が 27.1% である。唐津茶碗は灰釉を施したもののほか、鉄釉 (鉛釉) の天目茶碗 (1029) がある。絵唐津皿は口縁部にのみ鉄絵がみとめられる。唐津壺はタタキ成形。内外面に鉄釉を薄く掛けるが、玉縁状の口縁上端部は重ね焼きのために施釉しない。なで肩の外面には数条の沈線が巡る。美濃皿は口径 10 cm 程のもので、灰釉 (1037) と鉄釉 (1038) とがある。いずれも総釉で底部外面には輪トチン痕が残る。1040 は長石釉総釉の菊皿。1034 は志野四方向付。三足の付くものと思われる。1036 は志野筒向付。胴中段に凸帯が巡る。織部鉢は高く直線的な高台が付き、内外面に鉄絵で渦巻き文を描く。黄瀬戸鉢は全釉、一部に胆礬が認められる。軟質施釉陶器 1046～1048 は未製品で、素地の状態だが碗 1046 には内外面に白化粧を施している。1049 は折縁台付き皿、口縁の数箇所を指で押し上げ輪花とする。内面底部に緑釉を掛け、口縁には赤紫色で草花文をあらわす。織部意匠に通ずるものがある。同時にこれら軟質施釉陶器を焼成するための、内窯 (1051) と蓋 (1050) が出土している。どちらも珪砂と粗殻を多く含んだ粗い土で作られている。内窯は外面を縦方向のコテナデ上げ、内面は横方向のナデ調整、体部の所々に径 1.8 cm 程の孔を開けている。これら軟質施釉陶器は SK0177 から未製品を含め多量に出土しており詳細は後述するが、ここでは内窯と蓋が出土している点が注目される。焼締陶器には信楽播鉢 (1041・1042)・甕 (1043)、丹波播鉢 (1044)・盤 (1045) がある。信楽播鉢の櫛目の単位は 6 本、丹波播鉢は単線である。丹波盤底部には成型時にロクロ鏡面に敷いた灰の痕跡が残る。輸入陶磁器には白磁菊皿 (1052)、染付碗 (1053～1056)・皿 (1057・1058) がある。1055・1056 は景德鎮窯系、1053・1054・1057・1058 は漳州窯系の製品であろう。1057 には化粧掛けが認められる。1058 は釉が熔けきらず呉須絵は不鮮明である。

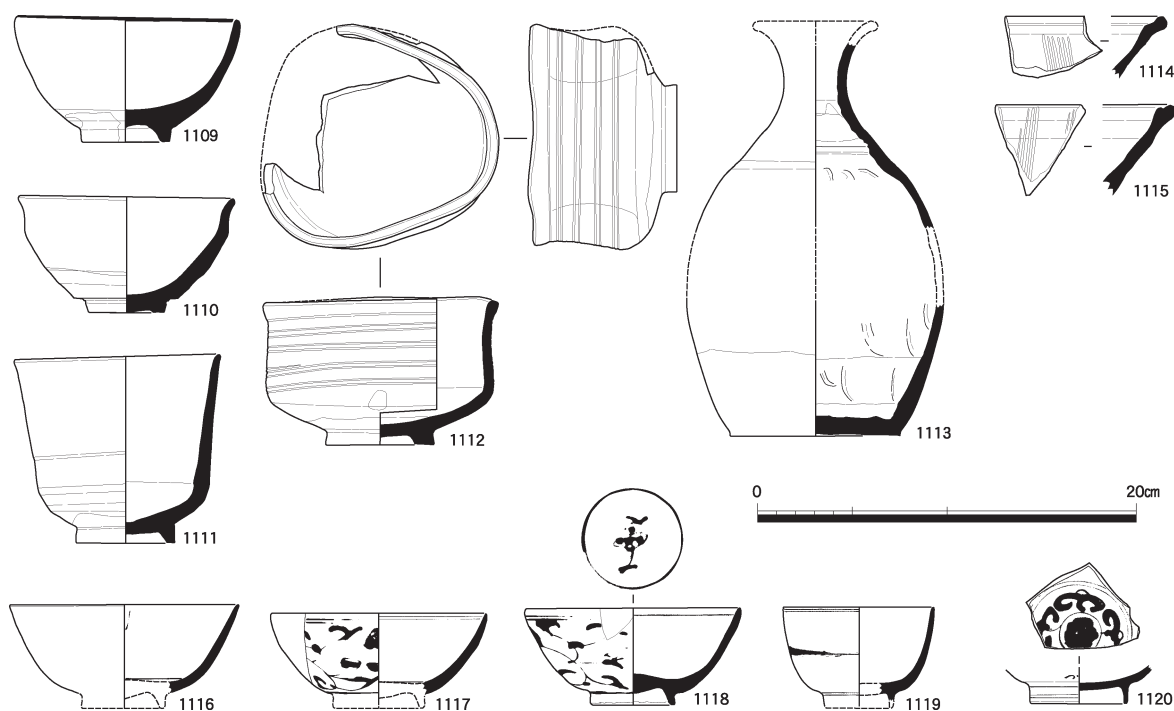


図 85 SK0171 出土土器実測図 - 2 (1 : 4)

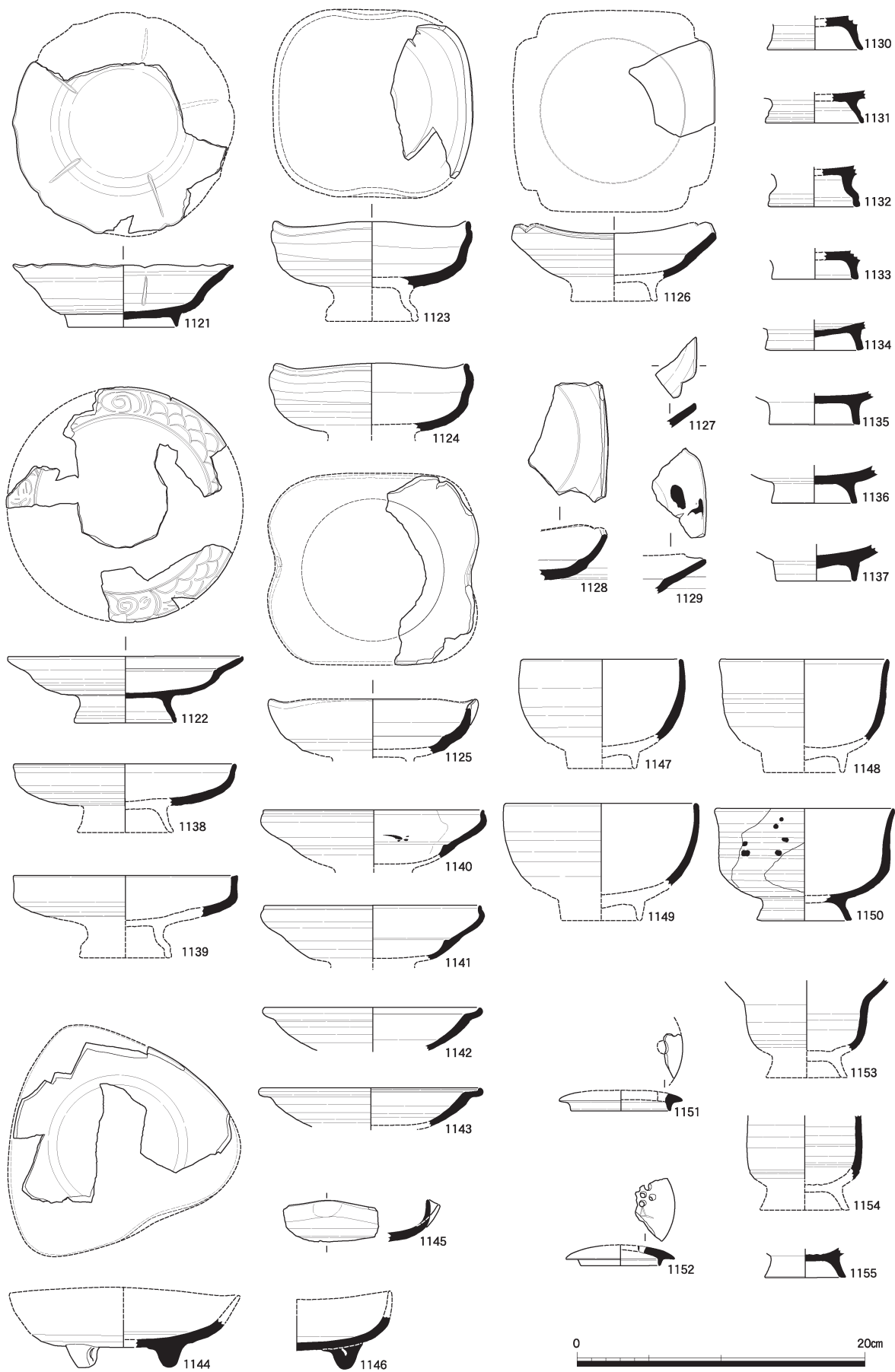


图 86 SK0171 出土土器实测图 - 3 (1 : 4)



## SK0171 出土土器 (図 84～86、図版 29、表 37)

SK0171 出土土器は総破片数 1,486 片あり、その内容は表 37 に示したように国産陶磁器の比率が高い。これは軟質施釉陶器の素地や半製品が多量に含まれている事による。11- B に属する。

土師器には皿 S (1059～1067)、皿 N (1068・1069)、皿 Sb (1070・1071)、塩壺 (1072・1073)、焙烙 (1074・1075) と、二次製品であるが土師器皿 S を割り欠いて作った円盤状土製品 (1076～1079) がある。1079 は周縁を割り欠いただけであるが、他は周縁を研ぎ、なめらかに仕上げている。用途は不明である。皿 S には口径 10.3 cm・高さ 2.3 cm 前後 (1059・1060)、口径 11.3 cm・高さ 2.1 cm 前後 (1061～1064)、口径 12.6 cm・高さ 2.1 cm 前後 (1065・1066) のほか口径 25.6 cm の大型品 (1067) がある。皿 Sb は口径 9.7 cm、高さ 2.1 cm 前後、皿 N は口径 5.1 cm、高さは 1.1 cm 前後である。焙烙は丸みをおびた体部を台型成形し口縁部を継ぎ足している。瓦器には灯火具 (1080)、香炉 (1081・1082) がある。香炉は平底で底外

縁部に三足を付け、直立した体部外面には印花が押されている。国産施釉陶器には美濃 (1083～1108)、唐津 (1109～1113)、軟質施釉陶器 (1121～1155) がある。産地別の比率は美濃 18.2%、唐津 6.8%、軟質施釉陶器 (京都) が 74.9% と、軟質施釉陶器が多量に出土しており、他に類を見ない比率を示している。美濃椀には鉄釉天目茶椀 (1083～1086)、黄瀬戸天目茶椀 (1087・1088)、鉄釉丸椀 (1089・1090)、総織部丸椀 (1091～1094) がある。小杯 (1095～1097) はいずれも長石釉を掛けている。皿は灰釉の 1100 以外、絵志野皿を含めすべて長石釉を掛ける。1098 は志野銅鑼鉢、見込みにはシンプルだが大胆な草文を描き、口縁部をゆるい波状にヘラで切る。1099 は鉄釉茶入れ。1107 は織部水注。1108 は織部向付。唐津には椀 (1109～1112) と徳利 (1113) がある。天目茶椀 (1110) は透明感のある鉛釉を掛ける。他の椀にはすべて灰釉が掛けられている。1109 は口縁端部に鉄を塗る。1111 は高さが 10.0 cm あり、向付かも知れない。1112 は体部に 2 本単位の櫛目を 4 段巡らせ、3 方を押さえて歪める沓茶椀である。徳利はタタキ成形され、体部外面に鉛釉、口縁部に藁灰釉を掛けたいわゆる朝鮮唐津といわれるものである。軟質施釉陶器には皿 (1121)、椀 (1147～1150) のほか向付と思われる台付皿 (1122・1138・1139)、台付鉢 (1123～1132・1140～1143)、三足鉢 (1144～1146) あるいは香炉 (1151～1155) などの製品・半製品・素地・施釉後焼成時の失敗品などがある。1121 は口

表 37 SK0171 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	383	82.2%	31.4%	
	鍋・釜	75	16.1%		
	炉・火鉢	0	0.0%		
	他・不明	8	1.7%		
	小計	466	100.0%		
瓦器	炉・火鉢	10	31.3%	2.2%	
	鉢	1	3.1%		
	他・不明	21	65.6%		
	小計	32	100.0%		
国産施釉陶器	瀬戸・美濃	椀・皿	134	79.8%	18.2%
		鉢・向付	2	1.2%	
		壺・瓶	3	1.8%	
		盤・大皿	19	11.3%	
		他・不明	10	6.0%	
	小計	168	100.0%		
	唐津	椀・皿	48	76.2%	6.8%
		鉢・向付	0	0.0%	
		壺・瓶	14	22.2%	
		盤・大皿	0	0.0%	
		他・不明	1	1.6%	
	小計	63	100.0%		
	伊万里	椀・皿	0	-	0.0%
		鉢・大皿	0	-	
		壺・瓶	0	-	
他・不明		0	-		
小計		0	-		
京焼・他	椀・皿	689	99.7%	74.9%	
	鉢・大皿	0	0.0%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	2	0.3%		
	小計	691	100.0%		
国産施釉陶磁器計		922	100.0%	62.0%	
焼締陶器	甕	2	7.4%	1.8%	
	壺	5	18.5%		
	播鉢	18	66.7%		
	盤・大皿	0	0.0%		
	他・不明	2	7.4%		
	小計	27	100.0%		
輸入陶磁器	椀・皿	37	94.9%	2.6%	
	鉢	2	5.1%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	39	100.0%		
総数		1486		100.0%	

縁部を切り欠き内面に放射状にヘラ目を入れ5輪花にしている。内面に白化粧を施し全体に淡緑色の鉛釉が施釉されている。椀には体部に丸みを持つもの(1147・1149)、体部が直線的に立ち上がるもの(1148)、体部中程で屈曲するもの(1150)などがある。1147～1149は内外面に白化粧が施されている。1150には白化粧の後、釉下に緑(銅)・茶(鉄)で文様を描いた上から淡黄緑色を帯びた透明釉を施す。1122は折り縁状の口縁内面にヘラ刻の文様を配し、底部には外方に開き端部が少し屈曲するやや高めの台を付ける。淡灰褐色の素地で化粧土や釉は施されていない。1138は平坦な底部からほぼ垂直に短く口縁部が立ち上がる。口縁端部は丸みを持ち、わずかに外反する。1139も類似する形態であるが、やや深みを持ち、立ち上がり部の屈曲が強く、口縁端部の形状も異なる。いずれも内面に白化粧が施されている。同タイプと思われる他の破片からみて1131や1132のようなやや高めの台が付く皿であろう。台付鉢には口縁部を変形させたもの(1123・1124)、ヘラで4方を切り輪花にしたもの(1126・1127・1129)、その両者を組み合わせたもの(1125・1128)、体部中程に段を作り口縁部を内傾気味に小さくつまみ上げるもの(1140・1141)、折り縁状の口縁を持つもの(1142・1143)などがある。これら鉢類の多くは内面に白化粧が施されており、1129や1140は、1150と同様に釉下に緑(銅)・茶(鉄)で施文されている。三足鉢は体部を外3方から押さえ変形を加えている。底部外面の3箇所に環足を付けるが、体部の胎土が淡赤色を帯びるのに対して三足には白い粘土を用い体部と同じ淡赤色の泥漿で接着している。鉢類の多くに白化粧が施されているが、三足鉢に関しては白化粧の例は1点もなく、明らかに体部と三足の色調の差違を意識したものであろう。香炉蓋はいずれも小片であるが、天井部に小径の円孔が開けられ、1152にはヘラ刻の文様の一部が残る。1154や1155は内面の調整が粗く蓋の付く器形と考えここでは香炉と推測したが、1153については内面調整が丁寧で上方に開いた体部を持つので鉢である可能性もあるが、1153～1155の褐色味の強いやや粗めの胎土は香炉蓋と共通する。軟質施釉陶器の素地には図示したもののほか、同時期の他の遺構から出土したものを含めていくつかのタイプがあるが、特に鉢類には体部の変形や口縁部の切り欠きの状態による多くの種類がある。こうした出土状況はここでの軟質施釉陶器の生産において、同一器形の量産より、多彩な器形の少量生産が意図されていたことを示唆するものであろう。

#### SK0257 出土土器 (図 87、図版 29、表 38)

SK0257 出土土器は総破片数 655 片である。11-B に属し、その内容は表 38 のとおりである。土師器が 45.3% と半数近くを占めるが、国産施釉陶器も 38.3% と高い比率を示している。

土師器には皿 N (1156・1157)、皿 Sb (1158～1160)、皿 S (1161～1165)、塩壺 (1166・1167)、焙烙 (1168)、羽釜 (1169・1170)、小壺 (1171) などがある。皿 N は口径 2.3 cm、高さ 1.1 cm 前後。皿 Sb は口径 9.6 cm、高さ 2.0 cm 前後のものが多いが、1160 のように 10 cm 台にかかるものも少量ある。皿 S には口径 10.9 cm、高さ 2.1 cm 前後と小振りなものが多い。塩壺には内面に布目を残したもの (1167) と布目が見つからないもの (1166) がある。焙烙は口径 30.6 cm、体部を台型成形、口縁部を継ぎ足す。口縁端部は内方に小さく突き出す。羽釜には口縁部のみであるが大小 2 種の口径がある。瓦器には灯火具の火皿部 (1173)、火鉢 (1174) などがある。国

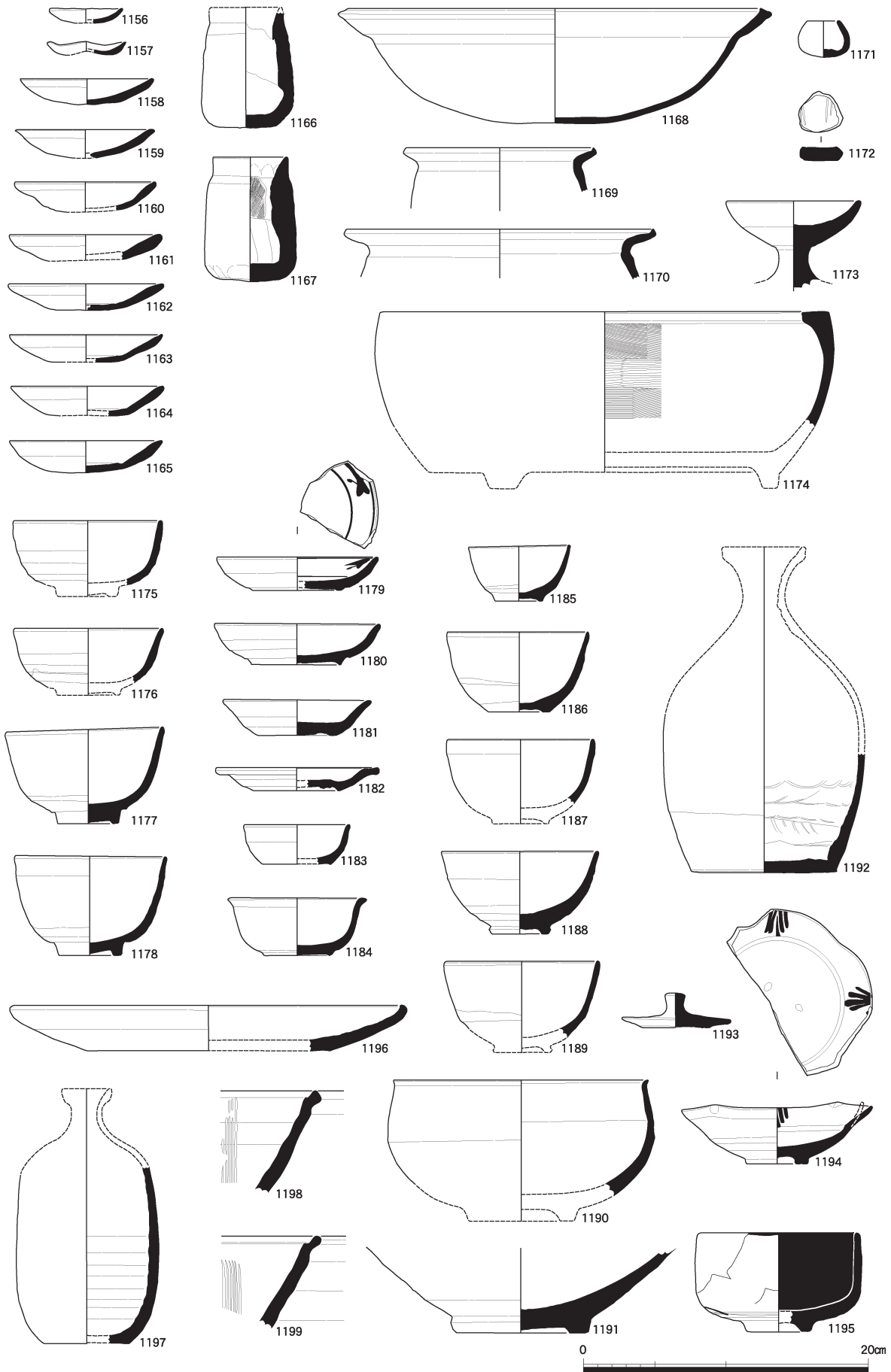


图 87 SK0257 出土土器实测图 (1 : 4)

表 38 SK0257 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	218	73.4%	45.3%	
	鍋・釜	51	17.2%		
	炉・火鉢	4	1.3%		
	他・不明	24	8.1%		
	小計	297	100.0%		
瓦器	炉・火鉢	6	42.9%	2.1%	
	鉢	0	0.0%		
	他・不明	8	57.1%		
	小計	14	100.0%		
国産施釉陶磁器	瀬戸・美濃	碗・皿	67	75.3%	35.5%
		鉢・向付	9	10.1%	
		壺・瓶	11	12.4%	
		盤・大皿	0	0.0%	
		他・不明	2	2.2%	
	小計	89	100.0%		
	唐津	碗・皿	50	52.1%	38.2%
		鉢・向付	10	10.4%	
		壺・瓶	29	30.2%	
		盤・大皿	6	6.3%	
		他・不明	1	1.0%	
	小計	96	100.0%		
	伊万里	碗・皿	0	-	0.0%
		鉢・大皿	0	-	
壺・瓶		0	-		
他・不明		0	-		
小計		0	-		
京焼・他	碗・皿	40	60.6%	26.3%	
	鉢・大皿	24	36.4%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	2	3.0%		
	小計	66	100.0%		
国産施釉陶磁器計		251	100.0%	38.3%	
焼締陶器	甕	2	4.3%	7.0%	
	壺	7	15.2%		
	播鉢	32	69.6%		
	盤・大皿	4	8.7%		
	他・不明	1	2.2%		
	小計	46	100.0%		
輸入陶磁器	碗・皿	40	85.1%	7.0%	
	鉢	1	2.1%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	6	12.8%		
	小計	47	100.0%		
総数		655		100.0%	

産施釉陶器のうち唐津系の製品には盃 (1185)・碗 (1186 ~ 1189)・絵唐津向付 (1194)・朝鮮唐津德利 (1192)・蓋 (1193)・鉢 (1190・1191) が、美濃系の製品では碗 (1175 ~ 1178)・皿 (1179 ~ 1182)・小杯 (1183・1184) がある。このほか国産施釉陶器には、この遺跡の近辺で生産されたとみられる軟質施釉陶器碗 (1195) などがある。軟質施釉陶器には図示したもの以外にも SK0171 と同様な碗や鉢類の製品や素地が出土している。国産施釉陶器の産地別の比率をみると、美濃系 35.5%、唐津系 38.2%、軟質施釉陶器 (京都) が 26.3% と、唐津系陶器の比率が美濃系をやや上回る。唐津盃は口径 7.2 cm、唐津碗は口径 10 ~ 11 cm 台で灰釉のもの (1186・1187・1189) と鉄釉を掛けたもの (1188) がある。絵唐津皿は口縁の 4 方を押し上げ木瓜形にする。内外面に胎土目。朝鮮唐津德利はタタキ成形。飴釉の上に藁灰釉が流下する。鉢 (1190) は鉄分の多い灰釉、オリーブ色を呈する。蓋は径 7.7 cm、底部は糸切り未調整。美濃皿には絵志野 (1179)、長石釉 (1180)、鉄釉 (1181)、灰釉の折縁のもの

(1182) とがある。碗は長石釉。軟質施釉陶器碗の胎土は赤褐色で、内面に黒釉、外面体部には白化粧の後に緑彩を垂らし掛けし、その上から透明釉を全体に施す。このほか施釉陶磁器では明染付が出土しているが、伊万里など国産の磁器類は含まれていない。焼締陶器には備前盤 (1196)・德利 (1197)、信楽播鉢 (1198・1199) がある。その他二次製品であるが信楽播鉢を円盤状に割り欠いて作った土製品 (1172) がある。

#### SK2053 出土土器 (図 88 ~ 101、図版 23 ~ 29、表 39)

SK2053 は本多甲斐守京邸のゴミ廃棄土壙と推定している遺構である。出土遺物には土器・陶磁器類以外に、食物残渣や金属製品・木製品・土製品・石製品・骨製品など、その内容は多種多様である。土器類は総破片数 15,088 片と多量に出土している。その内容は表 39 のように土師器が 69.8% と 7 割近くを占めているが、総量が多いため施釉陶磁器や焼締陶器にも好資料が多数ある。機能別に見ると碗皿などの供膳具が大半を占める。これらの土器類は 11- B に属するとみているが、土師器皿類や焙烙などに SK2058 や SK0171 など同じ 11- B に属する土器群のものと比較してやや新しい要素が認められ、11- B でも後出的な特徴を持った土器群と言える。

土師器には皿 Sb (1200 ~ 1209)、皿 S (1210 ~ 1229) と、皿 S と類似する形態を持つが大型で内面立ち上がり部の圏線が不明瞭な一群 (1230 ~ 1237 ここでは仮に S' としておく)、皿 N

(1238～1245)、皿 N の口縁を内傾気味に立ち上げ縁をつまみ花形に成形したもの(1246・1247)、小壺(1248～1254)、丸底鉢(1255～1259)、塩壺(1260～1268)、焙烙(1284～1296)、羽釜(1297・1298)、火鉢(1299)などがある。また皿 S' には口縁をヘラ切りして多角形にしたもの(1269)、皿 N・皿 S には底部に小孔を開けたもの(1270～1272)がある。土製品には土師器や瓦、播鉢を加工した円盤状土製品(1273～1279)のような二次製品と、土錘(1280)、土鈴(1281・1282)、犬形土製品(1283)などがある。皿 Sb は口径 9.9 cm、高さ 2.3 cm 前後。皿 S には口径 11.1 cm・高さ 2.3 cm 前後(1210～1219)、口径 12.4 cm・高さ 2.4 cm 前後(1220～1229)、口径 14.2 cm・高さ 2.6 cm 前後の 3 群がある。口径 11 cm 台のものには灯明皿として使用されたものが多く含まれている。口径 15 cm 以上の皿 S' は通常の皿 S と較べやや特殊で、出土量は少なく胎土も非常に緻密で調整も丁寧である。皿 N には口径 5.5 cm・高さ 1.2 cm 前後(1238～1240)と、口径 7.0 cm・高さ 1.5 cm 前後(1241～1245)の 2 種がある。小壺は胴径、高さとも 2 cm 台のものが多く、全体に丸みの強いものや胴下半が膨らむものなど体部の形態に変化がある。丸底鉢には口径 5.0 cm 前後(1258)、7.5 cm 前後(1259)、9 cm 台のもの(1255～1257)がある。1255 には内外面に著しく煤が付着している。1256 は口縁部外面に墨で文様が描かれている。塩壺はほとんどが芯に粘土を巻き付けて成形された円筒形だが、1262 は体部がややふくらみ壺形を呈する。1266 はやや大型で体部外面に「ミ奈と藤左門」の刻印がある。焙烙は口径 30 cm 前後、体・底部を台型で成形し口縁を継ぎ足しているもの(1284～1293)と口縁部まで台型成形するもの(1294～1296)がある。羽釜はふくらんだ胴部下段に鍔が付くもので、口縁部は外反し端部は上方に小さく突出する。大きさで 2 種ある。円盤状土製品は瓦や備前甕、信楽播鉢、土師器皿などの転用で、周縁を打ち欠いて作られている。打ち欠いたのち周縁を丁寧に研磨しているものもある。土鈴 1282 は上部の 4 方に花びらあるいは紐をあらわしたような墨描きが施されている。犬の人形は他の遺跡でも桃山時代から江戸時代初期の遺構からの出土例がある。瓦器には短い口縁のずんぐりした火消し壺(1302～1304)、皿を伏せたような形態の蓋(1300・1301)、火鉢(1305・1306・1320～1323)、鉢(1307～1309)、香炉(1310～1316)、灯火具(1317・1318)、炉(1319)などがある。蓋には天井部中央に扁平な円盤状のつまみを付けるもの(1301)と付けないもの(1300)がある。

表 39 SK2053 出土土器の構成(破片数)

器種	器形	破片数	比率(%)		
土師器	皿	9749	92.6%	69.8%	
	鍋・釜	519	4.9%		
	炉・火鉢	49	0.5%		
	他・不明	216	2.1%		
	小計	10533	100.0%		
瓦器	炉・火鉢	382	28.0%	9.1%	
	鉢	456	33.4%		
	他・不明	528	38.7%		
	小計	1366	100.0%		
国産施釉陶磁器	瀬戸・美濃	碗・皿	684	88.6%	35.9%
		鉢・向付	49	6.3%	
		壺・瓶	12	1.6%	
		盤・大皿	2	0.3%	
		他・不明	25	3.2%	
	小計	772	100.0%		
	唐津	碗・皿	1074	88.2%	56.7%
		鉢・向付	51	4.2%	
		壺・瓶	52	4.3%	
		盤・大皿	28	2.3%	
		他・不明	13	1.1%	
	小計	1218	100.0%		
伊万里	碗・皿	125	94.7%	6.1%	
	鉢・大皿	7	5.3%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	132	100.0%		
京焼・他	碗・皿	18	64.3%	1.3%	
	鉢・大皿	3	10.7%		
	壺・瓶	5	17.9%		
	他・不明	2	7.1%		
	小計	28	100.0%		
国産施釉陶磁器計		2150	100.0%	14.2%	
焼締陶器	甕	172	23.6%	4.8%	
	壺	76	10.4%		
	播鉢	424	58.2%		
	盤・大皿	20	2.7%		
	他・不明	36	4.9%		
	小計	728	100.0%		
輸入陶磁器	碗・皿	290	93.2%	2.1%	
	鉢	14	4.5%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	7	2.3%		
	小計	311	100.0%		
総数		15088		100.0%	

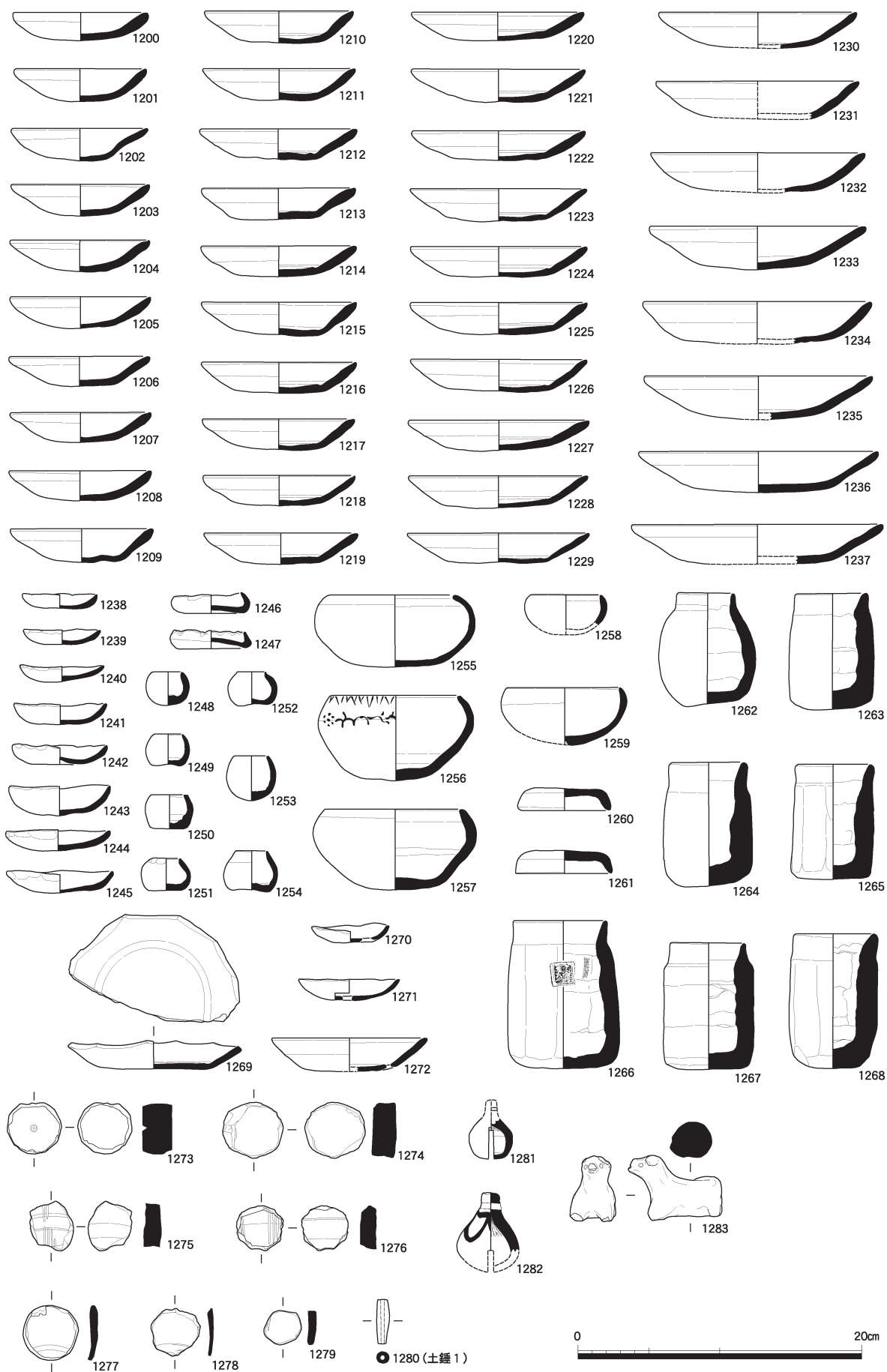


图 88 SK2053 出土土器实测图 - 1 (1 : 4)

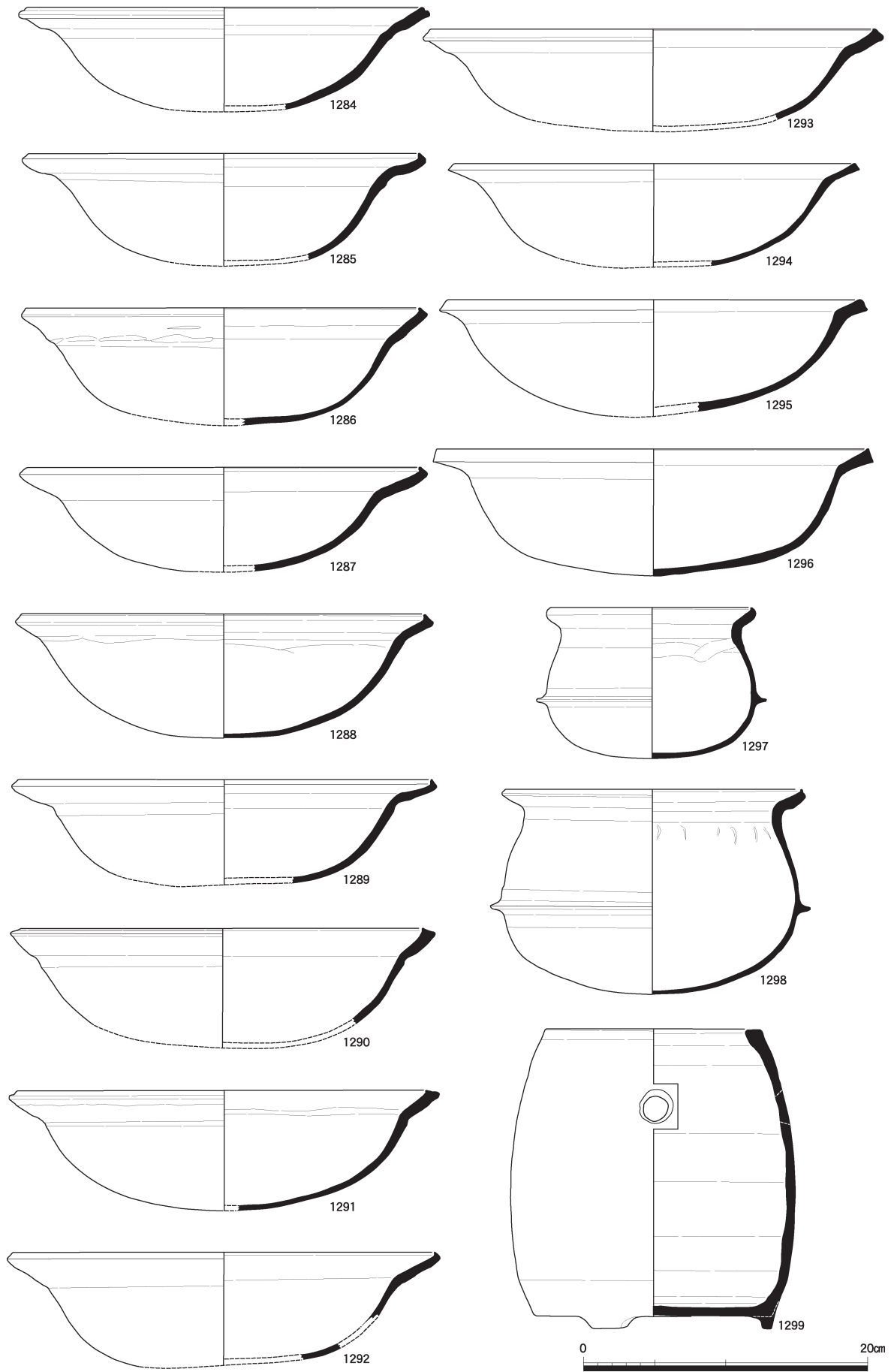


图 89 SK2053 出土土器实测图 - 2 (1 : 4)

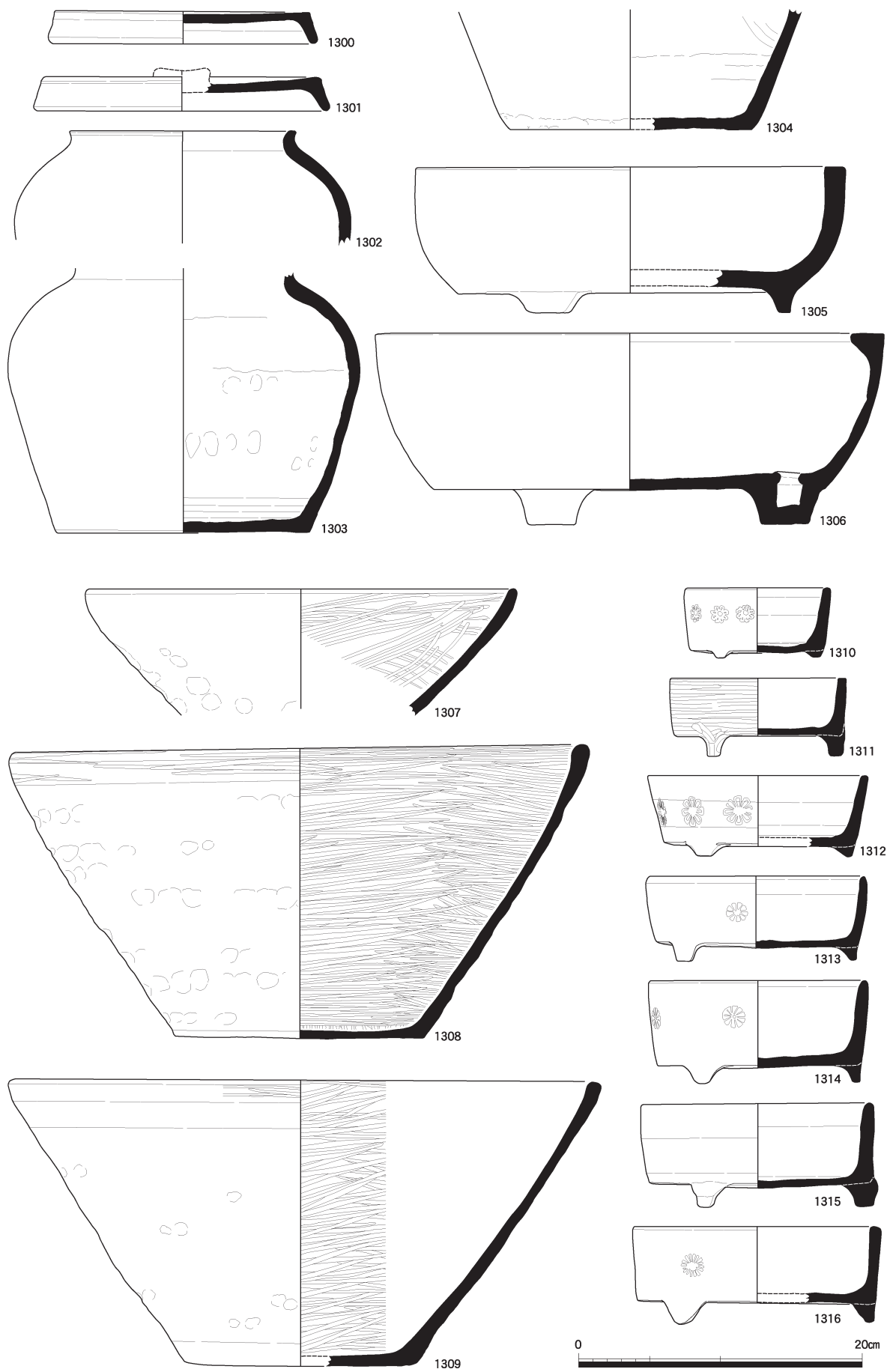


图 90 SK2053 出土土器实测图 - 3 (1 : 4)



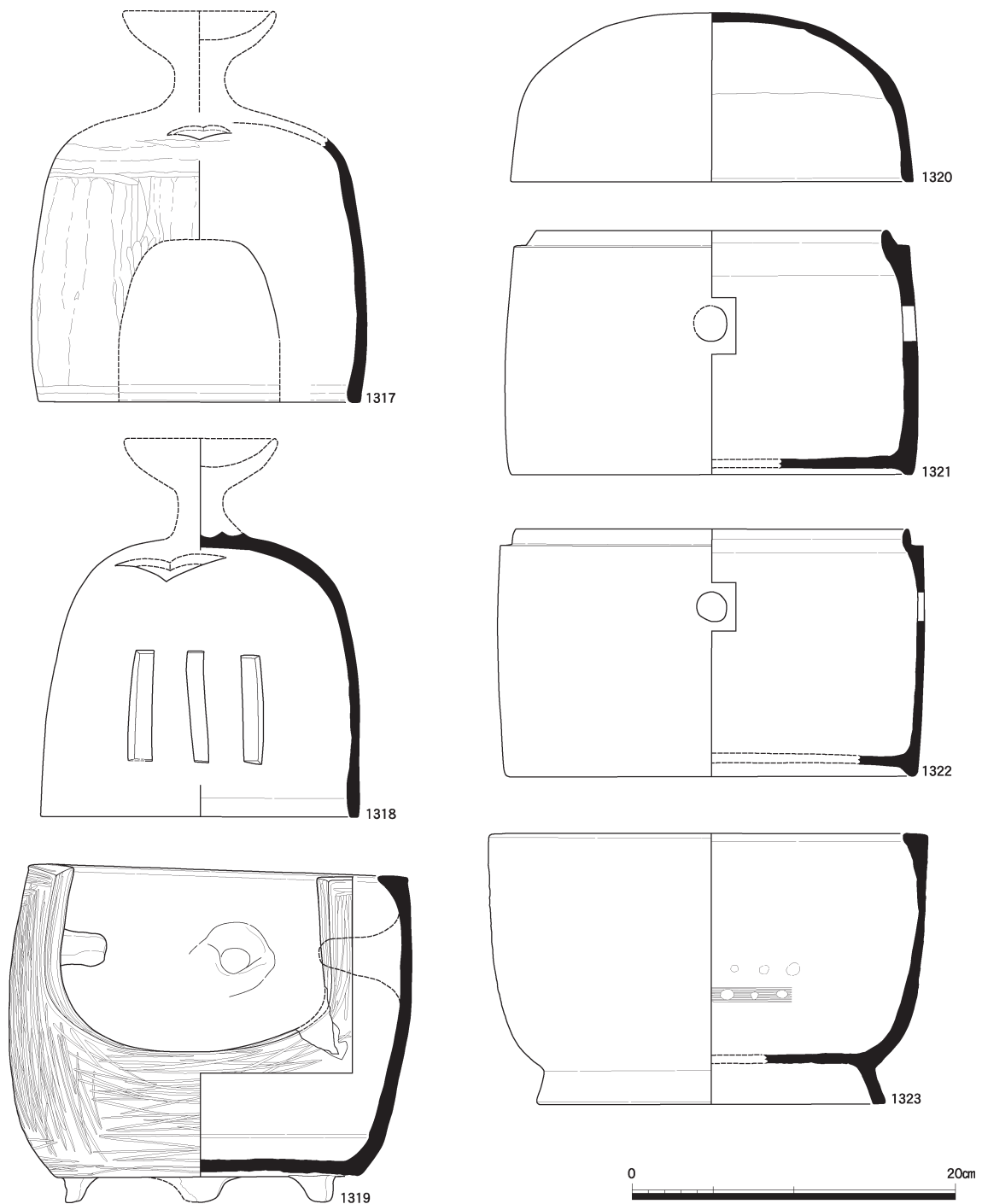


図91 SK2053 出土土器実測図 - 4 (1 : 4)

火鉢には平底に三足が付く浅く広いもの(1305・1306)と、筒形で蓋受けが付き体部に円形の  
小孔が開けられるもの(1321・1322)、半球形のその蓋(1320)、蓋受けが無く高い高台の付く  
もの(1323)などがある。1306の足は筒状で底部の足取り付け部分には破裂を防ぐためか小さ  
く孔が開けられている。鉢は直線的に上方に開く播鉢形で内面は密なミガキ、外面は粘土積み上  
げの指痕を残す。口径で30.0cm前後のもの(1307)と40.0cmを超えるもの(1308・1309)が  
ある。大型品であるが、非常に薄く作られている。香炉は平底の外縁部に三足が付く。多くは直  
立した体部に印花を施すが、無文のもの(1311・1315)もある。1311は外面のミガキが特に丁

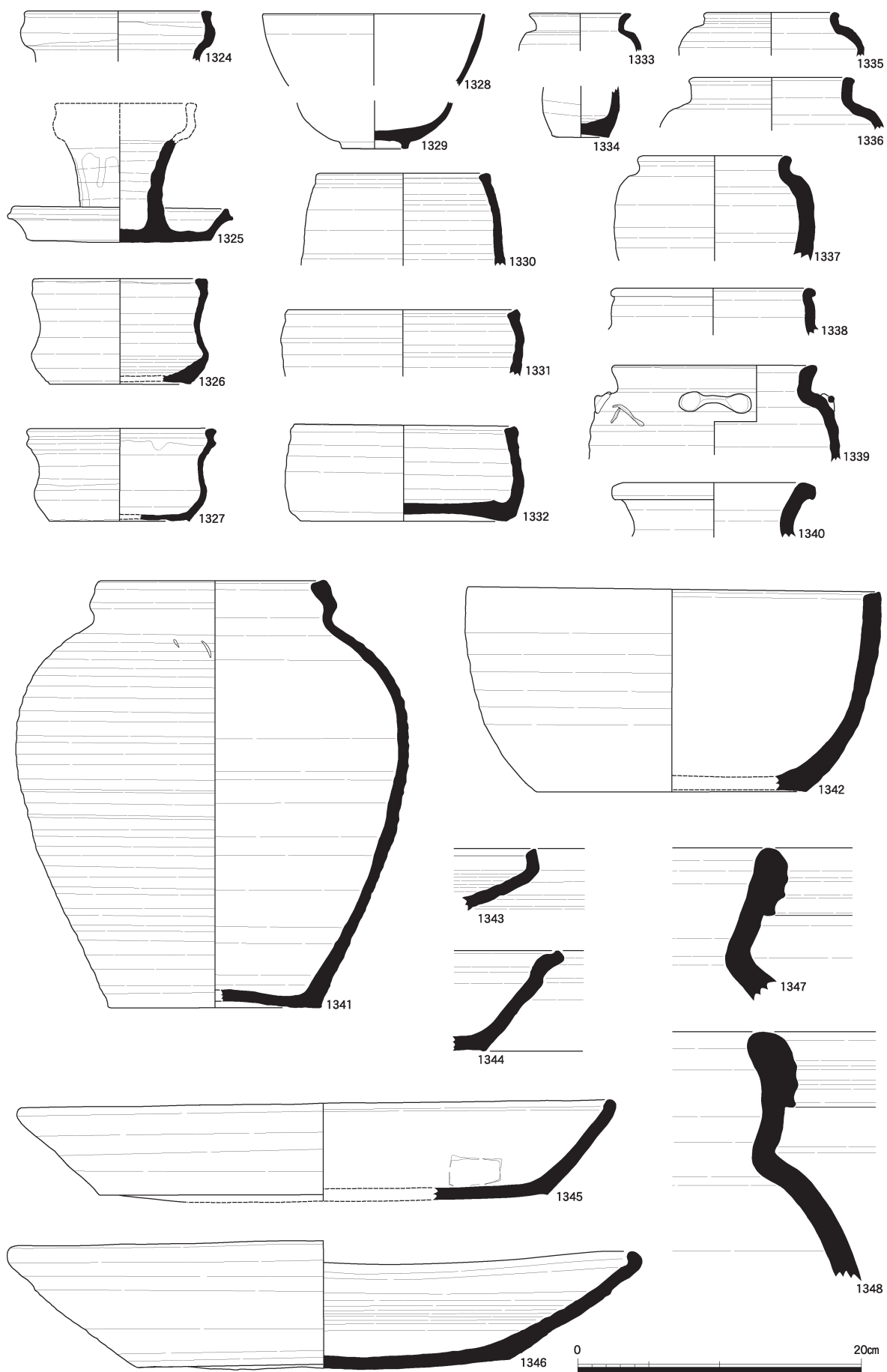


图 92 SK2053 出土土器实测图 - 5 (1 : 4)

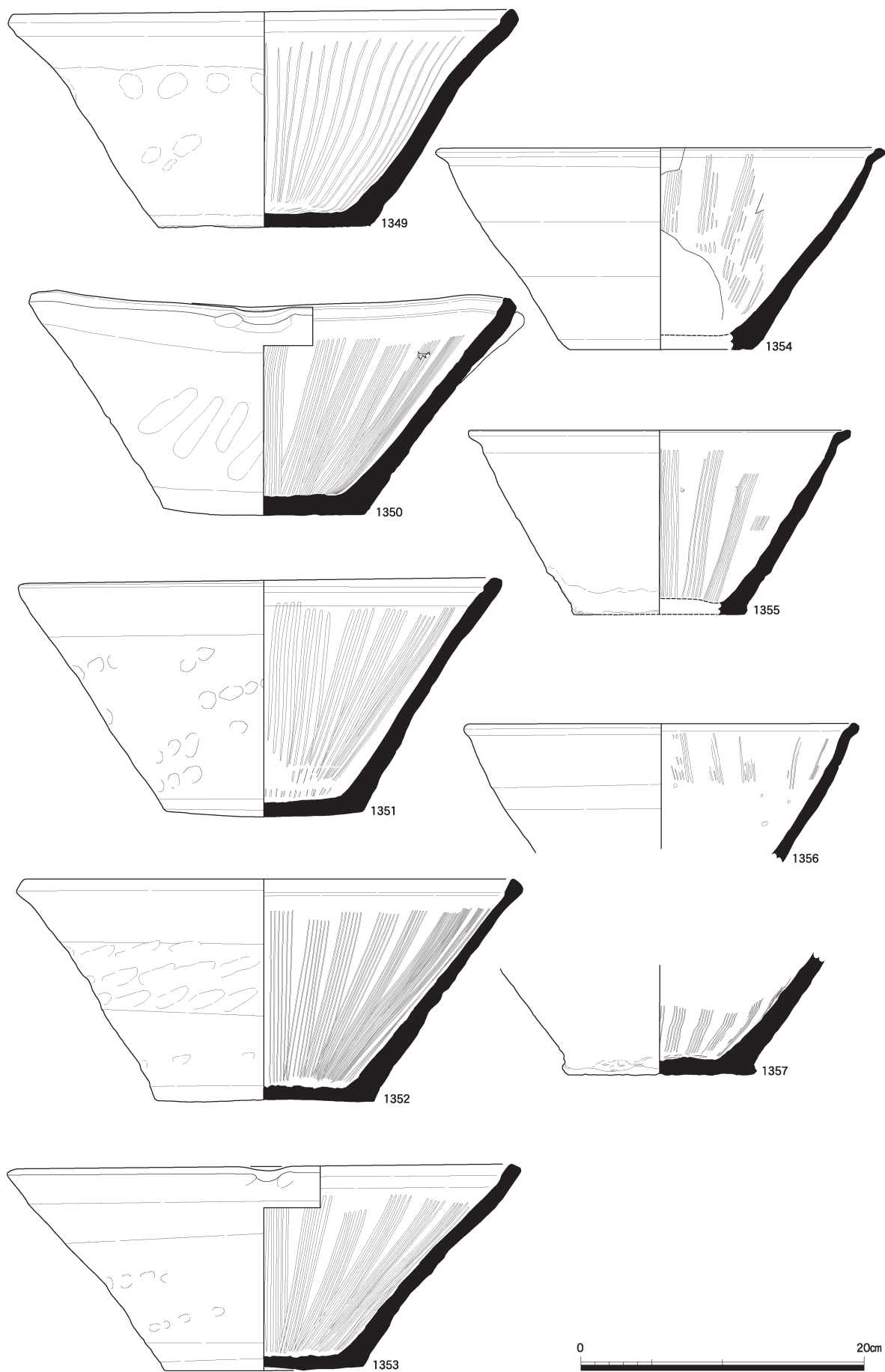


图 93 SK2053 出土土器实测图 - 6 (1 : 4)

表 40 SK2053 出土焼締陶器の産地構成 (破片数)

器形	産地	備前	信楽 (伊賀)	丹波	その他・不明	器形別小計	器形別比率
甕		50 (27.2%)	2 (1.1%)	16 (8.7%)	116 (63.0%)	184 (100.0%)	21.9%
壺		48 (50.5%)	4 (4.2%)	22 (23.2%)	21 (22.1%)	95 (100.0%)	11.3%
播鉢		13 (2.6%)	216 (43.4%)	227 (45.6%)	42 (8.4%)	498 (100.0%)	59.2%
盤・大皿		10 (47.6%)	5 (23.8%)	5 (23.8%)	1 (4.8%)	21 (100.0%)	2.5%
他・不明		16 (37.2%)	1 (2.3%)	11 (25.6%)	15 (34.9%)	43 (100.0%)	5.1%
小計		137 (16.3%)	228 (27.1%)	281 (33.4%)	195 (23.2%)	841 (100.0%)	100.0%

寧である。灯火具蓋 (1317) は外面に密なミガキ、肩部には雁形の透し穴、口縁部にアーチ形の開口部を持つ。1318 は肩部に雁形の、体部には長方形の透し穴を3箇所あける。炉は平底に三足が付く、火鉢に共通する形態だが1方に大きな割りを入れ、内面には突出する受けを3方に付ける。外面は割りの形に沿って密に磨かれている。焼締陶器は丹波・信楽・備前の製品が出土しているが、表 39 では焼締陶器を一括して提示しているので、表 40 に生産地別の構成を示した。数量的には丹波が約 1/3 を占め、信楽がそれに次ぐ。備前の製品は第 4 期や第 5 期の初期と較べて明らかに減少しているが、小型の壺類や水指・建水などの茶陶類では比較的高い比率を占めている。以下に生産地別に概略を述べる。丹波には灯火具 (1324・1325)、鉢 (1326・1327)、盤 (1344・1345)、壺 (1341)、播鉢 (1349～1353) がある。灯火具には把手の付くものがあると思われるが、その部分は残存していない。口縁部に灰釉が施釉される。盤 (1344) は小片で正確な口径不明だが、40 cm 以上の大きさがある。1345 は口径 42.5 cm、内面に陶片を置いて重ね焼きをする。口縁部に掛かる自然釉は透明なビードロ状を呈する。どちらも底部の敷灰は溶けている。壺は高さ 30 cm、頸部を締めした後、口縁を内抱にしている。この口縁形態は丹波小壺にもよく見られるものである。内面には刷毛で粗く釉を塗り、外面には降灰、藁が付着し溶けている。肩部にヘラ刻の窯印がある。播鉢は口径 30 cm 台後半、櫛目の単位は単線のものや 4～6 本のものと同様である。備前には椀 (1328・1329)、壺 (1333～1339)、建水 (1331・1332)、水指 (1330)、鉢 (1342)、盤 (1343・1346)、甕 (1347・1348) などがある。椀 1328 は口径 15.8 cm とやや大振りである。1329 の底部は径 4.7 cm の貼り付け高台で、高台内に「福千代？」の線刻銘がある。内面底部には胡麻状に灰が掛かる。壺には口縁部の短いわゆる種壺形が多い。1339 は 4 箇所に横方向の耳が付き、肩部に「入」のヘラ刻がある。1334 は小壺の下半部、底部外面は糸切り未調整で外面には暗い調子の緋襷が現れている。鉢は口径 29.7 cm の大きなもので、こね鉢として使われたものだろうか。盤 (1346) は口径 44.8 cm、底部に「叶」の窯印がある。大型の甕は大きく折り返した幅広の玉縁の口縁で、外周にナデ痕の凹凸が巡る。信楽には玉縁の壺口縁 (1340) と播鉢 (1354～1357) がある。信楽播鉢の櫛目の単位はすべて 5 本である。国産施釉陶器には美濃・唐津・軟質施釉陶器があり、様々な器種が多量に出土している。その比率は美濃 35.9%、唐津 56.7%、伊万里 6.1%、軟質施釉陶器 1.3% と唐津が過半を占めるとともに、伊万里系磁器が少量含まれている。美濃系の製品では鉄釉天目茶椀 (1358～1384)、白天目茶椀 (1385)、鉄釉丸椀 (1386～

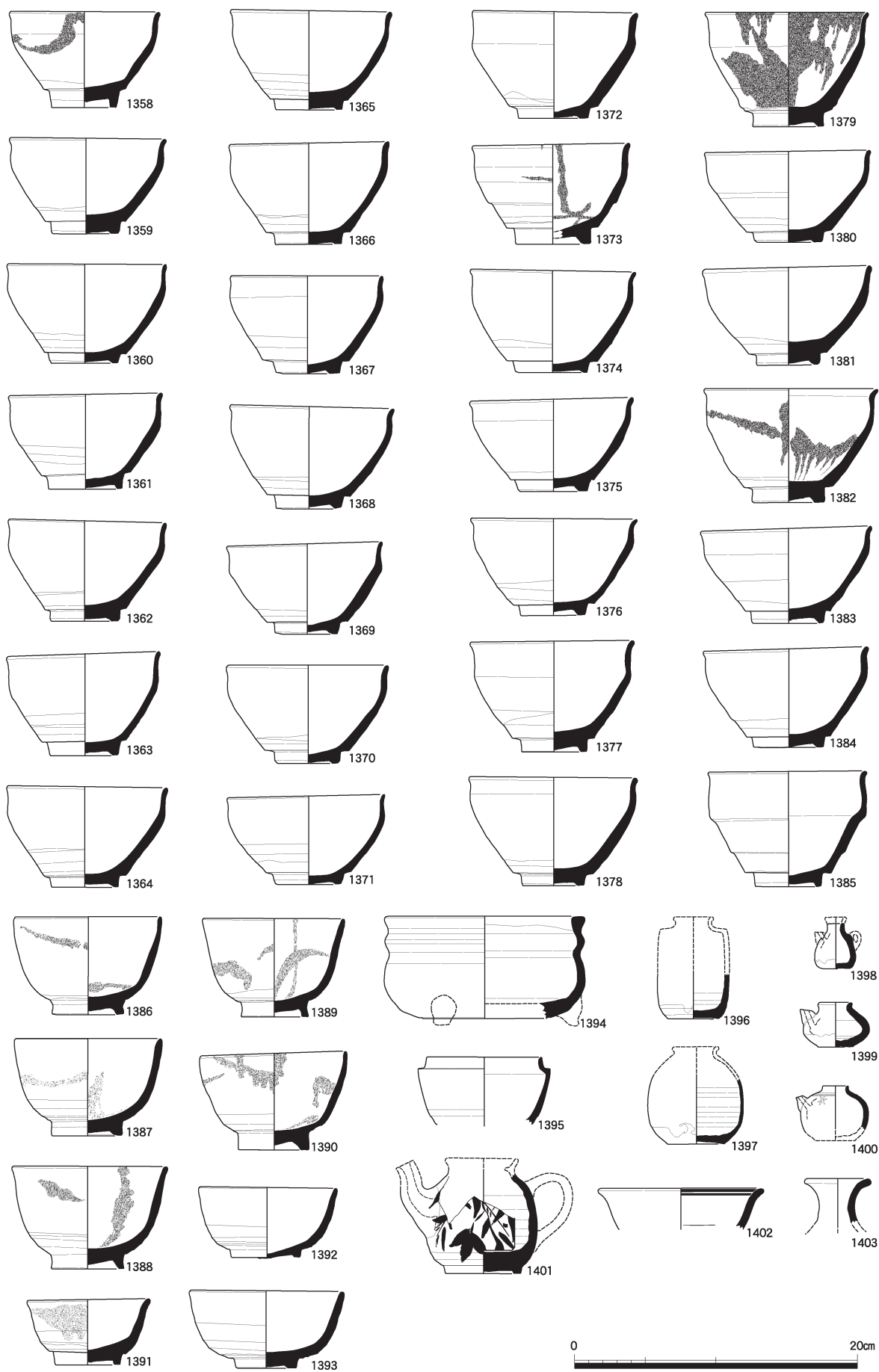


图 94 SK2053 出土土器实测图 - 7 (1 : 4)

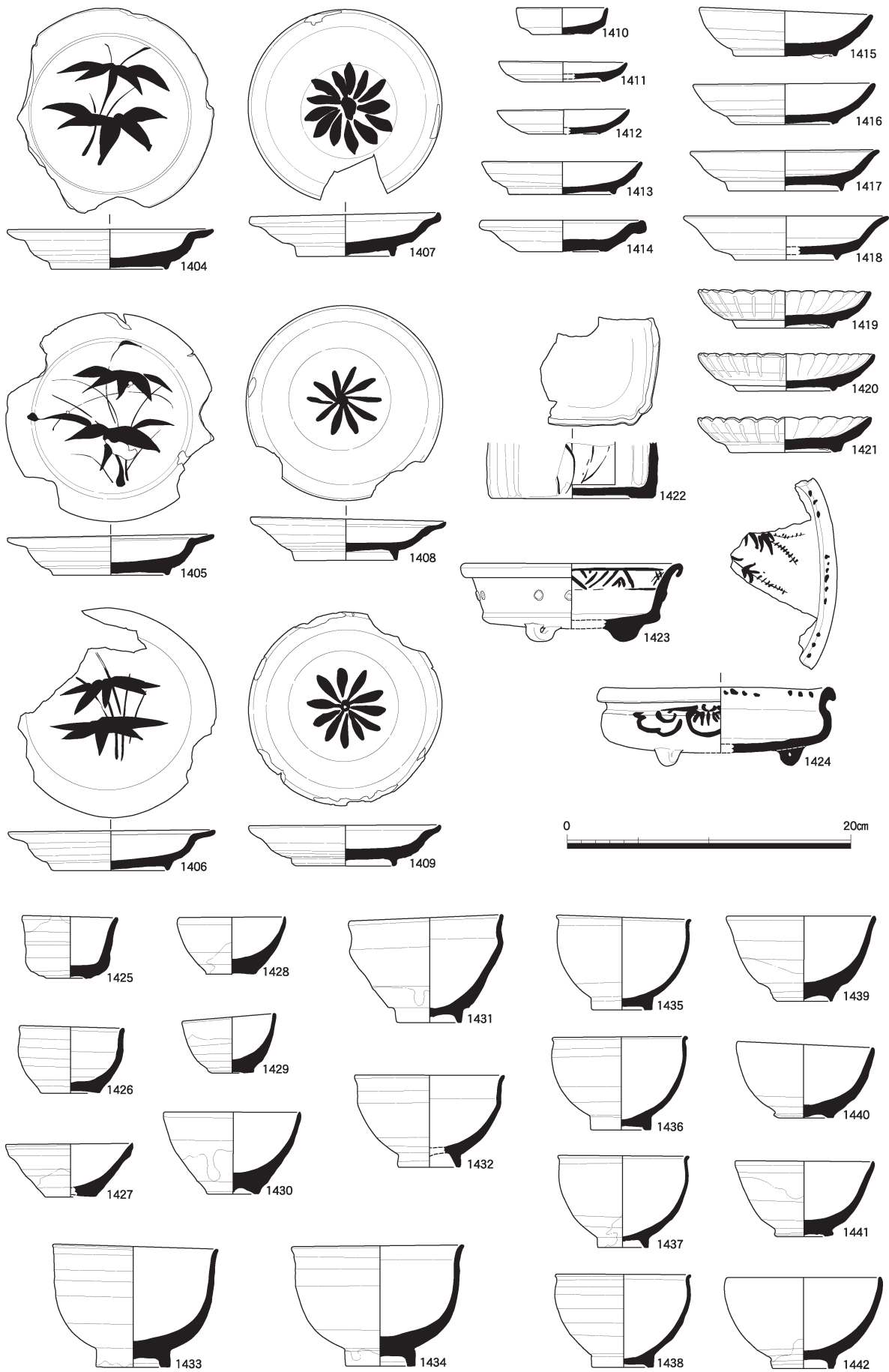


图 95 SK2053 出土土器实测图 - 8 (1 : 4)

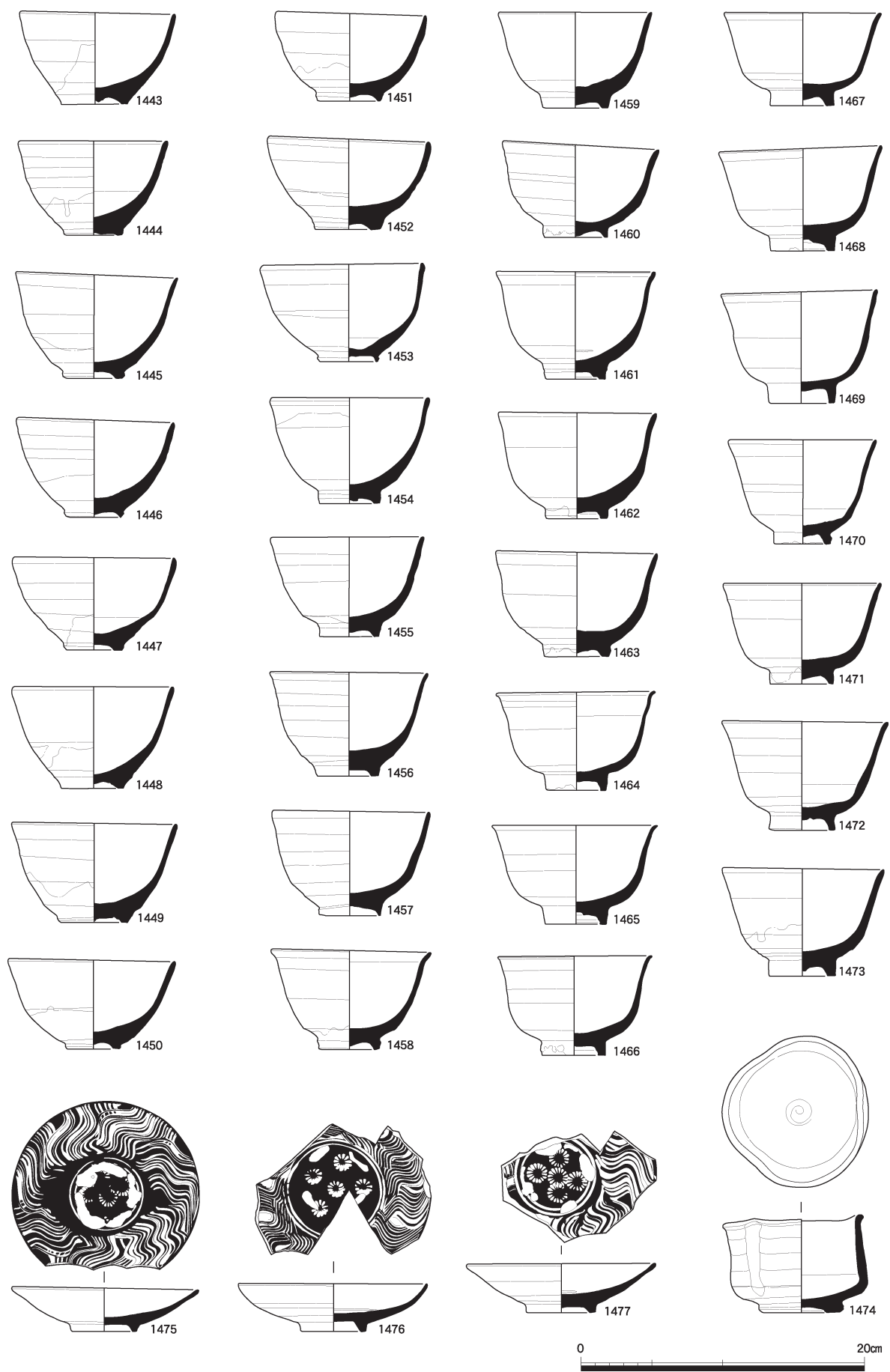


图 96 SK2053 出土土器实测图 - 9 (1 : 4)

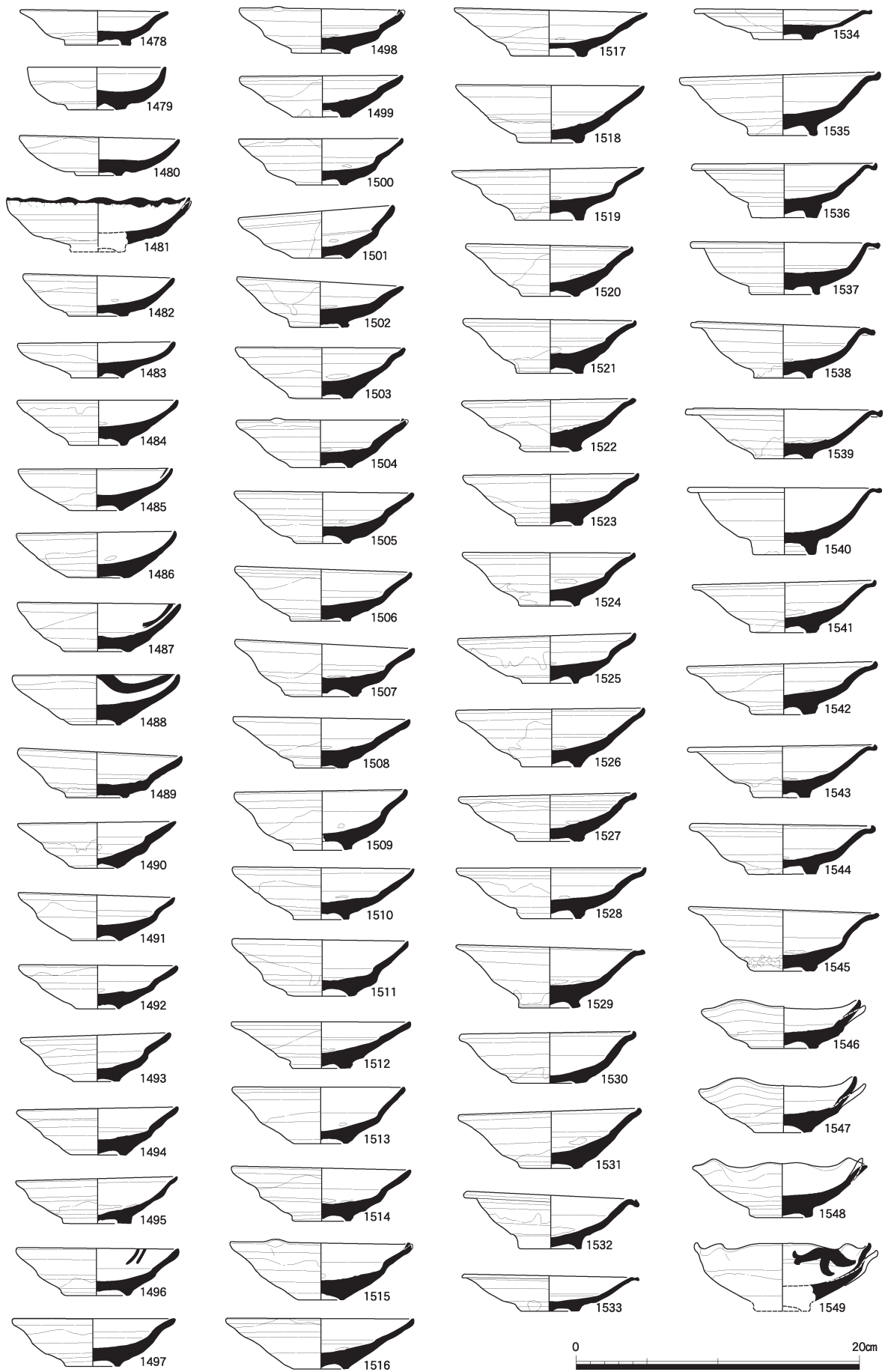


图 97 SK2053 出土土器实测图 -10 (1 : 4)



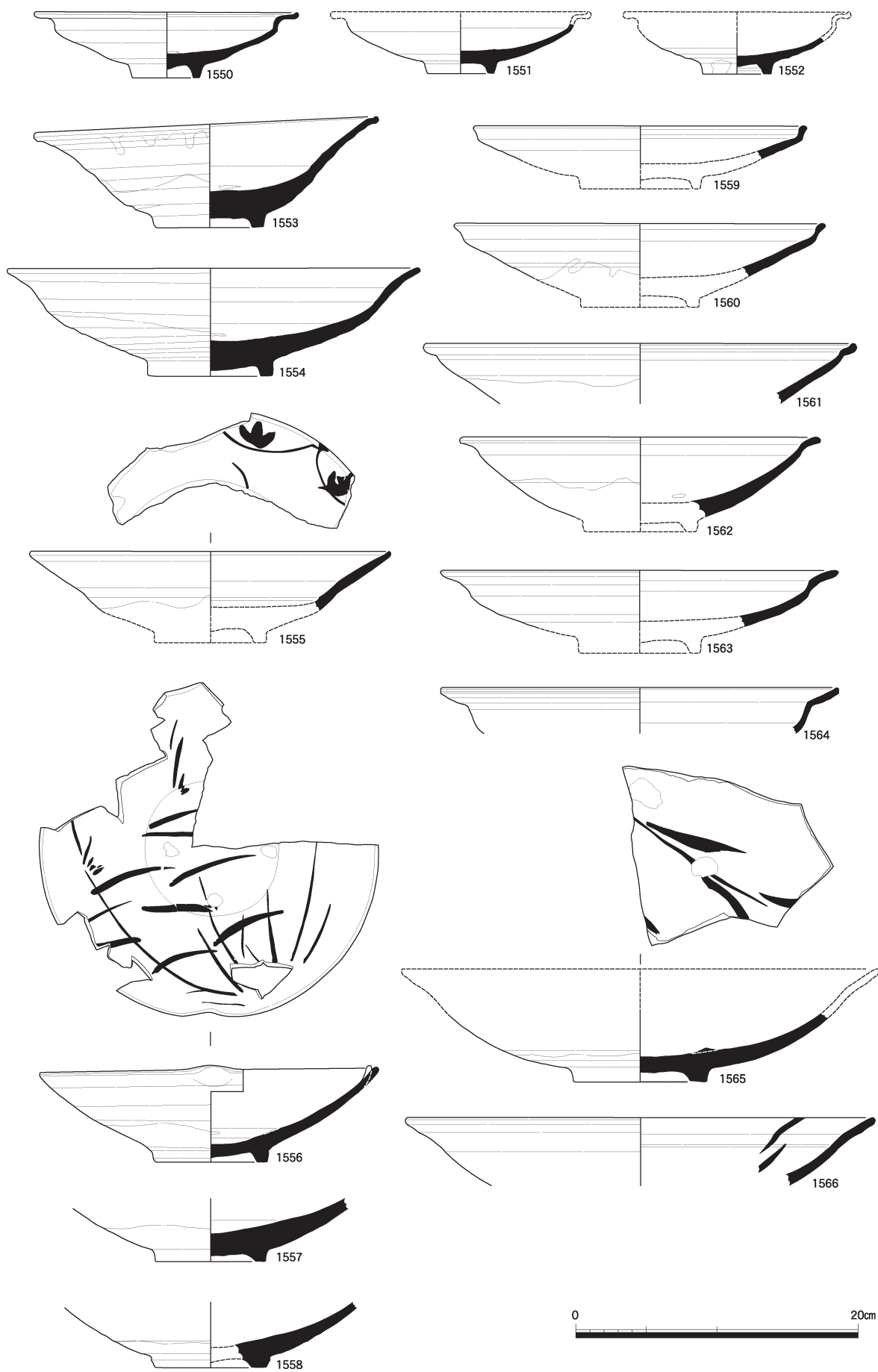


图 98 SK2053 出土土器实测图-11 (1 : 4)

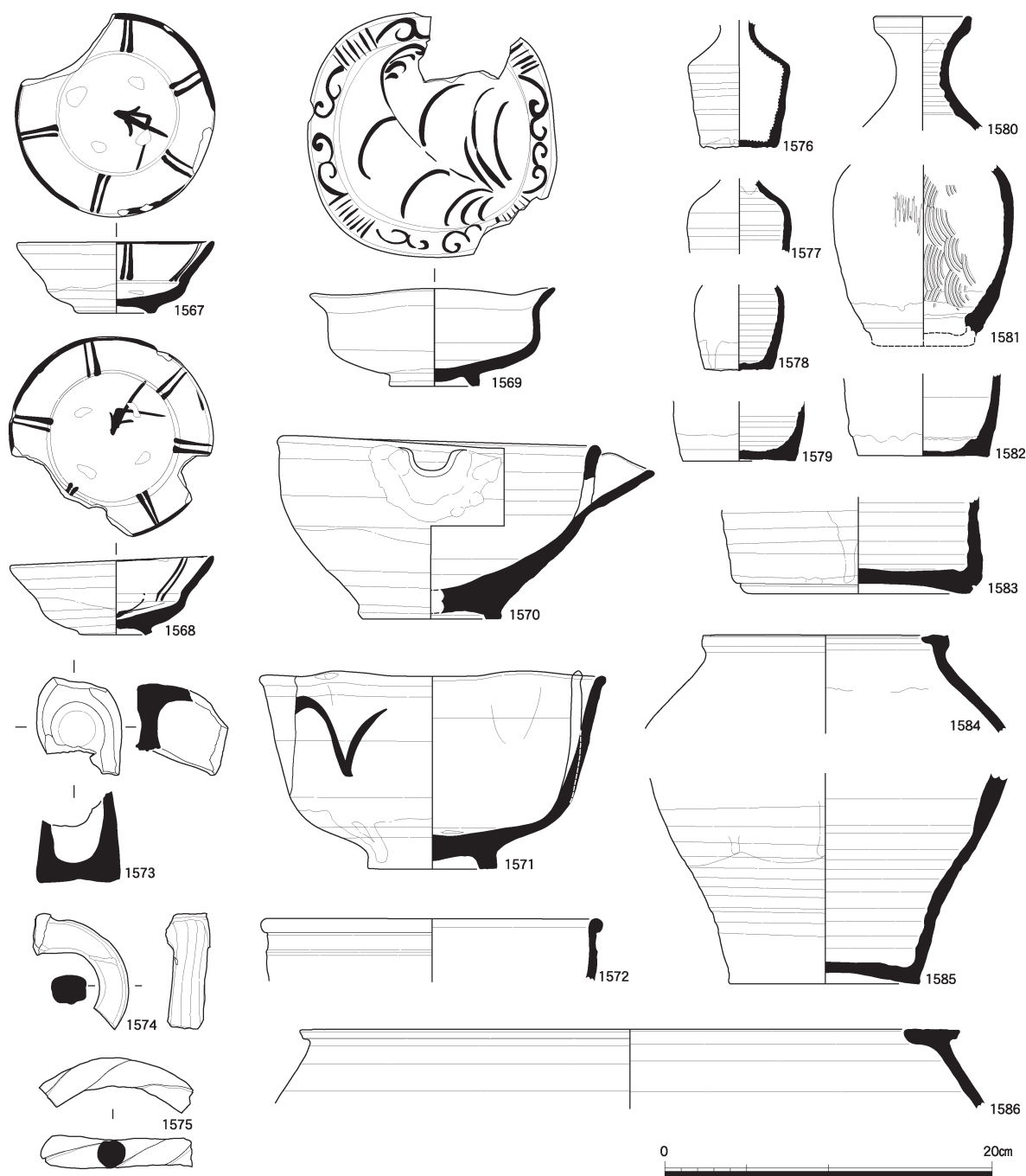


図99 SK2053 出土土器実測図-12 (1 : 4)

1390)、鉄釉小椀 (1391)、長石釉丸椀 (1392・1393)、織部椀 (1402)、皿 (1404～1421)、鉢 (1423・1424)、志野向付 (1422)、鉄釉香炉 (1394)、鉄釉合子 (1395)、織部汁注ぎ (1401)、鉄釉茶入れ (1396・1397)、水滴 (1398～1400)、徳利 (1403) などがある。天目茶椀は口径 11 cm 台のものが大半を占める。1385 が長石釉を掛けた白天目茶椀である以外はすべて鉄釉を施釉するが、二重掛けで灰釉を垂らしたもの (1358・1373・1379・1382) もある。釉調も黒から茶色、マット調から透明感のあるものまで様々のものがある。丸椀は大半が鉄釉に灰釉を垂らした二重掛けである。高台の低い 1392 と 1393 には長石釉が掛けられている。織部椀は内面口縁部に鉄絵の線を 2 条、体部に 1 条巡らせる。皿には灰釉小皿 (1410～1412)、灰釉折縁皿

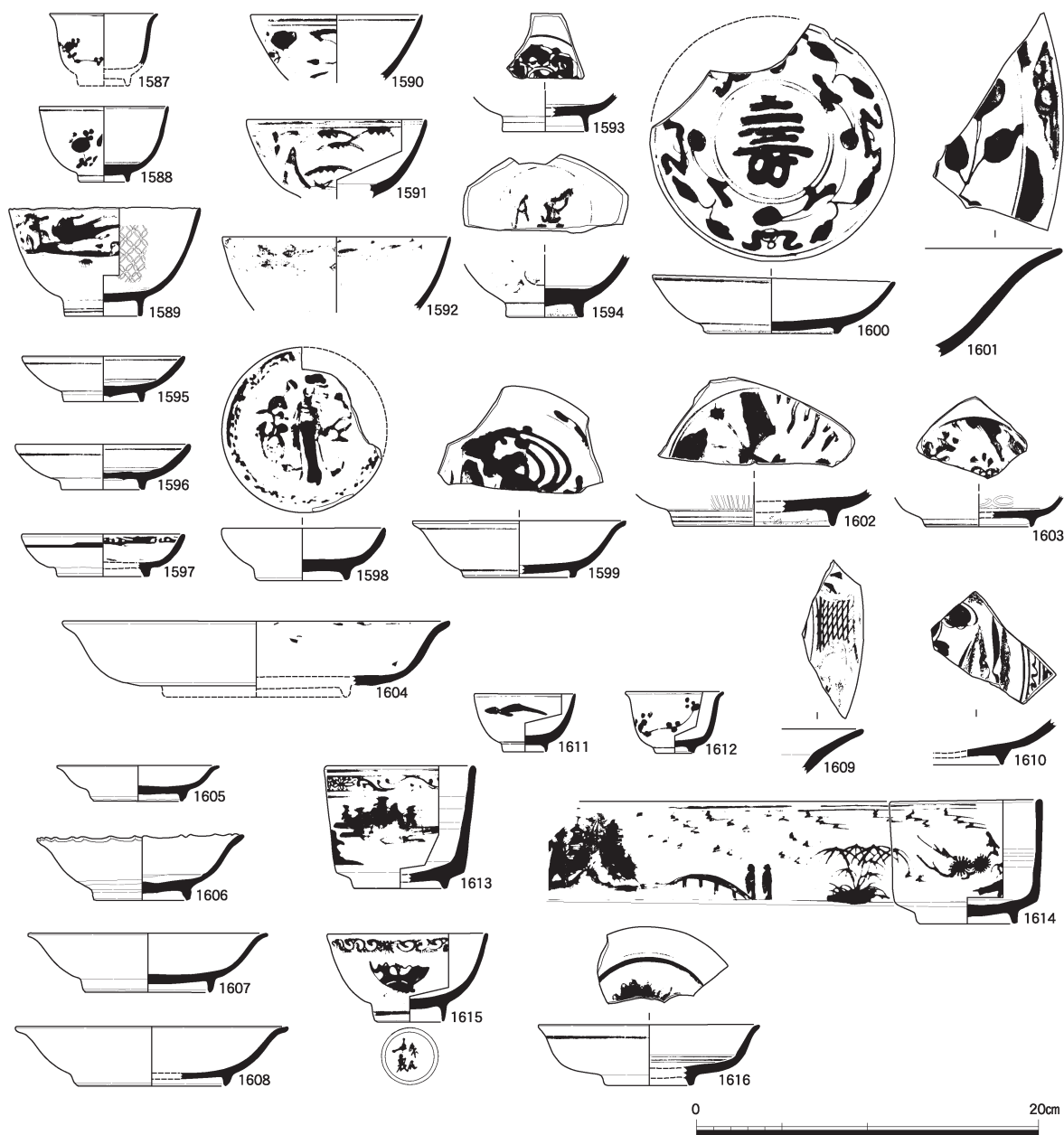


図 100 SK2053 出土土器実測図-13 (1 : 4)

(1414)、長石釉皿 (1413・1415～1418)、長石釉菊皿 (1419～1421)、志野織部皿 (1404～1406)、織部皿 (1407～1409) などがある。志野織部皿・織部皿はいずれも折縁で口径 13～14 cm 台。志野織部皿 (1404～1406) は見込みに笹の絵を大きく描く。1407～1409 は内面底部中央に簡略化した花文を配し、口縁部に織部釉を掛けている。志野三足鉢 (1423・1424) には鉄絵が描かれ底部の 3 方に環足が付く。口縁は下方に折り返されるが、玉縁状に体部と接するまでには至らず垂下した状態である。1423 の体部外面には播座が配されている。1422 は志野四方入隅の向付である。ロクロ成形後、打ち型で方形にしている。外面に草文が描かれる。底部は中央を円形に削り込むいわゆる碁笥高台である。鉄釉合子は蓋受け部分の釉を掻き取っている。1401 は外面に草花文が鉄絵で描かれる。茶入れはどちらも鉄釉。体部に丸みを持つ 1397 は非常に薄く成形されており、別産地の可能性もある。水滴は 1399 が黄瀬戸釉で、他の 2 点は鉄釉で

ある。壺は徳利形の口縁部で、口縁部に織部釉が施される。唐津には椀(1431～1474)、皿(1475～1545・1550～1566)、向付(1546～1549・1567～1569)、盃(1425～1430)、鉢(1570～1572)、壺(1576～1582)、甕(1584～1586)などがある。盃は1426・1427が鉄釉、他は灰釉である。1431・1432は唐津天目茶椀で透明感のある飴釉が掛けられている。1435～1438は丸味の強い薄い器壁の体部と、ごく小さな玉縁状の口縁を持つもので、長石分の多い灰釉を総掛けしている。そのほかの椀は1440・1442が松灰を施したいわゆる青唐津であるのを除いて、長石釉や土灰釉を掛けたものである。沓茶椀の1474は体部の3方を強い指ナデにより変形させている。皿には大中小様々なものがあるが、最も多いのは口径10～13cm台のもので、形態的には、口縁部が外反するもの(1478)、内湾して立ち上がるもの(1479)、緩やかに内湾するもの(1480～1488)、体部中程が屈曲するか段を持つもの(1489～1519)、外方に折れ曲がった口縁の端部を小さくつまみあげたもの(1520～1545)などがある。口縁のつまみ上げは器壁の薄いもの(1532～1545)ほど顕著である。また、これらの皿の中には口縁端部を指押さえて波状にしたもの(1481)や、口縁の3方を小さく押し輪花としたもの(1498・1515)などもある。1481は外面底部以外に藁灰釉を掛けた後、口縁部に鉄釉を漬け掛けしている。1475～1477はいわゆる三島手の皿で、口径は13cm台。なだらかに広がる口縁部の内面に外方に向かって白泥を波状に塗り、中央に5つの印花を押し白泥を塗り込めている。口径18～30cm台の中・大型の皿も小型のものと同様類似した形態が多い。そのほとんどが土灰釉を掛けたものである。大型の皿にも鉄絵が施されたもの(1555・1556・1565・1566)がある。向付では皿の3方を大きく押し上げ変形させたもの(1546～1549)や、体部に段をもち口縁内面に鉄絵を施したもの(1567・1568)、4方を押し上げ内面に鉄絵を描いたもの(1569)などがある。鉢には片口鉢(1570)、絵唐津四方深鉢(1571)、玉縁状の口縁部を持つもの(1572)などがある。壺類には鉄釉と藁灰釉を掛け分けたいわゆる朝鮮唐津徳利(1576・1579～1582)と、鉄釉(飴釉)の徳利(1577・1578)があるが、後者はいずれも口縁部が欠損しており朝鮮唐津の可能性もある。1583は直立した体部に鉄釉を掛けたおそらく水指であろう。甕の口縁部は断面「T」字状を呈する水平な端面を持つ。端面には貝目が残る。体部外面には白濁した釉が掛けられ、底部には靱殻灰を敷いた痕跡が残る。1574・1575は鉄釉が施された把手。1573は器形不明だが、形状や釉薬の施釉状態からみて大型器形に付属する部分と思われる。藁灰と飴釉が厚く掛けられている。軟質施釉陶器は大半が小片であるが、形状のわかるものとして天目茶椀の素地(図101-1617)がある。

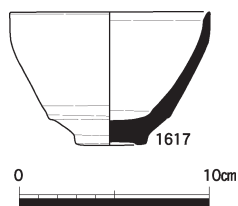


図101 SK2053 出土土器  
実測図-14 (1:4)

この椀は唐物天目茶椀を模したもので、腰部に粘土を盛り上げ、釉だまりを表現している。素地に赤化粧を施し素焼きされている。伊万里系染付磁器には小杯(1611・1612)、半筒椀(1613・1614)、椀(1615)、皿(1616)がある。輸入陶磁器には明染付椀(1587～1594)・皿(1595～1604)、白磁皿(1605～1608)、赤絵皿(1609・1610)がある。明染付椀・皿はいずれも鮮やかに呉須が発色している。1589は口縁に小さな切り込みを入れて輪花とする。この1589や1603の内面に

は押型による文様が施されている。白磁皿はいずれも口縁部が外反する形態である。1606 は口縁に波状に切り込みを入れて輪花としている。

第6期の土器類の概観 第6期は12-B以降としているため、18世紀前期以後の資料すべてを一括して扱っている。これは第2章で述べたように、遺構の残存状況と調査方法の限界により江戸時代後期以降の遺構に十分な調査が及ばず、各期の資料が十分に採集できなかったことによる事が大きい。しかし、遺物の総量としては陶磁器類を中心として18,718片の土器類が出土しており、ここでは全体的な概要にふれた後、一例としてSE2021出土土器類について述べることにしたい。

第6期では土器類全体に占める土師器の比率が21.1%となり、焼締陶器の14.2%のほか火鉢類などに残る少数の瓦器を除くと、9割近くを国産施釉陶磁器が占めている。この国産陶磁器は期の初期には美濃系や唐津系の陶器も依然として高い比率を示すが、後半になると京焼や伊万里系磁器あるいはそれらの影響下に成立した多数の生産地の陶磁器類が多数加わるようになる。

SE2021 出土土器（図102、表41）

SE2021 出土土器は総破片数

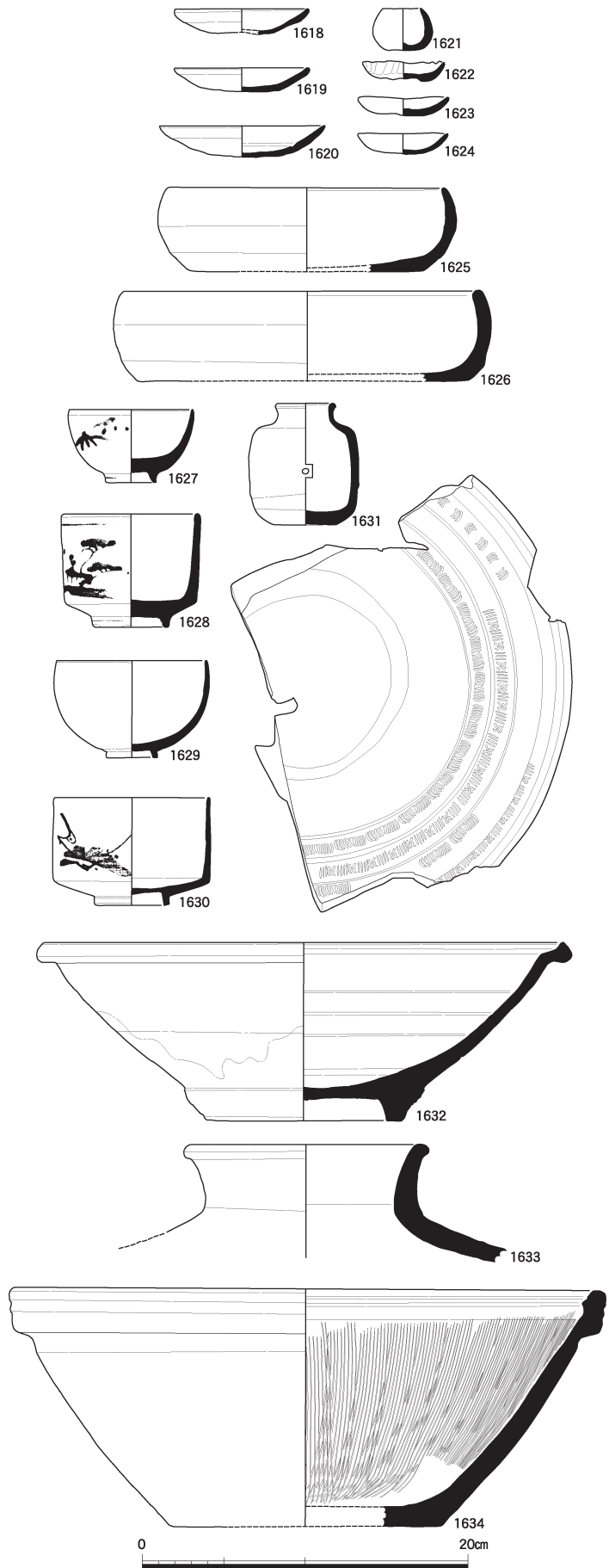


図102 SE2021 出土土器実測図（1：4）

288片あり、その内容は土師器 25.3%、瓦器 1.7%、国産施釉陶磁器 46.9%、焼締陶器 25.7%、輸入陶磁器 0.3%である。土師器の比率は低く、食器類の多くは国産施釉陶磁器で占められている。国産施釉陶磁器の主体は美濃や唐津から伊万里や京焼に変化している。12-A～Bの特徴を持つ土器群である。

土師器には皿 Sb (1618・1619)、皿 S (1620)、皿 N (1622～1624)、小壺 (1621)、鉢 (1625・1626)がある。皿 Sb は口径 8.4 cm、高さ 1.5 cm 前後。皿 S は口径 10.2 cm、高さ 2.0 cm である。皿 N は口径 5.7 cm、高さ 1.3 cm 前後である。小壺は口径 2.4 cm、高さ 2.6 cm。鉢は平底で浅く、内湾する体部を持つもので、底部外面に糸切り痕を残す。口径 16.9 cm と 22.5 cm の 2 種がある。国産施釉陶磁器には美濃茶入 (1631)、唐津鉢 (1632)、伊万里碗 (1627)・半筒碗 (1628)、京焼丸碗 (1629)・半筒碗 (1630)がある。美濃茶入は鉄釉。底部下半は薄く化粧している。体部中央に焼成後に径 0.3 cm 程の孔があげられている。三島唐津大鉢は 30 cm を超える大型のもので、体部は大きく開き、口縁端部は屈曲する。内

面に 3 条の沈線を巡らせ、その間に文様を押印し白土を埋め、灰釉を施す。外面施釉部位以下高台際まで鉄を塗っている。伊万里碗には丸碗と筒碗がある。焼締陶器には信楽壺 (1633) と備前播鉢 (1634) がある。播鉢の櫛目は 9 本単位で、重複して密に施されている。

### (3) 瓦類

瓦類は丸瓦・平瓦・軒丸瓦・軒平瓦・棧瓦・道具瓦などが出土している。このうち軒瓦や道具瓦が 484 点あるが、その大半が江戸時代以降のものである。また、単一の遺構や包含層からまとまって出土した資料もなく、平安時代や鎌倉時代の瓦類も、その多くが本来属する時期より新しい遺構から出土したものである。そのため、以下では平安時代（それ以前の再利用瓦も含む）から室町時代後期までの主要な軒瓦を中心に一括してその概略を記す。

#### 軒丸瓦 (図 103、図版 14・15)

瓦 1 「旨」銘軒丸瓦 蓮華文の中央に「旨」の異体字「旨」を配する。蓮弁は磨滅し不明瞭。外区は 2 本の圈線内に小粒の珠文を巡らす。同銘の軒丸瓦が北野廃寺から、軒平瓦が清涼寺裏池と広隆寺より出土している。長岡京期。山城産。SK0314 出土。

瓦 2 蓮華文軒丸瓦 中房は凸形で、蓮子数は不明。蓮弁は互いに接し、子葉は無い。外区に

表 41 SE2021 出土土器の構成 (破片数)

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	58	79.5%	25.3%	
	鍋・釜	6	8.2%		
	炉・火鉢	0	0.0%		
	他・不明	9	12.3%		
	小計	73	100.0%		
瓦器	炉・火鉢	2	40.0%	1.7%	
	鉢	0	0.0%		
	他・不明	3	60.0%		
	小計	5	100.0%		
国産施釉陶磁器	瀬戸・美濃	碗・皿	9	90.0%	7.4%
		鉢・向付	0	0.0%	
		壺・瓶	1	10.0%	
		盤・大皿	0	0.0%	
		他・不明	0	0.0%	
	小計	10	100.0%		
	唐津	碗・皿	8	29.6%	20.0%
		鉢・向付	7	25.9%	
		壺・瓶	0	0.0%	
		盤・大皿	12	44.4%	
他・不明		0	0.0%		
小計	27	100.0%			
伊万里	碗・皿	46	86.8%	39.3%	
	鉢・大皿	2	3.8%		
	壺・瓶	5	9.4%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	53	100.0%		
京焼・他	碗・皿	27	60.0%	33.3%	
	鉢・大皿	3	6.7%		
	壺・瓶	4	8.9%		
	他・不明	11	24.4%		
	小計	45	100.0%		
国産施釉陶磁器計		135	100.0%	46.9%	
焼締陶器	甕	30	40.5%	25.7%	
	壺	1	1.4%		
	播鉢	43	58.1%		
	盤・大皿	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	74	100.0%		
輸入陶磁器	碗・皿	1	100.0%	0.3%	
	鉢	0	0.0%		
	壺・瓶	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	1	100.0%		
総数		288		100.0%	

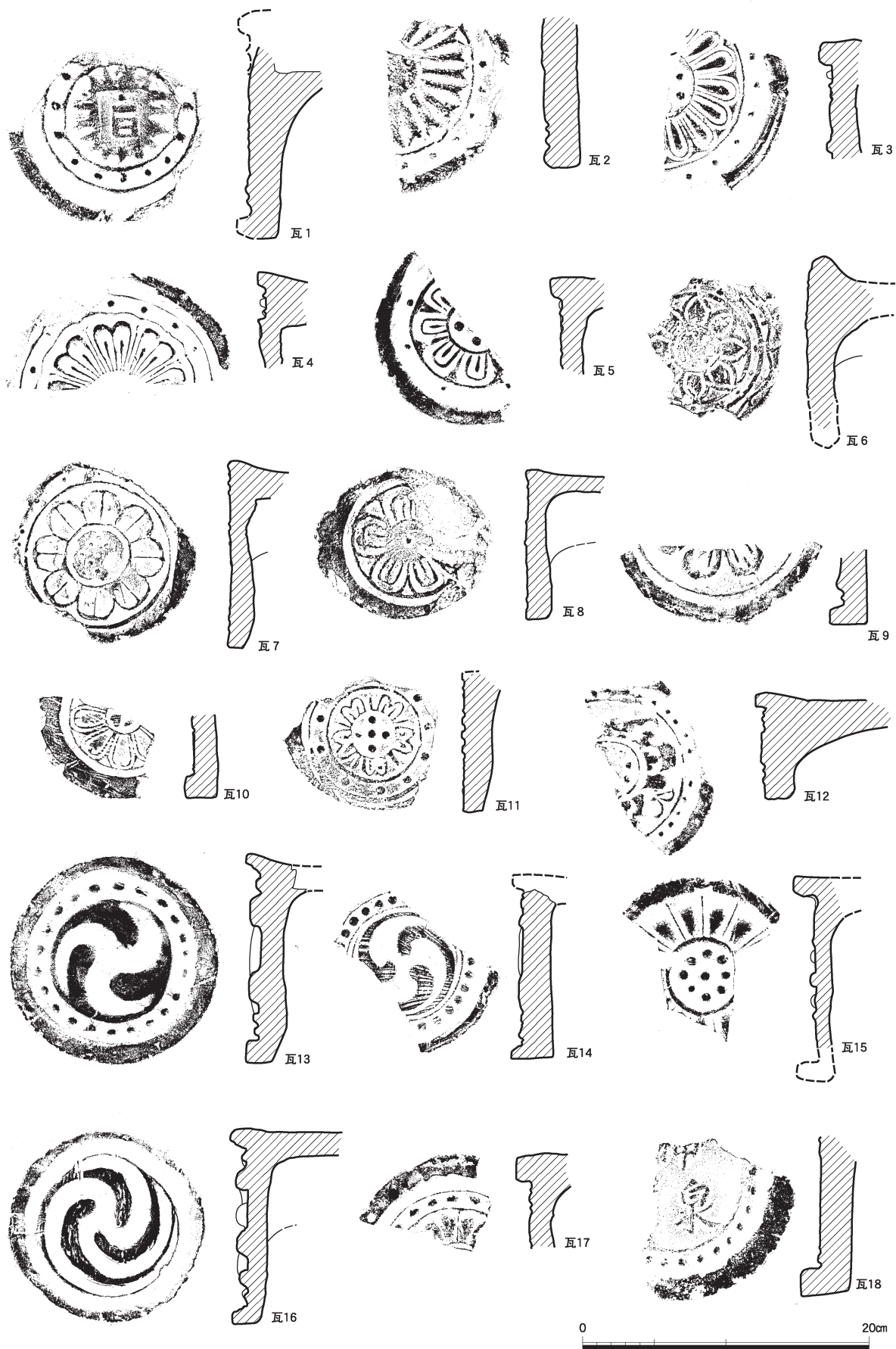


图 103 軒丸瓦拓影·実測図 (1:4)

は珠文が密に巡る。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、粘土を付加して接合する。胎土は白色砂粒を多く含み、灰色でやや硬質。長岡宮 7171 型式。(木村 1122)。SK0238 出土

瓦 3 単弁蓮華文軒丸瓦 中房は平坦で圏線が巡り、蓮子数は不明。蓮弁は凸線で、子葉は盛り上がる。間弁は一箇所だけ中房まで伸びている。内外区は界線で画され小粒の珠文が巡る。胎土は精良で灰白色、やや硬質。平安時代前期。西賀茂角社窯産。(平安京古瓦図録 42、以下平古と略す)。Pit1909 出土。

瓦 4 複弁蓮華文軒丸瓦 内側の界線が正円ではなく、弁端のふくらみに対応して曲線を描く。胎土は精良、灰色から暗灰色、やや硬質である。平安時代前期。東寺境内窯産。東寺 (NM12) や右京六条一坊十四町<sup>1)</sup> SD34 から同型のものが出土している。第 2 期包含層出土。

瓦 5 単弁蓮華文軒丸瓦 中房は平坦で蓮子数は不明。蓮弁は凸線であらわす。間弁は界線から中房圏線まで延びる。外区珠文は間隔が広い。胎土精良、灰色から黒色。硬質。平安時代後期。山城産。SK0257 出土。

瓦 6 単弁蓮華文軒丸瓦 中房は界線で区切られる。磨滅が激しく蓮子数は不明。花卉は先端を尖らせ、輪郭線は内外区の界線に接する。さらに圏線を巡らせ小さな珠文を配し、その外側に唐草を巡らす。胎土は砂粒少なく明灰褐色。焼成はやや軟質。平安時代中期。森ヶ東窯産。(平古 236)。第 5 期包含層出土。

瓦 7 単弁 8 葉蓮華文軒丸瓦 中房は界線で囲み、中央が 4 弁の蓮座形に盛り上がる。蓮子は小粒ですべては確認できないが、1 + 8。花卉と稜線は凸線で表現される。界線外側に配された珠文は蓮子と同じく小粒である。平安時代中期。幡枝窯産。(平古 108・109 と同文)。SE2469 出土。

瓦 8 単弁蓮華文軒丸瓦 中房は平坦で圏線が巡り、蓮子は中心の一つだけみとめられる。蓮弁および間弁は凸線で表現する。外区には珠文は無い。瓦当面は楕円形を呈する。平安時代後期。山城産。SK0314 出土。

瓦 9 単弁蓮華文軒丸瓦 蓮弁は先端を尖らせるが、子葉は 2 本で複弁的な要素も持つ。界線を巡らせ、外区に珠文は無い。胎土精良、灰色から黒灰色で硬質。平安時代後期。SX0230 出土。

瓦 10 単弁蓮華文軒丸瓦 内区・外区ともに平坦で蓮弁・間弁・界線とも凸線であらわす。子葉は無い。胎土は精良、灰色から暗灰色、硬質。平安時代後期。第 5 期包含層出土

瓦 11 複弁 5 葉蓮華文軒丸瓦 中房は平坦で圏線が巡り、蓮子は 1 + 4。蓮弁と間弁は凸線で表現し、外区には珠文が巡る。瓦当面は楕円形。平安時代後期。幡枝窯産。SK0234 出土。

瓦 12 単弁蓮華文軒丸瓦 中房は平坦で圏線が巡る。蓮子数は不明。蓮弁は 4 弁で盛り上がり、子葉があり。外区には珠文が密に巡る。平安時代後期。大和産。平等院・大和薬師寺・興福寺で同文瓦が出土している。SK0234 出土。

瓦 13 三巴文軒丸瓦 頭部が離れた右巻き巴文の尾部が互いに接して圏線を成す。外区には大きな珠文を密に配する。胎土は精良で硬質。黒色を呈する。平安時代後期。山城産。(平古 256 と同文)。SK0492 出土。

瓦 14 三巴文軒丸瓦 頭部が離れた左巻き巴文は尾部が互いに接して圏線を成す。外区には大



きな珠文を密に配する。胎土は精良で硬質。黒色。平安時代後期。山城産。SE2084 出土。

瓦 15 蓮華文軒丸瓦 中房は平坦で圈線が巡り、1+8の大粒の蓮子を配する。中房圈線から外区に延びる直線により蓮弁をあらわす。裏面には指ナデ痕を明瞭に残す。胎土は砂粒を含み褐灰色から灰色。硬質。平安時代後期。播磨神出窯産。SK0313 出土。

瓦 16 三巴文軒丸瓦 頭部の離れる右巻き巴文は尾部が互いに接している。珠文帯は無い。胎土は精良で硬質。黒色を呈する。平安時代後期。山城産。SK0544 出土。

瓦 17 複弁蓮華文軒丸瓦 界線は2重で楕円形の珠文を密に配する。蓮弁は2つ盛り上がる。胎土精良、暗灰色。焼成は硬質で陶器質である。平安時代後期。播磨神出窯産。SK0314 出土。

瓦 18 「神泉□」銘軒丸瓦 界線に区切られた平坦な内区に「神泉□」の文字が残る。外区には小さな珠文が密に配される。室町時代。SX0230 出土。

軒平瓦 (図 104、図版 16・17)

瓦 19 均整唐草文軒平瓦 中心飾りは「小」字形に3葉を配する。唐草文は左右に3反転する。主葉・子葉は強く巻き込み、先端が肥厚する。外区には大粒の珠文を密に配する。凹面には布目圧痕、裏面は板ナデ。側面はタテ方向に削り、凹面との稜を面取りしている。胎土は砂粒を含み灰黄白色、やや軟質。奈良時代(平城宮 6732Zb 型式)。SK0400 出土。

瓦 20 均整唐草文軒平瓦 中心飾りは上向きC字形で、中に花頭形を配する。唐草各単位は離れ、主葉、支葉は強く巻き込む。界線は二重。曲線顎。胎土は砂粒を含み、焼成はやや硬質。奈良時代(平城宮 6663M 型式)。SX0230 出土。

瓦 21 均整唐草文軒平瓦 中心飾りは上向きC字形で、中に花頭形を配する。唐草各単位は離れ、主葉、支葉は強く巻き込む。外区には小さな珠文を密に配する。胎土は砂粒を含み、灰色。焼成はやや硬質。奈良時代(平城宮 6664 型式)。SK0258 出土

瓦 22 均整唐草文軒平瓦 唐草文は3反転する。界線は二重。胎土には砂粒を含み灰色、やや軟質。奈良時代(平城宮 6663-C 型式)。SK0421 出土。

瓦 23 均整唐草文軒平瓦 中心飾りは上向きC字形。その中に花頭形を配する。胎土は灰色でやや軟質。奈良時代(平城宮 6663-H 型式)。Pit1970 出土。

瓦 24 均整唐草文軒平瓦 唐草の単位は離れ、巻き込みが強い。外区には珠文を配する。胎土は精良で硬質。奈良時代(平城宮 6664F 型式)。SX0257 出土。

瓦 25 唐草文軒平瓦 簡略化した主葉は反転し、子葉は直線的な表現で放射状に配される。外区にはやや大粒の珠文を配する。胎土は砂粒を含み、褐灰色から黒灰色。第2期包含層出土。

瓦 26 均整唐草文軒平瓦 対向C字形の中心飾りを持ち、唐草は3反転する。主文は密に配される。凹面に布目がわずかに認められる。裏面はタテ方向の板ナデ。側面・顎部凸面はケズリ。胎土は砂粒を含み灰白色、やや軟質。平安時代前期。栗栖野産か。(平古 369 と同文)。SK0400 出土。

瓦 27 「栗」銘均整唐草軒平瓦 対向する複線のC字形の中に「栗」の逆字を入れた中心飾りをもつ。曲線顎。胎土は密でやや軟質。淡黄色を呈する。平安時代前期。栗栖野瓦窯。SK0314 出土。

瓦 28 緑釉均整唐草軒平瓦 中心飾りは対向C字形と思われる。唐草は2転半し巻き込みは強

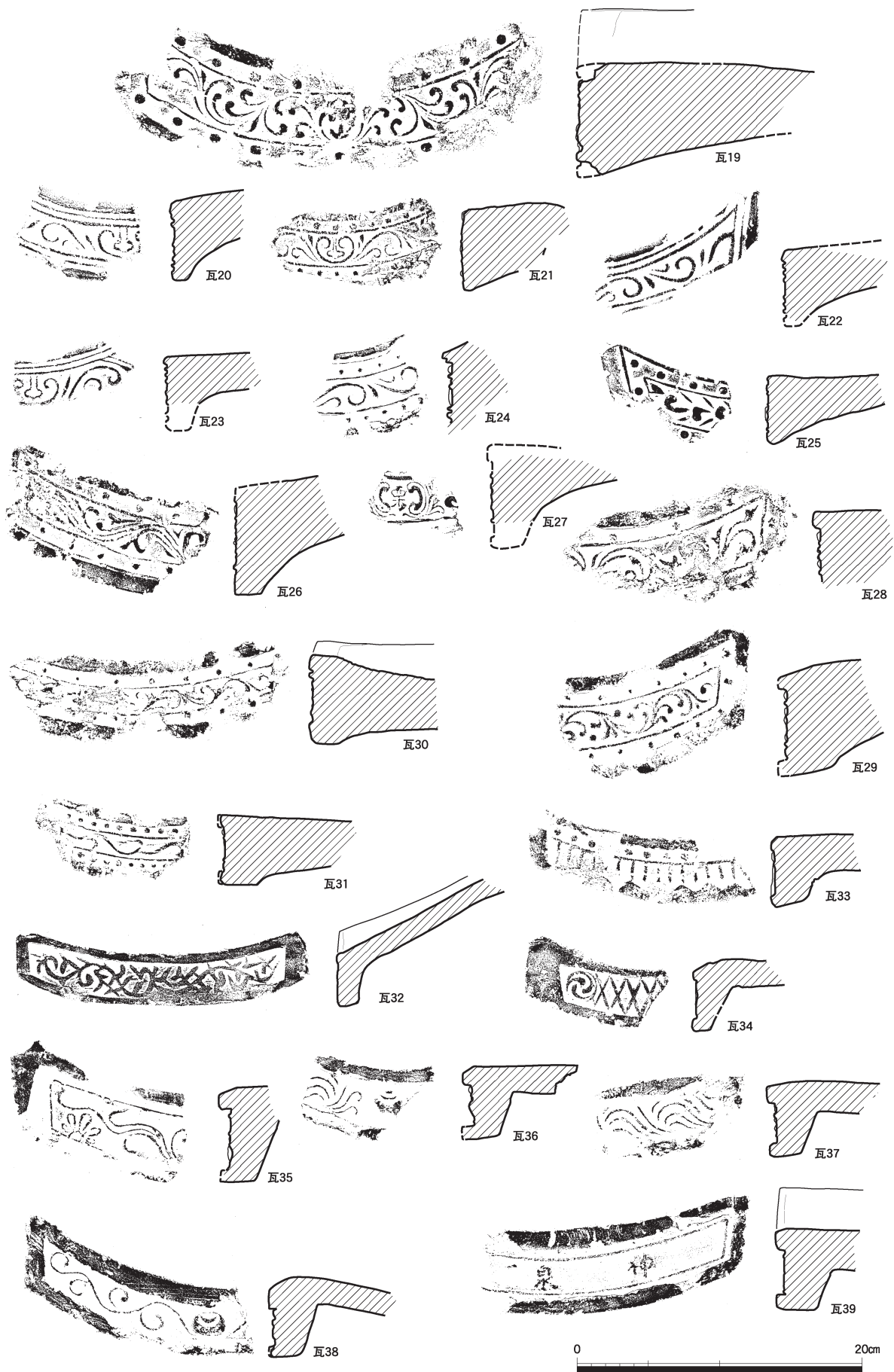


图 104 軒平瓦拓影·実測図 (1 : 4)

い。外区珠文は間隔を置いて配される。胎土は砂粒を多く含み黄灰色、やや軟質。釉は濃緑色を呈する。平安時代前期（平古317）。幡枝産。SE2040出土。

瓦29 緑釉均整唐草文軒平瓦 唐草は3転半し巻き込みは強い、先端は水滴状。曲線顎。胎土はやや砂質で灰色。焼成はやや軟質。釉は鮮緑色。凹面は瓦当面より6cmまで施釉。他の部分は残存部全面に施釉される。平安時代前期。岩倉幡枝瓦窯産。（平古318と同文）。第4期包含層出土。

瓦30 均整唐草文軒平瓦 中心飾りを欠く。唐草文の巻き込みは強く先端が玉状になる。胎土は砂質。灰褐色、やや硬質。平安時代。SK3400出土。

瓦31 均整唐草文軒平瓦 退化したS字状の唐草が反転する。珠文帯には小さな珠文を密に配す凹面は布目。凸面は板状のものによるナデ。押圧のための指痕が残る。側面、顎部下面はヘラケズリ。平安時代中期。山城産。SK0220出土。

瓦32 唐草文軒平瓦 唐草文は変則的で左半は3反転するが、右半は波状に緩く連続する。支葉の配置も不規則である。瓦当部成形は折り曲げ技法。平安時代後期。山城産。SK0213出土。

瓦33 剣頭文軒平瓦 界線で区切られた上外区にやや大きめな珠文を配する。凹面は布目圧痕。胎土は精良、やや硬質。薬師寺に例がある。鎌倉時代前半。SK0315出土。

瓦34 格子三巴文軒平瓦 斜格子文の端に右巻き三巴文を配する。巴文の頭部は離れ、尾部は互いに接する。曲線顎。半折り曲げ技法。胎土は灰白色。やや硬質。平安時代後期。山城産。SX0784出土。

瓦35 唐草文軒平瓦 主葉は連続して緩やかに反転し、支葉の巻き込みは弱い。端部に半裁花文を配する。胎土は精良で硬質。二次焼成を受けて赤褐色を呈する。室町時代後期か。大和産。SE0340出土。

瓦36 軒平瓦 中心に配した宝珠文に向かって3～4本単位の曲線で波状の文様をあらわす。室町時代。大和産。SX2114出土。

瓦37 軒平瓦 内側に向け1単位4本の曲線で波をあらわす。胎土砂粒を含む。硬質。二次焼成を受けて赤褐色を呈する。室町時代。大和産。西大寺に同文の出土例がある。第4期包含層出土。

瓦38 唐草文軒平瓦 中心に宝珠文を配し、主葉は連続して緩やかに反転する。支葉の巻き込みは強い。段顎。凹凸両面ともに丁寧なヨコナデ。胎土は砂粒を含み、硬質。二次焼成を受けて黄褐色を呈する。室町時代後期か。大和産。法隆寺に同文の出土例がある。Pit0312出土。

瓦39 「神泉□」銘軒平瓦 界線で区切られた平坦な内区に「神泉□」の文字がある。左1/3が欠失しているが右に「神」中央に「泉」があり、おそらく欠失部に「苑」があったものと推測される。瓦18と組み合うものだろう。胎土は精良で硬質。黒灰色。室町時代後半か。SE0113出土。

瓦40 丸瓦の凸面に経文の一部が線刻されたもの。焼成前の線刻であるが、乾燥がかなり進んだ段階で施されたようで、全体に彫りは浅く判読不可能な部分もある。経文は先端部を下に右端から2行、やや間隔をあけて5行が確認できるが、瓦の左半および上部が欠失しており各行の文頭は不明である。経文の内容は右2行が『妙法蓮華経 譬喩品第三（法華経巻第二）』、左5行が『妙法蓮華経 妙莊嚴王本事品第二十七（法華経巻第七）』からの引用であるが、経文の区切りで見れ



見舍利弗於佛前受阿耨多羅三藐三菩提

提記心大歡喜踊躍無量各各脫

大王當知善知識者是大因緣所謂化導令得見佛發阿耨多羅三藐三菩提

心大王汝見此二子不此二子已曾供養六十五百千萬億那由他恒河沙諸佛

親近恭敬於諸佛所受持法華經厭念邪見衆生令住正見妙莊嚴

王即從虛空中下面白佛言世尊如來甚希有以功德智慧故頂上

肉髮光明顯照其目長廣而紺青色眉間毫相白如珂月齒白

で開んだ文字は欠失または判読困難

瓦 40

図 105 瓦経

ば第1行目の「舍」の前に「見」の一字がある。経文ではさらにこの「見」の前に「天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓緊那羅摩睺羅伽等大衆」の22文字が連続する一文がある。二行に分割するには第1行が瓦の縁に寄りすぎており、右側にもう1行を線刻する余裕はない。瓦の玉縁寄りから線刻が始まっているとすれば瓦の大きさにおさまる文字数かもしれないが、経文によれば第1行目の末尾の「菩」と第2行目の「踊」との間は「菩提記心大歡喜」の7文字しかなく、これを第2行の前につなげたとしても文頭が揃わないことになる。あるいは前文を線刻せずに「見」から始まっていると考えてもやはり文頭は揃わない。また第2行目末尾の「脱」以下には線刻の痕跡がないが、経文としては少なくともその余白に「身所着上衣」と続くべきで、改行と考えると区切り位置が変則的である。第3行目以降の経文についても、欠失部の文字を補えば各行の文頭の位置には、かなりばらつきがあることが想定できる。また巻の異なる経文の部分を連記している点から見ても、整えた配置で特定の経文を連続的に写経するような通常の瓦経とは性格をやや異にしているようである。いずれにせよ経文の内容や瓦の大きさ、時期などの点からみて、四条坊門小路を隔てた北側に存在した本能寺に関連する可能性の高い遺物である。2区西部第4期包含層出土。

#### (4) その他の遺物

土器・陶磁器類や瓦類以外では土製品・石製品・金属製品・骨・貝製品・木製品あるいは食物残滓・動物遺体など多様な遺物がある。以下ではそれらの中で整理の進んだ主要なものについてその概要を記述する。

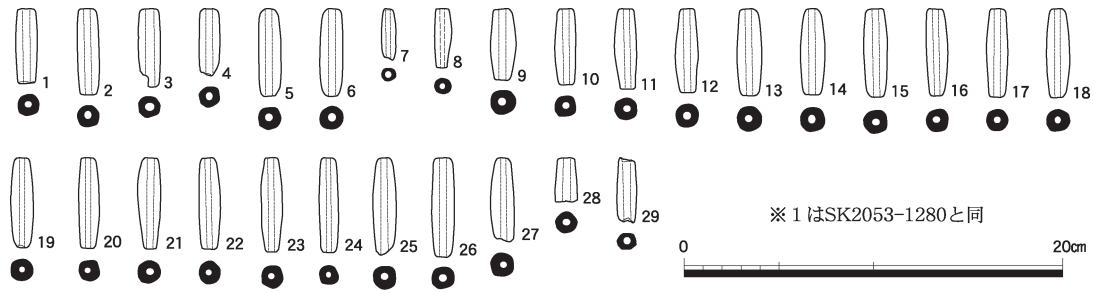


図 106 土錘実測図 (1 : 4)

### 土製品

土製品にはおもに江戸時代の土壙から出土した円盤状土製品・土鈴・犬などと、鎌倉時代から江戸時代までの各時期の遺構や整地層から出土した土錘がある。今回は土錘についてその概略を記す。

土錘 (図 106、表 41) 土錘は総数 29 点出土している。すべてが細い棒状の芯に粘土を巻き付けて成形したもので、側面からみた形態の特徴によって円筒形・葉巻形・紡錘形の 3 種に分類した。寸法や重量は表 41 に示したが、長さ 2.7 cm の土錘 7 と 3.2 cm の土錘 8 の 2 点を除けば、4.6 cm 前後のものが多く、重量は最大でも 8 g と大型品はない。半数近くが第 4 期の遺構や包含層 (整地層) から出土しているが、他の時期に属するものもあり、上記 3 形態の時期差による変化はほとんどみられない。

### 石製品

石製品には鍋・温石など滑石製品・硯・石臼・石塔・礎石などがある。

滑石製羽釜 (図 107、図版 30) 滑石製羽釜にはいくつかのタイプがあり、破片も含めれば多数出土している。各タイプから比較的遺存状態の良い 1 点ずつを図示した。

羽釜 (滑石 1) 口径 18.2 cm、高さ 7.4 cm、鏝径 21.0 cm で、口径に対して浅いタイプである。鏝の外端は垂直な面をもち、断面が台形を呈する。外面体部には幅広のノミ痕が残る。完存。土壙 SK2753 出土。4-C に属する土師器が相伴しているが、遺構そのものは第 3 期に属する。

羽釜 (滑石 2) - 口径 23.8 cm、鏝径 27.5 cm。体部は丸みを持ち、口縁部は厚く、体部下方に向

表 42 土錘一覧表

No.	出土遺構	長(cm)	幅(cm)	重量(g)	孔径(cm)	形態
土錘 1	SK0257	4.0	1.2	5	0.44	円筒
土錘 2	SX1204	4.6	1.1	6	0.22	円筒
土錘 3	SX0784	4.1	1.2	-	0.36	円筒
土錘 4	SK0967	破損	1.1	-	0.38	円筒
土錘 5	第4期包含層	4.6	1.2	7	0.28	葉巻
土錘 6	第4期包含層	4.6	1.2	7	0.24	葉巻
土錘 7	SE0458	2.7	0.8	1	0.33	紡錘
土錘 8*	SK2053	3.2	0.9	2	0.27	紡錘
土錘 9	Pit0330	3.8	1.3	6	0.36	紡錘
土錘 10	Pit1068	4.0	1.2	5	0.38	紡錘
土錘 11	第4期包含層	4.3	1.2	5	0.40	紡錘
土錘 12	第4期包含層	4.4	1.2	5	0.39	紡錘
土錘 13	SK0482	4.6	1.3	8	0.24	紡錘
土錘 14	SX0322	4.6	1.3	8	0.32	紡錘
土錘 15	SX0230	4.7	1.3	8	0.23	紡錘
土錘 16	SX1204	4.6	1.2	7	0.23	紡錘
土錘 17	SK1518	4.7	1.1	6	0.30	紡錘
土錘 18	SK0351	4.7	1.2	7	0.27	紡錘
土錘 19	SX0046	4.8	1.2	7	0.23	紡錘
土錘 20	SX1204	4.8	1.1	6	0.25	紡錘
土錘 21	SD1043	4.8	1.2	5	0.30	紡錘
土錘 22	第4期包含層	4.8	1.1	6	0.26	紡錘
土錘 23	SX1034	5.0	1.1	6	0.28	紡錘
土錘 24	SX0784	5.0	1.0	5	0.36	紡錘
土錘 25	第4期包含層	5.1	1.2	8	0.23	紡錘
土錘 26	SK0215	5.2	1.2	6	0.29	紡錘
土錘 27	SK1234	破損	1.2	-	0.20	紡錘
土錘 28	第4期包含層	破損	1.2	-	0.40	紡錘
土錘 29	第4期包含層	破損	1.0	-	0.47	紡錘

※ 土錘 8 はSK2053の1280と同

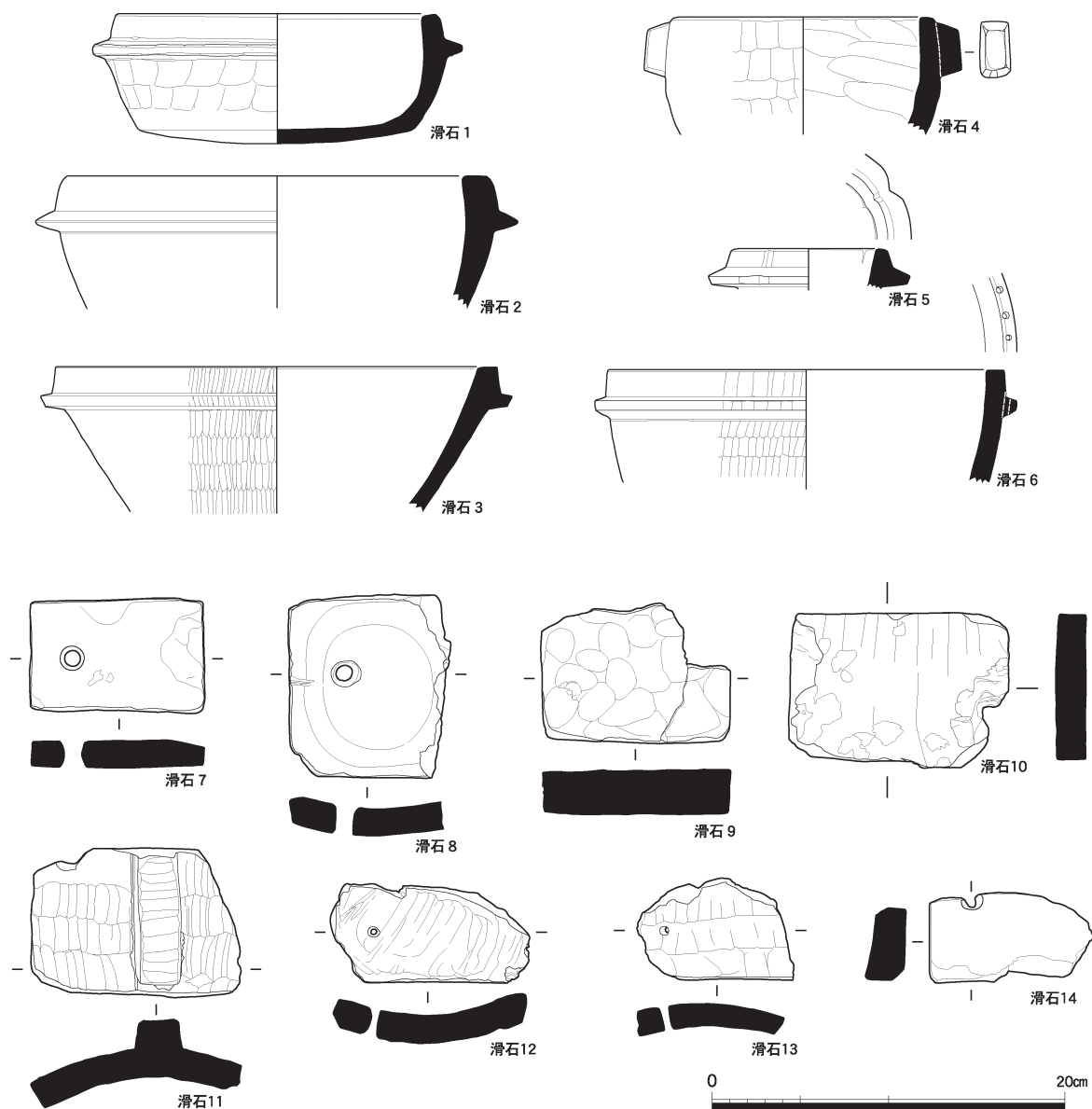


図 107 滑石製品実測図（1：4）

かって薄くなる。鏝の先端はすぼまり、断面は三角形を呈する。丁寧に加工され、ノミ痕はほとんど目立たない。10- Aの井戸 SE0458 出土。

羽釜（滑石3）口径 25.0 cm、鏝径 26.7 cm。体部は直線的に斜め方向に開く。鏝は水平に細く削り出され、端部は外傾する面を持つ。縦方向のノミ痕は細く密である。6- Bの土壙 SK1046 出土。

羽釜（滑石4）口径 15.0 cm。体部は丸みを持つ。鏝は無く縦向き方形の耳が付く。体部外面のノミ痕はやや幅広で規則的だが、内面には斜め横方向に長く粗いノミ痕が残る。第5期包含層出土。

羽釜（滑石5）口径 9.0 cm、鏝径 11.6 cm。口縁部から鏝部が残存しており、全体の形状は不明である。鏝の断面形態は台形を呈する。鏝や口縁上端部に欠き込みを入れ、対応する内面にも盛り上がりを作り、花形にしている。大きさからみて実用品ではないだろう。11- Bの土壙 SK2379 出土。

羽釜（滑石6）口径 22.5 cm、鏝径 24.0 cm。体部は丸みを持ち、厚さは均一である。鏝はやや

小振りで断面台形を呈する。鏝の付け根に約 1.2 cm 間隔で小穴を穿つ。第 5 期包含層出土。

温石（図 107） 温石には滑石製の羽釜を転用したもの（滑石 8・11～14）と、滑石の原材を加工し、当初から温石として作られたもの（滑石 7・9・10）がある。また、図示していないが、20 cm 角程の滑石原石が 12- B の井戸 SE2028 からではあるが出土しており、周辺で滑石の加工が行われていた可能性もある。

温石（滑石 7） 長さ 10.0 cm、幅 6.1 cm、長方形の板状に作る。厚さは 1.6 cm。短辺よりの 1 箇所には径 0.9 cm の孔を穿つ。側面には細いノミ痕が残る。6- A の土壌 SK1304 出土。

温石（滑石 8） 幅 10.1 cm、残長 9.2 cm、厚さ 1.8 cm、孔径 0.8 cm。石釜の体部を転用している。体部内面側の片面を研いでいるが、中央部が窪んだ曲面として残る。5- B の埋め糞土壌 SK2097 出土。

温石（滑石 9） 白灰色の滑石を用いて長さ 10.6 cm、幅 8.0 cm、厚さ 2.5 cm の長方形に作る。表面、裏面ともに粗いノミ痕が残り、孔は開けられていない。6- B の土壌 SK2253 出土。

温石（滑石 10） 長さ 11.4 cm、幅 8.8 cm、厚さ 1.5 cm の板状。調整は比較的丁寧でノミ痕は目立たず、一部に研磨痕が認められる。12- A の土蔵基礎 SX0010 出土。

温石（滑石 11） 長さ 12.0 cm、幅 8.0 cm、厚さ 1.7 cm。鏝が無くタテ耳の付く石釜の口縁付近を転用している。周縁を切り取っただけで他の面には石釜の加工痕を残し、耳も残されている。9- A の土壌 SK2298 出土。

温石（滑石 12） 残長 11.2 cm、幅 5.4 cm、厚さ 1.5 cm、孔径 0.4 cm。石釜の口縁部を利用し、鏝は削り取っている。6- A の土壌 SK1248 出土。

温石（滑石 13） 残長 8.8 cm、幅 5.6 cm、厚さ 1.5 cm、孔径 0.34 cm。石釜の口縁部を加工している。6- B の土壌 SK2574 出土。

温石（滑石 14） 残長 9.2、幅 5.0 cm、厚さ 2.0 cm、孔径 0.8 cm。石鍋の体部下方を転用している。切断痕が 2 側面に残る小孔付近で破断しており、本来の幅は 10 cm 前後か。9- B～C の溝状遺構 SD0304 出土。

硯（図 107・108、図版 31、表 43） 5- B～14- A にいたる各期の硯が多数出土している。そのうち形状が判明するものや特徴的なものが 56 点ある。今回はその中から 24 点を図示した。形態的には平面が長方形を呈するものが多いが、他の形態のものもあり、大きくは A 類—楕円形の周縁に切り込みを入れ花形に加工したもの（硯 1・3・11・12）、B 類—陸部側の幅がやや広がるもの（硯 2・4～6・8・9）、C 類—長方形を呈するもの（硯 13・15～18・21～23）の 3 群に分けることができる。B 類はさらに、B 1—硯面が長円形を呈し周縁に彫文を施すもの（硯 2・5・6）と B 2—外形に平行した周縁を残すもの（硯 4・8・9）に、C 類は C 1—裏面に陸側から抉りを入れ両側を脚状に残したもの（硯 13・15）と C 2—裏面が平坦なものものに細分できる。また、C 類には幅/長比でみると 0.38 前後と、0.5 を超えるやや幅広のものがある。このほか小型品（硯 14・19・20）や軒丸瓦の瓦当部を転用した特殊なもの（硯 24）あるいは未製品（硯 7・10）などがある。なお、硯 18 は石製ではなく瓦質の製品である。時期的に見ると A

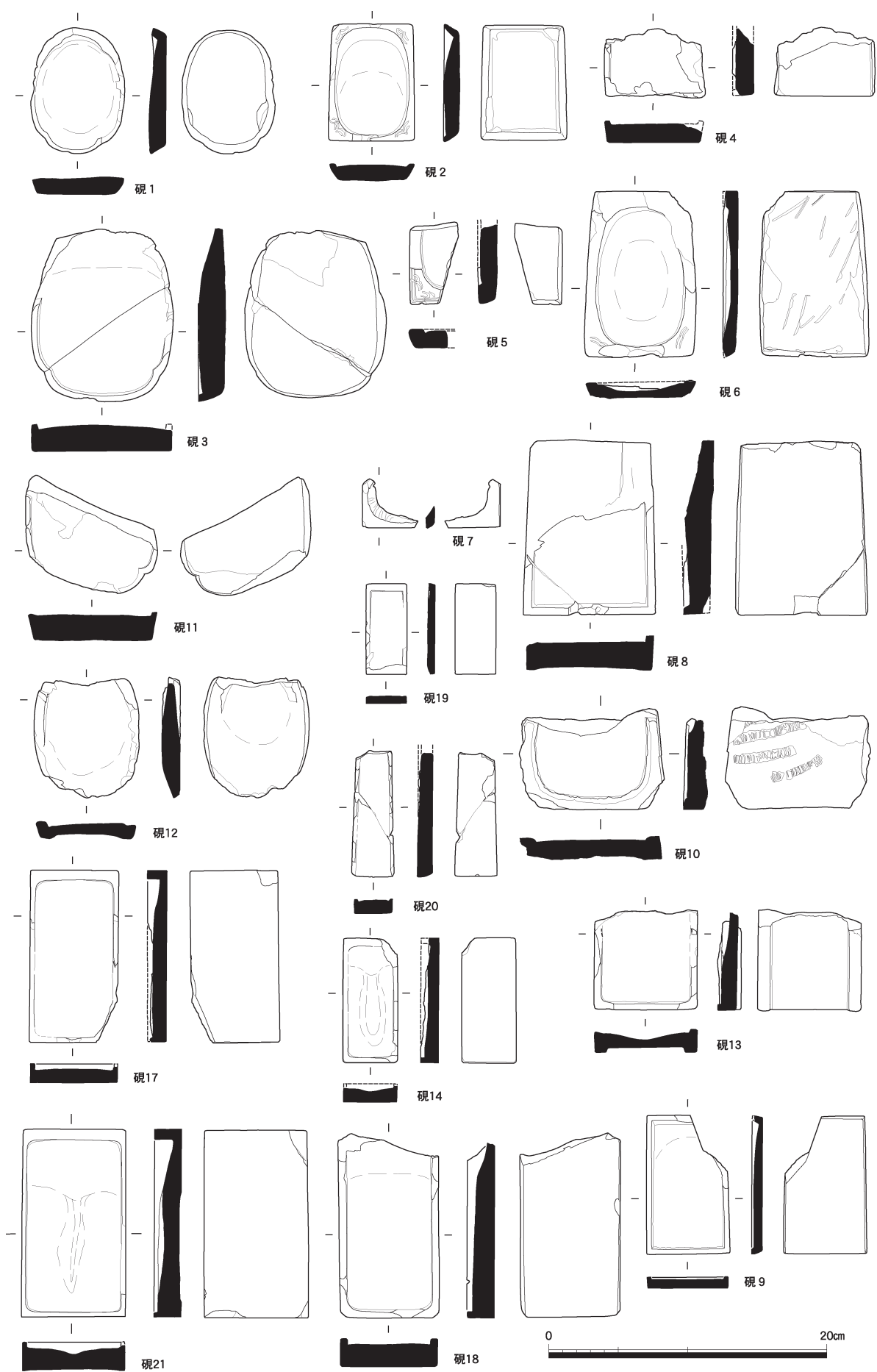


图 108 碗实测图 - 1 (1 : 4)



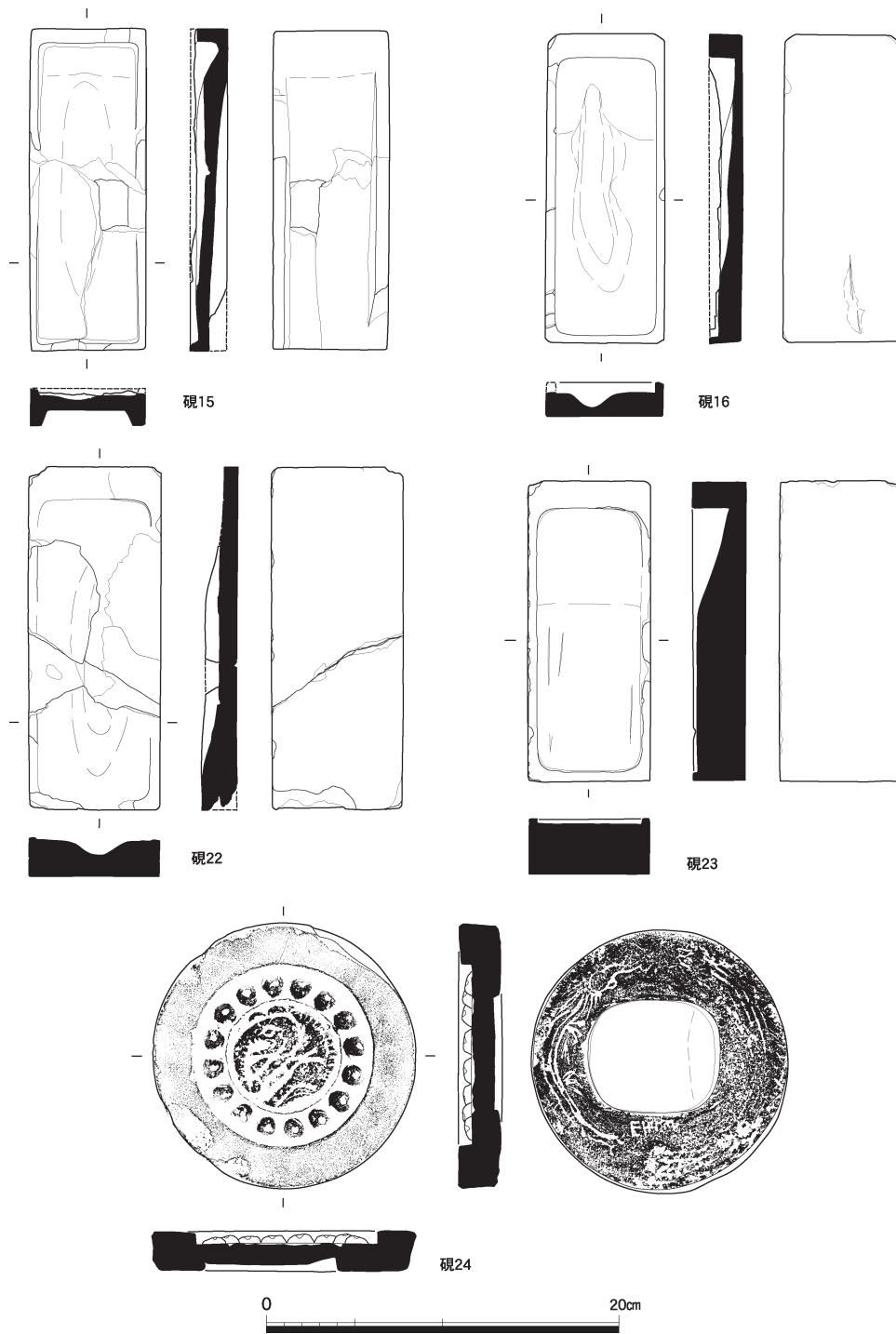


図 109 硯実測図 - 2 (1 : 4)

類が 5- B ~ 10- B、B 類が 6- A ~ 7- B までに限定され、江戸時代以降の遺構からは出土していない。逆に C 類は江戸時代前期より古い遺構からの出土はなく、すべて 11- B 以降のもので、特に C 1 類は 11- B に限定される。また、C 2 類のうち幅 / 長比 0.5 以上と長さに対して幅が広いものは、13- A 以前には存在しない。資料数が少なく厳密な結論は出せないが、この分類結果をおおまかな硯の型式変化と理解することは可能であろう。硯 20 は B 類を縦に延ばしたような形態であるが、陸側の周縁が無く小型品であることを含め、特殊な例と考えられる。他の小型品（硯 14・19）は C 1 類に分類できる。硯 7 と硯 10 は加工途中の未製品であり、調査地近辺で硯が生

表 43 硯一覧表

番号	長さ	幅	色調	型式	出土遺構	時期	備考
1	9.1	6.7	黒色	A	SE2222	5-B	
2	8.4	6.1	黒色	B1	SK2900	5-B	線刻文あり
3	12.8	10.1	黒色	A	第2期包含層	6-A	
4	-	7.2	黒色	B2	SK0493	6-A	
5	-	-	暗灰色	B1	SX0784	7-A	線刻文あり
6	12	7.8	黒色	B1	SK3309	7-A	線刻文あり
7	-	-	黒色	B1	第3期包含層	7-A~B	未製品
8	12.3	9.5	黒色	B2	Pit3170	7-B	
9	10.1	5.9	黒色	B2	第3期包含層	7-A~B	
10	-	10.3	黒色	A	SK0365	9-B	未製品
11	-	9.6	暗赤紫色	A	第4期包含層	10-B	
12	-	7.4	暗灰色	A	SK2226	10-B	
13	-	7.4	灰緑色	C1	SK2150	11-B	
14	9	3.9	灰緑色	C2	SE2021	12-A~B	
15	18.3	6.6	黒色	C1	SK2053	11-B	
16	17.5	6.6	灰色	C2	SK0076	11-C	
17	12.4	6.3	灰色	C2	SE0006	12-A~B	
18	-	7.2	黒色	C2	SE2020	12-B	瓦質
19	6.4	2.8	灰緑色	C2	SK2216	12-B	
20	-	3	黒色	XX	SX0046	12-B	
21	13.4	7.4	暗灰緑色	C2	SE0053	13-A	
22	19.3	7.4	灰緑色	C2	SK0076	11-C	
23	17.1	6.9	灰褐色	C2	SK2073	14-A	
24	14.8	15.0	灰褐色	-	SK0001	14-A	軒丸瓦転用

産されていた可能性を示唆している。硯7がB1類の周縁隅部が剥離したもの、硯10がA類の粗彫り未製品と考えられる。硯10の裏面にはケンガネの痕跡が残る。例示した2例のほか、加工途中に生じた薄片状の石材が多数出土している。硯24は軒丸瓦当面の三巴を利用して象を彫り、珠文の頂部に小穴を穿つ。裏面には硯面を彫り窪め、その周囲に線刻で鳥文を巡らせている。江戸時代末期の焼瓦廃棄土壌SK0001から出土。

石臼(図110)9点が出土

している。石臼1・2・3・6は茶臼の下臼である。目の詰まった硬質の石材が使用され、表面は研磨されている。白面の条線は細く間隔も狭い。石臼1の周囲の皿状受け部分には漆塗りが残る。石臼4・5は下臼、石臼7・8は上臼である。この4点の石材は花崗岩である。出土地点は石臼1が10-Aの石室SX2291、石臼2が13-Aの土壌SK0047、石臼3は11-Bの土壌SK2084、石臼4は第5期包含層、石臼5は12-Aの井戸SE2028、石臼6は13-Aの井戸SE0101、石臼7は12-Bの井戸SE0013、石臼8は7-Aの土壌SK2412から出土している。

石塔(図111)いずれも石材は花崗岩である。石塔1は一体で造られた五輪塔の空輪・風輪である。下部には火輪と組み合わせるための突起を作る。11-Bの土壌SK0105出土。石塔2は一边19.5cm、高さ12.0cmの火輪で、頂部には風輪を受けるための深さ1.1cmのくぼみを作る。13-Bの井戸SE0125出土。石塔3は板碑の頭部。幅19.6cm、残高19.1cm。第5期包含層出土。石塔4は宝篋印塔の塔身部。一边13cmほどの立方体で、上面中央に径3.5cm、高さ0.4cmの円形の突起を作る。側面4方に梵字を刻む。9-Cの井戸SE2096出土。

礎石(図112)長径36.3cm、短径22.4cmの1面が平坦な砂岩の河原石に、柱あるいは束を設置するための墨打ちと「廿八」の墨書を記している。墨付けは12cm角の方形およびその中心に十字を打つ。数字は柱の番号を示したものだろう。途中で設置状態が変更されたのか、やや角度を変えて二重に墨が打たれている。10-Bに属する石組み井戸SE2197の石材として使用されており、それ以前にこの付近に存在していた建物の礎石として使用されていたものが建物廃絶後に井戸に再利用されたものであろう。

砥石 このほかの石製品としては砥石がある。小破片も含めると総数2,776点と多量に出土し

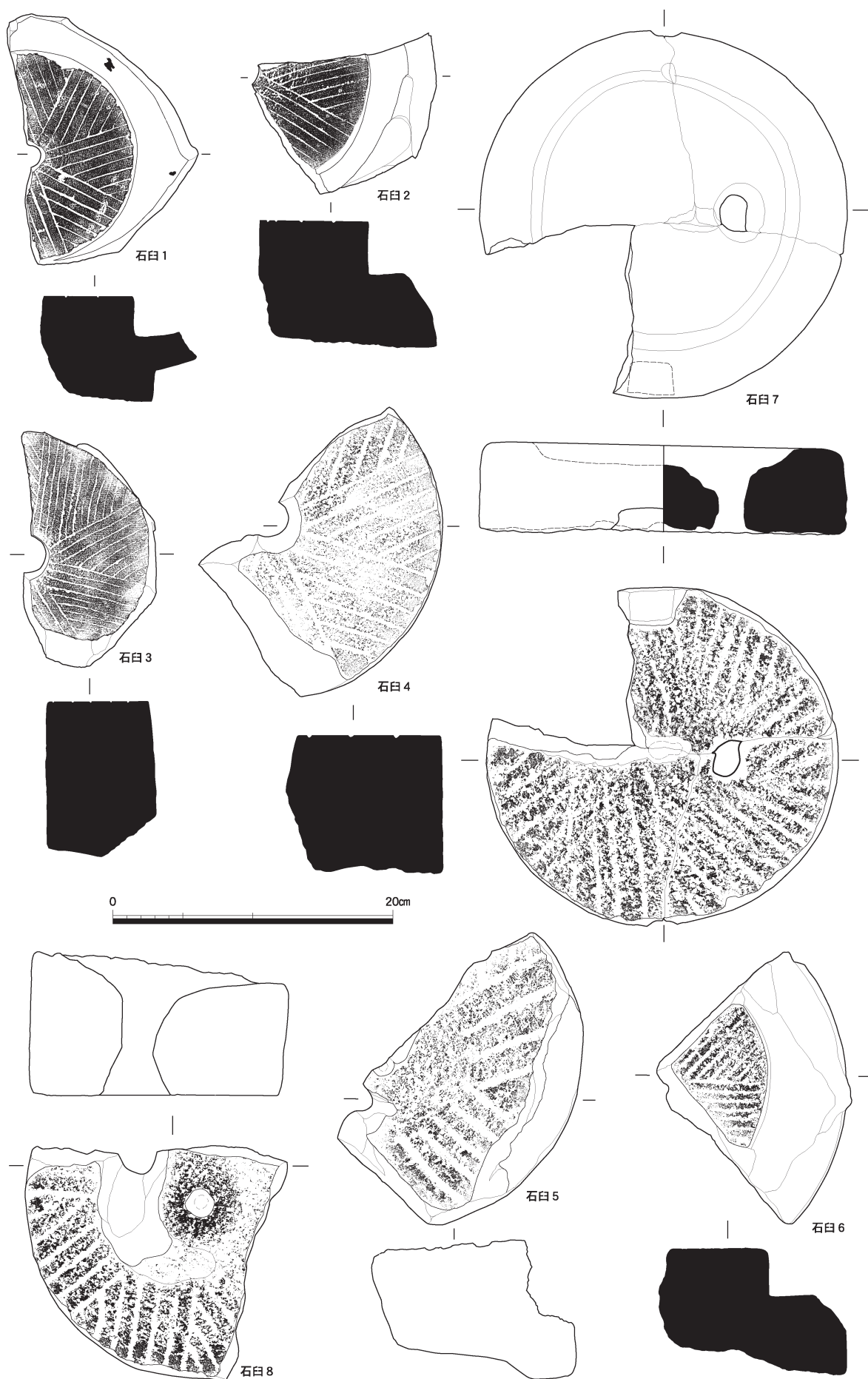


图 110 石白实测图 (1 : 4)

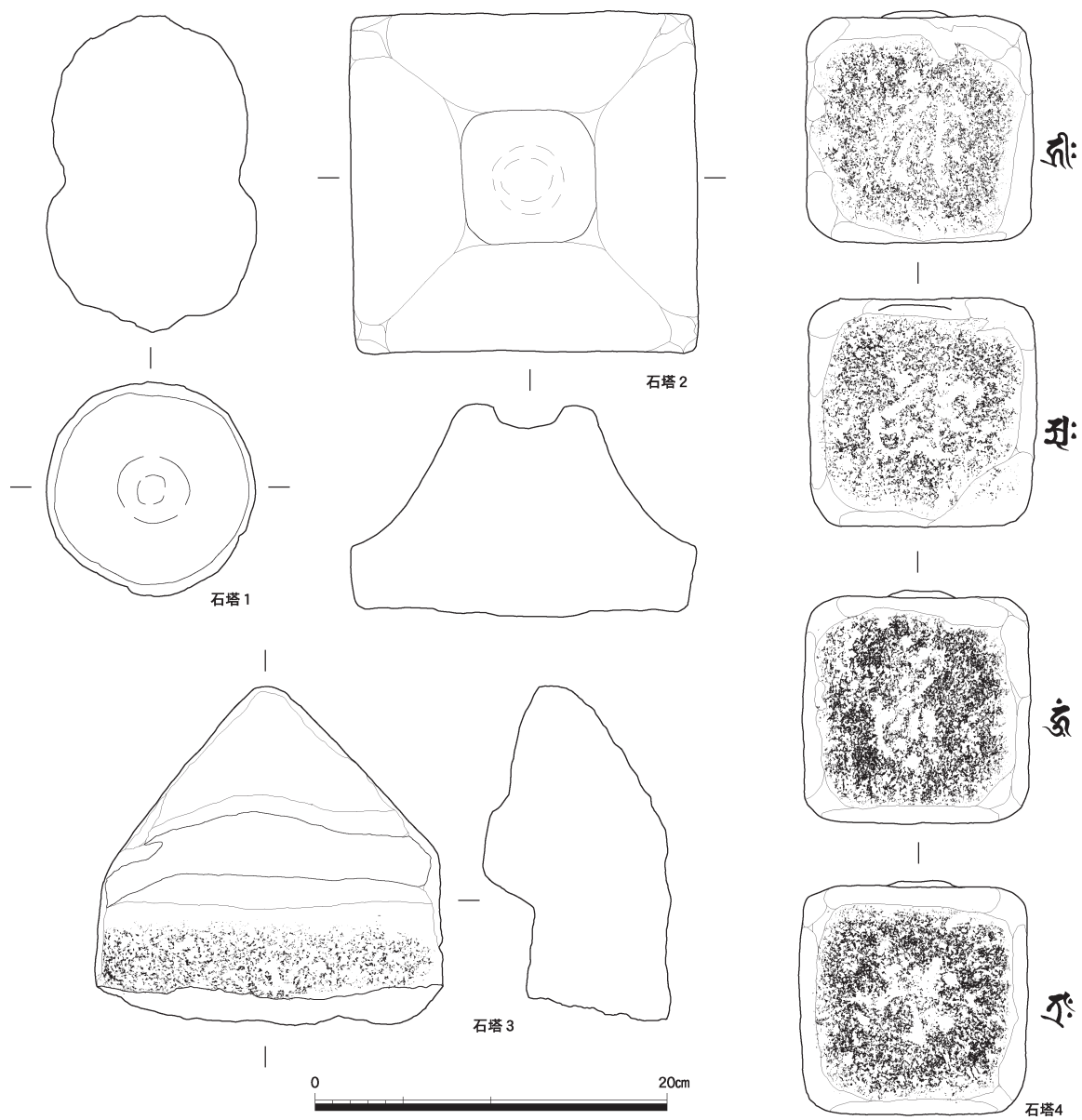


图 111 石塔实测图 (1 : 4)

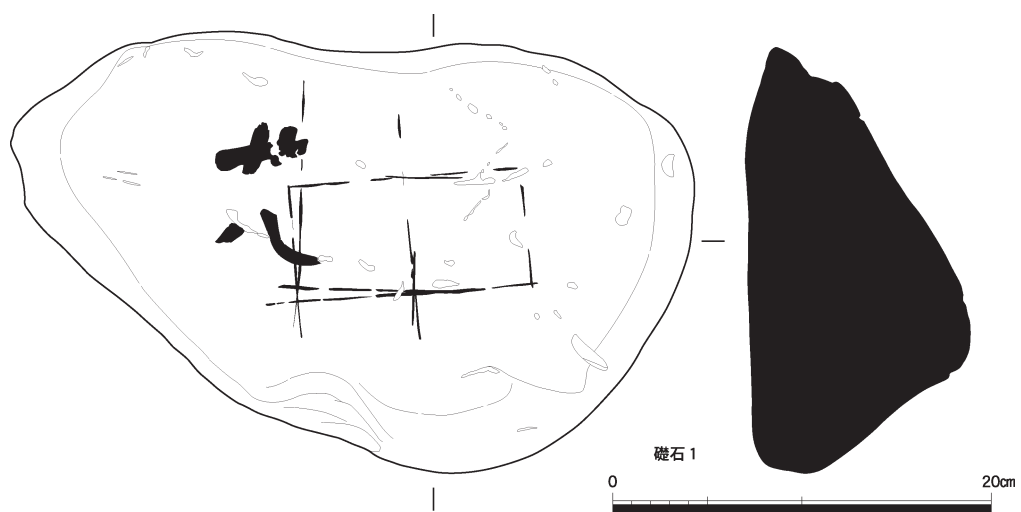


图 112 礎石实测图 (1 : 4)

ているが、全体の形状が残るものは少なく今回は図示していない。石材は粘板岩が多いが、他に砂岩・緑泥片岩・凝灰岩などがある。平坦面を持つものやU字形にすり減るなどの使用痕が残るものや切断面などの加工痕が残るものがある。

金属製品 (図 113・114、図版 31)

金属製品には飾り金具や刀装具などの銅製品・刀子や釘などの鉄製品、銭貨がある。各時期の遺構から出土したが、平安時代から室町時代のものは少ない。大半の遺物は江戸時代の遺構から出土しており、特に SK2053 からのものが多い。内容は多様であるが、ここでは全体の形態がわかり、用途も推定できる資料を中心に抽出し掲載した。

刀子 (金 1) 先端部約 18 cm と中茎から約 23 cm が出土した。直接は接合しないが一個体と思われる。茎長 17.8 cm、刃幅 4.2 cm。11- B の土壌 SK2053 出土。

切羽 (金 2) 左右の一部が欠損しているが、ほぼ完存。高さ 7.4 cm。11- B の土壌 SK0175 出土。

柄縁 (金 3) 高さ 8.2 cm、幅 4.7 cm。10- A の井戸 SE2088 出土。

はばき (金 4) 高さ 6.4 cm、幅 2.3 cm、長さ 3.8 cm。11- B の土壌 SK2135 出土。

鍔形銅製品 (金 5) 形態は鍔状だが、厚さは非常に薄く鍔としては機能しない。高さ 10.8 cm、幅 10.0 cm。9- B の土壌 SK2224 出土。

柄頭あるいは鞘尻 (金 6) 高さ 6.6 cm、長さ 4.6 cm、幅 2.4 cm。「コ」字状を呈し、断面は「U」字形。銅製。11- B の土壌 SK2109 出土。

目貫 (金 7) 全体に腐食が進み文様の細部は明らかではないが、獅子形が目貫と考えられる。長 3.1 cm 幅 2.0 cm。銅製。11- B の土壌 SK02053 出土。

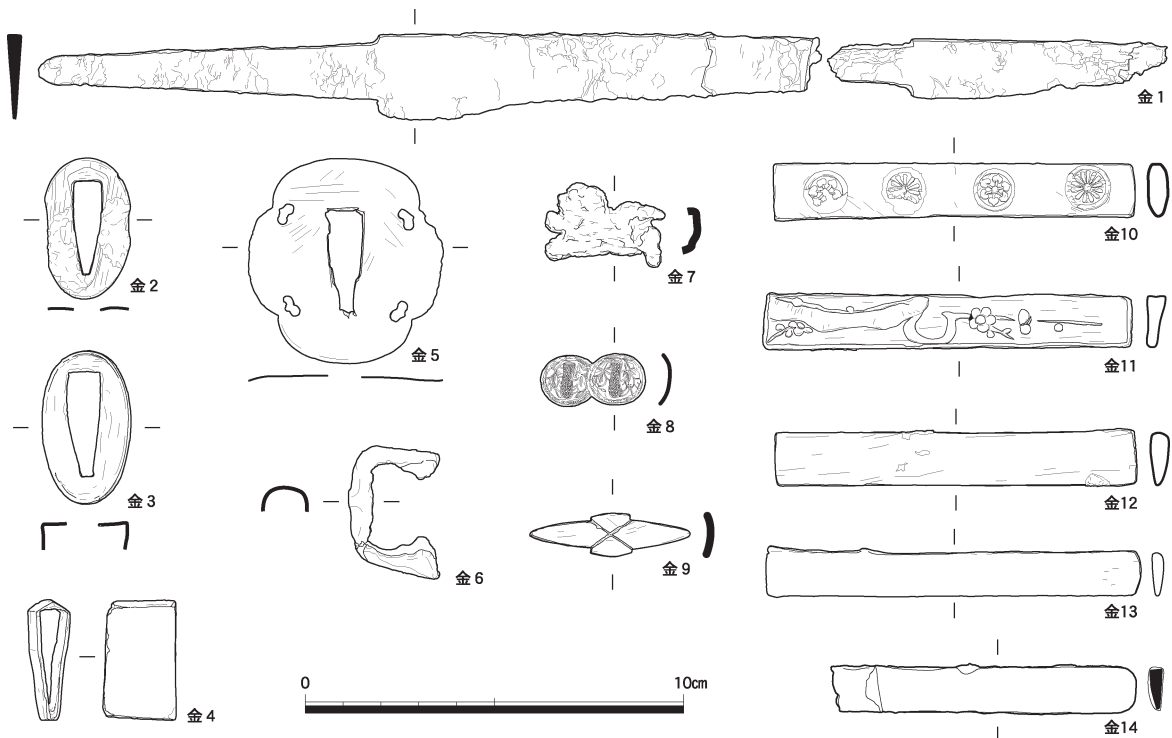


図 113 金属製品実測図 - 1 (1 : 2)

目貫(金8) 魚子地に花文が彫られた円形のモチーフを二つ重ね、横「8」字形を呈する。長2.8 cm、幅1.4 cm。銅製。9- Cの土壙SK0336出土。

目貫(金9) 全体に横長の菱形を呈するが、中央に斜め十字に刻みを入れ、結び目のような意匠にしている。側面に鑿目が残る。長4.2 cm、幅1.1 cm。銅製。11- Bの土壙SK0253出土。

小柄(金10) 片面の4箇所(筒)に2種の花文を交互に配する。銅製。長9.5 cm、幅1.5 cm。11- Bの土壙SK2053出土。

小柄(金11) 全面に梅文を配するが、腐食しており細部は不明。長9.6 cm、幅1.5 cm。銅製。11- C～12-Aの井戸SE2020出土

小柄(金12) 無文。長9.5 cm、幅1.5 cm。銅製。11- Bの土壙SK2053出土。

小柄(金13) 無文。尾端は丸みを帯びる。長9.8 cm、幅1.2 cm。銅製。第5期包含層出土。

小柄(金14) 一部が欠損している。無文で尾端は丸みを帯び、やや細身である。残長7.9 cm、幅1.2 cm。銅製。11- Bの土壙SK0314出土。

飾り金具(金15) 魚子地に花文が彫刻される、銅製鍍金。残長9.4 cm、幅1.6 cm。11- Bの土壙SK2053出土。

飾り金具(金16) 魚子により唐草文をあらわす。文様の単位を無視して切断されており、釘孔の位置も左右不均等である。長6.7 cm、幅1.8 cm。銅製鍍金。第5期包含層出土。

飾り金具(金17) 魚子地に花文が彫られる。両端が欠損しており、釘穴が1箇所残る。残長4.0 cm、幅1.3 cm。銅製鍍金。第4期包含層出土。

飾り金具(金18) 花菱形の座金か。中央に釘孔、4方に透かしを開けて4葉の花形に作る。上下長4.2 cm。銅製鍍金。10- Cの溝SD0404出土。

飾り金具(金19) 金18と同様の意匠の小型品。幅2.0 cm。銅製。第5期包含層出土。

飾り金具(金20) 中央に4角形の釘孔を開けた座金。傘形にふくらみを持たせる。表面に布が付着している。銅製。11- Bの土壙SK2053出土。

飾り金具(金21) 形態は一辺2.5 cmの額縁状。鋸歯状の幾何文が鋳出されている。材質不明。第5期包含層出土。

分銅(金22) 側面には規則正しく密に桐文が刻印され、上下面には側面と同じ桐文以外に大きめの印が押される。片面には線刻が施されているが、表面に漆が塗られているため模様は判別できない。銅製で重さ188g(50匁)。長4.4 cm、幅2.1 cm、厚さ2.4 cm。13- Aの土壙SK0030出土。

匙(金23) 香匙か。把手は板状で、先端は叩いて広げる。長7.6 cm、幅1.2 cm。銅製。11- C～12- Aの井戸SE2020出土。

煙管(金24) 吸口端部が欠損している。残長4.2 cm、径1.1 cm。銅製。

煙管(金25) 筒の途中に段が付き吸口に向かってすぼまる。魚子地に花文が彫られている。長4.6 cm、径1.1 cm。銅製。

煙管(金26) 吸口端部から5.5 cmで段を付け、段際の2箇所(筒)に線文を施す。長7.1 cm、径1.1 cm。一部に布が付着している。銅製。

煙管（金 27）火皿の口縁直下に線文、後端部には銅を接合し、段を付ける。長 5.1 cm、1.1 cm、火皿径 1.5 cm。真鍮製。

煙管（金 28）吸口と羅字側の端部に銅を接合して段を付ける。金 27 と同意匠で、おそらく組み合うものだろう。内部に羅字の一部が残る。長 cm 6.1、径 cm 1.1。真鍮製。

煙管（金 29）雁首から吸口まで一体に作る。吸管は中央あたりがもっとも太く、その下方に紐通しの環を付けている。長 12.6 cm、径 0.8 cm。火皿径 1.5 cm。真鍮製。

煙管は金 25 が第 5 期包含層出土のほか、すべて 11- B の土壌 SK2053 から出土した。

環頭鉞（金 30～34）頭部は環状に曲げ、先端は尖る。金 30 は長 3.0 cm、金 31 は長 2.7 cm、

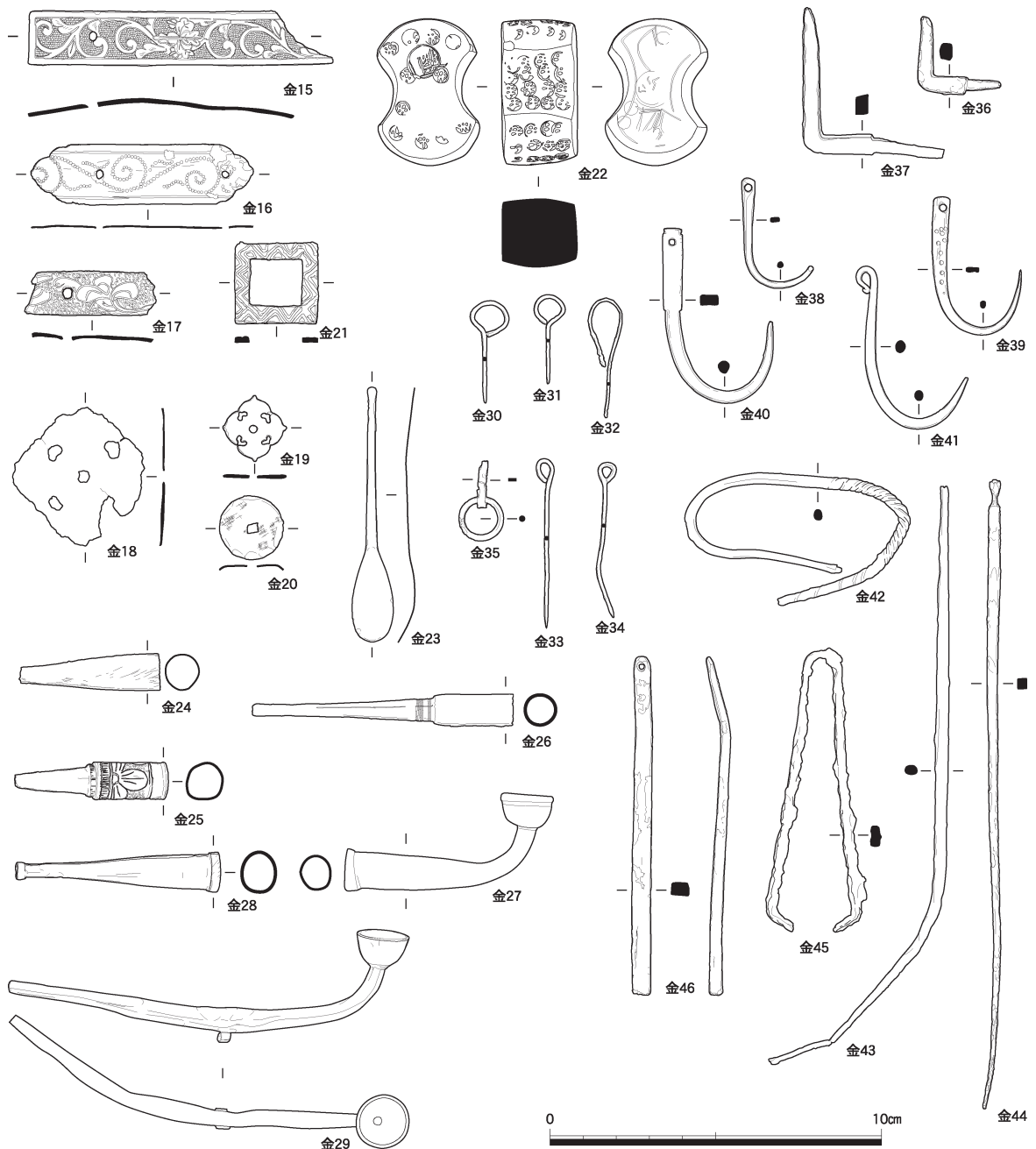


図 114 金属製品実測図 - 2 (1 : 2)

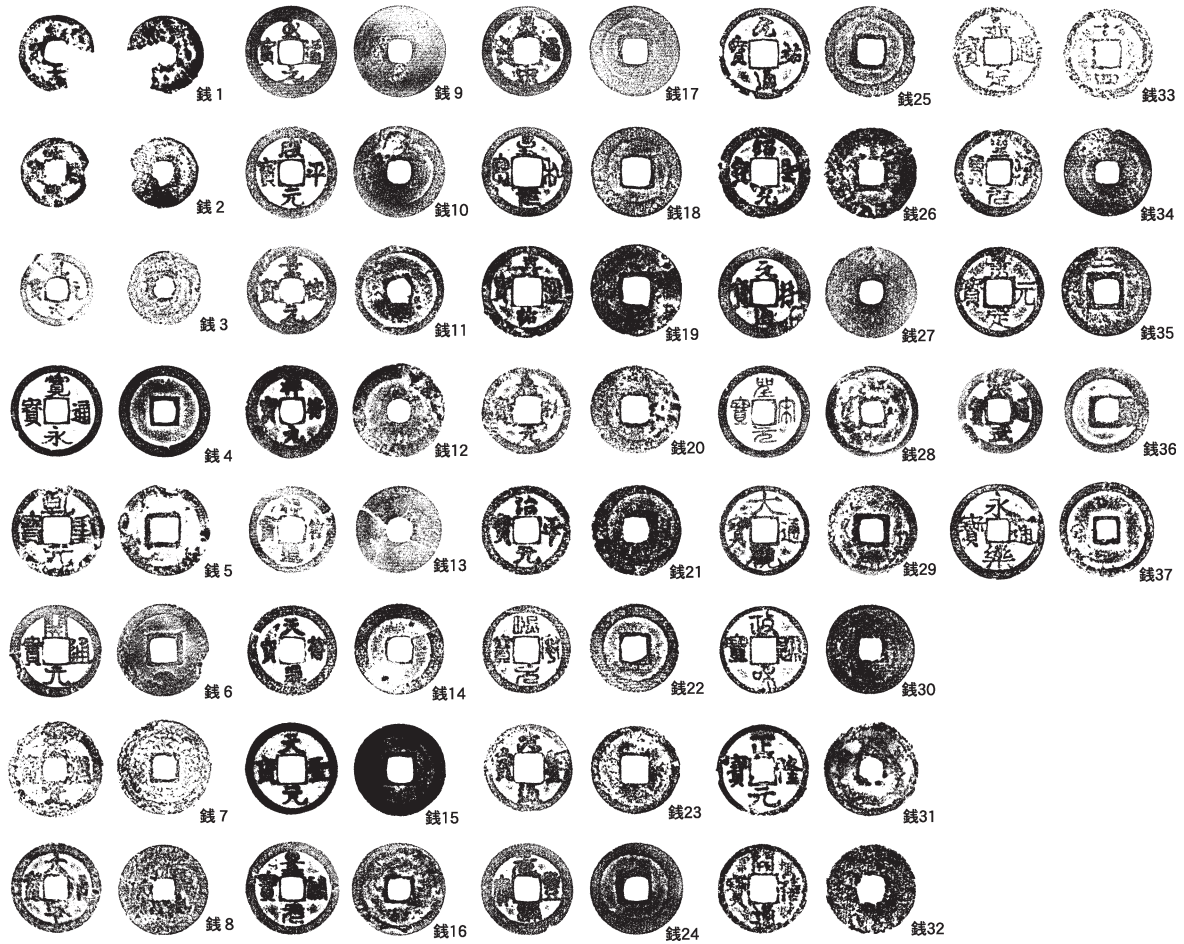


図 115 錢貨拓影 (1 : 2)

表 44 錢貨一覽表

番号	錢種	出土点数	掲載分出土遺構	番号	錢種	出土点数	掲載分出土遺構
1	長年大寶	1	SK2470	20	嘉祐元寶	1	SK2053
2	延喜通寶	1	SK1745	21	治平元寶	9	SK2205
3	乾元大寶	21	SE1111掘形	22	熙寧元寶	20	SK0314
4	寬永通寶	54	SK2053	23	大康通寶	1	SK0171
5	乾元重寶	3	第 5 期包含層	24	元豐通寶	21	SE2098
6	開元通寶	7	SK2226	25	元祐通寶	5	SK2078
7	宋通元寶	1	SK2053	26	紹聖元寶	8	SK0216
8	太平通寶	1	Pit0770	27	元符通寶	2	SK2053
9	至道元寶	6	SE2098	28	聖宋元寶	12	SE2088
10	咸平元寶	3	SE2088	29	大觀通寶	4	SE2088
11	景德元寶	3	SE2088	30	政和通寶	3	SE0101
12	祥符元寶	4	SK0234	31	正隆元寶	1	SE2040
13	祥符通寶	2	SK2053	32	開禧通寶	1	SE2098
14	天禧通寶	5	SK0314	33	嘉定通寶	3	SK2777
15	天聖元寶	19	SK2053	34	皇宋元寶	1	第 4 期包含層
16	景祐元寶	1	SE2088	35	景定元寶	1	第 5 期包含層
17	皇宋通寶	33	SE2098	36	洪武通寶	7	SK2046
18	至和元寶	1	SK2053	37	永樂通寶	12	SE2088
19	嘉祐通寶	4	SD2000		總 数	282	



金 32 は残長 3.6 cm、金 33 は長 5.2 cm、金 34 は長 4.7 cm。銅製。すべて 11- B の土壙 SK2053 出土。  
紐金具（金 35）径 1.3 cm の環に環座が巻き付けられる。銅製鍍金。11- B の土壙 SK0257 出土。  
掛金具（金 36）L 字状を呈し、断面は方形。高さ 2.3 cm。銅製鍍金。第 3 期包含層出土。  
掛金具（金 37）金 36 とほぼ同型でやや大型。高さ 4.4 cm。銅製鍍金。6- A の土壙 SK0493 出土。  
吊り金具（金 38～41）釣り針状を呈し先端は尖る。金 38 は上下 3.3 cm。断面は円形で、上端部を平たく叩き延ばし小孔をあける。銅製。第 4 期包含層出土。金 39 は上下 4.1 cm。断面が平たく延ばされ両面に魚子文を打つ。上端に径 0.2 cm の穴をあける。真鍮製。11- B の土壙 SK2053 出土。金 40 は上下 5.3 cm。上端から 2.5 cm が断面 0.5 cm × 0.3 cm の方形、以下は円形。上端に径 0.2 cm の穴をあける。銅製。SK2053 出土。金 41 は上下 4.8 cm。断面は円形で、上端部を輪状に曲げる。11- A～12- A の井戸 SE2020 から出土した。

火箸（金 42）細い鉄線を撚りあわせ、鍛造する。握り部には撚りを残し、下半部は断面円形にまとめている。上下の端部が欠損し、全体に環状に変形している。残長 18.7 cm、径 0.35 cm。

火箸（金 43）断面は円形。中程から両端向かって細くなる。残長 20.2 cm、最大径 0.4 cm。鉄製。

火箸（金 44）香火箸。断面 4 角形で、先端にむけて細く打ち出す。握り部の 4 面に花形の刻印を打ち、上端部を蕾にかたどる。下半部の断面は円形で、表面には鋸目を残す。銅製。3 点とも 11- B の土壙 SK2053 からの出土。

毛抜き（金 45）腐食が激しい。長 8.4 cm、幅 2.7 cm。鉄製、鍛造品。SK2053 出土。

このほか用途不明の金属製品（金 46）がある。断面長方形で下方に向かい厚みを増す。先端には小孔を穿つ。残長 10.3 cm、幅 0.5 cm、最大厚み 0.3 cm。銅製鍍金。5- C の土壙 SK2667 出土。

#### 銭貨（図 115、表 44）

長年大寶・延喜通寶・乾元大寶・寛永通寶など国産銭貨のほか唐銭・宋銭・明銭などの中国銭 37 種類 282 点が出土した。重複するものは省き、各銭種についての拓影と掲載分の出土遺構と、出土点数を表 44 に示した。

#### 骨・貝製品（図 116、図版 32、表 45）

貝・骨製品の出土量は他の遺物と比べて少ないが、SK2053 を中心に江戸時代の土壙や井戸から 28 点出土している。出土遺構は表 45 に示した。

耳搔き（骨 1）先端が細く尾端に向かって太くなる。中央付近の断面はほぼ円形だが、後方は楕円形を呈する。長 12.0 cm、幅 0.5 cm。

耳搔き（骨 2）中央が太く両端に向かい細くなる。尾部より小さな孔を穿つ。長 8.7 cm、幅 0.6 cm。

耳搔き（骨 3）中央が太く先端に向かい細くなる。尾部より小さな孔を穿つがその部分以下が破損している。残長 7.7 cm、幅 0.5 cm。

編み針（骨 4）断面円形の棒状で、先端は細くなり鉤針状になる。残長 8.0 cm、幅 0.6 cm。

筭？（骨 5）断面は扁平な楕円形で両端は細くなる。残長 8.5 cm、幅 0.4 cm。

不明（骨 6）断面円形で尾端を面取りし尖らせる。尾端から 1.2 cm に線刻を一条巡らせる。先

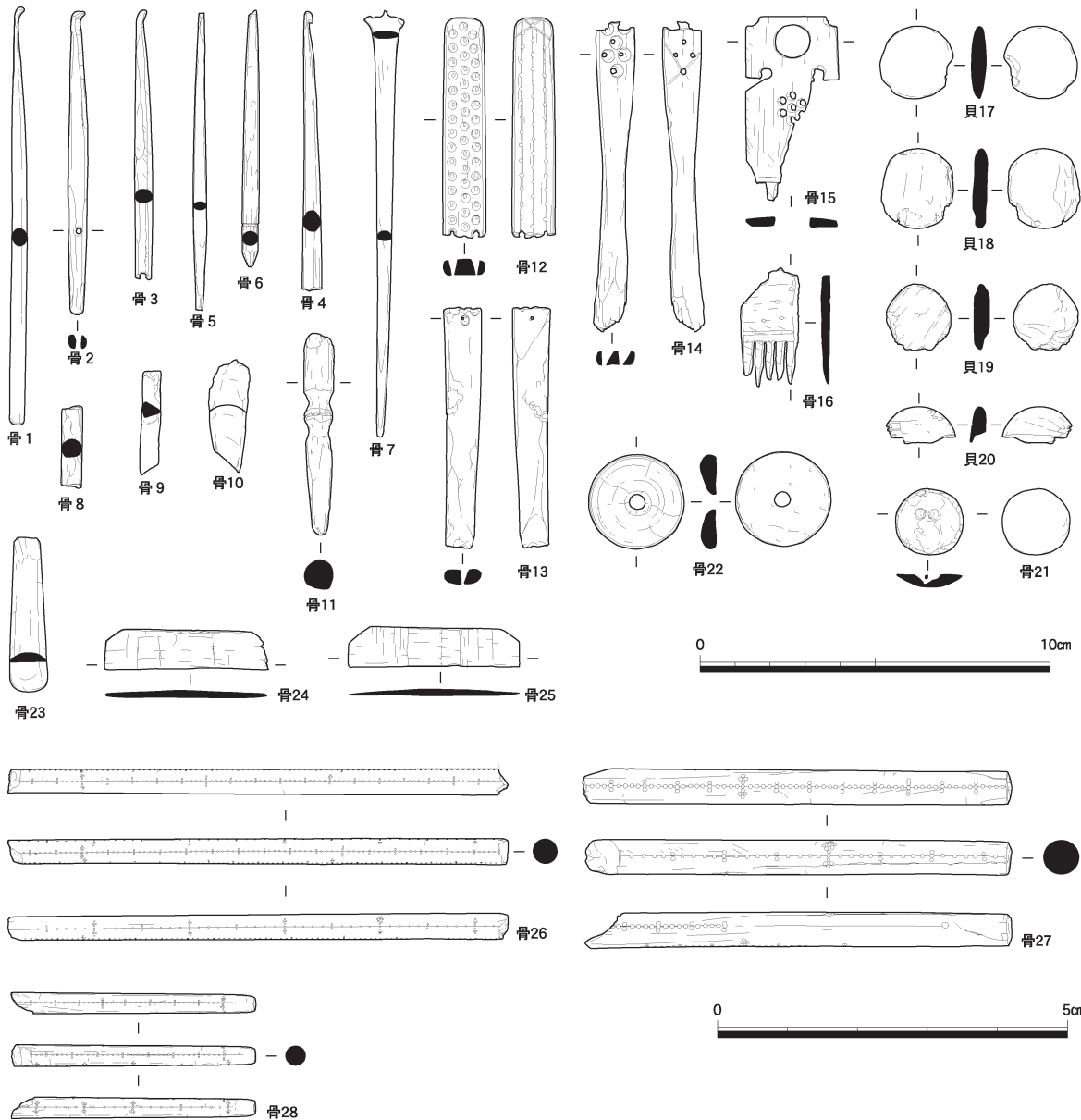


図 116 骨・貝製品実測図 (1～23は1：2、24～28は1：1)

表 45 骨・貝製品一覧表

No.	素材	種類	出土遺構	時期	No.	素材	種類	出土遺構	時期
1	骨	耳搔き	SE2040	11-B	15	骨	櫛払い	SK0145	11-C
2	骨	耳搔き	SK2053	11-B	16	骨	櫛払い	SK2053	11-B
3	骨	耳搔き	SK2053	11-B	17	貝	碁石	SK0047	13-A
4	骨	編み針	SE0026	14	18	貝	碁石	SK2053	11-B
5	骨	筭?	SE0076	12-B	19	貝	碁石	SK2025	12-B
6	骨	筭	SK2073	13~14	20	貝	碁石	SK2053	11-B
7	骨	筭	SE2020	11-C	21	骨	釦	SK2053	11-B
8	骨	不明	第6期包含層	12~13	22	骨	不明	SK2053	11-B
9	骨	不明	SK2266	10-B	23	骨	篋	第5期包含層	11-B
10	骨	筭?	SE2020	11-C	24	骨	篋	SK2053	11-B
11	骨	不明	SE2031	12~13	25	骨	篋	SK2053	11-B
12	骨	櫛払い	SK2043	11-C	26	骨	棹秤	SK2053	11-B
13	骨	櫛払い	SE0076	12-B	27	骨	棹秤	SE0076	12-B
14	骨	櫛払い	SE2020	11-C	28	骨	棹秤	SK2053	11-B

端部が欠失しているが、耳搔きかと思われる。残長 7.3 cm、幅 0.5 cm。

筭（骨 7）片端が扁平に広がり、その破断部の 2 箇所にも小円孔の痕跡が残る。淡緑色に着色されている。残長 12.2 cm、幅残 1.1 cm。

不明（骨 8）棒状の破片。一方の端部に切断痕、表面にも粗い加工痕が残る。未製品か。残長 2.3 cm、幅 0.6 cm。

不明（骨 9）断面が三角形を呈する。一方の端部に切断痕が残るほかは破断したままの破片である。素材の一部あるいは端材か。残長 2.3 cm、幅 0.5 cm。

不明（骨 10）湾曲した非常に薄い破片。骨 7 と材質、色調が類似する。残長 3.2 cm。

不明（骨 11）断面円形の棒状の製品。2 箇所にくびれを作りその中央に線刻を一条巡らせる。筭の一部かと思われる。残長 5.7 cm、幅 0.8 cm。

櫛払い（骨 12）表面には 3 列の千鳥状に小円孔が穿たれる。裏面には円孔の列に沿った線刻を施す。骨 13 とは直接接合しないが同一個体と思われる。残長 6.4 cm、幅 1.2 cm。

櫛払い（骨 13）骨 12 の柄の部分か。尾端が欠失、先端方向に小円孔が 3 個残る。尾端に向け幅がやや狭まる。残長 6.4 cm、幅 1.2 cm。

櫛払い（骨 14）刷毛部の後端から柄部にかけての破片。柄部中央がくびれる。尾端に歯の付く型式か。骨 12 や骨 13 に比べ厚い。残長 8.8 cm、幅 1.2 cm。

櫛払い（骨 15）板状で片端に径 10 mm の円孔をあけ、別端に歯を付ける。中央部には花形に 1 + 6 の小孔を貫通させる。残長 5.2 cm、幅 2.6 cm。

櫛払い（骨 16）歯が 5 枚残る。歯部の上方にわずかに彫りくぼめた点文を配し、朱を塗り込んでいる。歯長 1.2 cm、残長 3.3 cm。

碁石（貝 17～20）すべて貝製の白石である。貝 17 は径 2.1 cm、貝 18 が径 2.0 cm、貝 19 が径 1.8 cm。厚さはいずれも 0.4 cm。

釘状骨製品（骨 21）脹らみを持つ表面は丁寧に磨かれ、裏面には潜り孔をあける。径 1.9 cm、厚さ 0.3 cm。

不明（骨 22）円形でくぼんだ中央に径 0.4 cm 孔を穿つ。表面は丁寧に磨かれているが、裏面は調整されていない。直径 2.7 cm、厚さ 0.5 cm。

篋状製品（骨 23）片面は扁平で、反対面に脹らみを付け端を薄く加工している。表面は丁寧に磨き平滑に仕上げている。長 4.4 cm、幅 1.1 cm。

板状骨製品（骨 24・25）長方形の長辺片側の 2 隅を切り取った薄板状の製品。表面の調整は粗い。骨 24 は片側の端部が一部破損しているが、2 点ともほぼ同型同寸である。骨 25 は長さ 2.5 cm、幅 0.6 cm。厚さは中央部で 0.1 cm、両側に向かい薄くなる。

棹秤（骨 26～28）断面は円形で、いずれも 3 方に目盛りを付ける。目盛りは細く刻んだ直線に沿って小さな窪みを作る。骨 26 は残長 7.1 cm、径 0.35 cm、骨 27 は残長 6.1 cm、径 0.5 cm、骨 28 は残長 3.5 cm、径 0.28 cm。

木製品（図 117、図版 32・33）

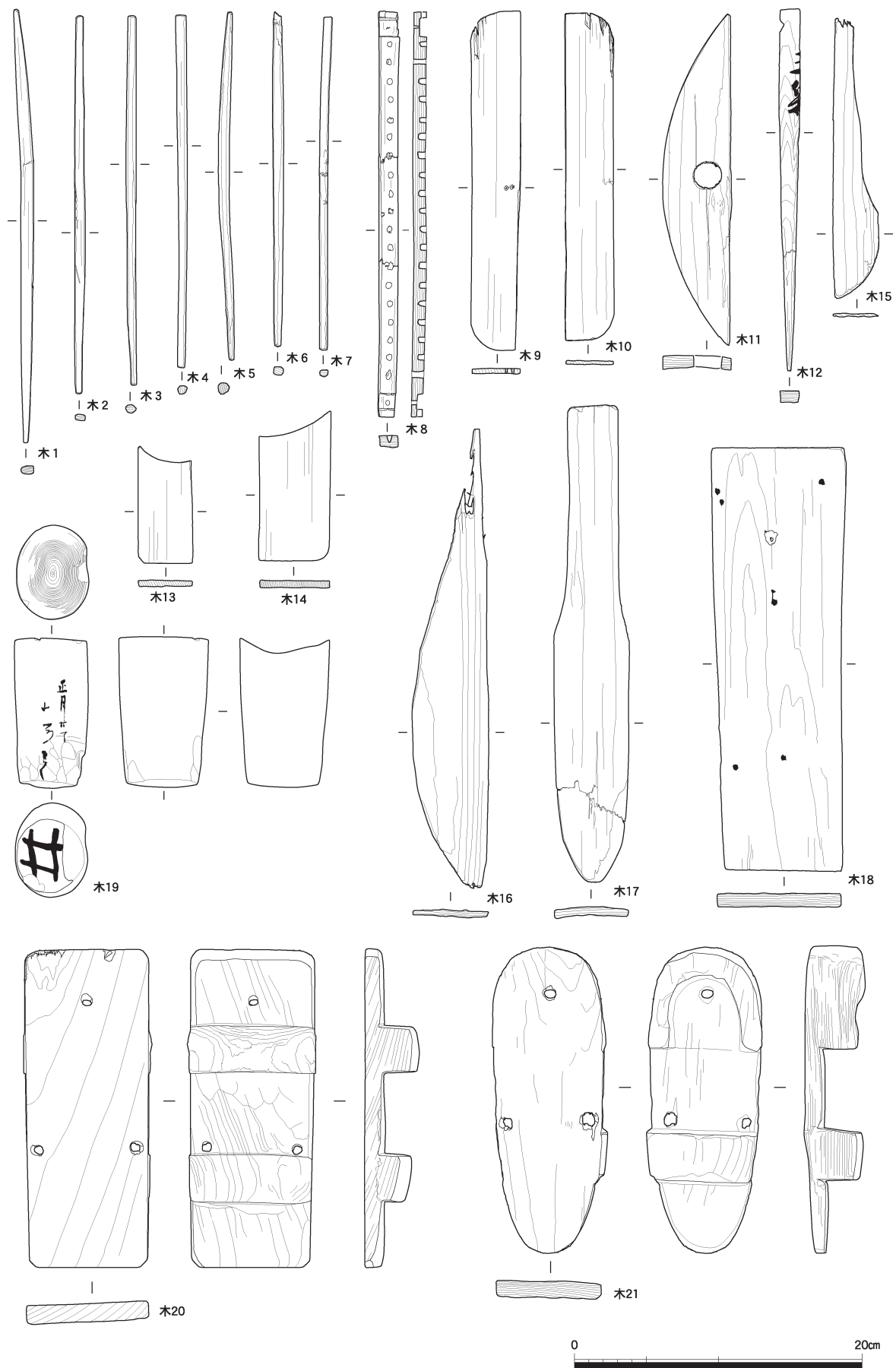


图 117 木製品実測图 (1 : 4)

木製品は井戸や土壇など各期の遺構から出土しているが、その多くは井戸部材として使用されていた曲げ物や板材である。その他の木製品が多量に出土したのは、江戸時代前期の土壇 SK2053 で、建築部材の端材・鉋屑・大鋸屑・加工痕を残す建具の一部・容器類・箸・櫛・漆器椀など多様な遺物が多量に出土している。総量が多く整理・分析がまだ終了していないため、ここではその一部を掲載しておく。

箸（木 1～7）長さ 23 cm 前後から 30 cm を超えるものまで多数出土している。細く割り裂いた柃目材に面取りを施し、断面を径 0.5～0.8 cm の円形および楕円形に仕上げている。幅は端部まで均等なものと同端にかけて細く削るものがある。

鳥籠部材（木 8）長さ 28.0 cm、幅 1.2 cm、厚さ 0.8 cm の断面長方形の部材。両端付近に幅 1.2 cm のほぞを取る。ほぞのほぼ中央に釘孔があり、ほぞ間に約 1.2 cm おきに小孔をあける。片端とその反対側の 2 番目の小孔は材を貫通しているが、他は材の厚さの半ばあたりでとめられている。このほかにも同様の部材片が数点出土している。

折敷底板（木 9・10）木 9 は長さ 23.0 cm、厚さ 0.3 cm、木 10 は長さ 22.8 cm、厚さ 0.2 cm、残幅はいずれも 3.2 cm の薄板。隅を弧状に加工している。木 9 は端から 2.4 cm、木 10 は 0.4 cm 付近に立ち上がり部を取り付けるため 1 対の小孔がつけられている。

桶蓋板（木 11）残長 23.0 cm、残幅 4.8 cm、厚さ 0.8 cm。端部から 2.0 cm の位置に径 2.0 cm の栓穴をあける。部材は板目取る。復元径 33.7 cm の桶蓋になる。

付け札（木 12）長さ 25.2 cm、残幅 1.4 cm、厚さ 0.8 cm。側面の上端から約 1 cm に欠き込みを入れる。両面に墨書が認められるが、中央付近から縦に右半分が欠失しているため判読できない。

板状木製品（木 13・14）大きさはやや異なるが、ほぼ同型の板状製品。角を隅丸にし、反対側を弧状に抉る。木 13 は長さ 8.2 cm、残幅 3.6 cm、厚さ 0.4 cm、木 14 は長さ 10.4 cm、残幅 4.8 cm、厚さ 0.4 cm。

籠状木製品（木 15～17）木 15 は残長 18.2 cm、幅 3.2 cm、厚さ 0.2 cm で、片側が広がる。木 16 は長さ 32.0 cm、幅 5.2 cm、厚さ 0.4 cm。線状の両面に墨痕が認められる。木 17 は長さ 32.8 cm、幅 5.2 cm。厚さ 0.5 cm。幅 3.4 cm 前後の柄部から両側に広がり、先端はすぼまる。先端部の周縁は磨滅している。

板状木製品（木 18）長さ 29.2 cm、幅 9.2 cm、厚さ 0.8 cm の長方形の板材、7 箇所に釘孔があり、裏面の中央あたりに他の部材と組み合っていた痕跡が認められるが、構造は不明である。

不明木製品（木 19）横断面の形態は、本来は最大径 5.7 cm 前後の円形であったと思われるが、土圧で変形し、長径 6.4 cm、短径 5.0 cm の楕円形を呈する。高さは 10.4 cm で、下方に向かいわずかにすぼまる。上端面が 0.8 cm 窪み、下端面はわずかに膨らんでいる。栓状の形態である。側面に『正月廿二日 十□ きく』、底面に『井』の墨書がある。

下駄（木 20・21）木 20 は一木作り連歯下駄。長 22.1 cm、幅 8.4 cm、残高 3.6 cm。木 21 は割り下駄で、長 21.5 cm、幅 7.6 cm、残高 4.0 cm。

漆器（図 118、表 46）

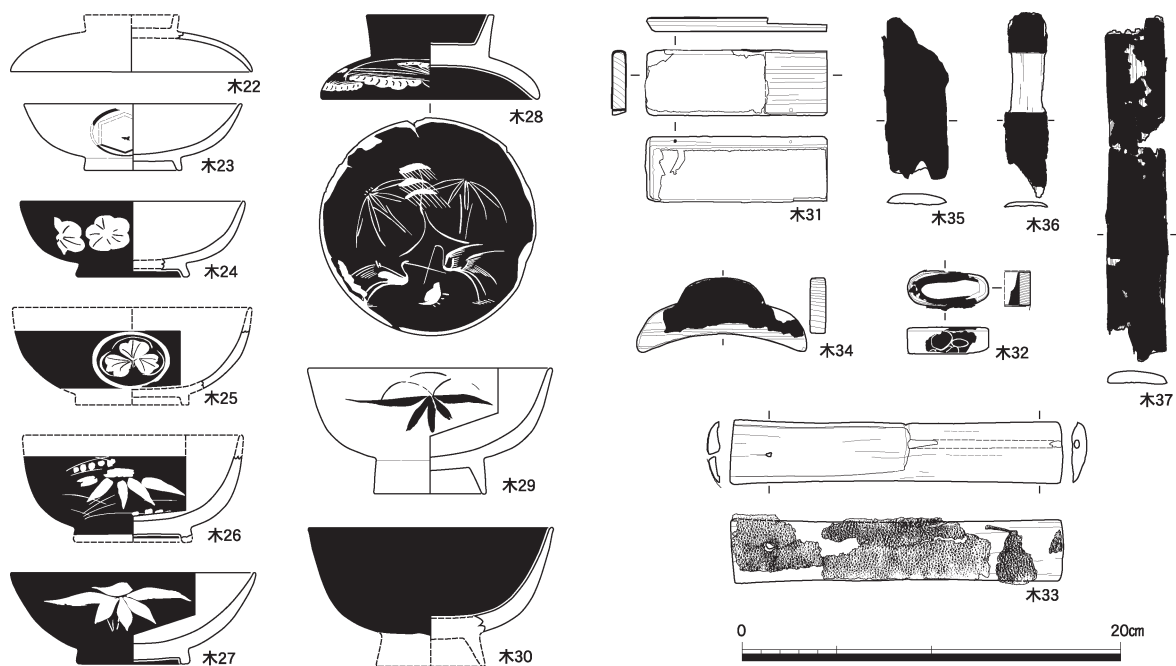


図 118 漆器実測図（1：4）

漆器は総数で 62 件出土している。大半が近世以降の井戸やゴミ廃棄土壌からのものである。これらの漆器類は遺存状態の良好なものは少なく、胎が腐蝕して塗膜のみが残っているだけの資料も多い。多くは椀・皿などの食器類であるが、その他のものも少量ある。ここでは江戸時代前期の土壌 SK2053 から出土した遺存状態が良好なものについて記述する。

SK2053 出土の漆器類においても椀・皿類が主体を占めている点では他の遺構と同様の傾向であるが、食器類以外のなかには折敷あるいは膳の部材と思われるものや、印籠、弓などがある。また、この他に漆の塗布は明瞭ではないが鮫皮が巻かれた刀の柄なども出土している。黒漆が施

表 46 漆器一覧表

番号	種類	色 調		文 様			備 考
		外面	内面	内 容	色	部位	
木22	蓋または皿	赤褐	赤褐	無し	-	-	
木23	蓋または皿	赤褐	赤褐	○内に不明	黒	外	
木24	皿	黒	赤	梅文	赤	外	
木25	椀	黒	赤	○内に葵か	赤+黄	外	
木26	椀	黒	赤	草花文	赤	外	
木27	椀	黒	赤	葉文	赤	外	
木28	蓋または皿	黒	黒	松・竹・鶴・亀	赤	内外	
木29	椀	赤	赤	あるが不明	黒	外	
木30	椀	黒	黒	無し	-	-	
木31	不明部材	赤褐	赤褐	-	-	-	仕口が変則的 釘穴もあり
木32	印籠蓋	黒	-	あるが不明	金	側面	天井中央は赤褐～黒へぼかし塗り
木33	柄	-	-	-	-	-	鮫皮付き
木34	雲頭形部材	黒	-	-	-	-	下端面以外に塗膜あり
木35	弓	黒	-	-	-	-	竹製
木36	弓	黒	-	-	-	-	竹製
木37	弓	黒	-	-	-	-	竹製

されたものが多いが、赤色や赤褐色あるいは文様の部分に黄色の漆を用いた製品もある。

#### 動物遺存体（図版 33～36）

今回の調査では多くの動物遺存体が出土した。平安時代から近世のものがあるが、主体は江戸時代のもので、大半が 11- B の土壌 SK2053 からの出土である。現在種類が判明しているのは、イカ・アワビ・サザエ・バイ・アカニシ・ツメタガイ・アカガイ・ハイガイ・マガキ・イタボガキ・マシジミ・セタシジミ・ハマグリ・タイラギなどの軟体動物、ニシン科・ハモ属・マダラ・コイ・フナ・ナマズ・マダイ・キダイ・サバ属・カツオ・ソウダガツオ属・カマス属・シイラ科・アジ科・ブリ・カサゴ目・コチ科・ボラ科・トビウオ・フグ科・カレイ科などの魚類、キジ目・ニワトリ・ガンカモ科（ヒシクイクラス・マガンクラス・カモ類 A クラス・カモ類 C クラス・カモ類 E クラス）・アオサギなどの鳥類、ほ乳類ではウマ・ウシ目・ニホンジカ・イノシシ類・ネコ・イヌ・ツキノワグマ、両生類ではカエル目、爬虫類ではカメなどである。これらの動物遺存体は現在分析中であり、今回掲載しきれなかった木製品とともに別稿で報告する予定である。

#### 註

- 1) 平尾政幸ほか『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-6（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002 年

表 47 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
奈良時代	瓦		軒丸瓦 2 点、軒平瓦 6 点		
平安時代	土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品、銭貨		土師器193点、黒色土器13点、須恵器23点、瓦器 5 点、白色土器18点、緑釉陶器32点、灰釉陶器（山茶碗含む）30点、輸入陶磁器34点、軒丸瓦15点、軒平瓦 9 点、土錘 2 点、硯 4 点、銭貨 3 点		
鎌倉時代 ～室町時代	土師器、瓦器、白色土器、須恵器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、銭貨、石製品		土師器449点、須恵器 9 点、瓦器62点、白色土器 1 点、焼締陶器19点、施釉陶器16点、輸入陶磁器40点、軒丸瓦 1 点、軒平瓦 6 点、瓦経 1 点、土錘20点、硯 8 点、銭貨33点		
桃山時代 ～江戸時代	土師器、瓦器、国産陶磁器、輸入陶磁器、土製品、石製品、金属製品、銭貨、骨・貝製品、木製品、その他		土師器163点、瓦器32点、焼締陶器56点、国産施釉陶器332点、軟質施釉陶器41点、国産磁器 8 点、輸入陶磁器40点、内窯 2 点、土製品15点、土錘 7 点、滑石製品14点、硯12点、石臼 8 点、石塔 4 点、礎石 1 点、金属製品46点、銭貨 1 点、骨・貝製品28点、木製品37点、動物遺存体一括		
合計		1463箱	1901点（67箱）	417箱	979箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より22箱多くなっている。

## 4. ま と め

今回の調査の結果、多数の遺構・遺物が検出された。それらは平安京の成立以降、明治6年に本能小学校校地となるまでの約1,100年間にわたるこの地域の貴重な歴史資料である。この章ではこれら遺構・遺物からみた当地の土地利用の全般的な動向について検討するとともに、この調査によって明らかになった事実関係やいくつかの問題についてふれ、まとめに代えたい。

### (1) 遺構密度・遺物量からみた土地利用の動向

各期の土地利用の概略についてはすでに第2章で述べたが、ここでは検出した遺構総数に対する各期の遺構数・遺物量を通覧し変化の動向を見ることにしたい。(図119)

まず遺構数の比率の変化では第1期から第2期への急激な増加が目立っている。小規模なピットが多いとはいえ検出した総数の半数を超える遺構がこの時期に集中している。この突出的な第2期を除けば、各期とも10%前後で推移しておりあまり大きな変動はないともいえるが、第3期から第4期にかけて遺構・遺物ともやや減少する傾向はうかがえる。ただ、井戸数だけに関して言えばむしろ第3期より第4期のほうが圧倒的に多く、その点から見れば遺構・遺物の減少を単純に生活密度の低下と評価することはできず、この地域の土地利用のなかで井戸がどのように構築され使用されていたのか検討する必要がある。

### (2) 井戸の分布と時期的変遷

今回の調査で検出した井戸は総数76基である(表49)。期別の井戸数の変化は図119に示したとおりであるが、以下ではさらに出土遺物に基づいて時期を細分し、井戸数とその分布や構造の変化について検討を加えたい。各井戸から出土した土器群の区分に従って、約30年ごとの井戸数の変化を図120に、各期の井戸の平面的分布を図121に表した。さらに各井戸の断面を図122～124に示した。

全体を通覧すると、底部の標高については概ね31.5～32.5mの間に収まるものが多く、時期的な推移は顕著ではない。むしろ各期の中でのばらつきが目立つ。とくに極端に浅い(底部標高

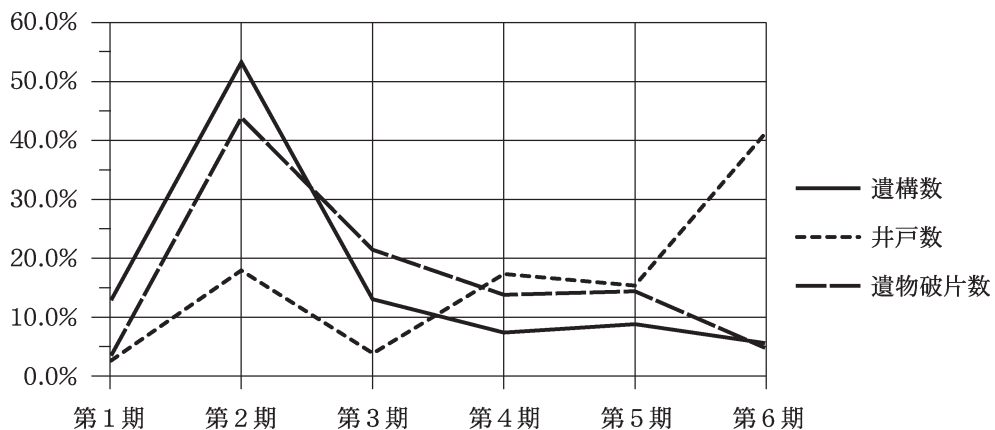


図119 遺構・遺物の動向



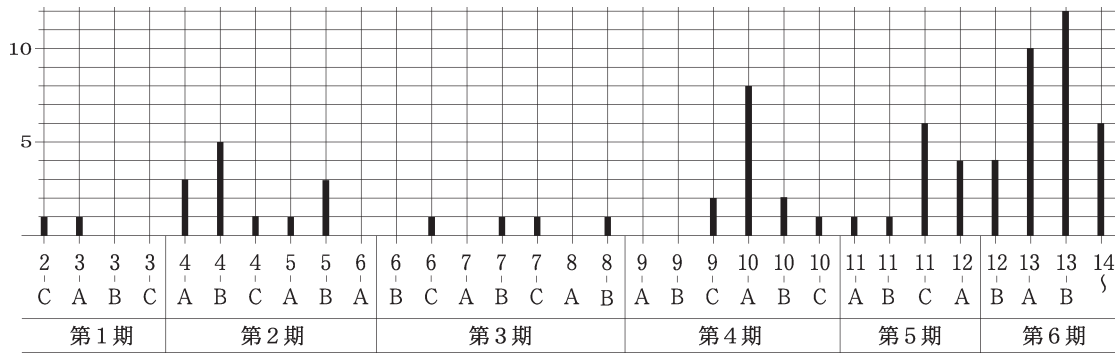


図 120 井戸数の変化

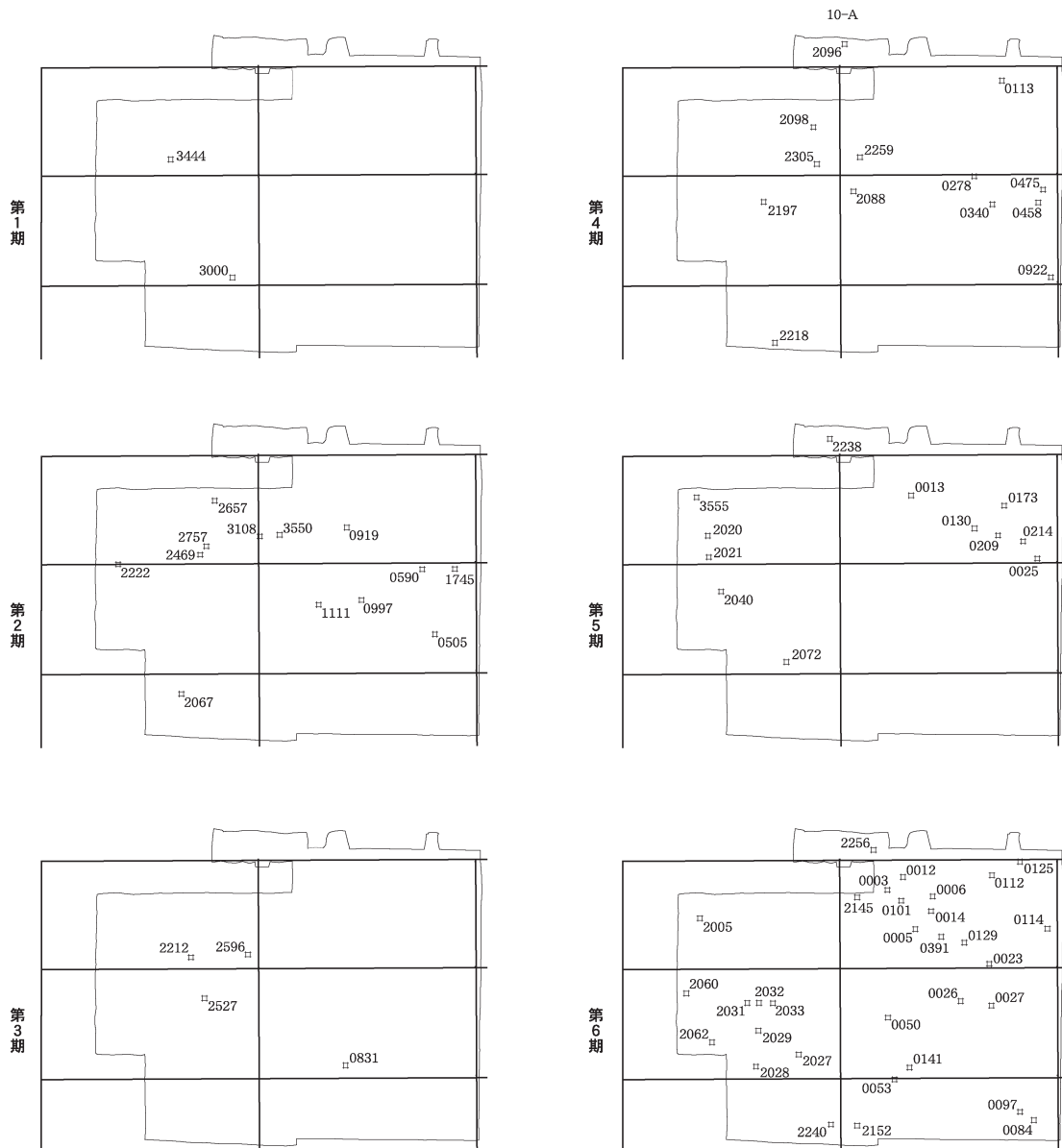


図 121 井戸の分布

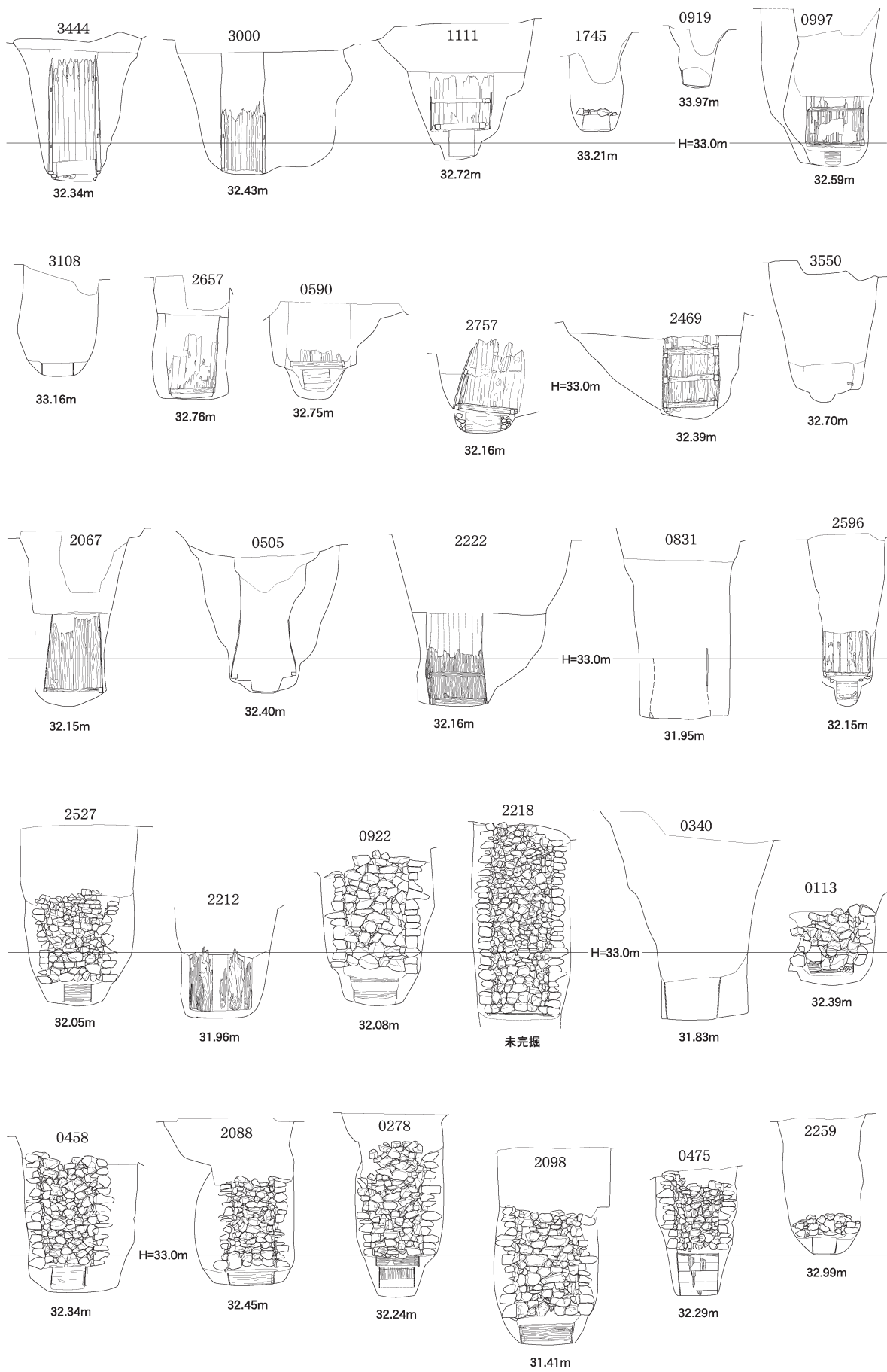


图 122 井戸断面一覽図 - 1

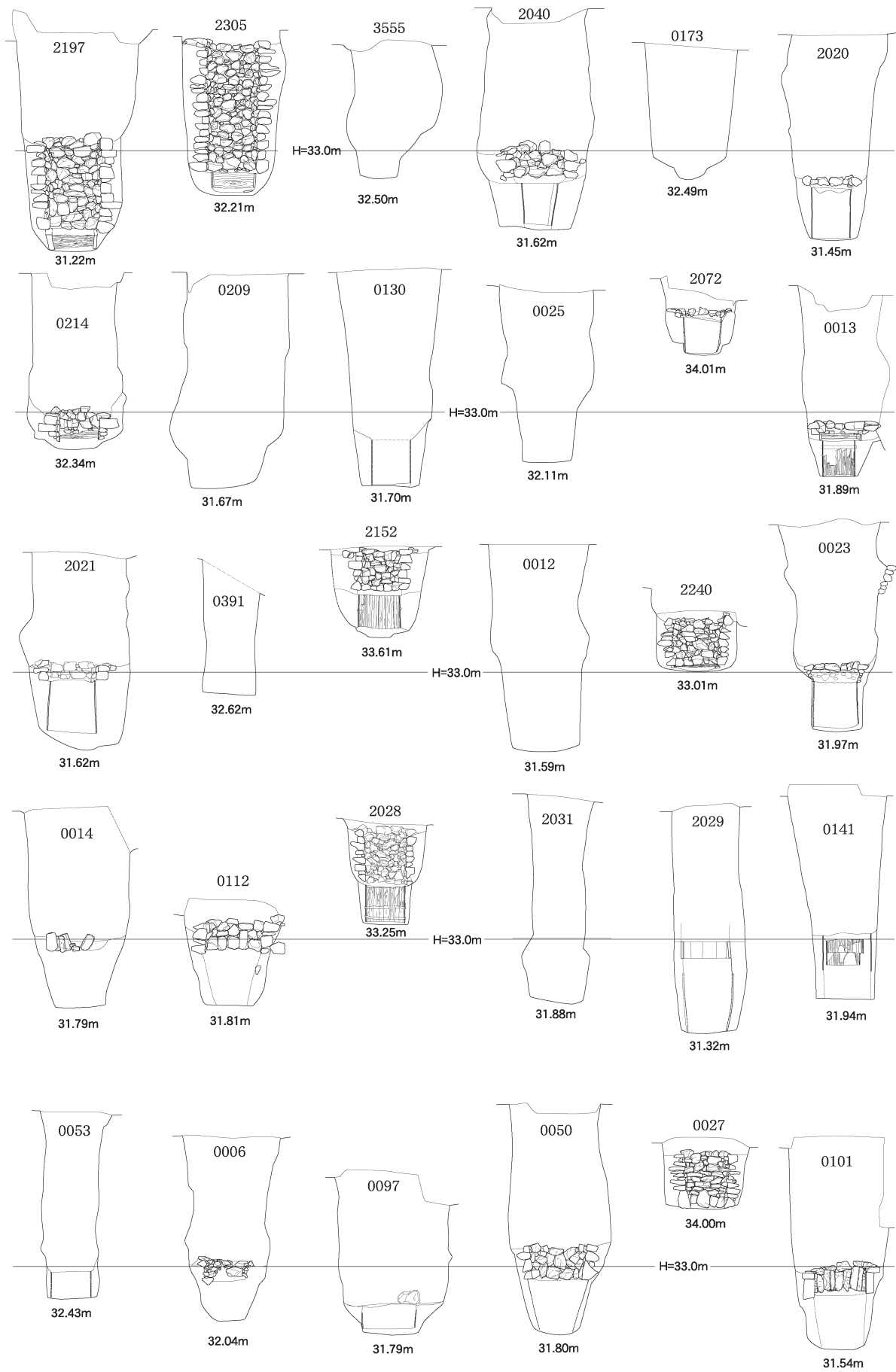


图 123 井戸断面一覽図 - 2

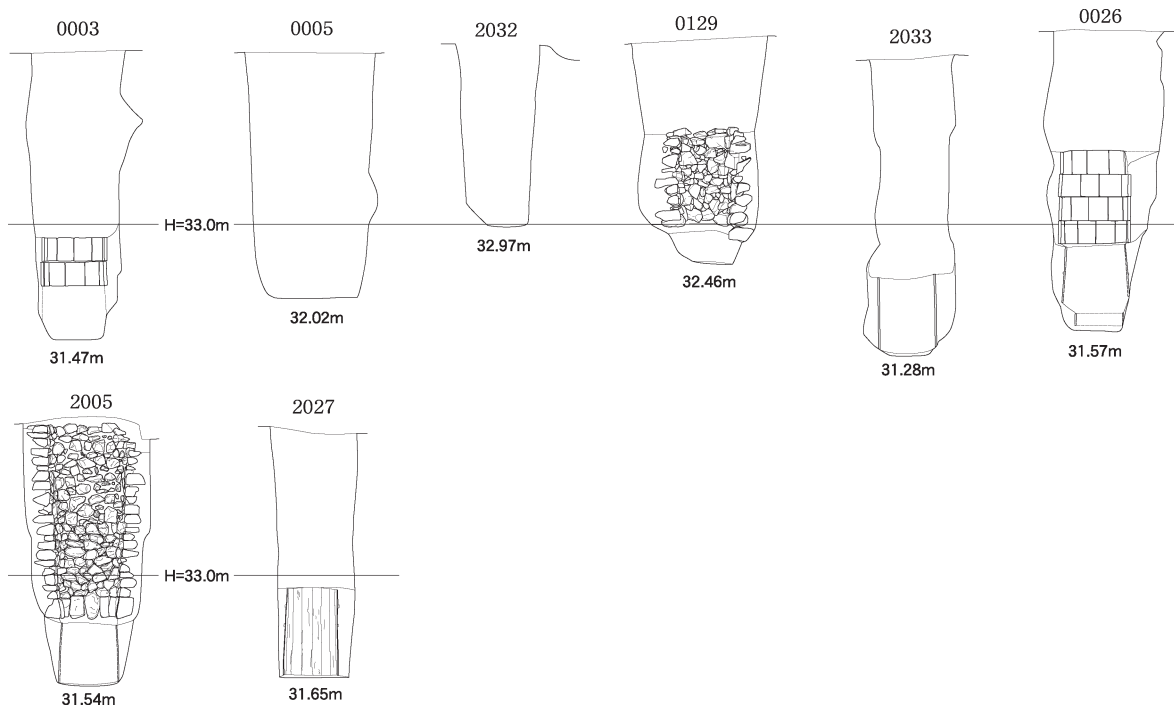


図 124 井戸断面一覧図 - 3

表 48 井戸の石種

	第 4 期の井戸											第 5 期の井戸		
	SE0458	SE0922	SE2088	SE2218	SE0278	SE0475	SE2098	SE2197	SE2259	SE2305	SE0113	SE2040	SE0214	SE2020
石材残存数	321	200	250	643	475	232	291	216	62	310	89	41	31	13
花崗岩	7.5%	93.5%	3.6%	0.5%	4.6%	11.2%	10.0%	6.0%	6.5%	8.1%	38.2%	2.4%	9.7%	15.4%
安山岩	2.8%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.2%	1.7%	2.3%	3.2%	0.6%	4.5%	2.4%	0.0%	0.0%
チャート	15.0%	0.0%	8.8%	27.1%	9.7%	11.2%	13.4%	11.1%	17.7%	21.9%	5.6%	19.5%	6.5%	15.4%
礫岩	0.3%	1.5%	0.8%	0.5%	3.8%	0.9%	2.7%	0.0%	1.6%	1.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
砂岩	71.3%	5.0%	78.8%	71.5%	75.8%	68.1%	67.0%	79.2%	71.0%	64.5%	41.6%	73.2%	80.6%	69.2%
泥岩	1.6%	0.0%	0.4%	0.0%	3.4%	4.7%	1.4%	0.5%	0.0%	1.3%	1.1%	2.4%	3.2%	0.0%
粘板岩	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
凝灰岩	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
緑泥片岩	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ホルンフェルス	1.6%	0.0%	5.6%	0.2%	2.7%	1.7%	3.8%	0.9%	0.0%	1.9%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
その他変成岩	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
他・不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	第 5 期の井戸			第 6 期の井戸										
	SE0013	SE2072	SE2021	SE0014	SE0112	SE2028	SE2152	SE2240	SE0006	SE0050	SE0101	SE0129	SE2062	SE2005
石材残存数	87	61	28	6	57	172	114	149	35	73	45	211	41	394
花崗岩	14.9%	13.1%	17.9%	100.0%	68.4%	8.1%	7.9%	8.7%	17.1%	86.3%	62.2%	9.0%	46.3%	19.8%
安山岩	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	1.8%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
チャート	25.3%	19.7%	7.1%	0.0%	7.0%	19.2%	23.7%	18.1%	14.3%	1.4%	11.1%	16.6%	2.4%	4.6%
礫岩	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
砂岩	54.0%	59.0%	67.9%	0.0%	24.6%	61.0%	64.9%	69.1%	57.1%	12.3%	17.8%	71.1%	43.9%	71.3%
泥岩	1.1%	1.6%	3.6%	0.0%	0.0%	5.2%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	4.4%	0.9%	7.3%	3.6%
粘板岩	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
凝灰岩	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
緑泥片岩	1.1%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
ホルンフェルス	2.3%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	1.8%	1.3%	2.9%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.8%
その他変成岩	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
他・不明	1.1%	1.6%	3.6%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%	0.5%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 49 井戸一覧表

期	井戸番号	時期区分	構 造	期	井戸番号	時期区分	構 造
第1期	3444	02-C	円形縦板組 下段に曲げ物	第5期	2020	11-C	円形石組 下段に桶
	3000	03-A	円形縦板組		2238	11-C	構造不明
第2期	0919	04-A	下段に曲げ物		0013	12-A	円形石組 下段に桶
	1111	04-A	方形縦板組 下段に曲げ物		0025	12-A	構造不明
	1745	04-A	不明 下段に曲げ物		2021	12-A	円形石組 下段に桶
	0590	04-B	方形縦板組 下段に曲げ物		2072	12-A	円形石組 下段に桶
	0997	04-B	方形縦板組 下段に曲げ物		0012	12-B	構造不明
	2657	04-B	方形縦板組		0391	12-B	構造不明 素掘りか
	2757	04-B	方形縦板組 下段に曲げ物		2152	12-B	円形石組 下段に桶
	3108	04-B	方形縦板組 下段に曲げ物		2240	12-B	円形石組
	2469	04-C	方形縦板組		0006	13-A	円形石組 下段に桶か
	3550	05-A	方形縦板組		0014	13-A	円形石組 下段に桶か
	0505	05-B	方形縦板組 下段に曲げ物か	0023	13-A	円形石組 下段に桶	
	2067	05-B	方形縦板組	0053	13-A	構造不明 下段に桶	
2222	05-B	方形縦板組	0097	13-A	円形石組か 下段に桶		
第3期	0831	06-C	方形縦板組	0112	13-A	円形石組 下段に桶か	
	2596	07-B	方形縦板組 下段に曲げ物	0141	13-A	円形石組 下段に桶	
	2527	07-C	円形石組 下段方形木枠	2028	13-A	円形石組 下段に桶	
	2212	08-B	多角形縦板組	2029	13-A	円形磚組 下段に桶	
第4期	0922	09-C	円形石組 下段方形木枠 2段	2031	13-A	構造不明 素掘りか	
	2218	09-C	円形石組 底部未確認	0003	13-B	円形磚組 下段に桶か	
	0113	10-A	円形石組 下段方形木枠	0005	13-B	構造不明	
	0278	10-A	円形石組 下段方形木枠 2段	0027	13-B	円形石組	
	0340	10-A	構造不明 下段に桶	0050	13-B	円形石組 下段に桶	
	0458	10-A	円形石組 下段方形木枠	0101	13-B	円形石組 下段に桶か	
	0475	10-A	円形石組 下段に桶	0114	13-B	構造不明	
	2088	10-A	円形石組 下段方形木枠	0125	13-B	構造不明	
	2096	10-A	円形石組 底部未確認	0129	13-B	円形石組	
	2098	10-A	円形石組 下段方形木枠	2032	13-B	構造不明 素掘りか	
	2197	10-B	円形石組 下段方形木枠	2060	13-B	円形石組 底部未確認	
	2259	10-B	円形石組 下段に桶	2062	13-B	円形石組漆喰目地 底部未確認	
2305	10-C	円形石組 下段方形木枠	2256	13-B	構造不明		
第5期	3555	11-A	構造不明 素掘りか	0026	14-	円形磚組 下段に桶	
	2040	11-B	円形石組 下段方形木枠	0084	14-	構造不明	
	0130	11-C	構造不明 下段に桶	2005	14-	円形石組漆喰目地 下段に桶	
	0173	11-C	構造不明	2027	14-	下段に桶	
	0209	11-C	構造不明	2033	14-	構造不明 素掘りか	
	0214	11-C	円形石組 下段方形木枠	2145	14-	円形石組を漆喰塗りに	

が 34 m前後) ものが数基認められるが、これらは機能面で他の井戸と区別すべきものかもしれない。構造面では最も古い 2 基 (SE3444 と SE3000) が円形縦板組の他、方形縦板組から円形石組みへと遷移している。石組み井戸の出現は当遺跡では第 3 期にあたり、以後石組みが主流となる。江戸時代後半以降には石と磚を併用した井戸や磚組あるいは漆喰を用いたものが増加する。石組み井戸でも最下部には木枠や桶を併用した例が多い。

次に石組み井戸が主流となる第 4 期以降の石材についてみると表 48 のようになる。第 4 期の SE0922 を除くと第 4 期・5 期では花崗岩を主体とする井戸は意外に少なく、ほとんどの井戸で砂岩が過半数、次いでチャートなどの川原石が主体を占めている。第 6 期では花崗岩が高い比率を示す例がやや増えるが、やはり砂岩を多く用いた井戸が多い。これらの点からみれば、井戸の構築には砂岩やチャートが主に使用され、他の石材は補助的に用いられていたと言えよう。また、

第4期に比べ第5期以降では残存石材数が極めて少なく、石組みがわずかに残る程度の井戸が多いが、これは井戸の廃棄時に石材が新たに構築される井戸や石室に再利用された可能性を示すものと思われる。これに対して第4期の井戸はほぼ検出面から石組みが残存する例が多くみられた。このような差違が何に起因するのかは、この遺跡の状況からだけでは判断できないが、平安京内の複数の遺跡で同様の検討ができれば明らかになっていくものと思われる。

### (3) 本能寺の位置と下京惣構えの濠

本能寺は創建当初、本応寺と号し、油小路高辻と五条坊門の間に応永二十二年（1415）日隆により建立された日蓮宗の寺院である。この本応寺は日隆と妙本寺の月明との宗内対立の結果、妙本寺衆徒により破却される。その後寺号を本能寺と改め、永享五年（1433）に六角以南、四条坊門以北、櫛笥以東、大宮以西の方1町に再建されたが、これも天文五年（1536）、いわゆる天文法華の乱によって壊滅した。天文十六年（1547）には法華宗の帰洛が許されるが、その頃に今回の調査地北側に再興されたものと考えられる。再興はその数年前から準備されていたらしく、『本能寺文書』や『熊谷（純）家文書』には天文十四年（1545）、六角と四条坊門、油小路と西洞院に囲まれた方1町（左京四条二坊十五町）の土地を土倉の沢村氏から購入した記録が残されている。この「本能寺」は、天正期には織田信長の京における定宿として使われ、同十年（1582）六月二日、明智光秀の謀反（本能寺の変）によって焼亡するまでこの地に存在した。本能寺の変後の七月には寺地への還往が許され、同地での再建が試みられたが、その途中に豊臣秀吉の都市計画に従い現在の位置（寺町御池付近）へと移された。

調査地北側に存在した、本能寺の変で焼失したこの「本能寺」の位置に関しては、上述の史料を見る限り十五町の方1町に所在していたことは明らかである。また、今回の調査で下京惣構えの濠とみられるSD2000が検出されたことにより、「本能寺」の位置は決定的になったといえよう。

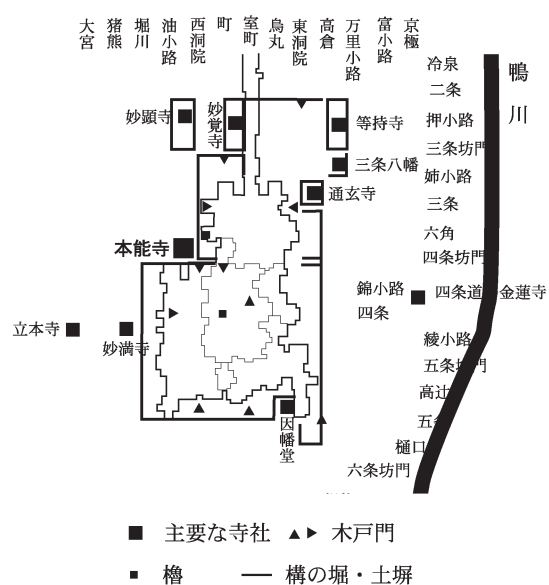


図 125 下京復元図（洛中洛外より、一部改変）

「本能寺」付近が描写されている『洛中洛外図屏風（上杉本）』には西洞院の東側と四条坊門の南側に沿って土堀が描かれており、西洞院には中央に川が流れている。四条坊門は土堀に通りの南半が隠されるような画角で描かれているため濠の有無は明らかではないが、高橋康夫氏の『下京の復元』（図 125）によれば、四条坊門の南側に土堀と濠が想定されている。SD2000 を下京惣構えの濠と推定したのもこの高橋氏の復元案に依拠しており、この濠は構の土堀北側に存在していたものと考えられる。問題の「本能寺」は四条坊門の構の北側、すなわちこのSD2000の北側に描かれていることになり、十四町側にはおよばない。

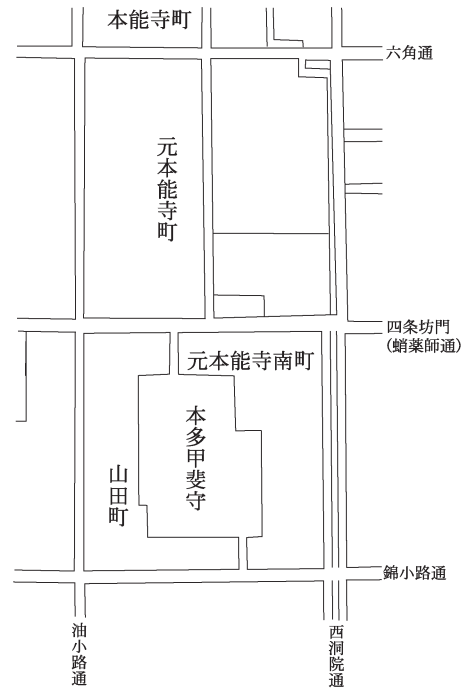
ところで、森幸安が宝暦三年（1753）に作成した『中昔京師図』には、南側の十四町を含めた南北2町が「本能寺地」として記載されている。これは上述の事実関係から見れば明らかに誤りであるが、この絵図は後の地誌などに影響を与え、たとえば『京都坊目誌』などには「東西一町、南北二町」と記されているように、後代には南北二町が通説となったようである。調査地にあった本能小学校の校名制定の際にも「本能寺」の故地という意識が強く働いていたという。幸安が『中昔京師図』の作成にあたり、何故南北2町を「本能寺地」として指定したのかは疑問の残るところではあるが、おそらく本能寺の変の後、約170年を経た宝暦三年頃までにはその正確な位置が不明になっていたことは十分推測できる。現在、周辺には調査地の一部をその南側に含む元本能寺南町・小川通の四条坊門（現蛸薬師）から六角までの元本能寺町・六角通の油小路から西洞院の本能寺町など「本能寺」との関連をうかがわせるような「本能寺」を含む町名が点在する。興味深いことにこれらの町の基本的な町組にはほとんど変化はないが、各町名は時代とともに変遷している。調査地西側の山田町をあわせてその変遷過程の概略をたどると以下のようである（表50・図126）。

元本能寺南町 『寛永十四年（1637）洛中絵図』に本能寺南町とあり、蛸薬師通を挟む両側町である。『寛永十八年（1641）以前平安城町並図』には七間さいけ（在家）町、『京町鑑 宝暦十二年（1762）』に元本能寺在家町とある。

本能寺町 『寛永十四年洛中絵図』に六角本能寺町とある。六角通を挟む両側町である。中央に小川通が位置する。『寛永十八年以前平安城町並図』にはひちり（聖）町、『天保二年（1831）改正京町絵図細見大成』に本能寺町とある。

元本能寺町 『寛永十四年洛中絵図』に本能寺突抜町とあり、小川通六角下がるより蛸薬師までの両側町。『寛永十八年以前平安城町並図』に本能寺町、『京町鑑』では元本能寺町となっている。

山田町 『寛永十四年洛中絵図』に山田町とあり、そ



寛永十四年洛中絵図に現在の町名を記入

図126 付近の町名

表50 町名の変遷

『寛永十四年（1637）洛中絵図』	本能寺南町	六角本能寺町	本能寺突抜町	山田町
『寛永十八年（1641）以前平安城町並図』	七間さいけ町	ひちり町	本能寺町	
『京町鑑』宝暦12年（1762）	元本能寺在家町		元本能寺町	
『天保2年（1831）改正京町絵図細見大成』		本能寺町		
現在の町名	元本能寺南町	本能寺町	元本能寺町	山田町

の後変化はない。『京都坊目誌』には「天正年中、山田左衛門の第此町にあり、故に名とす」と記されている。

[本能寺]を含む三つの町名のうち、現本能寺町の寛永十四年時点での町名は六角本能寺町であり、その後に聖町を経て本能寺町となったことがわかる。六角本能寺町という町名は本能寺の北側を通る六角通の両側に成立した町の名称として順当な名称である。

現元本能寺町は本能寺突抜町から、六角本能寺町が聖町に変わった段階では本能寺町になり、その後、宝暦十二年（1762）刊の『京町鑑』では元本能寺町と記されている。さらに現元本能寺南町は、本能寺南町から七間在家町、元本能寺在家町を経て元本能寺南町となっている。こうした経過をみると、寛永十四年段階では[本能寺]だけを町名に用いた町は存在せず、[六角]・[南]・[突抜]などの語と組み合わせた町名が採用され、その後の経過の中で本能寺町という町名が2箇所使われていることがわかる。ここで留意すべきは[突抜]という語である。足利建亮氏によれば[突抜]は辻子の成立を阻む障碍になる施設や事情のある箇所が、その後に開通した場合その部分に付される通り名称であるという。であれば、小川通の六角から四条坊門間の本能寺突抜町の場所に存在していたその障碍といえば「本能寺」に相違なく、それは今回の調査で確定した位置とも符合する。個々の町名変更の理由や契機は明らかではないが、「本能寺」跡地周辺に於ける寛永以降の町名の変遷は、本能寺の変という歴史上の大事件の舞台である「本能寺」を町名に取り入れたいと願う町衆の意識の所産であろう。そして幸安が『中昔京師図』を作成した時点ですでに本能寺旧地の枠を超えて[本能寺]を冠した町が成立しており、その町名の影響から南北2町の復元案が生まれたのかもしれない。

#### （４）本多甲斐守京邸とゴミ廃棄土壌 SK2053

江戸時代前期の土壌 SK2053 の検出位置は十四町の北西部にあたる。油小路の東・四条坊門の南それぞれ約 30 m 隔てた場所である。検出位置や出土遺物の時期から、この土壌を本多甲斐守京邸のゴミ廃棄土壌と推定したが、以下ではその本多家京邸内での位置関係や成立期について検討

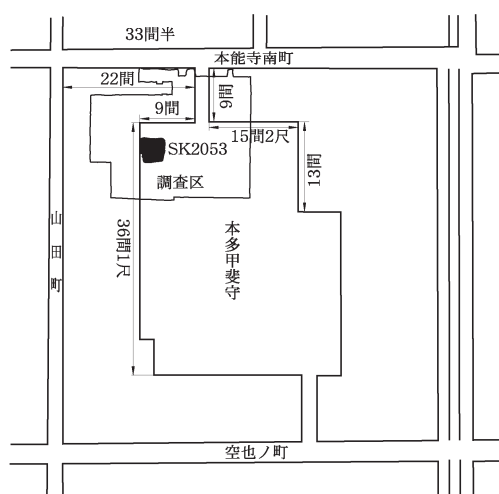


図 127 本多甲斐守京邸と SK2053 の位置

してみよう。

『寛永十四年洛中絵図』（以下『洛中絵図』）には十四町の中央、四周を町屋に囲まれた箇所に「本多甲斐守」と記載されている。これによれば本多家の敷地には南北2箇所に入出口があり、四条坊門と錦小路へ抜ける通路が開いている。北の通路は油小路から22間東にあり、南に9間で敷地に達する。道幅は記載がないため不明である。敷地の北辺はこの通路を挟んで東に15間2尺、西に9間と記載されている。したがって、22間から9間戻った13間が油小路から本多家の敷地西限までの距離となる。



『洛中絵図』にはすべての寸法が記されていないことや、単位尺が不明ではあるが、いま仮に蛸葉師通南辺で実測した油小路 - 西洞院間の距離 129.1 m を 63 間で割った約 2.04 m を 1 間とすると敷地北辺は四条坊門から南に約 18 m、西辺は約 26 m となり、SK2053 が敷地の北西隅付近に位置することがわかる。次にその成立時期であるが、まず『洛中絵図』によって寛永十四年時点にはここに本多氏の京邸があったことは明らかである。次に本多甲斐守すなわち本多政朝は、本多忠勝の次男忠朝の嗣子として慶長四年（1599）に生まれるが、忠勝の長子忠政の養子となり、寛永八年（1631）忠政の逝去にともない家督を継ぐ。したがって、『洛中絵図』に「本多甲斐守」と記されているこの屋敷が政朝の段階で造営されたとすれば、その上限を寛永八年とすることができる。あるいは忠政の段階からこの地が本多家によって利用されていたならばそれ以前に遡る可能性があるが、忠政の職名は美濃守であり、『洛中絵図』の「本多甲斐守」の記載と矛盾するため、やはり京邸は政朝の時期に造営されたと見ておくべきであろう。また、土壌の最下層から出土した多量の建築廃材は、この土壌が造営時の廃材処理に利用されたことを示しており、その点から見れば SK2053 の成立期は政朝の相続時に近い時期と推定できる。出土土器類の年代観も 1620 ～ 1650 年頃と想定している 11- B に位置づけられ、史料からの推定と齟齬はない。以上の点から SK2053 は 1630 年代のおそらく早い段階に造営時の廃材処理用として成立し、堆積状況からその後ゴミの廃棄場所としてしばらく使用されていたものと推測できる。そして政朝が没する寛永十五年（1638）頃まで存続していたものと思われる。

### （5）軟質施釉陶器の生産について

今回の調査地からは軟質施釉陶器とその素地が多量に出土した。出土総数は 1,035 片におよび、

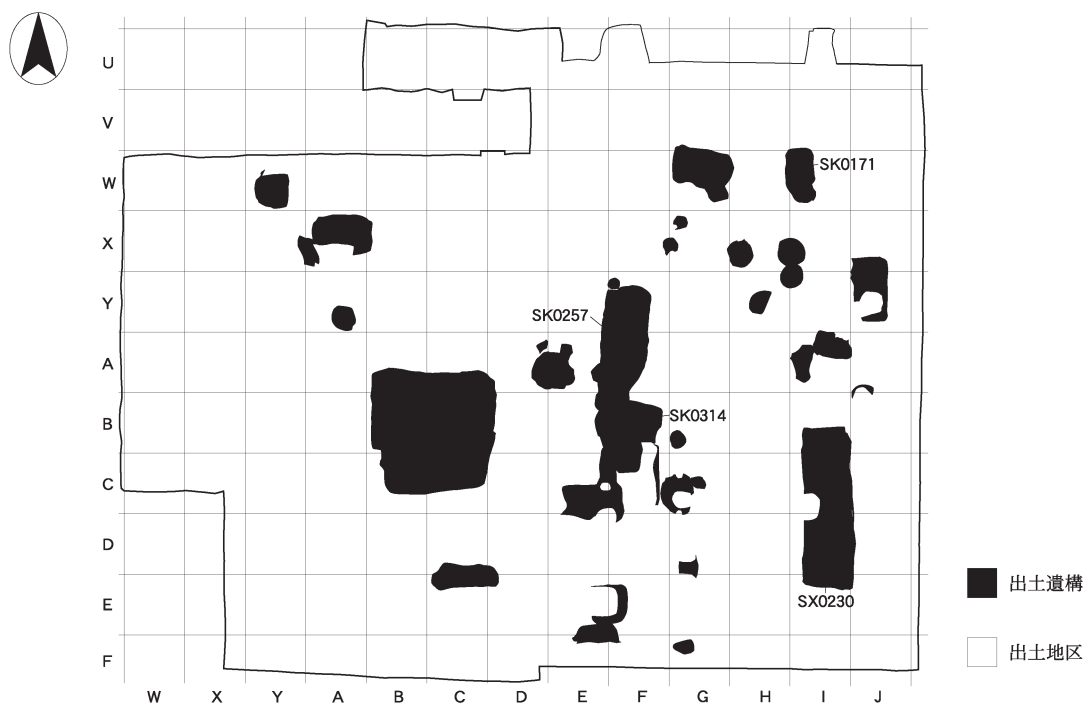


図 128 軟質施釉陶器の出土分布

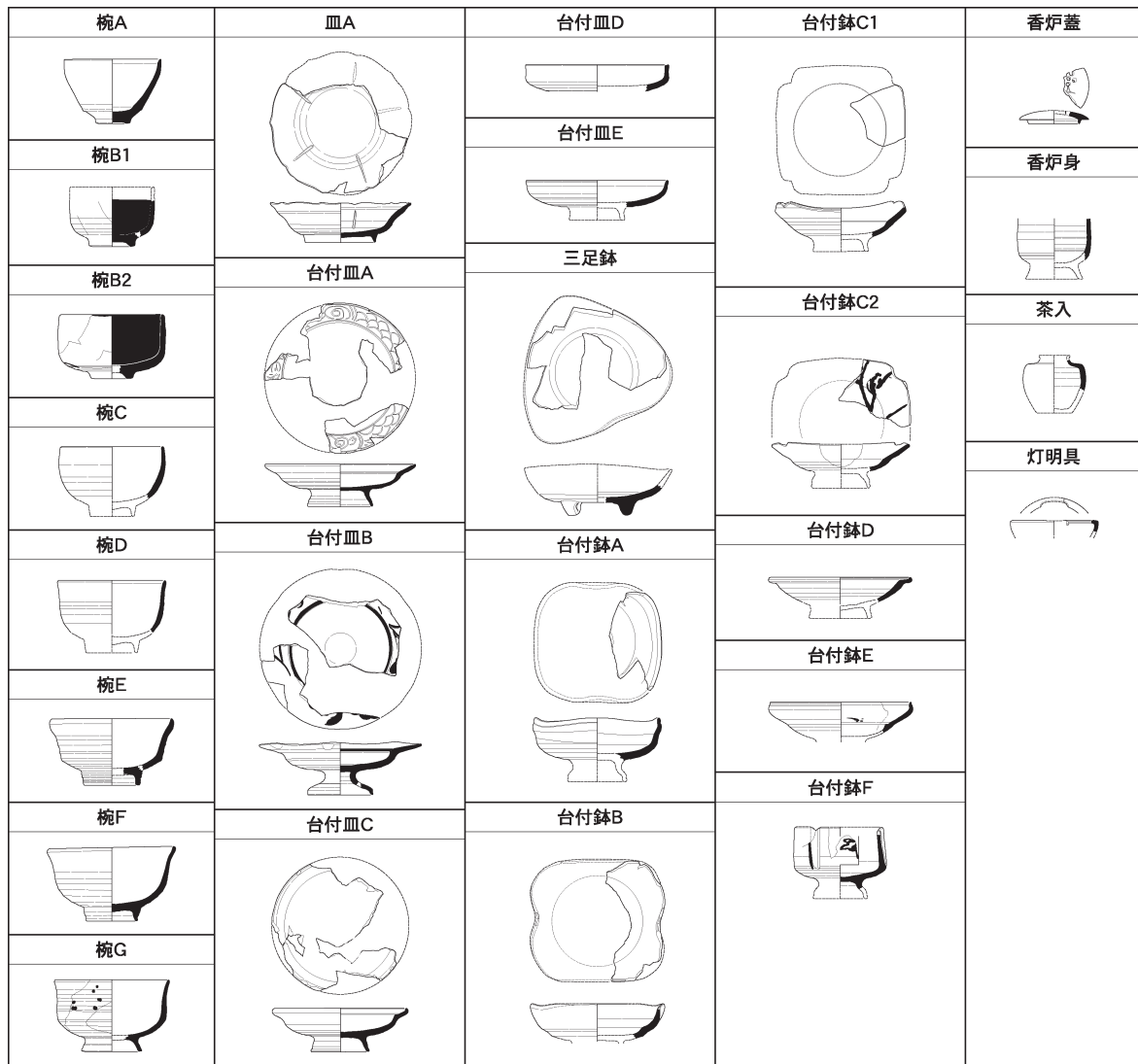


図 129 軟質施釉陶器の器形

いているもの（資料3・4）と、鉄と銅（Cu）を併用しているもの（1・2）がある。焦げ茶と  
表 51 軟質施釉陶器器形別出土点数

碗類	製品	碗A	碗B1	碗B2	碗C	碗D	碗E	碗F	碗G	碗X	碗類計	比率*は 総数に占 める比率
	素地	0	0	0	0	0	1	9	15	0	5	
小計	5	11	17	0	7	9	18	7	18		92	
比率*	0.6%	1.4%	2.2%	0.0%	0.9%	1.2%	2.3%	0.9%	2.3%		11.9%	
皿・台付き皿類	製品	皿A	皿X	台付皿A	台付皿B	台付皿C	台付皿D	台付皿E			皿類計	
	素地	9	1	15	2	0	11	3			41	
	小計	87	4	15	37	23	13	3			182	
	比率*	11.3%	0.5%	1.9%	4.8%	3.0%	1.7%	0.4%			23.5%	
台付き鉢・三足鉢	製品	台付鉢A1	台付鉢B	台付鉢C1	台付鉢C2	台付鉢D	台付鉢E	台付鉢F	台付鉢X	三足鉢	鉢類計	
	素地	68	10	0	101	10	10	0	6	144	349	
	小計	74	27	3	120	10	25	11	16	145	431	
	比率*	9.6%	3.5%	0.4%	15.5%	1.3%	3.2%	1.4%	2.1%	18.8%	55.8%	
その他	製品	茶入	灯明具	香炉蓋	香炉身	他	不明				その他計	総数
	素地	0	0	3	8	12	18				41	461
	小計	1	1	3	9	22	32				68	773
	比率*	0.1%	0.1%	0.4%	1.2%	2.8%	4.1%				8.8%	

これまでのこの種の陶器の出土量としては特異的である。これらの資料は過半数が素地で占められており、また焼き損じたものや内窯の破片も含まれていることなどから、調査地近傍で軟質施釉陶器生産が行われていたことが推測できる。これら軟質施釉陶器は主として 11- B に属する 44 基の遺構や 17 地区の包含層から出土しているが、包含層からの出土は 30 点とわずかで、大半が遺構にともなう資料である。また、そのうちの 81.6% が SK0171・SX0230・SK0257・SK0314 の 4 遺構から出土しており、特に SK0171 からの出土点数が 691 片と群を抜いている。それらの出土地点を図 128 に示したが、出土分布は調査区東寄りに偏っており、先述の 4 遺構はすべて東半に位置している。層からの出土地区もこの 4 遺構の範囲とほぼ重複し、工房がこの範囲内に存在していた可能性も考えられる。この区域の大部分が前項で推定した本多家京邸と重なることから、ここでの軟質施釉陶器生産は本多家京邸の造営までには終焉していた蓋然性が高い。出土した製品や素地には椀・皿・台付き皿・三足鉢・台付き鉢・香炉・茶入・灯明具など多くの器形があり、これらはさらに形態的な特徴から細分でき、類似する形態の鉢類にも口縁の変形や切り欠きの差による多くのバリエーションがある。このうち形態の判明したものについての分類結果とその数量を図 129 および表 51 に示した。半数以上が台付き鉢類（向付？）で皿類がそれに次いで多い。椀類は全体の 1 割強を占める程度である。皿類には施釉されたものが多いが、鉢類の約 8 割は素地である。白化粧された例が多く、色絵が施されたものもある。色絵は緑を垂らし掛けしたものや、緑・茶・焦げ茶・赤紫などで草花文・唐草文・梅文を描いたものなどがあるが、総じて文様は単純化されており、織部や絵唐津に通じるところがある。文様はすべて釉下彩である。釉色には黒釉・淡緑釉・透明釉がある。施釉されたものや色絵が施されているものから釉色や色絵の各色に基づいて 21 点を抽出し成分分析を行ったところ、すべての資料から鉛(Pb)が検出され、鉛釉陶器であることが確認できた。他の成分をみると、まず黒釉では鉄 (Fe) を呈色剤として用

表 52 軟質施釉陶器の釉成分比

No	色調	Al	Si	P	K	Ca	Ti	Fe	Ni	Cu	As	Zr	Sn	Pb	備考
1	黒	3.59	11.61	2.16	0.57	0.71	0.57	3.65	-	4.21	0.06	-	0.60	72.26	黒釉 化粧無し
2	黒	4.35	14.50	-	-	0.41	0.30	2.56	0.04	3.64	0.06	0.17	-	73.98	黒釉?
3	黒	5.52	2.10	9.49	-	1.47	0.82	33.28	0.03	0.65	0.04	0.13	0.27	46.21	赤みの黒
4	黒	1.71	7.13	7.83	0.39	5.16	0.14	15.51	-	0.31	0.05	0.11	-	61.64	黒釉
5	焦げ茶	-	24.58	-	0.45	1.20	-	2.47	-	0.44	0.06	0.11	-	70.65	
6	焦げ茶	-	35.04	-	-	0.90	-	0.82	-	0.14	-	-	-	63.10	
7	焦げ茶	-	20.71	-	0.47	1.65	-	6.80	-	0.71	0.06	0.14	-	69.46	
8	茶	-	25.33	-	-	0.49	-	0.90	-	0.13	-	-	-	73.16	赤みの茶
9	茶	-	36.78	-	0.15	0.65	-	0.40	0.03	0.14	0.05	-	-	61.76	赤みの茶
10	赤紫	-	41.40	-	0.57	2.32	0.19	1.63	0.03	0.41	0.05	0.09	-	53.15	辰砂風に発色
11	赤紫	-	21.36	-	0.58	1.35	0.12	0.75	0.07	2.38	0.06	0.15	-	73.18	辰砂風に発色
12	赤紫	-	18.53	-	-	1.05	-	0.47	-	0.90	-	-	-	79.06	辰砂風に発色
13	緑	-	21.46	-	0.43	1.28	-	0.59	0.03	1.72	0.06	0.13	-	74.30	
14	緑	-	24.71	-	-	0.56	-	0.47	-	3.53	-	-	-	70.74	緑部・織部風
15	透明	-	24.69	-	0.29	1.17	-	0.32	0.06	0.07	0.06	0.11	-	73.24	やや緑味 化粧無し
16	透明	4.17	31.71	-	1.15	0.63	0.40	1.67	-	0.18	0.05	0.18	-	59.86	白化粧+透明釉?
17	透明	2.57	41.79	-	0.49	1.40	0.31	2.16	0.05	0.09	0.04	0.08	-	51.02	素地赤土+透明釉
18	透明	-	24.47	-	0.28	2.40	-	0.27	-	0.05	0.06	0.12	-	72.34	白化粧+透明釉?
19	透明	-	29.07	-	0.80	4.15	-	0.38	-	-	-	-	-	65.60	白化粧+透明釉?
20	透明	4.81	46.69	-	2.09	2.45	0.68	3.03	-	0.09	0.04	0.17	-	39.86	側面
21	透明	-	18.95	-	-	1.00	-	1.05	-	0.32	-	-	-	78.68	
		avg.	24.89				avg.	3.77	avg.	0.96			avg.	65.87	
		max.	46.69				max.	33.28	max.	4.21			max.	79.06	
		min.	2.10				min.	0.27	min.	0.00			min.	39.86	

茶色についても鉄が用いられているが、その比率は黒釉に比べ非常に低い。緑色（13・14）は銅を呈色剤にしているようであるが、赤紫（10～12）にも同様に銅が使用されている。この色調は銅の還元色とみられ、焼成状態による発色の違いとも考えられるが、同一個体に緑と赤紫の2色がみられる例があることや、梅文の枝などに赤紫が使われていること、緑に対して赤紫の銅の比率が低い傾向があることなどから、意識的に作られた色調差である可能性もある。

このように、ここでは多種の軟質施釉陶器が生産されていたことが判明した。ただ、個々の種別にその数量をみれば、同タイプの製品が多量に作られていた形跡はなく、むしろ形態・色調・文様などの組み合わせによって、多彩な器形が少量ずつ生産されていたことがうかがえる。

付表1 出土土器類一覧表-1

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1	土師器	ⅢAⅡ	SE3444	12.8	1.8		35%	2.5Y8/2	
2	土師器	ⅢAⅡ	SE3444	13.0	1.8		35%	7.5YR8/2	
3	土師器	ⅢAⅡ	SE3444	13.2	1.8		完存	10YR8/3	
4	土師器	ⅢAⅡ	SE3444	13.3	1.8		小片	10YR7/2	
5	土師器	椀A	SE3444	13.3	2.4		20%	10YR7/2	
6	土師器	椀A	SE3444	13.4	2.4		50%	10YR8/2	
7	土師器	椀A	SE3444	13.6	2.5		50%	7.5YR8/3	
8	土師器	椀A	SE3444	14.0	2.2		完存	10YR8/2	
9	土師器	椀A	SE3444	14.0	2.5		60%	7.5YR8/2	
10	土師器	椀A	SE3444	14.0	2.5		完存	7.5YR8/2	
11	土師器	椀A	SE3444	14.2	2.2		50%	7.5YR8/2	
12	土師器	杯A	SE3444	14.8	2.5		完存	10YR8/1	
13	土師器	杯A	SE3444	14.9	2.6		90%	7.5YR8/4	
14	土師器	杯A	SE3444	15.0	2.2		70%	10YR8/2	
15	土師器	杯A	SE3444	15.0	2.3		90%	10YR8/1	
16	土師器	杯A	SE3444	15.2	2.5		50%	2.5Y8/2	
17	土師器	杯A	SE3444	15.4	2.8		75%	10YR8/2	
18	土師器	杯A	SE3444	15.6	2.9		75%	10YR8/2	
19	土師器	杯A	SE3444	16.0	2.4		80%	10YR8/2	
20	土師器	杯L	SE3444	20.2	4.3		75%	7.5YR8/4	
21	土師器	高杯	SE3444	28.0			75%	10YR8/3	
22	土師器	高杯	SE3444				軸のみ	10YR8/3	面取り粗い
23	土師器	甕	SE3444	15.1			75%	7.5YR6/4	
24	黒色土器	椀	SE3444	12.1			小片	N4/0	A類
25	黒色土器	椀	SE3444	16.7	5.3	7.1	小片	5YR7/6	A類 底部55%残存
26	黒色土器	椀	SE3444			8.0		7.5YR8/4	A類 底部15%残存
27	黒色土器	椀	SE3444			6.0		7.5YR7/4	A類 底部85%残存
28	黒色土器	鉢	SE3444	11.2	4.7	6.0	45%	5YR6/4	A類
29	黒色土器	甕	SE3444	25.6			45%	N3/0	
30	黒色土器	甕	SE3444				小片	N3/0	
31	須恵器	椀	SE3444	12.8	4.6	6.4	30%	7.5Y7/2	
32	須恵器	椀	SE3444			5.6		2.5Y6/1	底部40%残存
33	須恵器	鉢	SE3444	17.0			小片	2.5Y7/1	
34	須恵器	鉢	SE3444	22.0			小片	7.5Y6/1	
35	須恵器	壺	SE3444	7.0			小片	10YR2/1	
36	白色土器	椀	SE3444	17.8	5.7	7.5	90%	2.5Y8/2	
37	白色土器	椀	SE3444			7.0		10YR8/2	貼り付け高台 底部完存
38	緑釉陶器	皿	SE3444	14.0	2.6	7.5	55%	10YR6/1	釉10YR6/1 底部ⅡBc
39	緑釉陶器	皿	SE3444	15.9	3.0	6.8	85%	10YR6/1	釉5GY6/1 4方輪花 底部ⅠBb
40	緑釉陶器	段皿	SE3444	15.3	3.5	7.6	30%	5Y6/1	釉7.5Y5/2 底部ⅡBc1
41	緑釉陶器	段皿	SE3444	15.2	3.2	7.3	70%	10YR8/3	釉2.5Y5/4 底部ⅡBc1
42	緑釉陶器	皿	SE3444	12.9	2.9	6.0	小片	7.5Y8/1	釉2.5GY6/1 長門産 底部ⅡBe1
43	緑釉陶器	椀	SE3444	15.5	5.7	7.2	45%	10YR7/1	釉10YR6/1 底部ⅠBb
44	緑釉陶器	椀	SE3444	15.4	6.6	7.4	40%	5Y6/1	釉10Y3/2 底部ⅡBc
45	緑釉陶器	椀	SE3444			6.0		5GY5/1	釉7.5Y5/3 底部ⅠBb 50%残存
46	緑釉陶器	椀	SE3444			6.5		7.5Y5/1	釉7.5Y6/1 底部ⅠBb 20%残存
47	緑釉陶器	椀	SE3444			8.8		5GY6/1	釉10Y4/2 底部ⅡBc2 完存
48	緑釉陶器	椀	SE3444			9.2		2.5Y7/1	釉2.5Y7/1 底部ⅡBb3 30%残存
49	緑釉陶器	椀	SE3444			7.6		10Y6/1	釉10Y6/1 底部ⅡBb3 20%残存
50	緑釉陶器	椀	SE3444			7.4		10YR6/2	釉10Y6/2 底部ⅡBb3 15%残存
51	緑釉陶器	椀	SE3444			8.3		5P6/1	釉7.5Y4/2 底部ⅡBb3 40%残存
52	緑釉陶器	椀	SE3444			7.2		2.5Y7/1	釉10Y6/2 底部ⅡBc1 30%残存
53	緑釉陶器	椀	SE3444			8.0		N6/0	釉10Y5/2 底部ⅠBb 35%残存
54	緑釉陶器	壺	SE3444			13.8		10YR7/3	釉10Y5/2 底部20%残存
55	灰釉陶器	椀	SE3444			7.5		10YR7/1	釉10Y6/1 底部ⅡBd3 25%残存
56	灰釉陶器	椀	SE3444			8.0	小片	2.5Y6/1	釉5Y6/2 底部ⅡBd3
57	輸入白磁	椀	SE3444			10.0		7.5Y8/1	釉5Y8/1 底部45%残存
58	輸入青磁	椀	SE3444				小片	2.5Y7/1	釉5Y6/2
59	土師器	ⅢA	SE3000	13.2	1.6		完存	7.5YR8/4	
60	土師器	ⅢA	SE3000	14.0	2.4		90%	2.5Y8/3	

付表2 出土土器類一覧表-2

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
61	黒色土器	甕	SE3000	13.0			15%	N2/0	
62	須恵器	皿	SE3000	14.4		7.6	40%	N6/0	
63	須恵器	鉢	SE3000	27.0			10%	N6/0	
64	須恵器	大型壺	SE3000	23.2			10%	10Y4/1	
65	須恵器	甕	SE3000	25.0			25%	10Y8/1	
66	白色土器	椀	SE3000			5.0		10YR8/2	底部完存
67	緑釉陶器	皿	SE3000			6.7		7.5Y3/2	底部 I Ba2 完存
68	緑釉陶器	椀	SE3000			7.5		2.5Y8/2	釉10Y5/2 底部 II Bc2 80%残存
69	緑釉陶器	椀	SE3000			8.5		5Y8/2	陰刻花文 底部 II Bb3 25%残存
70	灰釉陶器	椀・皿?	SE3000			5.4		5Y7/1	釉7.5Y6/2 底部 II Bd1 50%残存
71	土師器	皿A	SD3330	11.5	1.1		70%	2.5Y8/2	
72	土師器	皿A	SD3330	11.6	1.3		45%	2.5Y8/3	
73	土師器	皿A	SD3330	11.4	1.5		30%	2.5Y8/2	
74	土師器	皿A	SD3330	11.8	1.1		30%	10YR8/2	
75	土師器	皿A	SD3330	12.2	1.6		60%	2.5Y8/2	
76	土師器	皿A	SD3330	12.0	1.7		60%	2.5Y8/2	
77	土師器	皿A	SD3330	12.2	1.9		60%	2.5Y8/2	
78	土師器	皿M	SD3330	13.1	2.0		50%	10YR7/3	
79	土師器	皿M	SD3330	14.1	2.1		30%	10YR8/2	
80	土師器	皿L	SD3330	15.3	1.8		50%	2.5Y8/2	
81	土師器	皿L	SD3330	16.0	2.2		45%	2.5Y8/2	
82	土師器	皿L	SD3330	15.9	2.7		30%	2.5Y8/1	
83	土師器	皿L	SD3330	16.1	2.4		30%	10YR7/2	
84	土師器	皿L	SD3330	17.9	2.5		15%	5YR8/3	
85	土師器	杯L	SD3330	18.1	3.3		小片	7.5YR7/4	
86	土師器	杯L	SD3330	18.4	3.3		25%	2.5Y7/1	
87	土師器	杯L	SD3330	19.2	2.8		40%	10YR8/1	
88	土師器	杯L	SD3330	20.2			20%	7.5YR7/3	
89	土師器	椀	SD3330	18.1	6.1	9.3	25%	7.5YR7/3	
90	土師器	甕	SD3330	15.2			小片	7.5YR7/4	
91	土師器	羽釜	SD3330	21.2			小片	7.5YR7/4	鈔径25.0
92	土師器	羽釜	SD3330	24.2			小片	2.5Y8/3	鈔径28.0
93	黒色土器	椀	SD3330	16.8	5.4	8.2	75%	N3/0	B類
94	黒色土器	甕	SD3330	13.0			小片	7.5YR5/3	A類
95	須恵器	壺蓋	SD3330	18.0	5.0		50%	N6/0	
96	須恵器	鉢	SD3330	19.4			35%	N6/0	
97	須恵器	鉢	SD3330	19.6			小片	N7/0	
98	白色土器	椀	SD3330	15.7			25%	10YR8/1	
99	白色土器	椀	SD3330	16.4	5.3	7.9	90%	10YR8/1	
100	白色土器	椀	SD3330	16.2			小片	2.5Y8/1	
101	白色土器	皿	SD3330	15.3	2.5	6.2	90%	10YR8/1	
102	白色土器	皿	SD3330			6.0		2.5Y8/1	底部45%残存
103	白色土器	皿	SD3330			7.7		2.5Y8/1	底部のみ残存 底部中央に穿孔
104	白色土器	三足盤	SD3330	16.1	2.8		30%	2.5Y8/2	
105	白色土器	蓋	SD3330	12.9	2.9		90%	10YR8/1	
106	白色土器	不明	SD3330			14.2	小片	10YR8/1	
107	白色土器	高杯	SD3330	(25.8)				10YR8/1	
108	緑釉陶器	皿	SD3330	12.3	2.1	7.1	50%	2.5Y8/1	全釉濃緑色 釉厚い 底部 II Bc1 近江系
109	緑釉陶器	皿	SD3330	14.5	2.8	7.7	60%	5YR6/2	全釉濃緑色 釉厚い 底部 II Bc1 近江系
110	緑釉陶器	皿	SD3330	13.3	2.5	7.6	小片	2.5Y7/2	釉7.5Y6/3 底部 I Bb 山城系
111	緑釉陶器	椀	SD3330	12.4	4.8	6.5	30%		全釉7.5Y5/3 4輪花 底部 II Bc2 近江系
112	緑釉陶器	椀	SD3330	13.6	4.8		30%		全釉濃緑色 4輪花 近江系
113	緑釉陶器	椀	SD3330				小片		全釉濃緑色 近江系
114	灰釉陶器	椀	SD3330			8.0	20%	10YR6/1	釉10YR6/2 底部 II Bd1
115	灰釉陶器	壺	SD3330	10.2			小片	N6/0	釉5Y5/2
116	輸入青磁	椀	SD3330				小片	2.5Y7/1	釉5Y6/3
117	輸入白磁	椀	SD3330				小片		釉5GY8/1
118	土師器	皿A	SD3350	10.1	0.9		90%	2.5Y8/2	
119	土師器	皿A	SD3350	10.2	1.3		25%	5YR8/3	
120	土師器	皿A	SD3350	10.2	1.6		30%	7.5YR8/3	

付表3 出土土器類一覽表-3

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備 考
121	土師器	皿A	SD3350	10.4	1.2		30%	7.5YR8/3	
122	土師器	皿A	SD3350	11.2	1.6		90%	10YR7/2	
123	土師器	皿A	SD3350	10.7	1.0		50%	5YR8/3	
124	土師器	皿A	SD3350	10.8	1.2		90%	10YR7/3	
125	土師器	皿A	SD3350	10.9	1.5		50%	2.5Y8/2	
126	土師器	皿L	SD3350	13.8	2.1		20%	10YR8/3	
127	土師器	杯L	SD3350	15.7	2.7		20%	10YR8/1	
128	土師器	杯L	SD3350	16.1			15%	2.5Y8/2	
129	土師器	皿X	SD3350	8.3	1.9		45%	7.5YR7/4	
130	土師器	皿X	SD3350	8.3	1.8		完存	5YR7/4	
131	土師器	皿	SD3350	14.2	2.8		完存	7.5YR8/6	
132	黒色土器	椀	SD3350	15.3	6.1	7.5	90%	10YR8/3	A類
133	緑釉陶器	椀?	SD3350			7.4		7.5Y7/1	尾張産 底部ⅡBb2 35%残存
134	土師器	皿A	SK3563	10.6	1.1		60%	10YR8/3	
135	土師器	皿A	SK3563	10.7	1.5		40%	10YR8/3	
136	土師器	皿A	SK3563	10.6	1.2		90%	7.5YR8/4	
137	土師器	皿A	SK3563	10.8	1.3		80%	7.5YR8/2	
138	土師器	皿A	SK3563	10.8	1.2		90%	10YR8/2	
139	土師器	皿A	SK3563	10.9	1.4		70%	10YR8/3	
140	土師器	皿A	SK3563	11.2	1.3		95%	10YR8/2	
141	土師器	皿N	SK3563	17.8	3.5		30%	10YR8/2	
142	灰釉陶器	段皿	SK3563	11.4			小片	5YR7/1	釉7.5Y5/1
143	緑釉陶器	椀	SK3563	15.2	6.0	7.1		7.5YR8/2	釉10Y3/2 近江系 底部90%残存
144	土師器	皿A	SE1111	9.7	1.2		35%	10YR8/3	
145	土師器	皿A	SE1111	10.3	1.6		40%	7.5YR6/3	
146	土師器	皿A	SE1111	10.6	1.5		40%	7.5YR7/4	
147	土師器	皿A	SE1111	10.7	1.3		40%	10YR8/2	灯明皿
148	土師器	皿A	SE1111	10.8	1.7		95%	7.5YR8/2	
149	土師器	皿A	SE1111	11.0	1.8		40%	2.5YR6/6	
150	土師器	皿A	SE1111	11.2	1.4		35%	7.5YR8/3	
151	土師器	皿A	SE1111	11.0	1.5		完存	10YR7/3	
152	土師器	皿A	SE1111	10.9	1.4		完存	10YR7/3	
153	土師器	皿A	SE1111	10.7	1.5		完存	10YR8/3	
154	土師器	皿A	SE1111	10.8	1.4		90%	10YR8/2	
155	土師器	皿A	SE1111	10.8	1.2		95%	2.5Y8/2	
156	土師器	皿A	SE1111	10.9	1.4		45%	10YR7/3	
157	土師器	皿A	SE1111	11.4	1.5		完存	10YR8/2	
158	土師器	皿A	SE1111	12.2	1.6		40%	10YR8/2	
159	土師器	皿N	SE1111	13.0	2.6		20%	2.5Y8/2	
160	土師器	皿N	SE1111	13.2	2.1		30%	10YR8/3	
161	土師器	皿N	SE1111	14.0	2.3		30%	2.5Y7/2	
162	土師器	杯N	SE1111	16.5	2.6		40%	7.5YR7/3	
163	土師器	杯N	SE1111	16.5	3.0		30%	7.5YR7/4	
164	土師器	杯N	SE1111	17.3	3.6		90%	10YR8/2	
165	土師器	甕	SE1111	14.5			小片	7.5YR8/4	
166	土師器	甕	SE1111	14.3			小片	7.5YR7/4	
167	黒色土器	椀	SE1111	15.9			小片	N3/0	B類
168	黒色土器	椀	SE1111	15.6	4.8	6.6		N3/0	B類 底部50%残存
169	須恵器	皿	SE1111	8.0	1.8		35%	N4/0	底部糸切り
170	須恵器	鉢	SE1111	27.3	12.1	14.8	60%	2.5Y5/1	
171	緑釉陶器	椀	SE1111			6.9		7.5YR8/4	釉10Y3/2 底部ⅡBc1 15%残存
172	緑釉陶器	椀	SE1111			7.1		5YR6/6	釉10G1.7/1 底部ⅡBf 15%残存
173	緑釉陶器	椀	SE1111			7.3		5YR5/4	釉7.5Y4/3 底部ⅡBd1 25%残存
174	緑釉陶器	椀	SE1111	16.2	6.5	7.2		10Y7/1	釉10Y4/2 底部ⅡBc2 完存
175	灰釉陶器	段皿	SE1111	11.3	2.4	5.7		2.5Y8/2	釉2.5Y8/1 底部ⅡBd1 10%残存
176	灰釉陶器	椀	SE1111	15.5	5.0	7.3	65%	10YR7/2	釉2.5GY6/1 底部ⅡBf 完存
177	灰釉陶器	椀	SE1111	15.0	6.0	7.1	45%	7.5Y7/1	釉5GY7/1 底部ⅡBd2
178	灰釉陶器	椀	SE1111			7.0		5Y7/1	底部ⅡBf 60%残存
179	灰釉陶器	椀	SE1111			7.4		2.5Y7/1	底部ⅡBf 20%残存
180	灰釉陶器	椀	SE1111			6.6		2.5Y7/1	釉10Y8/1 底部ⅡBb4 60%残存

付表4 出土土器類一覧表-4

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
181	灰釉陶器	椀	SE1111			7.7		10YR7/3	釉7.5Y6/1 底部ⅡBf 70%残存
182	輸入白磁	椀	SE1111				小片	5Y8/1	釉7.5Y8/2
183	輸入白磁	椀	SE1111				小片		釉7.5Y8/1
184	輸入白磁	椀	SE1111			7.2		5Y8/1	釉7.5Y8/2 底部50%残存
185	土師器	ⅢA	SE3108	10.5	1.7		30%	7.5YR7/4	
186	土師器	ⅢA	SE3108	10.3	1.8		20%	10YR8/2	
187	土師器	ⅢA	SE3108	10.5	1.3		20%	7.5YR8/4	
188	土師器	ⅢA	SE3108	10.3	1.7		80%	10YR7/2	
189	土師器	ⅢA	SE3108	11.0	1.8		完存	7.5YR7/4	
190	土師器	ⅢA	SE3108	11.0	1.9		70%	10YR8/3	
191	土師器	ⅢAc	SE3108	10.3	1.0		30%	7.5YR6/4	
192	土師器	ⅢN	SE3108	10.2	2.0		90%	10YR7/3	
193	土師器	ⅢN	SE3108	10.4	2.0		95%	2.5Y8/2	
194	土師器	ⅢN	SE3108	10.2	1.9		40%	2.5Y8/2	
195	土師器	ⅢN	SE3108	11.3	2.0		70%	10YR8/3	
196	土師器	ⅢN	SE3108	13.5	2.2		30%	7.5YR8/3	
197	土師器	ⅢN	SE3108	15.6	3.2		30%	7.5YR7/4	
198	土師器	ⅢN	SE3108	15.8	3.2		40%	2.5Y8/1	
199	土師器	ⅢN	SE3108	16.5	3.1		40%	10YR8/2	
200	土師器	ⅢN	SE3108	17.1	2.8		80%	2.5Y8/2	
201	土師器	盤	SE3108			11.9	小片	10YR6/2	
202	白色土器	椀	SE3108	13.1	3.6		小片	2.5Y8/1	底部に糸切り残る
203	白色土器	椀	SE3108	13.5			30%	2.5Y8/1	
204	白色土器	皿	SE3108			6.6	小片	2.5Y8/1	底部20%残存
205	須恵器	杯A	SE3108	11.8	3.0		小片	5Y6/1	底部25%残存
206	須恵器	壺	SE3108			14.6		N3/0	底部板作り 底部70%残存
207	須恵器	甕	SE3108	30.2				2.5YR7/1	猿投産 口縁部50%残存
208	須恵器	甕	SE3108	27.8			30%	7.5YR6/3	
209	灰釉系陶器	椀	SE3108	8.7			小片	10YR7/1	降灰有り
210	灰釉系陶器	椀	SE3108			5.0		5Y7/1	底部50%残存
211	灰釉系陶器	椀	SE3108			5.2		2.5Y7/2	底部25%残存
212	灰釉系陶器	椀	SE3108			5.4		N5/0	底部40%残存
213	灰釉系陶器	椀	SE3108	15.4			小片	10YR6/1	
214	灰釉系陶器	椀	SE3108			6.1		2.5Y8/1	底部完存
215	灰釉系陶器	椀	SE3108			7.9		10Y7/2	底部55%残存
216	輸入白磁	皿	SE3108	11.3			小片		釉7.5Y8/2
217	輸入白磁	椀	SE3108	13.5			小片		釉2.5GY8/1
218	輸入青白磁	椀	SE3108	13.0			小片		釉10Y8/1
219	輸入白磁	椀	SE3108	16.2			小片		釉10Y7/1
220	輸入白磁	鉢	SE3108	19.9			小片		釉7.5Y8/1
221	土師器	ⅢN	SE2469	9.0	1.6		45%	2.5Y8/3	
222	土師器	ⅢN	SE2469	9.2	1.6		40%	10YR8/2	
223	土師器	ⅢN	SE2469	9.5	1.9		35%	10YR8/2	
224	土師器	ⅢN	SE2469	10.1	1.7		35%	2.5Y8/2	
225	土師器	ⅢN	SE2469	13.9	2.3		小片	2.5Y8/2	
226	土師器	ⅢN	SE2469	14.6	2.3		小片	2.5Y8/2	
227	土師器	ⅢN	SE2469	15.1			30%	5YR7/4	
228	土師器	ⅢN	SE2469	15.6			40%	2.5Y8/2	
229	土師器	甕	SE2469	21.7			85%	10YR7/2	
230	瓦器	椀	SE2469	15.8			小片	黒色	
231	瓦器	椀	SE2469			6.4		黒色	二重高台 底部75%残存
232	白色土器	皿	SE2469	8.8	1.2		小片	2.5Y8/1	
233	白色土器	高杯	SE2469				小片	2.5Y8/1	
234	須恵器	甕	SE2469	22.6			小片	7.5Y7/1	
235	緑釉陶器	鉢	SE2469			15.2		2.5Y7/2	内面摩滅し平滑 底部15%残存
236	灰釉系陶器	椀	SE2469	15.6			小片	5Y7/1	4輪花
237	灰釉系陶器	椀	SE2469			5.7		5Y7/1	底部35%残存
238	灰釉系陶器	椀	SE2469			5.8		2.5Y6/1	底部25%残存
239	灰釉系陶器	椀	SE2469			5.6		5Y6/1	底部糸切り 釉10Y6/2 底部30%残存
240	灰釉系陶器	椀	SE2469			7.7		5Y6/1	底部糸切り 釉10Y5/2 底部完存



付表5 出土土器類一覧表-5

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
241	灰釉系陶器	鉢	SE2469			18.8		10YR7/1	内面重ね部分を外して施釉5Y7/1
242	輸入白磁	皿	SE2469	10.4			小片	7.5Y7/1.5	釉7.5Y7/3
243	輸入白磁	皿	SE2469	11.2			小片		釉5Y7/2失透
244	輸入白磁	椀	SE2469	16.4			小片		釉5Y8/2
245	輸入白磁	椀	SE2469	15.5			小片		釉5Y7/1
246	輸入白磁	椀	SE2469				小片		釉7.5Y6/2
247	輸入白磁	椀	SE2469				小片		釉7.5Y7/1
248	輸入白磁	皿	SE2469			3.9	小片	2.5Y7/1	釉7.5Y7/1 底部40%残存
249	輸入白磁	椀	SE2469			6.2		N8/0	釉2.5GY8/1 底部45%残存
250	輸入陶器	壺	SE2469	11.4			小片	10Y7/2	釉7.5Y4/2
251	土師器	皿N	SK2642	9.1	1.6		60%	10YR7/3	
252	土師器	皿N	SK2642	9.3	1.6		70%	10YR7/3	
253	土師器	皿N	SK2642	9.3	1.7		70%	10YR7/3	
254	土師器	皿N	SK2642	9.4	1.9		完存	2.5YR6/6	
255	土師器	皿N	SK2642	9.6	1.6		完存	10YR7/3	
256	土師器	皿N	SK2642	10.0	1.4		完存	7.5YR7/4	
257	土師器	皿Ac	SK2642	9.0	1.3		25%	5YR6/4	
258	土師器	皿Ac	SK2642	10.2	1.3		15%	10YR7/3	
259	土師器	皿N	SK2642	14.3	2.6		65%	10YR8/3	
260	土師器	皿N	SK2642	14.5	3.1		70%	5YR7/4	
261	土師器	皿N	SK2642	14.3	2.5		75%	10YR7/4	
262	土師器	皿N	SK2642	14.8	2.9		75%	7.5YR7/3	
263	土師器	皿N	SK2642	14.8	2.5		完存	10YR7/3	
264	土師器	皿N	SK2642	15.5	2.6		25%	10YR7/3	
265	土師器	皿N	SK2642	15.5	3.4		90%	7.5YR7/3	
266	土師器	皿N	SK2642	15.7	3.2		完存	7.5YR8/3	
267	土師器	皿N	SK2642	16.1	3.9		75%	10YR7/3	
268	土師器	皿N	SK2642	25.0	4.6		50%	10YR7/3	
269	土師器	甕	SK2642	16.3			15%	7.5YR7/3	
270	瓦器	椀	SK2642	14.6			15%	N4/0	
271	瓦器	羽釜	SK2642	18.0			25%	5Y5/1	
272	瓦器	火鉢	SK2642	48.0			15%	N4/0	
273	山茶椀	椀	SK2642			5.2	50%	2.5Y7/1	底部糸切り残す
274	山茶椀	椀	SK2642			8.1	25%	5Y7/1	底部糸切り残す
275	山茶椀	椀	SK2642	16.6	4.7	8.0	25%	N7/0	釉10Y6/2 底部完存
276	輸入白磁	椀	SK2642				小片	7.5Y7/1	釉7.5Y7/1
277	輸入白磁	椀	SK2642			5.5	25%	5Y8/2	釉5Y8/2
278	輸入青磁	椀	SK2642				小片	7.5Y5/3	釉7.5Y5/3
279	輸入黄釉	盤	SK2642				小片	2.5Y6/1	釉5Y6/4
280	輸入褐釉	壺	SK2642			9.0	15%	7.5Y6/3	釉10Y6/2
281	土師器	皿N	SE2222	9.3	1.9		完存	2.5Y8/3	
282	土師器	皿N	SE2222	9.6	1.8		完存	2.5Y7/2	
283	土師器	皿N	SE2222	9.7	1.6		95%	2.5Y7/2	
284	土師器	皿N	SE2222	9.9	1.8		完存	5YR8/4	
285	土師器	皿N	SE2222	9.7	1.9		完存	7.5YR8/4	
286	土師器	皿N	SE2222	9.8	1.6		85%	10YR8/3	
287	土師器	皿N	SE2222	9.9	1.9		85%	10YR8/3	
288	土師器	皿N	SE2222	10.1	1.7		完存	10YR8/3	
289	土師器	皿N	SE2222	10.2	1.9		完存	7.5YR8/3	
290	土師器	皿N	SE2222	10.1	2.0		90%	2.5Y7/2	
291	土師器	皿N	SE2222	14.0	2.7		25%	10YR7/3	
292	土師器	皿N	SE2222	14.2	2.4		50%	7.5YR7/3	
293	土師器	皿N	SE2222	14.5	3.0		35%	10YR7/2	
294	土師器	皿N	SE2222	14.9	2.9		95%	10YR7/3	
295	土師器	皿N	SE2222	15.2	2.9		45%	10YR8/3	
296	土師器	皿N	SE2222	14.8	2.6		40%	10YR7/3	
297	土師器	皿N	SE2222	15.5	2.5		75%	10YR8/2	
298	土師器	皿N	SE2222	15.6	2.9		20%	10YR7/3	
299	土師器	三足盤	SE2222	30.4	10.4		15%	7.5YR6/3	
300	山茶椀	椀	SE2222			9.0	25%	5Y7/1	

付表6 出土土器類一覧表-6

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
301	須恵器	鉢	SE2222	20.6	8.2	7.8	80%	7.5Y5/3	片口わずかに残る 外面底部に自然釉
302	須恵器	鉢	SE2222	31.5			55%	7.5Y7/1	
303	須恵器	甕	SE2222	31.8			20%	N4/0	
304	輸入白磁	椀	SE2222				小片	7.5Y7/2	
305	土師器	ⅢN	SK0493	9.1	1.8		完存	7.5YR7/3	
306	土師器	ⅢN	SK0493	9.3	1.8		90%	10YR7/3	
307	土師器	ⅢN	SK0493	8.9	1.5		完存	10YR7/2	
308	土師器	ⅢN	SK0493	9.1	1.6		完存	10YR7/3	
309	土師器	ⅢN	SK0493	8.9	1.0		完存	5YR8/4	
310	土師器	ⅢN	SK0493	9.4	2.2		35%	7.5YR7/4	
311	土師器	ⅢN	SK0493	9.3	1.5		完存	7.5YR7/4	
312	土師器	ⅢN	SK0493	9.7	1.8		完存	7.5YR7/4	
313	土師器	ⅢN	SK0493	9.5	1.7		完存	10YR8/3	
314	土師器	ⅢN	SK0493	9.5	1.9		85%	7.5YR7/4	
315	土師器	ⅢN	SK0493	9.8	2.4		55%	5YR6/4	
316	土師器	ⅢN	SK0493	10.0	2.0		35%	10YR8/2	
317	土師器	ⅢN	SK0493	9.9	1.7		90%	7.5YR7/4	
318	土師器	ⅢN	SK0493	9.8	2.2		完存	10YR7/2	
319	土師器	ⅢN	SK0493	10.2	1.8		65%	10YR7/3	
320	土師器	ⅢN	SK0493	11.1	1.2		完存	7.5YR7/3	
321	土師器	ⅢN	SK0493	11.2	2.6		30%	7.5YR8/4	
322	土師器	ⅢN	SK0493	11.0	2.0		完存	7.5YR7/4	
323	土師器	ⅢAc	SK0493	8.8	1.2		完存	7.5YR7/4	
324	土師器	ⅢAc	SK0493	9.6	1.3		完存	7.5YR7/4	
325	土師器	ⅢAc	SK0493	9.5	1.5		60%	7.5YR8/3	
326	土師器	ⅢN	SK0493	13.1	2.0		25%	7.5YR7/6	
327	土師器	ⅢN	SK0493	13.2	2.5		80%	7.5YR7/3	
328	土師器	ⅢN	SK0493	13.2	3.2		25%	7.5YR7/4	
329	土師器	ⅢN	SK0493	14.3	3.3		35%	7.5YR7/4	
330	土師器	ⅢN	SK0493	14.2	3.5		25%	10YR7/3	
331	土師器	ⅢN	SK0493	14.2	2.8		完存	7.5YR8/3	
332	土師器	ⅢN	SK0493	14.0	2.7		完存	7.5YR8/4	
333	土師器	ⅢN	SK0493	14.0	2.6		完存	5YR7/4	
334	土師器	ⅢN	SK0493	14.3	2.6		85%	7.5YR7/4	
335	土師器	ⅢN	SK0493	14.3	3.1		80%	7.5YR7/4	
336	土師器	ⅢN	SK0493	14.4	2.7		65%	7.5YR7/3	
337	土師器	ⅢN	SK0493	14.6	3.5		70%	7.5YR7/3	
338	土師器	ⅢN	SK0493	14.6	2.8		65%	7.5YR7/4	
339	土師器	ⅢN	SK0493	15.0	2.8		65%	7.5YR8/4	
340	土師器	ⅢN	SK0493	15.0	3.2		25%	10YR6/3	
341	土師器	ⅢN	SK0493	15.2	3.2		30%	10YR7/3	
342	輸入白磁	Ⅲ	SK0493	10.1			小片	10YR7/2	釉2.5Y7/4
343	輸入白磁	Ⅲ	SK0493	10.3			小片	7.5YR7/2	釉7.5Y6/1
344	輸入白磁	椀	SK0493			6.3		2.5Y7/2	釉7.5Y7/1 底部完存
345	輸入白磁	椀	SK0493			6.3		N8/0	釉10Y7/1 底部完存
346	輸入青白磁	椀	SK0493	16.8			小片	10YR8/3	釉2.5GY8/1
347	輸入白磁	椀	SK0493	15.2			小片	7.5Y8/1	釉7.5Y8/2
348	輸入白磁	壺	SK0493			8.9		2.5Y7/2	釉2.5GY8/1 底部30%残存
349	土師器	ⅢN	SX2700	12.0	2.6		完存	7.5YR8/3	
350	土師器	ⅢN	SX2700	13.0	2.4		90%	10YR8/3	
351	土師器	ⅢN	SX2700	12.6	2.1		65%	7.5YR8/3	
352	土師器	ⅢN	SX2700	12.8	2.2		60%	7.5YR8/3	
353	土師器	ⅢN	SX2700	12.8	2.4		80%	10YR8/3	
354	土師器	ⅢN	SX2700	12.8	2.3		完存	10YR8/4	
355	土師器	ⅢN	SX2700	12.8	2.2		75%	7.5YR8/4	
356	土師器	ⅢN	SX2700	13.0	2.6		65%	10YR8/3	
357	土師器	ⅢN	SX2700	13.0	2.2		完存	7.5YR8/4	
358	土師器	ⅢN	SX2700	12.4	2.2		完存	7.5YR8/3	
359	土師器	ⅢN	SX2700	13.4	2.4		70%	7.5YR8/3	
360	土師器	ⅢN	SX2700	13.2	2.3		80%	10YR8/3	

付表7 出土土器類一覧表-7

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
361	土師器	皿N	SX2700	13.4	2.5		完存	7.5YR8/3	
362	土師器	皿N	SX2700	14.0	2.4		70%	10YR8/3	
363	土師器	皿N	SX2700	8.3	1.1		60%	2.5Y7/3	
364	土師器	皿N	SX2700	8.4	1.3		完存	10YR8/3	
365	土師器	皿N	SX2700	8.2	1.5		完存	10YR8/4	
366	土師器	皿N	SX2700	8.4	1.5		完存	10YR7/4	
367	土師器	皿N	SX2700	8.5	1.4		完存	10YR7/4	
368	土師器	皿N	SX2700	8.3	1.4		完存	10YR8/4	
369	土師器	皿N	SX2700	8.7	1.6		完存	7.5YR8/3	
370	土師器	皿N	SX2700	8.7	1.3		45%	2.5Y8/3	
371	土師器	皿N	SX2700	8.6	1.6		完存	10YR8/4	
372	土師器	皿N	SX2700	9.0	1.3		完存	10YR8/3	
373	土師器	皿N	SX2700	8.9	1.8		完存	2.5Y8/1	
374	土師器	皿N	SX2700	9.1	1.4		完存	10YR8/3	
375	土師器	皿N	SX2700	9.1	1.5		完存	10YR8/4	
376	土師器	皿Sc	SX2700	5.5	0.8		45%	5Y4/1	
377	土師器	皿Sc	SX2700	6.2	0.9		25%	10YR8/1	
378	土師器	皿Sc	SX2700	7.0	1.1		完存	10YR8/2	
379	土師器	皿Sc	SX2700	7.3	1.0		45%	10YR8/2	
380	土師器	皿S	SX2700	9.5	1.9		40%	10YR8/2	
381	土師器	皿S	SX2700	9.5	1.9		30%	10YR8/2	
382	土師器	皿S	SX2700	10.2	3.1		20%	2.5Y8/1	
383	土師器	皿S	SX2700	10.7	3.3		65%	10YR8/2	
384	土師器	皿S	SX2700	10.8	3.1		95%	10YR8/2	
385	土師器	皿S	SX2700	11.1	3.1		60%	10YR8/2	
386	土師器	皿S	SX2700	11.4	3.4		20%	10YR8/2	
387	土師器	皿S	SX2700	12.0	3.3		25%	10YR8/2	
388	土師器	皿S	SX2700	12.8	4.0		20%	10YR8/2	
389	土師器	皿S	SX2700	12.6	3.6		85%	10YR8/2	
390	土師器	皿S	SX2700	11.8	2.8	6.0	30%	7.5YR8/3	
391	瓦器	椀	SX2700				小片	10YR8/1	外面N4/0
392	瓦器	羽釜	SX2700	15.1			10%	N4/0	
393	瓦器	鍋	SX2700	23.0			20%	2.5Y4/1	
394	瓦器	羽釜	SX2700					N3/0	脚部のみ残存
395	土師器	火鉢	SX2700	45.0	9.5		90%	7.5YR8/3	
396	土師器	火鉢	SX2700	54.0			40%	5Y5/1	
397	須恵器	鉢	SX2700	16.8			15%	N5/0	
398	須恵器	鉢	SX2700	28.0			15%	N6/0	
399	須恵器	鉢	SX2700	30.0			20%	5Y8/1	
400	須恵器	甕	SX2700				小片	N5/0	
401	須恵器	甕	SX2700	25.5			25%	N5/0	
402	白色土器	壺	SX2700			6.0	50%	10YR8/2	
403	輸入白磁	皿	SX2700	11.0			10%		釉10Y8/1
404	輸入青磁	椀	SX2700	11.1			25%		釉5GY7/1
405	輸入青磁	椀	SX2700	13.5			15%	10Y7/2	釉10Y6/2
406	輸入白磁	椀	SX2700	17.5			15%	7.5Y8/1	釉7.5Y8/2
407	輸入白磁	椀	SX2700	16.8			10%	10Y8/2	釉10Y8/2
408	輸入白磁	椀	SX2700				5%		釉5GY8/1
409	輸入白磁	皿	SX2700			3.1	100%	2.5Y7/6	底部完存
410	輸入白磁	椀	SX2700			6.6	100%	N8/0	釉5GY8/1 底部完存
411	輸入白磁	椀	SX2700			6.0	50%	5Y7/2	釉2.5GY8/1
412	輸入青磁	椀	SX2700	16.0			20%	5Y7/1	釉10GY7/1
413	輸入青磁	椀	SX2700	18.0			5%	5Y7/1	釉5Y5/4
414	輸入青磁	椀	SX2700			6.0	30%	N6/0	釉5GY6/1
415	輸入青磁	皿	SX2700				小片	5Y6/1	釉5GY6/1
416	輸入褐釉	壺	SX2700	6.8			80%	10YR6/1	釉7.5YR4/6
417	焼締陶器	甕	SK2344	43.2	73.7	15.5	60%	2.5YR4/4	胴部最大径72.3
418	土師器	皿N	SX2322	8.1	1.3		完存	7.5YR6/3	
419	土師器	皿N	SX2322	8.5	1.3		完存	10YR7/3	
420	土師器	皿N	SX2322	8.4	1.2		50%	10YR7/2	

付表8 出土土器類一覽表- 8

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備 考
421	土師器	ⅢN	SX2322	8.6	1.2		50%	10YR7/2	
422	土師器	ⅢN	SX2322	8.5	1.4		45%	10YR7/2	
423	土師器	ⅢN	SX2322	12.3	2.2		40%	7.5YR7/3	
424	土師器	ⅢN	SX2322	12.4	1.9		30%	7.5YR8/3	
425	土師器	ⅢN	SX2322	12.4	2.2		20%	10YR8/3	
426	焼締陶器	壺	SX2322	10.0	20.4	9.0	完存	7.5YR8/2	
427	輸入白磁	Ⅲ	SX2322	12.6	2.5	5.5	完存	5Y7/1	釉5Y7/2
428	土師器	ⅢN	SK2276	7.8	1.5		完存	7.5YR8/4	
429	土師器	ⅢN	SK2276	8.1	1.5		完存	7.5YR7/4	
430	土師器	ⅢN	SK2276	8.2	1.5		完存	10YR8/3	
431	土師器	ⅢN	SK2276	8.2	1.2		完存	7.5YR7/4	
432	土師器	ⅢN	SK2276	8.2	1.4		完存	7.5YR8/2	灯明皿
433	土師器	ⅢN	SK2276	8.2	1.6		完存	2.5Y7/2	
434	土師器	ⅢN	SK2276	8.2	1.2		35%	2.5Y8/1	
435	土師器	ⅢN	SK2276	8.4	1.6		完存	5YR7/3	
436	土師器	ⅢN	SK2276	8.4	1.5		完存	5YR8/4	灯明皿
437	土師器	ⅢN	SK2276	8.5	1.2		完存	5YR8/3	
438	土師器	ⅢN	SK2276	8.6	1.4		完存	7.5YR7/4	
439	土師器	ⅢN	SK2276	8.8	1.4		完存	10YR8/3	
440	土師器	ⅢN	SK2276	11.7	2.2		75%	10YR8/2	
441	土師器	ⅢN	SK2276	11.8	2.1		50%	10YR8/2	
442	土師器	ⅢN	SK2276	11.8	2.5		30%	10YR8/2	
443	土師器	ⅢN	SK2276	11.9	2.0		完存	5YR8/2	
444	土師器	ⅢN	SK2276	12.0	2.0		30%	5YR7/3	
445	土師器	ⅢN	SK2276	12.1	2.2		75%	10YR8/3	
446	土師器	ⅢN	SK2276	12.2	2.1		完存	10YR8/2	
447	土師器	ⅢN	SK2276	12.2	2.2		45%	5YR8/3	
448	土師器	ⅢN	SK2276	12.1	2.1		45%	10YR8/2	
449	土師器	ⅢN	SK2276	12.4	2.3		45%	7.5YR7/4	
450	土師器	ⅢSc	SK2276	4.9	1.0		50%	10YR8/1	
451	土師器	ⅢSc	SK2276	5.1	0.9		35%	10YR8/1	
452	土師器	ⅢSc	SK2276	6.1	1.0		小片	10YR8/1	
453	土師器	ⅢS	SK2276	7.6	1.9		完存	7.5YR8/1	
454	土師器	ⅢS	SK2276	7.8	2.1		小片	7.5YR8/1	
455	土師器	ⅢS	SK2276	10.8	2.9		95%	2.5Y8/1	
456	土師器	ⅢS	SK2276	10.7	3.0		60%	10YR8/1	
457	土師器	ⅢS	SK2276	11.2	2.9		45%	7.5YR8/1	
458	土師器	ⅢS	SK2276	11.2	3.1		60%	10YR8/1	
459	土師器	ⅢS	SK2276	12.2	3.2		45%	10YR8/1	
460	土師器	ⅢS	SK2276	12.2	3.0		80%	7.5YR8/1	
461	土師器	ⅢS	SK2276	12.6	3.4		90%	2.5Y8/1	
462	土師器	ⅢS	SK2276	12.8	3.4		70%	2.5Y8/1	
463	土師器	ⅢS	SK2276	13.0	3.4		55%	2.5Y8/2	
464	土師器	ⅢS	SK2276	13.1	3.2		85%	2.5Y8/1	
465	土師器	ⅢS	SK2276	13.0	3.1		90%	10YR8/1	
466	土師器	ⅢS	SK2276	13.2	3.5		完存	2.5Y8/1	
467	瓦器	Ⅲ	SK2276	8.9	1.9		小片	10YR7/1	器表N3/0
468	瓦器	Ⅲ	SK2276	9.5	1.8		完存	10YR7/1	器表N3/0
469	瓦器	Ⅲ	SK2276	9.4	2.3		完存	N8/0	器表N3/0
470	瓦器	Ⅲ	SK2276	10.3	2.3		60%	N8/0	器表N3/0
471	瓦器	椀	SK2276	14.9	5.3	4.6	40%	N8/0	器表N3/0
472	瓦器	椀	SK2276	15.0	4.8	4.6	30%	N8/0	器表N3/0 底部55%残存
473	瓦器	椀	SK2276	15.8	5.2	4.9	40%	2.5Y8/1	器表N3/0
474	瓦器	椀	SK2276	14.4			小片	N8/0	器表N3/0
475	瓦器	椀	SK2276	14.6			小片	N8/0	器表N3/0
476	瓦器	椀	SK2276	14.2			55%	N8/0	器表N3/0
477	瓦器	椀	SK2276	14.6	4.8	6.0	小片	N8/0	器表N3/0
478	瓦器	盤	SK2276	29.3	7.9	20.7	55%	5YR7/3	器表N3/0
479	瓦器	鍋	SK2276	23.9			小片	2.5Y7/1	器表N3/0
480	瓦器	羽釜	SK2276	23.4			小片	10YR6/1	器表N3/0 鐳径28.5

付表9 出土土器類一覧表-9

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
481	瓦器	羽釜	SK2276	30.0			小片	N4/0	器表N3/0 罅径32.7
482	須恵器	鉢	SK2276	28.7			45%	N7/0	
483	輸入青磁	皿	SK2276	10.5	2.3	4.6	50%	5Y6/1	釉5GY6/1
484	輸入白磁	皿	SK2276	9.4	1.7	6.0	完存	2.5GY8/1	釉5GY7/1 総釉口はげ
485	輸入白磁	皿	SK2276	9.6	2.0	6.2	完存	2.5GY8/1	釉5GY8/1 総釉口はげ
486	輸入白磁	皿	SK2276	9.0	1.5	6.0	完存	7.5GY8/1	釉10GY8/1 総釉口はげ
487	輸入白磁	皿	SK2276	9.2	1.5	6.1	完存	7.5GY8/1	釉10GY8/1 総釉口はげ
488	輸入青白磁	合子身	SK2276	5.9	2.2	5.5	30%	7.5GY7/1	釉7.5GY7/1 最大径6.8
489	土師器	皿Sc	SK2253	7.4	1.0		小片	2.5Y8/1	
490	土師器	皿Sc	SK2253	8.9	0.9		小片	10YR7/2	
491	土師器	皿Sc	SK2253	13.2	1.2		15%	2.5Y8/1	
492	土師器	皿S	SK2253	7.4	2.0		完存	2.5Y8/1	
493	土師器	皿S	SK2253	7.5	2.1		40%	2.5Y8/1	
494	土師器	皿S	SK2253	7.2	2.1		40%	2.5Y8/1	
495	土師器	皿S	SK2253	7.2	2.0		25%	2.5Y8/1	灯明皿
496	土師器	皿S	SK2253	12.0	3.0		50%	2.5Y8/2	
497	土師器	皿S	SK2253	12.1	3.4		80%	2.5Y8/2	
498	土師器	皿S	SK2253	12.4	3.1		30%	2.5Y8/2	
499	土師器	皿S	SK2253	12.4	3.2		40%	2.5Y8/2	
500	土師器	皿S	SK2253	12.4	3.0		70%	2.5Y8/2	
501	土師器	皿S	SK2253	12.4	3.1		25%	10YR8/2	
502	土師器	皿S	SK2253	12.8	3.2		完存	2.5Y8/1	
503	土師器	皿S	SK2253	12.6	3.5		20%	2.5Y8/1	
504	土師器	皿S	SK2253	12.6	3.3		50%	10YR8/2	
505	土師器	皿S	SK2253	13.4	2.9		50%	2.5Y8/2	
506	土師器	皿N	SK2253	11.0	2.1		60%	7.5YR7/4	
507	土師器	皿N	SK2253	11.4	2.0		40%	10YR8/3	
508	土師器	皿N	SK2253	11.7	2.1		70%	7.5YR7/4	
509	土師器	皿N	SK2253	11.6	2.0		完存	7.5YR7/4	
510	土師器	皿N	SK2253	11.6	2.2		75%	10YR7/3	
511	土師器	皿N	SK2253	11.8	2.1		60%	10YR7/3	
512	土師器	皿N	SK2253	12.0	2.2		完存	7.5YR7/4	
513	土師器	皿N	SK2253	7.8	1.4		70%	10YR8/3	灯明皿
514	土師器	皿N	SK2253	8.0	1.5		60%	7.5YR7/3	
515	土師器	皿N	SK2253	8.1	1.3		50%	10YR7/3	
516	土師器	皿N	SK2253	8.0	1.5		50%	7.5YR7/3	
517	土師器	皿N	SK2253	8.1	1.5		完存	7.5YR7/3	
518	土師器	皿N	SK2253	8.1	1.5		80%	10YR7/3	
519	土師器	皿N	SK2253	8.0	1.6		90%	7.5Y7/3	
520	土師器	皿N	SK2253	8.2	1.6		95%	7.5Y7/4	
521	土師器	皿N	SK2253	8.3	1.2		完存	7.5Y7/3	
522	土師器	皿N	SK2253	8.2	1.4		完存	7.5Y7/3	
523	土師器	皿N	SK2253	8.4	1.3		完存	5YR7/4	
524	土師器	皿N	SK2253	8.5	1.3		80%	10YR7/3	
525	土師器	皿X	SK2253	5.6	2.0		完存	2.5Y8/1	ロク口成形 底部糸切り
526	土師器	椀	SK2253			5.2		2.5Y8/1	底部完存貼り付け高台 灯明皿 吉備系
527	土師器	椀	SK2253	11.3	4.1	5.2	25%	5Y8/1	貼り付け高台 吉備系
528	土師器	鉢	SK2253			4.3		10YR6/1	底部完存 粘土紐巻き上げ成形
529	瓦器	鍋	SK2253	19.2	6.2		75%	N7/0	底部煤付着
530	瓦器	鍋	SK2253	28.6	14.0		70%	N4/0	内面明灰色
531	瓦器	羽釜	SK2253	21.0	10.5		完存	N4/0	罅径22.9
532	瓦器	羽釜	SK2253	26.5	12.0	19.9	完存	2.5Y5/1	罅径28.4
533	焼締陶器	鉢	SK2253	38.0			60%	2.5YR4/2	相対する2方に片口
534	輸入青磁	椀	SK2253	15.8			小片	10Y5/2	釉10Y5/2
535	輸入青磁	皿	SK2253	14.2			10%	白色	釉2.5Y6/4
536	輸入白磁	皿	SK2253	11.6			小片	白色	釉5GY8/1 口はげ
537	輸入白磁	皿	SK2253	12.2			小片	N7/0	釉2.5GY8/1 口はげ
538	土師器	皿S	SK0555	11.8	2.7		80%	10YR8/2	
539	土師器	皿S	SK0555	11.7	3.0		45%	10YR8/2	
540	土師器	皿S	SK0555	11.6	3.1		35%	10YR8/1	

付表10 出土土器類一覧表-10

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
541	土師器	ⅢS大	SK0555	11.8	3.1		50%	10YR8/1	
542	土師器	ⅢS大	SK0555	12.1	3.0		30%	10YR8/2	
543	土師器	ⅢS大	SK0555	12.0	3.0		30%	2.5Y8/1	
544	土師器	ⅢS大	SK0555	14.9	4.2		小片	2.5Y8/2	
545	土師器	ⅢSh	SK0555	6.3	1.6		完存	10YR8/2	
546	土師器	ⅢSh	SK0555	6.6	1.8		完存	10YR8/1	
547	土師器	ⅢSh	SK0555	6.4	1.7		完存	2.5Y8/1	
548	土師器	ⅢSh	SK0555	6.9	1.7		完存	10YR8/1	
549	土師器	ⅢSh	SK0555	6.8	1.8		完存	10YR8/2	
550	土師器	ⅢSh	SK0555	7.0	1.8		完存	2.5Y8/1	
551	土師器	ⅢSh	SK0555	6.8	1.8		完存	10YR8/1	
552	土師器	ⅢN	SK0555	8.2	1.6		60%	7.5YR8/4	
553	土師器	ⅢN	SK0555	8.0	1.6		60%	7.5YR8/4	
554	土師器	ⅢN	SK0555	11.3	2.5		30%	5YR7/6	
555	土師器	ⅢN	SK0555	10.8	1.9		50%	7.5YR7/4	
556	土師器	ⅢN	SK0555	11.0	2.4		小片	10YR7/3	
557	土師器	ⅢX	SK0555	7.2	1.0		完存	5YR6/6	ロクロ成形 底部ヘラオコシ
558	土師器	ⅢX	SK0555	7.2	1.0		90%	5YR5/6	ロクロ成形 底部ヘラオコシ
559	土師器	ⅢX	SK0555	7.8	1.4		30%	2.5YR6/8	ロクロ成形 底部糸切り
560	土師器	椀X	SK0555	11.0	3.5		85%	5YR4/6	ロクロ成形 底部糸切り
561	土師器	椀X	SK0555	10.9	3.7		70%	5YR5/6	ロクロ成形 底部糸切り
562	土師器	椀X	SK0555	11.3	3.5		70%	5YR5/6	ロクロ成形 底部糸切り
563	土師器	椀X	SK0555	11.5	3.3		40%	5YR6/6	ロクロ成形 底部糸切り
564	瓦器	鍋	SK0555	23.6	9.6		40%	N3/0	
565	瓦器	羽釜	SK0555	22.0			小片	2.5Y5/1	
566	土師器	ⅢSh	SE2527	6.0	1.5		完存	2.5Y8/1	
567	土師器	ⅢSh	SE2527	6.8	1.6		完存	2.5Y8/1	
568	土師器	ⅢSh	SE2527	6.3	1.7		完存	2.5Y8/1	
569	土師器	ⅢSh	SE2527	6.4	1.5		80%	2.5Y8/1	
570	土師器	ⅢSh	SE2527	6.8	1.5		80%	2.5Y8/1	
571	土師器	ⅢSh	SE2527	6.4	1.7		90%	2.5Y8/1	
572	土師器	ⅢSh	SE2527	6.6	1.6		完存	2.5Y8/1	
573	土師器	ⅢSh	SE2527	6.3	1.7		完存	2.5Y8/2	
574	土師器	ⅢS	SE2527	6.6	1.3		完存	2.5Y8/1	
575	土師器	ⅢSc	SE2527	4.6	0.7		30%	2.5Y8/1	
576	土師器	ⅢSc	SE2527	5.2	1.1		30%	7.5Y8/1	
577	土師器	ⅢS	SE2527	11.0	3.2		50%	2.5Y8/1	
578	土師器	ⅢS	SE2527	11.6	3.0		80%	2.5Y8/1	
579	土師器	ⅢS	SE2527	11.5	2.6		95%	2.5Y8/2	
580	土師器	ⅢS	SE2527	11.6	2.7		完存	2.5Y8/1	
581	土師器	ⅢS	SE2527	11.6	3.1		85%	2.5Y8/1	
582	土師器	ⅢS	SE2527	11.3	3.0		95%	2.5Y8/1	
583	土師器	ⅢS	SE2527	11.2	2.7		90%	2.5Y8/1	
584	土師器	ⅢS	SE2527	11.3	2.9		90%	2.5Y8/2	
585	土師器	ⅢS	SE2527	11.4	2.9		完存	2.5Y8/1	
586	土師器	ⅢS	SE2527	11.8	2.8		90%	2.5Y8/1	
587	土師器	ⅢS	SE2527	11.4	2.7		80%	2.5Y8/2	
588	土師器	ⅢS	SE2527	11.6	2.7		完存	2.5Y8/1	
589	土師器	ⅢS	SE2527	11.4	2.9		75%	2.5Y8/2	
590	土師器	ⅢS	SE2527	11.6	2.8		75%	2.5Y8/1	
591	土師器	ⅢS	SE2527	11.4	3.1		95%	2.5Y8/1	
592	土師器	ⅢN	SE2527	7.4	1.5		80%	10YR8/2	
593	土師器	ⅢN	SE2527	7.9	1.4		50%	10YR7/2	
594	土師器	ⅢN	SE2527	8.0	1.7		60%	7.5YR7/4	
595	土師器	ⅢN	SE2527	7.8	1.4		完存	2.5Y8/3	
596	土師器	ⅢN	SE2527	7.9	1.4		75%	10YR8/4	
597	土師器	ⅢN	SE2527	7.8	1.3		80%	10YR7/2	灯明皿
598	土師器	ⅢN	SE2527	8.0	1.5		60%	7.5YR7/3	
599	土師器	ⅢN	SE2527	8.0	1.4		70%	10YR7/2	
600	土師器	ⅢN	SE2527	10.6	1.8		75%	7.5YR7/4	

付表11 出土土器類一覽表-11

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備 考
601	土師器	皿N	SE2527	10.8	1.9		30%	10YR7/3	
602	土師器	皿N	SE2527	11.1	2.0		95%	10YR7/3	
603	土師器	皿N	SE2527	10.4	2.1		50%	2.5Y8/2	
604	土師器	皿N	SE2527	11.0	2.0		50%	5YR7/4	
605	土師器	皿N	SE2527	11.5	2.4		95%	2.5Y8/1	
606	土師器	皿N	SE2527	11.3	1.9		60%	10YR7/3	
607	土師器	皿N	SE2527	11.2	1.9		55%	10YR8/3	
608	土師器	皿N	SE2527	11.0	1.8		70%	10YR7/4	
609	土師器	皿N	SE2527	11.0	2.2		95%	10YR8/3	
610	土師器	皿N	SE2527	11.0	2.0		80%	7.5YR7/3	
611	土師器	皿N	SE2527	12.8	1.9		完存	2.5Y8/3	
612	須恵器	鉢	SE2527	26.4			小片	5Y7/1	
613	須恵器	鉢	SE2527	33.3			小片	2.5Y5/1	
614	瓦器	皿	SE2527				小片	N4/0	
615	瓦器	椀	SE2527	9.9			小片	2.5Y6/1	器表N3/0
616	瓦器	盤	SE2527				小片	7.5Y7/1	器表N4/0
617	瓦器	鍋	SE2527	31.3	14.1		45%	5Y5/1	器表N3/0
618	瓦器	鍋	SE2527	20.4	8.9		95%	7.5Y7/1	器表N3/0
619	瓦器	羽釜足	SE2527				小片	5Y7/1	器表N3/0
620	瓦器	羽釜	SE2527	26.2			小片	N6/0	罎径28.6
621	輸入白磁	皿	SE2527			5.6		白色	釉2.5GY6/1 底部30%残存
622	輸入白磁	皿	SE2527	12.8			小片	白色	釉5Y6/2
623	輸入青磁	椀	SE2527	14.0			小片		釉5Y6/4
624	輸入青磁	椀	SE2527	16.0			小片		釉7.5GY6/1
625	土師器	皿S	SX2459	11.0	3.0		50%	5Y8/1	
626	土師器	皿S	SX2459	11.2	2.9		30%	5Y8/1	
627	土師器	皿S	SX2459	11.3	3.2		85%	5Y8/1	
628	土師器	皿S	SX2459	11.3	2.9		70%	5Y8/1	
629	土師器	皿S	SX2459	11.5	2.8		50%	5Y8/1	
630	土師器	皿S	SX2459	11.8	3.0		30%	5Y8/1	
631	土師器	皿S	SX2459	11.6	2.8		30%	5Y8/1	
632	土師器	皿S	SX2459	11.8	2.8		35%	5Y8/1	
633	土師器	皿Sh	SX2459	6.7	1.9		完存	5Y8/1	
634	土師器	皿Sh	SX2459	6.6	1.6		40%	5Y8/1	
635	土師器	皿N	SX2459	7.8	1.6		45%	7.5YR8/3	
636	土師器	皿N	SX2459	7.8	1.4		70%	7.5YR8/3	
637	土師器	皿N	SX2459	8.3	1.7		完存	7.5YR8/1	
638	土師器	皿N	SX2459	8.3	1.8		90%	7.5YR8/3	灯明皿
639	土師器	皿N	SX2459	10.8	1.9		90%	7.5YR8/3	
640	土師器	皿N	SX2459	10.6	2.0		95%	7.5YR8/3	
641	土師器	皿N	SX2459	10.8	2.0		45%	10YR8/3	
642	土師器	皿N	SX2459	10.6	2.1		65%	7.5YR8/3	
643	土師器	皿N	SX2459	10.9	2.1		85%	7.5YR8/3	歪み大きい
644	土師器	皿N	SX2459	11.0	2.1		50%	7.5YR8/3	
645	土師器	羽釜	SX2459	23.0			25%	2.5Y8/3	罎径25.8
646	瓦器	羽釜	SX2459	15.5	11.6		80%	N3/0	罎径19.7 口縁部全周
647	瓦器	鍋	SX2459	23.5			60%	2.5Y4/1	
648	瓦器	羽釜	SX2459	26.0			10%	10YR8/3	
649	瓦器	鍋	SX2459	30.0			小片	5Y3/1	
650	土師器	皿S	SK0344	13.2	3.4		45%	7.5YR8/3	
651	土師器	皿S	SK0344	13.3	3.8		完存	7.5YR8/3	
652	土師器	皿S	SK0344	13.0	3.7		40%	10YR8/2	
653	土師器	皿S	SK0344	13.2	3.8		25%	10YR7/2	
654	土師器	皿S	SK0344	13.3	3.7		25%	7.5YR8/3	
655	土師器	皿S	SK0344	13.7	3.8		完存	7.5YR8/3	
656	土師器	皿S	SK0344	12.0	3.3		25%	7.5YR8/2	
657	土師器	皿S	SK0344	11.2	3.1		25%	10YR8/2	
658	土師器	皿S	SK0344	11.2	3.1		35%	7.5YR8/3	
659	土師器	皿S	SK0344	11.3	2.9		75%	7.5YR8/2	
660	土師器	皿Sh	SK0344	6.5	1.9		50%	10YR8/2	

付表12 出土土器類一覧表-12

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
661	土師器	ⅢSh	SK0344	6.5	2.0		40%	7.5YR8/3	
662	土師器	ⅢSh	SK0344	6.7	1.7		90%	7.5YR7/3	
663	土師器	ⅢSh	SK0344	6.7	1.7		完存	2.5Y8/1	
664	土師器	ⅢSh	SK0344	6.7	1.8		35%	7.5YR8/3	
665	土師器	ⅢSh	SK0344	6.2	1.6		完存	2.5Y8/1	
666	土師器	ⅢSh	SK0344	7.0	2.0		95%	7.5YR8/3	
667	土師器	ⅢN	SK0344	10.0	2.0		35%	7.5YR7/4	
668	土師器	ⅢN	SK0344	10.0	2.2		25%	2.5Y8/2	
669	土師器	ⅢN	SK0344	9.9	2.2		完存	7.5YR8/4	
670	土師器	ⅢN	SK0344	11.0			25%	5YR7/4	
671	土師器	ⅢN	SK0344	10.2	2.1		75%	5YR7/6	
672	土師器	ⅢN	SK0344	12.0	3.0		45%	7.5YR7/3	
673	土師器	ⅢN	SK0344	12.2	2.6		45%	5YR7/6	
674	土師器	ⅢN	SK0344	12.2			45%	5YR7/6	
675	瓦器	鍋	SK0344	25.0			15%	2.5Y2/1	
676	焼締陶器	甕	SK0344				小片	10YR8/2	信楽
677	施釉陶器	鉢	SK0344	7.0	3.5	6.0	45%	7.5YR8/1	釉7.5Y7/3 瀬戸
678	施釉陶器	壺	SK0344			8.6	50%	10YR7/1	釉10Y7/2 瀬戸
679	輸入青磁	Ⅲ	SK0344	6.0			小片		釉明緑色
680	輸入青白磁	椀	SK0344			5.4		N8/0	釉淡青白色 底部ほぼ完存
681	土師器	ⅢSh	SK0684	6.6	2.0		45%	10YR8/3	
682	土師器	ⅢSh	SK0684	6.6	1.8		60%	7.5YR8/4	
683	土師器	ⅢSh	SK0684	7.0	2.2		75%	10YR8/3	
684	土師器	ⅢSh	SK0684	7.2	1.9		80%	7.5YR8/4	
685	土師器	ⅢSh	SK0684	7.3	1.8		完存	10YR8/3	
686	土師器	ⅢSh	SK0684	7.3	1.9		完存	7.5YR8/2	
687	土師器	ⅢSh	SK0684	7.4	1.9		完存	10YR8/3	
688	土師器	ⅢSh	SK0684	7.4	1.7		完存	10YR8/3	
689	土師器	ⅢS	SK0684	6.6	2.0		35%	10YR8/4	
690	土師器	ⅢS	SK0684	12.1	2.7		40%	7.5YR8/3	
691	土師器	ⅢS	SK0684	12.3	2.7		完存	7.5YR8/3	
692	土師器	ⅢS	SK0684	12.4	3.0		完存	5P2/1	
693	土師器	ⅢS	SK0684	12.4	2.7		55%	10YR8/3	
694	土師器	ⅢS	SK0684	12.5	2.7		55%	5P2/1	
695	土師器	ⅢS	SK0684	14.5	2.9		25%	7.5YR8/3	
696	土師器	ⅢS	SK0684	16.0	3.6		完存	7.5YR8/2	
697	土師器	ⅢS	SK0684	16.0	3.8		50%	10R6/3	
698	土師器	ⅢS	SK0684	16.0	3.6		40%	7.5YR8/3	
699	土師器	ⅢS	SK0684	16.4	3.7		90%	10R2/1	
700	土師器	ⅢN	SK0684	7.6	1.7		40%	2.5YR6/6	
701	土師器	ⅢN	SK0684	8.0	1.6		完存	7.5YR7/4	
702	土師器	ⅢN	SK0684	8.0	1.3		85%	10YR7/3	
703	土師器	ⅢN	SK0684	8.1	1.3		完存	7.5YR8/4	
704	土師器	ⅢN	SK0684	9.0	1.9		30%	10YR8/3	
705	土師器	ⅢN	SK0684	9.2	2.0		完存	10YR7/3	
706	土師器	ⅢN	SK0684	9.4	1.9		完存	10YR7/4	
707	土師器	ⅢN	SK0684	9.8	1.8		60%	7.5YR8/3	
708	土師器	ⅢN	SK0684	9.4	1.9		完存	10YR8/3	
709	土師器	ⅢN	SK0684	9.7	2.0		完存	10YR7/4	
710	土師器	ⅢN	SK0684	9.8	2.1		60%	10YR8/2	
711	土師器	ⅢN	SK0684	9.9	2.6		完存	10YR7/3	
712	土師器	ⅢN	SK0684	9.6	1.9		完存	10YR7/3	
713	土師器	ⅢN	SK0684	9.8	1.6		完存	10YR7/3	
714	土師器	ⅢN	SK0684	10.3	1.8		70%	7.5YR6/3	
715	土師器	ⅢN	SK0684	12.4	2.6		90%	10YR7/3	
716	土師器	ⅢN	SK0684	12.5	2.6		25%	10R6/6	
717	瓦器	火鉢	SK0684				小片	2.5Y7/1	外面N3/0
718	瓦器	火鉢	SK0684	44.0	14.4	40.8	25%	2.5Y7/1	外面N3/0
719	施釉陶器	椀	SK0684				小片	2.5Y7/2	釉7.5Y7/2 瀬戸平椀
720	土師器	ⅢSh	SK2091	6.9	1.9		完存	7.5YR7/4	



付表13 出土土器類一覽表-13

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備 考
721	土師器	ⅢSh	SK2091	7.0	1.9		完存	2.5Y4/3	
722	土師器	ⅢSh	SK2091	7.0	2.1		完存	10YR8/3	
723	土師器	ⅢSh	SK2091	7.0	1.7		完存	10YR8/3	
724	土師器	ⅢSh	SK2091	7.1	1.9		完存	10YR8/3	
725	土師器	ⅢSh	SK2091	7.2	1.9		75%	10YR8/4	
726	土師器	ⅢS	SK2091	8.5	2.2		30%	10YR8/3	
727	土師器	ⅢS	SK2091	11.7	2.5		完存	10YR8/3	
728	土師器	ⅢS	SK2091	12.1	3.1		50%	10YR8/3	
729	土師器	ⅢS	SK2091	12.0	2.8		95%	10YR8/3	
730	土師器	ⅢS	SK2091	12.4	3.2		85%	10YR8/3	
731	土師器	ⅢS	SK2091	12.5	3.3		80%	10YR8/3	
732	土師器	ⅢS	SK2091	12.5	2.9		完存	7.5YR8/4	
733	土師器	ⅢS	SK2091	12.6	2.9		40%	10YR8/2	
734	土師器	ⅢS	SK2091	12.7	2.9		50%	7.5YR8/3	
735	土師器	ⅢS	SK2091	12.8	3.0		60%	10YR8/3	
736	土師器	ⅢS	SK2091	15.4	3.2		45%	10YR8/3	
737	土師器	ⅢS	SK2091	15.5	3.2		45%	7.5YR8/3	
738	土師器	ⅢS	SK2091	15.7	2.8		25%	7.5YR8/3	
739	土師器	ⅢS	SK2091	15.8	3.6		85%	10YR8/3	
740	土師器	ⅢS	SK2091	16.1	3.3		35%	7.5YR8/3	
741	土師器	ⅢS	SK2091	16.2	3.0		35%	7.5YR8/3	
742	土師器	ⅢS	SK2091	16.2			35%	7.5YR8/3	
743	土師器	ⅢS	SK2091	16.3	3.3		90%	7.5YR8/3	
744	土師器	ⅢS	SK2091	16.2			35%	7.5YR8/3	
745	土師器	ⅢS	SK2091	16.1			35%	7.5YR8/3	
746	土師器	ⅢS	SK2091	19.7			20%	10YR8/2	
747	土師器	ⅢN	SK2091	7.5	1.7		50%	7.5YR7/4	
748	輸入白磁	椀	SK2091	9.1		3.4	30%	2.5YR8/1	釉2.5Y8/2
749	土師器	ⅢSh	SK0336	6.7	1.8		55%	5YR6/6	
750	土師器	ⅢSh	SK0336	7.0	1.6		25%	7.5YR7/4	
751	土師器	ⅢSh	SK0336	7.0	1.9		30%	7.5YR7/4	
752	土師器	ⅢSh	SK0336	7.5	1.8		20%	2.5Y8/1	
753	土師器	ⅢS	SK0336	8.5	2.2		85%	7.5YR8/4	外面底部煤付着
754	土師器	ⅢS	SK0336	11.2	2.7		20%	7.5YR8/4	
755	土師器	ⅢS	SK0336	12.4	2.6		35%	5YR7/4	
756	土師器	ⅢS	SK0336	14.5	2.6		20%	10YR8/3	
757	土師器	ⅢS	SK0336	14.9	2.7		25%	10YR7/3	
758	土師器	ⅢS	SK0336	15.0	2.6		15%	10YR7/3	
759	土師器	ⅢS	SK0336	16.0	2.8		40%	10YR8/2	
760	土師器	ⅢN	SK0336	6.8	1.5		55%	2.5Y6/2	
761	土師器	ⅢN	SK0336	6.9	1.3		55%	2.5Y6/2	
762	土師器	ⅢN	SK0336	6.9	1.4		完存	7.5YR6/3	
763	土師器	ⅢN	SK0336	7.1	1.6		完存	5YR6/4	
764	土師器	ⅢN	SK0336	7.1	1.7		55%	10YR6/3	
765	土師器	ⅢN	SK0336	7.2	1.5		95%	2.5Y6/2	
766	土師器	ⅢN	SK0336	7.2	1.5		完存	2.5Y7/3	
767	土師器	ⅢN	SK0336	7.2	1.5		55%	10YR6/3	
768	土師器	ⅢN	SK0336	7.5	1.6		完存	2.5Y6/2	
769	土師器	ⅢN	SK0336	8.0	1.7		50%	10YR6/3	
770	土師器	ⅢN	SK0336	8.4	1.9		完存	10YR7/3	
771	土師器	ⅢN	SK0336	8.5	1.7		完存	7.5YR7/4	
772	土師器	ⅢN	SK0336	8.3	1.8		完存	10YR7/3	
773	土師器	ⅢN	SK0336	8.0	1.7		完存	10YR7/3	
774	土師器	ⅢN	SK0336	8.3	1.9		55%	10YR7/3	
775	土師器	ⅢN	SK0336	8.2	1.7		65%	10YR7/4	
776	土師器	ⅢN	SK0336	8.1	1.8		85%	7.5YR7/4	
777	土師器	ⅢN	SK0336	8.0	1.5		完存	10YR6/4	
778	土師器	ⅢN	SK0336	8.3	1.8		完存	10YR6/3	
779	土師器	ⅢN	SK0336	8.0	1.8		65%	10YR7/3	
780	土師器	ⅢN	SK0336	8.1	1.6		50%	10YR7/4	

付表14 出土土器類一覧表-14

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
781	土師器	皿N	SK0336	8.1	1.9		65%	10YR7/3	煤付着
782	土師器	皿N	SK0336	8.2	1.6		65%	5YR6/6	
783	土師器	皿N	SK0336	10.3	2.5		55%	7.5YR7/6	
784	瓦器	羽釜	SK0336				30%	2.5Y2/1	鏝径50.0
785	瀬戸	鉢	SK0336	26.1	6.0	11.0	10%	5Y6/1	釉7.5Y6/3
786	瀬戸	皿	SK0336	14.0		5.0	25%	10Y7/1	釉5Y6/1
787	瀬戸	壺	SK0336			9.5	35%	5Y7/2	釉7.5Y7/2 底部糸切り
788	信楽	播鉢	SK0336				小片	2.5YR4/3	
789	備前	壺	SK0336				小片	10Y5/1	自然釉5Y8/1
790	備前	播鉢	SK0336	20.0			20%	5R2/1	櫛目6本1単位
791	備前	甕	SK0336	50.0			15%	10YR4/4	自然釉7.5Y7/3 胴部最大径71.2
792	丹波	甕	SK0336				小片	5YR4/3	自然釉5Y6/3
793	丹波	甕	SK0336	20.0			15%	5Y4/3	
794	土師器	皿N	SE0922	7.1	1.4		完存	10YR8/2	
795	土師器	皿N	SE0922	7.1	1.4		完存	5YR7/4	灯明皿
796	土師器	皿N	SE0922	7.6	1.6		完存	10YR8/3	
797	土師器	皿N	SE0922	8.0	1.6		完存	7.5YR7/3	
798	土師器	皿N	SE0922	7.8	1.6		完存	7.5YR7/3	
799	土師器	皿N	SE0922	8.1	1.7		完存	10YR6/1	
800	土師器	皿N	SE0922	8.2	1.6		完存	10YR7/3	灯明皿
801	土師器	皿N	SE0922	8.2	1.8		完存	10YR7/3	
802	土師器	皿N	SE0922	8.6	1.7		完存	10YR7/2	
803	土師器	皿N	SE0922	8.2	1.5		完存	5YR8/4	
804	土師器	皿N	SE0922	10.4	1.9		完存	7.5YR7/3	灯明皿
805	土師器	皿N	SE0922	10.2	2.2		70%	10YR7/3	
806	土師器	皿Sh	SE0922	7.4	2.0		35%	7.5YR8/3	
807	土師器	皿S	SE0922	8.4	1.9		完存	7.5YR8/2	
808	土師器	皿S	SE0922	8.5	2.2		完存	7.5YR8/3	
809	土師器	皿S	SE0922	8.6	2.0		完存	7.5YR8/3	
810	土師器	皿S	SE0922	8.8	2.0		完存	7.5YR8/3	
811	土師器	皿S	SE0922	8.8	2.1		完存	5YR8/3	
812	土師器	皿S	SE0922	12.2	2.5		完存	7.5YR8/2	
813	土師器	皿S	SE0922	12.4	2.5		完存	7.5YR8/3	
814	土師器	皿S	SE0922	12.5	2.6		完存	10YR7/2	
815	土師器	皿S	SE0922	14.3	2.9		40%	7.5YR8/3	
816	土師器	皿S	SE0922	14.0	2.7		完存	10YR8/2	
817	土師器	皿S	SE0922	14.7	2.5		50%	7.5YR8/3	
818	土師器	皿S	SE0922	15.1	2.6		95%	7.5YR8/3	
819	土師器	皿S	SE0922	15.2	2.7		80%	5YR8/3	
820	土師器	皿S	SE0922	15.3	2.6		完存	5YR8/3	
821	土師器	皿S	SE0922	17.0	2.8		小片	10YR7/2	
822	瓦器	鍋	SE0922	32.6	9.4		65%	10YR6/1	
823	瓦器	羽釜	SE0922	23.9	12.4		40%	2.5Y8/1	鏝径26.2
824	瓦器	羽釜	SE0922	28.4			小片	N3/0	鏝径32.4
825	瓦器	羽釜	SE0922	18.0			30%	N3/0	鏝径19.6
826	瓦器	羽釜	SE0922	20.2			完存	N7/0	鏝径22.0
827	瓦器	羽釜	SE0922	23.8			小片	N7/0	鏝径26.0
828	瓦器	羽釜	SE0922	39.0	30.0		小片	N8/0	鏝径46.0
829	瓦器	羽釜	SE0922				小片	N8/0	
830	瓦器	羽釜	SE0922				小片	5YR3/2	
831	瓦器	羽釜	SE0922				小片	10YR7/2	
832	瓦器	小型壺	SE0922	2.3	3.3		75%	N8/0	
833	瓦器	小型鉢	SE0922	4.6	2.3		小片	5YR7/4	
834	瀬戸	皿	SE0922	9.2			小片	2.5Y6/1	釉10Y6/2
835	瀬戸	皿	SE0922			9.0		5Y7/3	釉2.5Y6/3 底部35%残存
836	瀬戸	天目椀	SE0922	12.0			30%	N8/0	鉄釉重ね掛け
837	瀬戸	天目椀	SE0922	12.3			小片	10YR7/1	釉10R3/1つや無し
838	瀬戸	皿	SE0922	16.8	3.7	7.6	75%	2.5Y8/2	釉10Y6/2 おろし目皿
839	瀬戸	鉢	SE0922	35.2			小片	N7/P	釉10Y6.5/2
840	瀬戸	鉢	SE0922			17.1	小片	N7/P	釉5Y7/2

付表15 出土土器類一覽表-15

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
841	信樂	甕	SE0922	27.4			50%	10YR8/1	
842	信樂	甕	SE0922			16.0	35%	10YR8/2	
843	須恵器	壺	SE0922			8.8		N4/B	底部50%残存 胴部最大径17.7
844	丹波	甕	SE0922				小片	N7/0	器表10Y4/5
845	輸入青磁	椀	SE0922			6.6		10R5/3.5	釉2.5GY7/1 底部完存
846	輸入青磁	皿	SE0922			10.0		N7/PB	釉7.5Y5/2 底部30%残存
847	土師器	皿N	SK2445	7.7	1.6		55%	7.5YR7/2	
848	土師器	皿N	SK2445	7.8	1.7		40%	5YR6/2	
849	土師器	皿S	SK2445	9.1	1.9		完存	7.5YR8/4	
850	土師器	皿S	SK2445	14.0	2.2		60%	7.5YR7/4	
851	土師器	皿S	SK2445	14.1	2.3		45%	7.5YR8/2	
852	土師器	皿S	SK2445	14.2	2.6		45%	7.5YR8/3	
853	土師器	皿S	SK2445	14.3	2.5		完存	7.5YR7/3	
854	土師器	皿S	SK2445	14.5	2.5		45%	7.5YR8/3	
855	土師器	皿S	SK2445	16.6	2.6		65%	10YR8/2	
856	土師器	皿S	SK2445	16.7	2.5		50%	7.5YR8/2	
857	土師器	皿S	SK2445	17.0	2.9		55%	7.5YR8/3	
858	土師器	皿S	SK2445	17.2	2.3		40%	7.5YR8/4	
859	土師器	皿S	SE0340	12.8	1.9		15%	7.5YR8/4	
860	土師器	皿S	SE0340	13.4	2.3		20%	10YR8/3	
861	土師器	皿S	SE0340	15.0			15%	10YR8/3	
862	土師器	皿Sh	SE0340	7.1	1.5		20%	7.5YR8/4	
863	土師器	皿N	SE0340	8.5	1.7		50%	2.5Y7/2	
864	瓦器	火鉢	SE0340				小片	N5/0	
865	備前	搦鉢	SE0340	25.0			小片	7.5YR4/3	櫛目6本1単位
866	信樂	甕	SE0340	29.0			10%	7.5YR3/3	
867	信樂	甕	SE0340	50.0			10%	2.5YR7/6	
868	土師器	皿Sh	SK2185	7.2	1.7		完存	2.5Y8/2	
869	土師器	皿Sh	SK2185	7.4	1.6		完存	7.5YR7/6	
870	土師器	皿Sb	SK2185	8.8	1.6		完存	10YR3/1	全面煤付着
871	土師器	皿Sb	SK2185	8.5	1.7		完存	2.5Y8/3	全面煤付着
872	土師器	皿S	SK2185	11.7	2.2		50%	7.5YR8/3	
873	土師器	皿S	SK2185	11.7	2.1		65%	7.5YR8/3	
874	土師器	皿N	SK2185	7.4	1.8		完存	10YR7/3	
875	土師器	皿N	SK2185	7.5	1.5		完存	10YR8/2	
876	土師器	皿N	SK2185	7.3	1.5		完存	5YR8/3	
877	土師器	皿N	SK2185	7.6	1.8		完存	10YR8/2	
878	土師器	皿N	SK2185	7.6	1.6		完存	7.5YR7.5/3	
879	土師器	皿N	SK2185	7.9	1.6		完存	10YR8/1	
880	土師器	皿N	SK2185	8.1	1.4		完存	2.5Y8/2	
881	土師器	皿N	SK2185	10.2	2.1		80%	5YR7/6	
882	土師器	皿N	SK2185	10.3	2.0		90%	7.5YR7.5/4	
883	土師器	皿S	SK2185	14.3	2.3		55%	7.5YR8/3	
884	土師器	皿S	SK2185	14.4	2.4		65%	7.5YR8/3	
885	土師器	皿S	SK2185	14.2	2.4		60%	7.5YR8/3	
886	土師器	皿S	SK2185	14.1	2.1		完存	7.5YR8/3	
887	土師器	皿S	SK2185	14.7	2.3		50%	2.5Y8/2	
888	土師器	皿S	SK2185	14.6	2.4		55%	7.5YR8/3	
889	土師器	皿S	SK2185	14.3	2.3		50%	2.5Y8/2	
890	土師器	皿S	SK2185	14.4	2.4		完存	7.5YR8/3	
891	土師器	皿S	SK2185	14.8	2.8		完存	7.5YR8/3	
892	土師器	皿S	SK2185	14.2	2.1		完存	7.5YR8/3	
893	土師器	皿S	SK2185	14.2	2.5		完存	10YR8/2	
894	土師器	皿S	SK2185	14.2	2.5		95%	10YR8/2	
895	土師器	皿S	SK2185	14.4	2.2		95%	7.5YR8/3	
896	土師器	皿S	SK2185	14.3	2.4		55%	7.5YR8/3	
897	土師器	皿S	SK2185	14.6	2.6		完存	2.5Y8/1	
898	土師器	皿S	SK2185	14.6	2.5		95%	2.5Y8/2	
899	土師器	皿S	SK2185	14.5	2.6		75%	7.5YR8/3	
900	土師器	皿S	SK2185	14.2	2.3		完存	7.5YR8/3	

付表16 出土土器類一覧表-16

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
901	土師器	皿S	SK2185	14.2	2.3		完存	7.5YR8/3	
902	土師器	皿S	SK2185	14.6	2.2		完存	7.5YR8/3	
903	土師器	皿S	SK2185	15.2	2.9		完存	7.5YR8/4	
904	土師器	皿S	SK2185	16.2	2.6		75%	7.5YR8/4	
905	土師器	皿S	SK2185	17.0	2.6		60%	2.5Y8/2	
906	土師器	皿S	SK2185	18.8	2.7		65%	10YR8/2	
907	土師器	皿S	SK2185	20.0	2.7		35%	10YR8/2	
908	瓦器	鍋	SK2185	25.3	6.0	17.8	完存	2.5Y3~6/1	
909	瓦器	鍋	SK2185	34.4	9.0	22.3	30%	2.5Y8/2	
910	瓦器	火鉢	SK2185		15.7		60%	N6/0	長辺46.7短辺不明の長方形
911	輸入白磁	椀	SK2185	9.6	2.5	4.5	50%	7.5Y8/2	高台の4方を削り取る 釉7.5Y8/1
912	土師器	皿Nr	SE2197	6.0	1.2		完存	10YR8/2	
913	土師器	皿Nr	SE2197	6.2	1.2		完存	7.5YR7/2	
914	土師器	皿Nr	SE2197	6.2	1.1		完存	10YR7/2	
915	土師器	皿Nr	SE2197	7.4	1.3		完存	10YR7/3	
916	土師器	皿Nr	SE2197	7.5	1.4		90%	10YR7/2	
917	土師器	皿Nr	SE2197	8.0	1.5		60%	10YR7/2	
918	土師器	皿Sb	SE2197	8.9	1.9		85%	10YR8/2	
919	土師器	皿Sb	SE2197	8.9	1.8		70%	7.5YR7/3	
920	土師器	皿Sb	SE2197	10.0	1.8		90%	10YR8/2	
921	土師器	皿Sb	SE2197	9.9	1.9		85%	10YR8/2	
922	土師器	皿Sb	SE2197	10.2	1.9		60%	7.5YR6/4	
923	土師器	皿S	SE2197	11.8	2.1		30%	10YR7/3	
924	土師器	皿S	SE2197	12.1	2.0		40%	10YR8/3	
925	土師器	皿S	SE2197	12.2	2.0		40%	10YR8/3	
926	土師器	皿S	SE2197	12.2	1.7		30%	10YR8/2	
927	土師器	皿S	SE2197	12.3	2.0		20%	10YR8/3	
928	瓦器	焙烙	SE2197	22.5			小片	7.5YR8/2	
929	瓦器	羽釜	SE2197	21.4			小片	7.5YR7/2	
930	瓦器	羽釜	SE2197	22.4			小片	2.5Y7/1	
931	瓦器	羽釜	SE2197	24.0			小片	5Y8/1	
932	瓦器	不明	SE2197	28.0			小片	2.5Y4/1	
933	瓦器	壺(釜?)	SE2197	13.4			30%	10YR7/1	
934	美濃	皿	SE2197	9.1	2.4		80%	7.5Y8/1	全釉7.5Y8/1
935	美濃	皿	SE2197	9.2	2.3		70%	7.5Y8/1	全釉7.5Y8/1
936	美濃	皿	SE2197	9.0	2.3	7.1	20%	5Y7/3	全釉5Y7/3
937	信楽	擂鉢	SE2197	24.0		8.0	30%	2.5YR5/6	櫛目4本1単位
938	信楽	擂鉢	SE2197	30.0	12.0	15.0	35%	2.5YR6/6	櫛目4本1単位
939	備前	擂鉢	SE2197	28.8	11.0	14.0	30%	10R5/2	櫛目8本1単位
940	明染付	皿	SE2197	10.3			20%	N8/0	
941	明染付	皿	SE2197	11.0			小片	5GY8/1	
942	明染付	椀	SE2197	13.0			小片	N8/0	
943	輸入青磁	椀	SE2197				小片	N8/0	釉明るい緑色
944	輸入青磁	椀	SE2197	15.0			小片	N8/0	釉10Y6/2
945	土師器	皿Nr	SE3555	5.6	1.0		55%	7.5YR8/3	
946	土師器	皿S	SE3555	10.6	2.3		70%	7.5YR8/4	
947	土師器	皿S	SE3555	10.5	2.1		25%	5YR8/4	
948	土師器	皿S	SE3555	11.5	2.4		30%	10YR7/3	
949	土師器	皿S	SE3555	11.0	2.1		25%	5YR8/4	
950	土師器	皿S	SE3555	12.0	2.1		80%	7.5YR8/3	
951	土師器	焙烙	SE3555				15%	10YR4/1	
952	美濃	丸椀	SE3555	11.0	5.6	4.7	25%	2.5Y8/1	釉7.5YR2/1・7/4 重ね掛け
953	美濃	天目碗	SE3555	11.9	6.1	5.0	30%	2.5Y8/4	釉7.5YR4/4
954	美濃	天目碗	SE3555				小片	2.5Y8/4	釉7.5YR5/8・5P2/1 重ね掛け
955	美濃	皿	SE3555	11.4	2.6	5.6	40%	2.5Y8/3	灰釉7.5Y8/3
956	美濃	皿	SE3555				小片	10Y8/1	長石釉
957	黄瀬戸	鉢	SE3555				小片	5Y8/4	木灰釉5Y7/4
958	信楽	甕	SE3555				小片	5YR7/4	
959	信楽	甕	SE3555				小片	10YR7/1	
960	信楽	擂鉢	SE3555	25.3	12.8	12.6	50%	2.5YR7/8	櫛目5本1単位

付表17 出土土器類一覽表-17

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備 考
961	信楽	播鉢	SE3555	25.5			25%	5YR6/4	櫛目6本1単位
962	明染付	皿	SE3555			5.0	小片	10YR7/1	
963	明染付	皿	SE3555	10.5			25%	2.5GY8/1	
964	明赤絵	椀	SE3555				小片	白色	
965	輸入白磁	椀	SE3555			8.0	小片	白色	
966	土師器	皿Nr	SK2058	5.2	0.9		完存	7.5YR8/2	
967	土師器	皿Nr	SK2058	6.0	1.0		完存	2.5Y8/3	
968	土師器	皿Nr	SK2058	6.1	1.1		完存	7.5YR8/3	
969	土師器	皿Nr	SK2058	7.1	1.3		完存	2.5Y8/3	
970	土師器	皿Nr	SK2058	7.1	1.3		完存	2.5Y8/3	
971	土師器	皿Sb	SK2058	9.2	2.3		75%	7.5YR8/3	
972	土師器	皿Sb	SK2058	9.2	2.3		完存	7.5YR8/4	
973	土師器	皿Sb	SK2058	9.4	2.1		完存	7.5YR8/3	
974	土師器	皿Sb	SK2058	9.2	2.1		50%	7.5YR8/3	
975	土師器	皿S	SK2058	10.9	2.5		50%	10YR3/1	
976	土師器	皿S	SK2058	11.2	2.2		完存	7.5YR8/3	
977	土師器	皿S	SK2058	11.1	2.2		60%	10YR3/1	
978	土師器	皿S	SK2058	11.0	2.1		45%	10YR8/3	
979	土師器	皿S	SK2058	11.0	2.3		40%	7.5YR8/2	
980	土師器	皿S	SK2058	11.0	2.0		40%	2.5Y2/1	
981	土師器	丸底鉢	SK2058	9.6	6.0		30%	2.5Y8/2	
982	土師器	炉	SK2058	11.8			15%	10YR7/6	
983	瓦器	鉢	SK2058				小片	10YR8/3	
984	美濃	皿	SK2058	12.0	2.8	6.4	50%	2.5Y8/2	長石釉5Y8/2
985	美濃	皿	SK2058	11.3	2.4	6.5	50%	10YR7/2	長石釉5Y8/1
986	美濃	皿	SK2058			6.2	60%	2.5Y8/2	灰釉7.5Y7/3
987	美濃	丸椀	SK2058				小片	2.5Y8/2	天目釉5YR4/6
988	織部	椀	SK2058				小片	5Y8/2	鉄絵の上に長石釉5Y8/3
989	織部	椀	SK2058			5.4	小片	5Y8/2	鉄絵の上に長石釉5Y8/3
990	志野	向付	SK2058				小片	5Y8/2	鉄絵の上に長石釉5Y8/3
991	美濃	丸椀	SK2058	10.0	5.9	4.0	40%	2.5Y8/1	長石釉5Y8/1
992	美濃	天目椀	SK2058	11.7	7.0	4.3	65%	2.5Y8/1	鉄釉10YR4/4
993	美濃	天目椀	SK2058	11.3	6.5	4.1	45%	2.5Y8/1	鉄釉5YR1.7/1
994	美濃	椀	SK2058	12.5			35%	2.5Y8/1	黄瀬戸釉7.5Y8/3
995	美濃	椀	SK2058	12.1	7.0	6.2	25%	2.5Y8/1	長石釉5Y8/1
996	美濃	壺	SK2058			6.6		7.5Y7/2	底部完存 鉄化粧の上に鉄釉5RP1.7/1
997	絵唐津	向付	SK2058	14.8	4.5	5.7	80%	10YR5/4	釉10YR4/3 胎土目4
998	絵唐津	皿	SK2058	11.5	3.4	3.9	60%	2.5YR7/6	釉5Y7/3 胎土目4
999	唐津	椀	SK2058	10.3	5.6	4.0	30%	7.5Y6/3	釉5Y6/4
1000	唐津	椀	SK2058	10.1	6.1	4.4	90%	5YR6/8	釉5Y6/3
1001	唐津	椀	SK2058	10.6	7.2	4.5	60%	2.5YR4/4	釉5Y6/3
1002	唐津	椀	SK2058	11.7	7.7	4.6	50%	10YR8/4	釉2.5Y7/4
1003	唐津	椀	SK2058	11.0	6.7	4.3	60%	10YR8/2	釉5Y7/2
1004	唐津	椀	SK2058	11.0	6.3	4.0	30%	5YR6/6	釉5YR7/1
1005	唐津	椀	SK2058	11.9	5.9	4.8	20%	10YR6/3	釉2.5GY7/1
1006	唐津	椀	SK2058	11.7	7.0	4.6	90%	5YR6/8	釉5YR8/2
1007	唐津	椀	SK2058	11.7	7.6	4.1	30%	5YR8/4	釉5Y7/2
1008	唐津	椀	SK2058	11.0	6.3	4.3	40%	5YR5/3	釉2.5Y7/1
1009	唐津	皿	SK2058	13.3	4.2	5.0	80%	10YR6/3	釉5Y7/1 砂目4
1010	絵唐津	鉢	SK2058	23.3	11.0	9.2	50%	5YR6/6	釉2.5Y6/3 胎土目4
1011	信楽	蓋	SK2058	14.2			小片	10R5/4	
1012	丹波	水指	SK2058	13.0		8.8	30%	2.5YR3/3	
1013	備前	建水	SK2058	15.8	6.9	15.0	30%	7.5R3/3	
1014	信楽	播鉢	SK2058				小片	10R5/4	
1015	丹波	播鉢	SK2058			16.0	15%	2.5YR6/6	
1016	土師器	皿S	SK0314	11.0	2.2		90%	7.5YR7/4	
1017	土師器	皿S	SK0314	11.2	2.0		90%	10YR7/3	
1018	土師器	皿S	SK0314	11.0	2.2		80%	7.5YR7/4	
1019	土師器	皿S	SK0314	10.8	2.2		60%	7.5YR8/4	
1020	土師器	皿S	SK0314	11.1	2.2		40%	10YR7/3	

付表18 出土土器類一覧表-18

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1021	土師器	皿S	SK0314	11.2	2.0		70%	7.5YR7/4	
1022	土師器	塩壺蓋	SK0314	7.0	2.3		80%	5YR7/6	
1023	土師器	焙烙	SK0314				40%	10YR8/3	
1024	瓦器	火鉢	SK0314	25.4	12.1		小片	7.5YR7/4	
1025	瓦器	火鉢	SK0314	28.0	14.8			10YR7/2	
1026	唐津	椀	SK0314	10.3	5.5	4.0	50%	5YR6/4	釉5Y5/3
1027	唐津	椀	SK0314	10.2	6.5	4.0	50%	2.5YR6/6	釉5Y4/3
1028	唐津	椀	SK0314	10.8	6.8	4.5	50%	5YR6/4	釉5Y5/2
1029	唐津	天目椀	SK0314	11.1	6.6	4.3	70%	2.5Y7/1	釉2.5Y3/3
1030	絵唐津	皿	SK0314	13.2	4.2	4.1	60%	2.5Y6/1	釉7.5Y6/1
1031	唐津	壺	SK0314	12.9			小片	2.5Y6/1	釉2.5Y3/2
1032	美濃	天目椀	SK0314	11.3	6.8	4.2	40%	7.5YR7/1	釉5YR4/3
1033	美濃	天目椀	SK0314	11.5	7.2	4.4	40%	2.5Y8/3	釉7.5YR2/2
1034	志野	向付	SK0314				20%	10YR8/2	釉2.5Y8/1
1035	織部	鉢	SK0314			7.7		10YR8/2	釉2.5Y7/2 底部75%残存
1036	志野	向付	SK0314	12.3			30%	10YR8/3	釉5Y8/1
1037	美濃	皿	SK0314	9.9	2.2	5.4	70%	7.5YR7/1	釉5Y7/3 底部外面輪トチ
1038	美濃	皿	SK0314	10.8	2.7	6.2	30%	2.5Y8/2	釉5YR4/4
1039	黄瀬戸	鉢	SK0314	11.9	4.5	8.6	20%	7.5YR7/1	釉5Y7/4
1040	美濃	菊皿	SK0314	13.2	2.6	7.6	45%	10YR8/2	釉7.5Y8/2
1041	信楽	搦鉢	SK0314	29.0			小片	5YR7/6	
1042	信楽	搦鉢	SK0314	28.0			小片	5YR7/4	
1043	信楽	甕	SK0314	11.2	4.7		小片	2.5YR5/4	
1044	丹波	搦鉢	SK0314	37.5	17.6	16.0	50%	5YR7/1	搦目単線
1045	丹波	盤	SK0314	36.4	5.7	26.0	80%	5YR6/1	
1046	軟質陶器	椀	SK0314	13.0	7.2	6.0		2.5Y8/3	素地
1047	軟質陶器	蓋	SK0314	3.6				7.5YR7/3	素地
1048	軟質陶器	鉢?	SK0314			6.4		7.5YR8/3	素地
1049	軟質陶器	台付皿	SK0314	17.8	5.7	7.1		2.5Y8/2	釉5YR8/2の上に深緑色で描画
1050	窯道具	蓋	SK0314				小片	5YR8/1	
1051	窯道具	内窯	SK0314	31.8			40%	10YR8/3	
1052	輸入白磁	皿	SK0314	13.5	2.7	6.5	50%	白色	
1053	明染付	椀	SK0314	11.2	5.3	4.4	50%	N8/0	
1054	明染付	椀	SK0314			4.6		N8/0	底部完存
1055	明染付	椀	SK0314			4.1		白色	底部60%残存
1056	明染付	椀	SK0314			4.8		白色	底部20%残存
1057	明染付	皿	SK0314	17.4	3.9	9.2	50%	5YR7/4	釉2.5Y8/2
1058	明染付	皿	SK0314	28.3	5.6	14.8	40%	5YR7/4	釉7.5Y8/1
1059	土師器	皿S	SK0171	10.2	2.4		小片	7.5Y8/3	
1060	土師器	皿S	SK0171	10.4	2.2		小片	2.5Y8/3	
1061	土師器	皿S	SK0171	11.2	2.3		30%	2.5Y7/3	
1062	土師器	皿S	SK0171	11.4	2.0		55%	10YR8/3	
1063	土師器	皿S	SK0171	11.2	2.0		50%	10Y7/2	
1064	土師器	皿S	SK0171	11.5	2.1		45%	2.5Y8/3	
1065	土師器	皿S	SK0171	12.5	2.1		55%	7.5Y8/3	
1066	土師器	皿S	SK0171	12.7	2.1		50%	10YR7/2	
1067	土師器	皿S	SK0171	25.6			小片	7.5YR8/3	
1068	土師器	皿Nr	SK0171	4.8	1.0		小片	10YR8/3	
1069	土師器	皿Nr	SK0171	5.5	1.1		小片	10YR8/3	
1070	土師器	皿Sb	SK0171	9.5	2.1		小片	10YR8/3	
1071	土師器	皿Sb	SK0171	9.9	2.0		小片	7.5Y8/3	
1072	土師器	塩壺蓋	SK0171	6.9	1.8		40%	5YR7/4	
1073	土師器	塩壺	SK0171	5.3	8.9		小片	7.5YR8/6	
1074	土師器	焙烙	SK0171				小片	10YR8/2	
1075	土師器	焙烙	SK0171	31.5			30%	10YR8/3	
1076	土製品	円盤	SK0171				完存	7.5YR7/4	径3.5厚さ0.6 土師器皿の転用
1077	土製品	円盤	SK0171				完存	2.5Y8/3	径3.0厚さ0.5 土師器皿の転用
1078	土製品	円盤	SK0171				完存	10YR7/4	径3.0厚さ0.6 土師器皿の転用
1079	土製品	円盤	SK0171				小片	10YR7/4	未製品
1080	瓦器	灯火具	SK0171	7.8			小片	2.5Y7/1	

付表19 出土土器類一覽表-19

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備 考
1081	瓦器	香炉	SK0171	16.0			小片	7.5YR8/4	
1082	瓦器	香炉	SK0171	12.2	5.3		50%	10YR7/4	
1083	美濃	天目椀	SK0171	11.3	6.8	4.2	80%	2.5Y8/2	釉7.5YR2/1
1084	美濃	天目椀	SK0171	11.0	6.8	4.0	小片	2.5Y8/3	釉5YR4/6
1085	美濃	天目椀	SK0171	12.0	6.7	4.4	50%	5Y8/1	釉5YR3/4
1086	美濃	天目椀	SK0171	11.2			小片	2.5Y8/2	釉7.5YR2/1
1087	黄瀬戸	天目椀	SK0171	12.1			小片	2.5Y8/2	釉5Y7/4
1088	黄瀬戸	天目椀	SK0171	12.1	7.6	4.3	小片	2.5Y8/2	釉5Y7/6
1089	美濃	丸椀	SK0171	11.5	6.5	4.8	35%	2.5Y8/1	釉10YR2/3
1090	美濃	丸椀	SK0171	12.0	7.0	4.8	小片	2.5Y8/2	釉2.5YR2/3
1091	総織部	丸椀	SK0171	10.7	6.2	4.7	35%	2.5Y8/1	
1092	総織部	丸椀	SK0171	11.5			小片	2.5Y8/2	釉5G6/1
1093	総織部	丸椀	SK0171	11.6	5.9	4.2	55%	2.5Y8/2	釉7.5Y6/3
1094	総織部	丸椀	SK0171	11.1	7.3	4.1	40%	2.5Y8/3	
1095	志野	小杯	SK0171	7.0	4.8	3.6	小片	2.5Y8/2	釉2.5Y8/1
1096	志野	小杯	SK0171	8.0	3.9	3.3	40%	2.5Y8/2	釉2.5Y8/1
1097	志野	小杯	SK0171	8.4	3.0	4.6	50%	5Y8/2	釉5Y8/1
1098	志野	銅鑪鉢	SK0171	23.6	5.0	15.4	95%	2.5Y8/2	釉2.5Y8/3
1099	美濃	茶入	SK0171			4.0		N8/0	釉5Y2/1 底部50%残存
1100	美濃	皿	SK0171	8.8	1.8	4.8	小片	5Y8/2	釉5Y8/4
1101	美濃	鉄絵皿	SK0171	12.0	2.6	6.6	50%	5Y8/2	釉5Y8/2
1102	美濃	鉄絵皿	SK0171	11.8	2.6	6.6	45%	2.5Y8/2	釉2.5Y8/2
1103	美濃	鉄絵皿	SK0171	11.8	2.6	6.4	30%	5Y8/2	釉5Y8/3
1104	美濃	皿	SK0171	12.1	3.0	6.9	60%	5Y8/2	釉5Y8/1
1105	美濃	皿	SK0171	12.0	2.7	6.6	90%	10YR7/1	釉N8/0
1106	美濃	皿	SK0171	12.3	3.1	6.3	45%	2.5Y8/2	釉2.5Y8/1
1107	織部	水注	SK0171	10.0			小片	2.5Y8/2	釉2.5Y8/3
1108	織部	向付	SK0171				55%	2.5Y8/2	釉7.5Y4/3
1109	唐津	椀	SK0171	11.6	6.7	4.7	30%	7.5YR7/4	釉2.5Y7/1
1110	唐津	天目椀	SK0171	11.5	6.2	4.0	30%	5Y7/1	釉5YR3/4
1111	唐津	椀	SK0171	11.0	10.0	5.2	45%	5Y6/1	釉5Y4/4
1112	唐津	杓茶椀	SK0171	12.6	7.8	5.8	90%	N6/0	釉5Y5/4
1113	唐津	德利	SK0171			9.0		2.5Y6/1	釉5Y4/1 底部40%残存
1114	信楽	播鉢	SK0171				小片	7.5YR8/6	櫛目6本1単位
1115	信楽	播鉢	SK0171				小片	10YR4/1	櫛目4本1単位
1116	明染付	椀	SK0171	12.2			30%	N8/0	釉5GY8/1
1117	明染付	椀	SK0171	11.4			小片	N8/0	釉5B7/1
1118	明染付	椀	SK0171	11.5	5.1	4.5	小片	N8/0	釉10GY8/1 高台畳付きに砂付着
1119	明染付	椀	SK0171	8.0			小片	N8/0	釉5GY8/1
1120	明染付	椀	SK0171			5.2	小片	N8/0	釉5G8/1 底部45%残存
1121	軟質陶器	皿	SK0171	15.3	4.3		75%	7.5Y8/1	釉10Y8/2
1122	軟質陶器	台付皿	SK0171	16.4	4.7	7.2	50%	10YR7/2	素地 内面に線刻
1123	軟質陶器	台付鉢	SK0171				20%	10YR8/2	
1124	軟質陶器	台付鉢	SK0171	13.6				10YR8/1	素地
1125	軟質陶器	台付鉢	SK0171						
1126	軟質陶器	台付鉢	SK0171					10YR8/2	素地
1127	軟質陶器	台付鉢	SK0171					10YR8/1	素地
1128	軟質陶器	台付鉢	SK0171						素地
1129	軟質陶器	台付鉢	SK0171				小片		
1130	軟質陶器	鉢?	SK0171			6.6	小片	10YR7/3	内面白化粧
1131	軟質陶器	鉢?	SK0171			6.8	小片	10YR8/2	内面白化粧
1132	軟質陶器	鉢?	SK0171			6.4	小片	10YR8/2	
1133	軟質陶器	椀	SK0171			6.0	小片	10YR7/2	
1134	軟質陶器	椀	SK0171			6.8	小片	10YR8/3	
1135	軟質陶器	椀	SK0171			6.3	小片	10YR8/2	
1136	軟質陶器	椀	SK0171			6.0	小片	10YR8/2	釉10YR8/3
1137	軟質陶器	椀	SK0171			5.6		10YR8/3	底部完存 釉10YR7/3
1138	軟質陶器	台付皿	SK0171	15.4			小片	7.5YR8/4	
1139	軟質陶器	台付皿	SK0171	15.6			小片	10YR8/3	
1140	軟質陶器	台付鉢	SK0171	15.2				2.5Y8/2	全釉 釉下彩

付表20 出土土器類一覧表-20

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1141	軟質陶器	台付鉢	SK0171	15.0				10YR7/1	素地 白化粧
1142	軟質陶器	台付鉢	SK0171	15.4			小片	10YR8/2	
1143	軟質陶器	台付鉢	SK0171	15.6				10YR8/2	
1144	軟質陶器	三足鉢	SK0171				50%	7.5YR7/3	
1145	軟質陶器	三足鉢	SK0171					7.5YR7/3	素地
1146	軟質陶器	三足鉢	SK0171					5YR7/4	素地
1147	軟質陶器	椀	SK0171	11.3				10YR8/2	釉10YR8/3
1148	軟質陶器	椀	SK0171	11.8				10YR8/3	
1149	軟質陶器	椀	SK0171	13.6				7.5YR8/3	釉7.5YR7/4
1150	軟質陶器	椀	SK0171	12.6	7.7	6.6		2.5Y8/1	釉2.5Y8/4 鉄絵緑彩
1151	軟質陶器	香炉蓋	SK0171	7.0				2.5Y6/1	
1152	軟質陶器	香炉蓋	SK0171	5.6				10YR7/2	
1153	軟質陶器	香炉身	SK0171					10YR7/2	
1154	軟質陶器	香炉身	SK0171					10YR7/2	
1155	軟質陶器	香炉身	SK0171			5.6		10YR7/2	
1156	土師器	皿Nr	SK0257	5.2	1.1		30%	2.5Y7/1	
1157	土師器	皿Nr	SK0257	5.6	1.0		30%	7.5YR7/4	
1158	土師器	皿Sb	SK0257	9.4	1.9		30%	7.5YR7/3	
1159	土師器	皿Sb	SK0257	9.8	2.1		30%	10YR7/2	底部中央に孔を穿つ
1160	土師器	皿S	SK0257	10.0	2.1		45%	7.5YR7/4	
1161	土師器	皿S	SK0257	10.8	1.9		15%	7.5YR7/3	
1162	土師器	皿S	SK0257	11.0	1.9		25%	7.5YR7/4	
1163	土師器	皿S	SK0257	10.8	2.0		30%	10YR8/2	
1164	土師器	皿S	SK0257	10.8	2.1		20%	7.5YR8/3	
1165	土師器	皿S	SK0257	10.8	2.3		20%	7.5YR7/3	
1166	土師器	塩壺	SK0257	5.0	8.5		95%	7.5YR7/4	
1167	土師器	塩壺	SK0257	5.1	8.8		完存	5YR7/4	内面に布目残す
1168	土師器	焙烙	SK0257	30.6	8.1		70%	10YR4/1	
1169	土師器	羽釜	SK0257	13.6			20%	7.5YR7/4	
1170	土師器	羽釜	SK0257	22.0			20%	10YR7/4	
1171	土師器	丸底壺	SK0257	2.2	2.6		完存	2.5Y8/2	
1172	土製品	円盤	SK0257	3.0			完存	2.5YR5/6	信楽擂鉢の加工品
1173	瓦器	灯火具	SK0257	9.5			20%	2.5Y8/2	
1174	瓦器	火鉢	SK0257	31.6			20%	5Y2/1	
1175	美濃	丸椀	SK0257	10.6			55%	2.5Y8/1	長石釉
1176	美濃	丸椀	SK0257	10.6			30%	7.5Y8/1	長石釉
1177	総織部	丸椀	SK0257	11.2	6.7	4.3	50%	2.5Y8/2	釉5Y6/4
1178	総織部	丸椀	SK0257	10.8	7.1	4.3	50%	2.5Y8/2	釉7.5Y5/3
1179	美濃	皿	SK0257	10.4	2.4	6.2	25%	7.5YR7/3	鉄絵の上に長石釉
1180	美濃	皿	SK0257	11.7	3.0	6.2	70%	7.5Y8/1	長石釉総掛け
1181	美濃	皿	SK0257	10.5	2.6	5.5	50%	7.5Y8/1	鉄釉総掛け10R2/1
1182	美濃	皿	SK0257	11.5	1.7	6.0	30%	5Y7/3	灰釉
1183	美濃	小杯	SK0257	7.5	2.9	4.8	25%	5Y8/1	二次的に火を受け釉調不明
1184	美濃	小杯	SK0257	9.8	4.1	4.6	25%	7.5Y8/1	長石釉総掛け
1185	唐津	盃	SK0257	7.2	4.0	3.4	完存	2.5Y4/4	釉7.5Y8/1
1186	唐津	椀	SK0257	10.0	5.7	4.2	50%	7.5YR6/4	釉2.5Y7/4
1187	唐津	椀	SK0257	10.5			25%	10YR3/2	釉2.5GY8/1
1188	唐津	椀	SK0257	11.1	5.9	4.0	30%	5YR5/3	釉5YR2/2
1189	唐津	椀	SK0257	11.0			20%	2.5Y5/4	釉10Y3/2~8/1
1190	唐津	鉢	SK0257	18.0			20%	7.5Y5/3	釉7.5Y6/3
1191	唐津	鉢	SK0257			9.6		10R5/4	釉5Y5/2 底部完存
1192	唐津	德利	SK0257			10.3	50%	10YR7/3	釉2.5Y3/3~8/2
1193	唐津	蓋	SK0257	7.7	2.5	4.7	完存	10YR6/3	釉2.5Y4/6
1194	唐津	向付	SK0257	13.4	4.4	4.4	40%	10YR6/3	釉7.5Y6/2
1195	軟質陶器	椀	SK0257	11.5	7.0	4.5			内面赤土 外面白土を掛け緑彩
1196	備前	盤	SK0257	28.0	3.3	17.1	小片	10R4/2	
1197	備前	德利	SK0257			6.0		10R5/3	底部45%残存
1198	信楽	擂鉢	SK0257				小片	10R4/2	櫛目5本1単位
1199	信楽	擂鉢	SK0257				小片	2.5YR6/6	櫛目5本1単位
1200	土師器	皿Sb	SK2053	9.6	2.0		完存	10YR5/2	



付表21 出土土器類一覽表-21

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備 考
1201	土師器	ⅢSb	SK2053	9.4	2.3		完存	10YR8/2	
1202	土師器	ⅢSb	SK2053	9.7	2.3		完存	10YR8/3	
1203	土師器	ⅢSb	SK2053	9.8	2.2		完存	2.5Y7/3	
1204	土師器	ⅢSb	SK2053	9.9	2.3		完存	10YR7/3	
1205	土師器	ⅢSb	SK2053	10.0	2.3		完存	10YR8/2	
1206	土師器	ⅢSb	SK2053	10.0	2.1		完存	10YR7/2	
1207	土師器	ⅢSb	SK2053	10.0	2.1		完存	10YR8/3	
1208	土師器	ⅢSb	SK2053	10.0	2.1		完存	10YR8/3	
1209	土師器	ⅢSb	SK2053	10.2	2.4		完存	2.5Y7/2	
1210	土師器	ⅢS	SK2053	10.6	2.3		完存	2.5Y7/2	灯明皿
1211	土師器	ⅢS	SK2053	10.8	2.3		完存	10YR8/4	
1212	土師器	ⅢS	SK2053	11.1	2.2		完存	10YR6/3	灯明皿
1213	土師器	ⅢS	SK2053	10.9	2.2		完存	7.5YR6/4	灯明皿
1214	土師器	ⅢS	SK2053	11.0	2.2		完存	10YR7/3	灯明皿
1215	土師器	ⅢS	SK2053	11.0	2.4		完存	7.5YR7/4	灯明皿
1216	土師器	ⅢS	SK2053	11.0	2.2		完存	10YR8/3	灯明皿
1217	土師器	ⅢS	SK2053	10.7	2.2		完存	10YR7/3	灯明皿
1218	土師器	ⅢS	SK2053	10.8	2.1		完存	10YR8/3	灯明皿
1219	土師器	ⅢS	SK2053	10.9	2.2		完存	10YR8/3	
1220	土師器	ⅢS	SK2053	12.2	2.0		完存	10YR7/3	灯明皿
1221	土師器	ⅢS	SK2053	12.4	2.4		完存	10YR8/4	灯明皿
1222	土師器	ⅢS	SK2053	12.3	2.1		完存	7.5YR8/4	
1223	土師器	ⅢS	SK2053	12.5	2.3		完存	10YR7/3	
1224	土師器	ⅢS	SK2053	12.5	2.2		完存	10YR8/4	
1225	土師器	ⅢS	SK2053	12.5	2.3		完存	10YR8/3	
1226	土師器	ⅢS	SK2053	12.5	2.3		完存	2.5Y7/1	
1227	土師器	ⅢS	SK2053	12.8	2.2		完存	10YR7/2	
1228	土師器	ⅢS	SK2053	12.7	2.3		完存	10YR7/1	
1229	土師器	ⅢS	SK2053	12.9	2.1		完存	2.5Y7/1	
1230	土師器	ⅢS'	SK2053	14.0	2.5		20%	2.5Y8/3	
1231	土師器	ⅢS'	SK2053	14.3	2.7		25%	10YR7/2	
1232	土師器	ⅢS'	SK2053	15.2	2.8		35%	10YR8/3	
1233	土師器	ⅢS'	SK2053	15.3	3.1		40%	2.5Y7/2	
1234	土師器	ⅢS'	SK2053	16.2	3.0		45%	2.5Y7/2	
1235	土師器	ⅢS'	SK2053	16.2	3.1		25%	10YR8/3	
1236	土師器	ⅢS'	SK2053	17.0	2.9		65%	10YR8/3	
1237	土師器	ⅢS'	SK2053	17.8	2.8		20%	2.5Y8/2	
1238	土師器	ⅢNr	SK2053	5.3	1.1		完存	10YR7/3	
1239	土師器	ⅢNr	SK2053	5.5	1.1		完存	2.5Y7/3	
1240	土師器	ⅢNr	SK2053	6.0	1.2		完存	10YR8/4	
1241	土師器	ⅢNr	SK2053	6.6	1.5		完存	2.5Y7/3	
1242	土師器	ⅢNr	SK2053	6.7	1.4		完存	10YR8/4	
1243	土師器	ⅢNr	SK2053	7.2	2.1		完存	2.5Y7/2	
1244	土師器	ⅢNr	SK2053	7.4	1.5		完存	10YR8/3	
1245	土師器	ⅢNr	SK2053	7.6	1.5		完存	10YR7/3	
1246	土師器	Ⅲ	SK2053	4.8	1.5		完存	10YR7/3	
1247	土師器	Ⅲ	SK2053	5.0	1.3		完存	10YR7/3	
1248	土師器	小壺	SK2053	2.0	2.4		完存	2.5Y7/2	
1249	土師器	小壺	SK2053	2.0	2.1		完存	2.5Y8/1	
1250	土師器	小壺	SK2053	2.6	2.4		完存	5Y7/1	底部研磨
1251	土師器	小壺	SK2053	2.0	2.3		完存	2.5Y7/1	
1252	土師器	小壺	SK2053	2.1	2.4		完存	2.5Y8/2	
1253	土師器	小壺	SK2053	2.4	3.1		完存	2.5Y8/2	
1254	土師器	小壺	SK2053	2.2	2.9		完存	5Y8/1	
1255	土師器	丸底鉢	SK2053	9.0	5.1		65%	5Y4/1	最大径11.3
1256	土師器	丸底鉢	SK2053	9.3	6.1		85%	2.5Y5/2	最大径11.0 上部に墨描き
1257	土師器	丸底鉢	SK2053	9.2	5.7		完存	2.5Y8/3	最大径11.5
1258	土師器	丸底鉢	SK2053	5.0			小片	10YR7/3	
1259	土師器	丸底鉢	SK2053	7.9	4.1		75%	2.5Y5/1	最大径8.9
1260	土師器	壺蓋	SK2053	6.8	1.6		完存	2.5YR6/6	

付表22 出土土器類一覧表-22

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1261	土師器	壺蓋	SK2053	6.9	1.6		完存	7.5YR7/4	
1262	土師器	壺	SK2053	4.1	8.0		完存	2.5YR7/4	
1263	土師器	壺	SK2053	5.2	8.2		完存	5YR6/3	
1264	土師器	壺	SK2053	5.6	8.7		完存	5YR6/4	
1265	土師器	壺	SK2053	5.6	8.1		完存	2.5YR6/8	
1266	土師器	壺	SK2053	6.6	10.4		40%	5YR7/4	「ミ奈と藤左門」の刻印
1267	土師器	壺	SK2053	5.4	9.5		完存	7.5YR7/4	
1268	土師器	壺	SK2053	6.0	9.5		完存	10YR6/4	
1269	土師器	皿S	SK2053	12.0	2.0		60%	7.5YR7/4	皿S大の口縁をへら切りする
1270	土師器	皿Nr	SK2053	5.5	1.2		完存	7.5YR7/4	底部に穿孔
1271	土師器	皿Nr	SK2053	7.2	1.5		40%	2.5Y7/3	底部に穿孔
1272	土師器	皿S	SK2053	11.0	2.4		30%	2.5Y7/2	底部に穿孔
1273	土製品	円盤	SK2053				完存	N7/0	径3.8厚さ2.0 瓦転用
1274	土製品	円盤	SK2053				完存	10R5/6	径3.9厚さ1.7 備前甕転用
1275	土製品	円盤	SK2053				完存	7.5R5/2	径3.6厚さ1.3 信楽揃鉢転用
1276	土製品	円盤	SK2053				完存	5YR5/4	径3.2厚さ1.2 信楽揃鉢転用
1277	土製品	円盤	SK2053				完存	2.5Y7/2	径3.9厚さ0.5 土師器皿転用
1278	土製品	円盤	SK2053				完存	10YR6/3	径3.3厚さ0.3 土師器皿転用
1279	土製品	円盤	SK2053				完存	7.5YR6/6	径2.4厚さ0.5 土師器皿転用
1280	土製品	土錘	SK2053				完存	5YR6/4	径0.9長さ3.1孔径0.2
1281	土製品	土鈴	SK2053				30%	10YR8/3	最大径3.1
1282	土製品	土鈴	SK2053				30%	10YR7/2	最大径4.4
1283	土製品	犬	SK2053		4.5		90%	2.5Y8/2	手握ね
1284	土師器	焙烙	SK2053	29.0			10%	5Y2/1	
1285	土師器	焙烙	SK2053	28.5			30%	10YR2/1	
1286	土師器	焙烙	SK2053	28.6	8.3		90%	10YR8/3	
1287	土師器	焙烙	SK2053	28.8	7.4		60%	10YR3/1	
1288	土師器	焙烙	SK2053	29.5	8.8			2.5Y7/2	
1289	土師器	焙烙	SK2053	30.0			60%	2.5Y2/1	
1290	土師器	焙烙	SK2053	30.0			25%	N2/0	
1291	土師器	焙烙	SK2053	30.3	8.5			10YR7/4	
1292	土師器	焙烙	SK2053	30.5			40%	2.5Y2/1	
1293	土師器	焙烙	SK2053	32.5			25%	10YR2/1	
1294	土師器	焙烙	SK2053	29.0			65%	2.5Y3/1	
1295	土師器	焙烙	SK2053	30.2			20%	10YR5/2	
1296	土師器	焙烙	SK2053	31.0			75%	10YR3/1	
1297	土師器	羽釜	SK2053	14.8	10.7		80%	10YR7/3	鍔径16.2
1298	土師器	羽釜	SK2053	21.4	14.5			10YR8/3	鍔径22.5
1299	土師器	火鉢	SK2053	15.2	21.1	16.9	50%	10YR7/3	胴部最大径20.1
1300	瓦器	壺蓋	SK2053	19.0	2.2		40%	5Y6/1	
1301	瓦器	壺蓋	SK2053	21.0	2.4		20%	10YR7/2	
1302	瓦器	壺	SK2053	16.0			40%	N5/0	胴部最大径23.8
1303	瓦器	壺	SK2053			18.0	50%	2.5Y7/2	胴部最大径24.9
1304	瓦器	壺	SK2053			17.0	20%	N4/0	
1305	瓦器	火鉢	SK2053	30.5	10.4		25%	N3/0	
1306	瓦器	火鉢	SK2053	36.0	13.6	27.6	30%	2.5Y4/1	
1307	瓦器	鉢	SK2053	31.6			25%	5Y7/1	
1308	瓦器	鉢	SK2053	41.0	20.8	17.5		2.5Y8/1	
1309	瓦器	鉢	SK2053	41.9	20.3	16.5	40%	10YR7/3	
1310	瓦器	香炉	SK2053	10.3	5.0	9.4		5Y6/1	
1311	瓦器	香炉	SK2053	12.5	5.5	11.6	90%	2.5Y8/2	
1312	瓦器	香炉	SK2053	15.6	5.7	13.3	75%	10YR8/1	
1313	瓦器	香炉	SK2053	15.8	6.0	14.2		N8/0	
1314	瓦器	香炉	SK2053	15.6	7.2	14.2	65%	5YR7/4	
1315	瓦器	香炉	SK2053	16.4	7.3	15.6	80%	5Y6/1	
1316	瓦器	香炉	SK2053	17.6	6.8	16.6	30%	2.5Y8/1	
1317	瓦器	灯火具	SK2053			20.0	30%	N3/0	
1318	瓦器	灯火具	SK2053			19.7	75%	N3/0	
1319	瓦器	炉	SK2053	23.5	20.9	18.7	95%	2.5Y2/1	
1320	瓦器	火鉢	SK2053	25.0	10.5		45%	2.5Y3/1	

付表23 出土土器類一覧表-23

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1321	瓦器	火鉢	SK2053	24.5	15.2	24.8	25%	N2/0	
1322	瓦器	火鉢	SK2053	26.2	15.4	25.5	50%	N3/0	
1323	瓦器	火鉢	SK2053	27.2	16.8	21.6	50%	5Y4/1	
1324	丹波	灯火具	SK2053	13.2	2.4		小片	7.5YR4/3	釉10YR3/3
1325	丹波	灯火具	SK2053			13.0	50%	5YR3/3	釉5Y5/4
1326	丹波	鉢	SK2053	12.3	7.5	10.0	小片	2.5YR4/4	釉2.5Y4/4
1327	丹波	鉢	SK2053	13.4	6.5	10.0	40%	7.5YR5/4	
1328	備前	椀	SK2053	15.8			小片	7.5YR5/1	
1329	備前	椀	SK2053			4.7	40%	5Y6/3	底部に「福千代」?の線刻
1330	備前	水指	SK2053	12.2			小片	10Y4/6	口径に不安残す
1331	備前	建水	SK2053	16.2			30%	5YR4/1	
1332	備前	建水	SK2053	15.5	6.8	14.5	25%	10R4/3	
1333	備前	壺	SK2053	7.2			小片	7.5R3/4	
1334	備前	茶入	SK2053			4.0	25%	7.5R4/6	底部糸切り
1335	備前	壺	SK2053	9.6			小片	10R4/3	
1336	備前	壺	SK2053	11.7			小片	5YR3/4	
1337	備前	壺	SK2053	10.9	2.9		小片	10YR7/2	
1338	備前	壺	SK2053	14.5			小片	5YR5/3	
1339	備前	四耳壺	SK2053	14.5			25%	10YR4/3	肩部に「入」のへら記号
1340	信楽	壺	SK2053	14.4			小片	5YR6/6	降灰白濁
1341	丹波	壺	SK2053	16.2	30.2	15.1	80%	5YR4/6	内面刷毛塗り施釉
1342	備前	鉢	SK2053	29.7	14.5	19.0	30%	10R5/3	
1343	備前	盤	SK2053				小片	2.5YR4/2	
1344	丹波	盤	SK2053		7.1		小片	5YR4/6	
1345	丹波	盤	SK2053	42.5	7.2	31.8	10%	7.5YR6/6	自然釉10Y5/2
1346	備前	盤	SK2053	44.8	9.1	26.2	10%	7.5R4/3	底部に「叶」のへら記号
1347	備前	甕	SK2053	52.6			小片	7.5R3/3	断面N5/0
1348	備前	甕	SK2053	62.0			小片	10R5/6	口縁部にメアト
1349	丹波	播鉢	SK2053	36.1	15.5	15.0	25%	7.5YR4/3	播目単線
1350	丹波	播鉢	SK2053	34.4	15.9	14.2	完存	7.5YR3/4	播目6本1単位
1351	丹波	播鉢	SK2053	34.2	16.9	14.0	80%	2.5YR4/2	播目4本1単位
1352	丹波	播鉢	SK2053	35.8	15.8	15.4	40%	5YR8/4	播目6本1単位
1353	丹波	播鉢	SK2053	36.3	14.6	14.0	80%	5YR4/3	播目5本1単位
1354	信楽	播鉢	SK2053	31.8	14.3	13.0	25%	2.5YR5/3	播目5本1単位
1355	信楽	播鉢	SK2053	27.1	13.1	12.0	小片	10R6/6	播目5本1単位
1356	信楽	播鉢	SK2053	28.0			30%	2.5YR5/6	播目5本1単位
1357	信楽	播鉢	SK2053			13.6	30%	5YR4/4	播目5本1単位
1358	美濃	天目椀	SK2053	11.2	7.2	5.4	60%	2.5Y8/2	釉5YR4/4 重ね掛け
1359	美濃	天目椀	SK2053	11.1	6.8	4.6		2.5Y8/2	釉5YR1.7/1
1360	美濃	天目椀	SK2053	11.3	7.1	4.7		2.5Y8/2	釉5YR1.7/1
1361	美濃	天目椀	SK2053	11.0	6.8	5.2	50%	2.5Y8/2	釉5YR4/4
1362	美濃	天目椀	SK2053	11.2	7.3	4.9	50%	10YR8/2	釉5YR1.7/1
1363	美濃	天目椀	SK2053	10.9	7.3	4.8	50%	2.5Y8/2	釉2.5YR1.7/1
1364	美濃	天目椀	SK2053	11.4	7.2	4.8	60%	2.5Y8/2	釉5YR2/3
1365	美濃	天目椀	SK2053	11.5	7.1	4.7	40%	5Y8/2	釉N1.5/0
1366	美濃	天目椀	SK2053	11.4	7.2	4.7	40%	2.5Y8/2	釉5YR4/3
1367	美濃	天目椀	SK2053	11.8	6.9	4.6	75%	2.5Y8/2	釉N1.5/0
1368	美濃	天目椀	SK2053	11.2	7.4	4.6	80%	2.5Y8/2	釉5YR4/2
1369	美濃	天目椀	SK2053	11.0	6.5	4.5	70%	5Y6/1	釉5YR3/4
1370	美濃	天目椀	SK2053	11.5	7.0	4.6	75%	2.5Y8/2	釉7.5YR4/3
1371	美濃	天目椀	SK2053	11.2	6.4	4.6	35%	2.5Y8/2	釉5YR2/1
1372	美濃	天目椀	SK2053	11.7	7.6	5.0		5Y6/1	釉5YR3/4
1373	美濃	天目椀	SK2053	11.2	7.2	5.3	40%	2.5Y8/1	釉5YR4/4 重ね掛け
1374	美濃	天目椀	SK2053	11.7	7.3	5.1		2.5Y8/2	釉10YR5/3
1375	美濃	天目椀	SK2053	11.6	6.6	4.8	65%	2.5Y8/2	釉5YR4/3
1376	美濃	天目椀	SK2053	11.8	6.9	4.5		2.5Y8/2	釉2.5YR1.7/1
1377	美濃	天目椀	SK2053	11.6	7.9	4.7		2.5Y8/2	釉2.5YR1.7/1
1378	美濃	天目椀	SK2053	12.0	7.8	4.4	30%	2.5Y8/3	釉2.5YR3/4
1379	美濃	天目椀	SK2053	11.6	8.1	5.0	30%	2.5Y8/2	釉5YR4/3 重ね掛け
1380	美濃	天目椀	SK2053	11.8	6.5	4.7	30%	2.5Y8/2	鉄釉5YR2/4

付表24 出土土器類一覧表-24

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1381	美濃	天目椀	SK2053	12.0	7.0	4.5	35%	2.5Y8/2	鉄釉7.5YR3/4
1382	美濃	天目椀	SK2053	12.4	8.1	5.2	60%	2.5Y8/1	鉄釉5YR4/4 重ね掛け
1383	美濃	天目椀	SK2053	12.1	6.9	5.1	60%	2.5Y8/2	鉄釉5YR4/4
1384	美濃	天目椀	SK2053	11.7	7.1	5.0	40%	5Y8/2	鉄釉N1.5/0
1385	美濃	白天目椀	SK2053	11.3	8.2	4.7		2.5Y8/2	長石釉2.5Y8/1
1386	美濃	丸椀	SK2053	10.5	6.9	5.1	30%	2.5Y8/2	鉄釉5YR4/6重ね掛け
1387	美濃	丸椀	SK2053	10.5	6.9	5.0	30%	2.5Y8/2	鉄釉5YR4/6重ね掛け
1388	美濃	丸椀	SK2053	11.0	7.3	5.2	80%	2.5Y8/2	鉄釉5YR4/6重ね掛け
1389	美濃	丸椀	SK2053	10.1	7.0	4.8		2.5Y8/2	鉄釉5YR4/6重ね掛け
1390	美濃	丸椀	SK2053	10.5	7.0	5.0		2.5Y8/2	鉄釉5YR4/6重ね掛け
1391	美濃	椀	SK2053	8.7	4.7	4.6	完存	2.5Y8/2	鉄釉5YR3/4重ね掛け
1392	美濃	椀	SK2053	9.8	5.0	4.8	完存	2.5Y8/2	長石釉2.5Y8/1
1393	美濃	椀	SK2053	11.0	5.5	4.2	完存	2.5Y8/2	長石釉7.5Y8/1
1394	美濃	香炉	SK2053	14.2			30%	2.5Y8/2	鉄釉7.5YR3/3ややマット調
1395	美濃	合子	SK2053	8.2			小片	2.5Y8/2	鉄釉7.5YR2/2
1396	美濃	茶入	SK2053			5.1	30%	5Y6/1	鉄釉5YR3/2
1397	美濃	茶入	SK2053			4.0	50%	10YR7/1	鉄釉5YR3/4
1398	美濃	水滴	SK2053			3.0	80%	5Y8/1	鉄釉7.5YR2/2
1399	黄瀬戸	水滴	SK2053	2.5	3.2	2.4	50%	2.5Y7/2	黄瀬戸釉5Y5/3
1400	美濃	水滴	SK2053	1.9			小片	2.5Y8/3	鉄釉7.5YR3/2
1401	織部	汁注ぎ	SK2053				40%	5Y8/1	長石釉5Y7/2 鉄絵
1402	織部	椀	SK2053	11.8			小片	2.5Y8/1	長石釉5Y7/2 鉄絵
1403	織部	徳利	SK2053	4.7			小片	10YR8/2	織部釉5Y6/4乳濁
1404	美濃	鉄絵皿	SK2053	14.6	2.8	8.2	80%	2.5Y8/2	長石釉2.5Y8/1 鉄絵
1405	美濃	鉄絵皿	SK2053	14.6	2.8	8.2	90%	2.5Y8/2	長石釉2.5Y8/1 鉄絵
1406	美濃	鉄絵皿	SK2053	14.7	2.8	8.2	70%	2.5Y8/2	長石釉2.5Y8/1 鉄絵
1407	織部	皿	SK2053	13.6	3.1	7.0	90%	2.5Y8/1	鉄絵長石釉 口縁部織部釉
1408	織部	皿	SK2053	13.9	3.1	7.2	95%	2.5Y8/1	鉄絵長石釉 口縁部織部釉
1409	織部	皿	SK2053	13.5	2.8	7.2	95%	2.5Y8/1	鉄絵長石釉 口縁部織部釉
1410	美濃	皿	SK2053	6.5	1.4	4.2	35%	5Y7/2	灰釉5Y7/2 全釉
1411	美濃	皿	SK2053	9.2	1.4	5.6	40%	2.5Y8/2	灰釉5Y7/4 全釉
1412	美濃	皿	SK2053	9.4	1.7	5.2	50%	2.5Y8/1	灰釉2.5Y8/4 全釉
1413	美濃	皿	SK2053	16.4	2.3	7.4	95%	7.5YR7/6	長石釉7.5YR6/3 底部露胎
1414	美濃	皿	SK2053	11.8	2.2	6.4	40%	2.5YR5/3	灰釉5Y7/3 全釉
1415	美濃	皿	SK2053	12.3	3.5	7.4			長石釉 全釉
1416	美濃	皿	SK2053	12.9	2.9	7.4	65%	2.5Y8/2	長石釉2.5Y8/3 全釉
1417	美濃	皿	SK2053	13.4	2.9	8.1			長石釉 全釉貼り付け高台
1418	美濃	皿	SK2053	14.5	3.1	7.3	40%		長石釉2.5Y8/2全釉
1419	美濃	菊皿	SK2053	12.3	2.7	6.8	35%		長石釉5Y8/2全釉
1420	美濃	菊皿	SK2053	12.5	2.7	6.8	55%	2.5Y8/3	長石釉5Y8/1全釉
1421	美濃	菊皿	SK2053	12.3	2.5	7.9			長石釉 全釉
1422	志野	向付	SK2053				40%	10YR6/2	長石釉10YR8/2全釉 四方入隅
1423	志野	鉢	SK2053	17.7	5.5	12.6	30%	2.5Y8/2	長石釉2.5Y8/1全釉鉄絵
1424	志野	鉢	SK2053	16.8	5.5		20%	2.5Y8/1	長石釉10YR8/1全釉
1425	唐津	盃	SK2053	6.8	4.4	3.2	50%	7.5YR6/6	土灰釉5Y6/3
1426	唐津	盃	SK2053	7.5	4.8	4.1		5YR6/4	鉄釉10R2/3
1427	唐津	盃	SK2053	9.0	3.8	3.6	20%	10YR7/3	鉄釉7.5YR4/4
1428	唐津	盃	SK2053	7.8	4.1	3.5	60%	10YR8/2	土灰釉5Y7/3
1429	唐津	盃	SK2053	6.7	4.2	3.1		7.5YR7/4	土灰釉2.5Y6/6
1430	唐津	盃	SK2053	9.8	5.8	3.7	40%	2.5YR6/5	土灰釉2.5Y4/3
1431	唐津	天目椀	SK2053	11.0	7.7	4.6		2.5YR6/6	鉛釉5YR2/3
1432	唐津	天目椀	SK2053	10.6	6.5	4.4	40%	2.5YR4/3	鉛釉5YR2/3
1433	唐津	椀	SK2053	11.8	8.7	5.2		7.5YR7/2	長石釉7.5GY5/4
1434	唐津	椀	SK2053	12.3	8.6	5.0	30%	2.5YR3/6	土灰釉10Y7/2
1435	唐津	椀	SK2053	9.6	6.7	4.3	40%	10YR8/2	土灰釉7.5Y7/1
1436	唐津	椀	SK2053	9.6	6.6	4.3		2.5Y8/1	長石釉2.5Y8/1 全釉
1437	唐津	椀	SK2053	9.3	6.5	3.7	90%	5Y8/1	長石釉5Y8/1
1438	唐津	椀	SK2053	9.6	6.6	4.4	50%	2.5Y8/1	長石釉2.5Y8/1 全釉
1439	唐津	椀	SK2053	10.6	6.0	4.0	80%	5YR5/4	土灰釉5YR3/2透明
1440	唐津	椀	SK2053	9.8	5.4	4.2	40%	10R4/3	青唐津7.5Y5/2燻に埋まる

付表25 出土土器類一覧表-25

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1441	唐津	椀	SK2053	9.9	5.5	4.1	55%	5YR6/4	土灰釉10YR6/2
1442	唐津	椀	SK2053	11.0	6.5	4.3	40%	10R5/3	青唐津7.5Y5/2
1443	唐津	椀	SK2053	11.0	6.6	4.7	40%	7.5YR5/3	土灰釉10Y6/2透明
1444	唐津	椀	SK2053	10.7	6.7	4.2		7.5YR6/3	土灰釉10Y6/2
1445	唐津	椀	SK2053	11.4	7.5	4.4		2.5YR6/8	長石釉溶けず
1446	唐津	椀	SK2053	11.2	7.1	3.8	40%	5YR7/5	長石多い土灰釉2.5Y7/1
1447	唐津	椀	SK2053	11.6	6.6	4.0	60%	7.5YR7/2	土灰釉10YR7/4
1448	唐津	椀	SK2053	11.5	7.2	4.4	60%	5YR4/3	土灰釉5Y7/2
1449	唐津	椀	SK2053	11.8	7.1	4.8	70%	10YR6/4	土灰釉7.5YR7/2
1450	唐津	椀	SK2053	11.9	6.4	3.9	50%	2.5Y8/1	長石多い土灰釉2.5Y8/1
1451	唐津	椀	SK2053	10.7	6.3	4.5		2.5Y8/2	土灰釉10YR7/4
1452	唐津	椀	SK2053	11.6	6.6	4.7	75%	2.5YR6/6	土灰釉2.5YR6/3
1453	唐津	椀	SK2053	11.7	7.0	4.1	30%	10YR7/2	土灰釉2.5Y7/2
1454	唐津	椀	SK2053	11.4	7.5	4.3	60%	10R5/4	土灰釉5YR7/2
1455	唐津	椀	SK2053	10.9	7.0	4.2	40%	7.5YR7/4	土灰釉10YR6/4
1456	唐津	椀	SK2053	11.2	7.4	4.3	40%	2.5YR6/6	長石釉2.5Y7/1 全釉
1457	唐津	椀	SK2053	11.2	7.5	4.4	40%	2.5YR5/4	長石釉7.5Y6/1
1458	唐津	椀	SK2053	11.4	7.1	4.3	35%	2.5Y5/1	長石多い土灰釉5Y6/1
1459	唐津	椀	SK2053	10.8	6.8	4.6	30%	7.5YR6/4	長石多い土灰釉5Y7/1 全釉
1460	唐津	椀	SK2053	11.2	6.8	4.5	45%	5YR6/4	長石多い土灰釉7.5YR6/2
1461	唐津	椀	SK2053	11.3	7.6	4.3	40%	N7/0	土灰釉7.5Y6/1 全釉
1462	唐津	椀	SK2053	11.2	7.5	4.3	40%	10YR7/2	土灰釉5Y6/1
1463	唐津	椀	SK2053	11.4	7.5	4.6		2.5YR5/4	長石釉
1464	唐津	椀	SK2053	11.3	7.0	4.2	60%	7.5YR7/3	長石多い土灰釉5Y7/2
1465	唐津	椀	SK2053	11.8	7.0	4.2	30%	10YR7/4	長石多い土灰釉10YR7/4
1466	唐津	椀	SK2053	10.9	7.0	4.5	75%	2.5Y8/2	土灰釉10YR7/3
1467	唐津	椀	SK2053	11.2	6.6	4.5	30%	2.5Y7/1	土灰釉7.5Y6/1 全釉
1468	唐津	椀	SK2053	11.6	7.5	4.5		10Y7/1	土灰釉10Y7/1 全釉
1469	唐津	椀	SK2053	11.1	8.0	4.7		7.5Y7/1	土灰釉2.5GY7/1 全釉
1470	唐津	椀	SK2053	10.5	7.4	4.0	60%	N7/0	長石釉7.5Y7/1 全釉
1471	唐津	椀	SK2053	11.2	7.1	4.5	40%	5YR7/3	土灰釉2.5Y7/1
1472	唐津	椀	SK2053	11.8	7.8	4.7	30%	5Y7/1	土灰釉2.5GY7/1全釉
1473	唐津	椀	SK2053	11.4	7.7	4.7	40%	10R5/4	土灰釉10R5/5
1474	唐津	杵茶椀	SK2053	11.2	7.0	6.0	完存	2.5Y8/1	長石釉 三方に指ナデによるタメ
1475	唐津	皿	SK2053	13.3	3.2	4.6	90%	7.5R3/1	見込み象嵌 口縁刷毛目 全釉
1476	唐津	皿	SK2053	13.4	3.4	4.6	40%	7.5R3/1	見込み象嵌 口縁刷毛目 全釉
1477	唐津	皿	SK2053	13.4	3.5	4.9	30%	10R4/8	見込み象嵌 口縁刷毛目 全釉7.5R3/2
1478	唐津	皿	SK2053	10.5	2.5	4.6	40%	2.5Y7/3	木灰多い土灰釉2.5Y6/4 胎土目3
1479	唐津	皿	SK2053	9.8	3.0	4.1		10YR5/1	木灰多い土灰釉5Y5/4
1480	唐津	皿	SK2053	11.3	2.8	3.3	30%	7.5YR6/5	土灰釉5Y6/1 胎土目6~ 底部完存
1481	絵唐津	皿	SK2053	13.0			20%	2.5YR4/3	藁灰釉10Y7/2 口縁鉛釉7.5Y2/2
1482	唐津	皿	SK2053	10.7	3.0	4.2	30%	2.5YR6/3	土灰釉5Y6/1 胎土目3 底部完存
1483	唐津	皿	SK2053	11.2	2.6	3.8	65%	2.5Y7/2	土灰釉7.5Y6/2
1484	絵唐津	皿	SK2053	11.5	3.2	4.1	60%	10Y6/1	土灰釉7.5Y7/1 胎土目4
1485	絵唐津	皿	SK2053	11.0	3.0	3.8	70%	7.5YR7/1	土灰釉5Y7/2 胎土目4
1486	唐津	皿	SK2053	11.4	3.3	4.2		10YR4/8	木灰多い土灰釉10Y6/4 胎土目4
1487	絵唐津	皿	SK2053	11.5	3.5	4.8	35%	5YR6/2	土灰釉5Y6/4
1488	絵唐津	皿	SK2053	11.9	3.6	3.5	35%	5YR7/4	長石多い土灰釉10Y7/1 胎土目
1489	唐津	皿	SK2053	11.6	3.5	4.4	30%	5YR5/4	土灰釉5Y5/2
1490	唐津	皿	SK2053	11.2	3.3	2.8	40%	5YR5/3	土灰釉7.5Y6/2 胎土目4
1491	唐津	皿	SK2053	11.1	3.4	3.5	90%	10YR8/1	長石多い土灰釉10Y7/1
1492	唐津	皿	SK2053	11.3	3.1	3.1	20%	5YR4/6	土灰釉5Y6/3 胎土目4
1493	唐津	皿	SK2053	10.6	4.5	3.3		2.5Y6/1	土灰釉2.5Y6/2 胎土目4
1494	唐津	皿	SK2053	11.5	3.4	4.0	40%	10YR7/1	木灰多い土灰釉7.5Y5/3 砂目
1495	唐津	皿	SK2053	11.4	3.3	4.9	60%	5YR6/4	土灰釉7.5Y5/3 砂目4
1496	絵唐津	皿	SK2053	11.6	3.4	4.7	30%	5YR6/6	長石多い土灰釉10R6/2 胎土目
1497	唐津	皿	SK2053	11.5	3.4	3.9	40%	2.5YR5/4	土灰釉5GY6/1 胎土目
1498	唐津	皿	SK2053	11.8	3.2	4.1	80%	2.5YR5/6	土灰釉5Y6/2 砂目3 三方に輪花
1499	唐津	皿	SK2053	11.6	3.0	4.1	65%	10YR6/2	土灰釉5Y5/2 砂目3
1500	唐津	皿	SK2053	11.7	3.3	3.6	50%	10R4/3	土灰釉5GY6/1 胎土目4

付表26 出土土器類一覧表-26

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1501	唐津	皿	SK2053	11.1	3.7	4.0	完存	2.5Y8/2	土灰釉5Y6/2 胎土目3
1502	唐津	皿	SK2053	11.6	3.6	4.2		2.5Y5/1	土灰釉5Y5/1 砂目4
1503	唐津	皿	SK2053	12.0	3.9	4.2	完存	10YR7/1	土灰釉10Y6/1 砂目4
1504	唐津	皿	SK2053	12.2	3.4	4.3	50%	7.5YR6/2	土灰釉10YR6/2 砂目3 口縁4輪花
1505	唐津	皿	SK2053	12.8	3.7	3.9	85%	10YR7/2	土灰釉5Y6/2 胎土目5
1506	唐津	皿	SK2053	12.5	3.9	4.2	40%	5YR6/5	長石釉10YR7/3 胎土目
1507	唐津	皿	SK2053	12.8	4.0	5.1	70%	10Y5/5	土灰釉10Y6/2 砂目6
1508	唐津	皿	SK2053	12.5	3.6	3.8		7.5YR7/3	土灰釉2.5Y6/3 胎土目4
1509	唐津	皿	SK2053	12.3	4.3	4.2	40%	5YR6/5	土灰釉10YR6/2 胎土目4
1510	唐津	皿	SK2053	12.9	3.7	4.0	40%	2.5YR5/5	長石釉5Y6/1 胎土目4
1511	唐津	皿	SK2053	12.5	4.1	4.9		2.5Y8/2	土灰釉2.5Y6/3 胎土目3
1512	唐津	皿	SK2053	12.7	3.3	4.2		2.5YR5/6	土灰釉透明 砂目3
1513	唐津	皿	SK2053	12.3	4.0	3.9	50%	7.5YR6/4	長石釉7.5YR7/1 胎土目4
1514	唐津	皿	SK2053	12.7	3.9	4.2	完存	10YR7/1	土灰釉10Y6/2 砂目4
1515	唐津	皿	SK2053	13.0	4.1	3.3	完存	2.5YR5/3	長石釉7.5YR6/1 胎土目4
1516	唐津	皿	SK2053	13.3	3.6	3.9	55%	5YR6/5	土灰釉5YR7/2 砂目3
1517	唐津	皿	SK2053	13.6	3.4	5.4	40%	7.5YR7/8	土灰釉5YR5/6 砂目
1518	唐津	皿	SK2053	13.4	4.1	4.7	50%	10YR7/3	土灰釉10Y6/1 胎土目3 口縁部輪花
1519	唐津	皿	SK2053	13.6	3.8	4.9		10YR7/2	長石釉N6/Y 砂目4
1520	唐津	皿	SK2053	11.9	3.7	4.1	70%	5YR6/6	長石釉10YR7/1 砂目3
1521	唐津	皿	SK2053	12.3	3.9	4.7	60%	2.5Y6/6	長石釉5Y7/1
1522	唐津	皿	SK2053	12.3	3.7	4.4	40%	2.5YR6/5	土灰釉10Y7/1 砂目3
1523	唐津	皿	SK2053	12.5	4.2	4.8	60%	10YR4/6	土灰釉7.5Y6/1 砂目3
1524	唐津	皿	SK2053	12.3	3.8	4.3	70%	5YR6/7	長石釉5Y7/2 砂目3
1525	唐津	皿	SK2053	12.6	3.6	4.0	40%	7.5YR7/3	長石釉2.5Y7/1 胎土目4
1526	唐津	皿	SK2053	13.4	4.2	4.1	完存	2.5Y7/2	長石釉2.5Y7/2 砂目内3 外4
1527	唐津	皿	SK2053	12.6	3.5	4.9	30%	5Y6/1	土灰釉5Y6/1 砂目内3 外4
1528	唐津	皿	SK2053	13.5	3.6	4.3	55%	2.5YR5/4	土灰釉7.5Y6/1 砂目3
1529	唐津	皿	SK2053	13.4	4.4	4.3	60%	5YR6/6	長石釉2.5YR7/2 砂目3
1530	唐津	皿	SK2053	12.5	3.7	5.3	45%	2.5YR6/6	土灰釉7.5Y6/1 砂目3
1531	唐津	皿	SK2053	13.0	4.3	4.2	60%	2.5YR6/8	長石釉5YR7/1 砂目3
1532	唐津	皿	SK2053	12.4	4.1	4.5	45%	5YR6/5	土灰釉7.5Y6/1 砂目3
1533	唐津	皿	SK2053	12.5	2.6	4.1	30%	10Y7/1	長石釉10Y7/1 砂目3
1534	唐津	皿	SK2053	12.6	2.2	4.2	45%	5YR5/4	土灰釉7.5YR6/2 砂目3
1535	唐津	皿	SK2053	14.2	4.5	4.9	70%	7.5YR6/6	土灰釉7.5Y6/2高台全周に砂付着
1536	唐津	皿	SK2053	13.2	3.9	4.7	30%	N7/0	長石釉10Y7/1 全釉
1537	唐津	皿	SK2053	13.5	3.7	5.0	60%	N7.5/0	長石釉10Y7/1 全釉 砂目4
1538	唐津	皿	SK2053	13.0	4.0	4.2	50%	2.5YR5/3	土灰釉7.5Y6/2 砂目5
1539	唐津	皿	SK2053	14.0	3.6	4.1	40%	2.5YR6/7	長石釉7.5YR7/1 砂目3
1540	唐津	皿	SK2053	13.8	4.8	4.4	40%	2.5Y7/3	長石釉10Y6/1 砂目3
1541	唐津	皿	SK2053	13.0	3.7	4.7		5YR6/4	土灰釉10Y7/2 砂目4
1542	唐津	皿	SK2053	13.5	3.8	4.5	完存	2.5YR6/4	土灰釉10Y6/1 砂目3
1543	唐津	皿	SK2053	13.5	3.7	4.0	50%	5YR6/5	土灰釉7.5Y6/2 砂目内3 外床砂付着
1544	唐津	皿	SK2053	13.3	3.6	4.9	85%	10R5/5	土灰釉7.5Y6/2 砂目4
1545	唐津	皿	SK2053	13.5	4.6	4.9	30%	2.5Y8/1	長石釉5Y8/1 全釉 砂目3
1546	唐津	向付	SK2053	11.6	3.4	4.7	55%	5YR6/3	土灰釉2.5Y5/3 砂目3 口縁の3方タメ
1547	唐津	向付	SK2053	13.8	4.0	4.1	40%	5YR5/3	土灰釉10Y5/1 砂目3 口縁の3方タメ
1548	唐津	向付	SK2053	12.4	4.1	4.4	70%	7.5YR5/2	土灰釉5Y6/2 砂目3 口縁の3方タメ
1549	絵唐津	向付	SK2053	13.5			30%	10YR6/7	土灰釉2.5YR7/3 鉄絵2.5Y4/2
1550	唐津	皿	SK2053	18.8	4.7	4.8		2.5YR5/6	長石釉2.5YR7/2 全釉 砂目4
1551	唐津	皿	SK2053			4.8	20%	2.5YR5/6	長石釉7.5YR7/2 全釉 砂目4
1552	唐津	皿	SK2053			5.0	20%	2.5YR5/6	長石釉10YR6/2 全釉 砂目3
1553	唐津	皿	SK2053	24.5	7.9	7.7		5YR7/3	長石釉5YR7/2 砂目内5 外71
1554	唐津	皿	SK2053	29.3	7.7	8.9		2.5Y8/2	長石釉2.5Y7/1 砂目4
1555	絵唐津	皿	SK2053	25.6			小片	2.5YR6/4	土灰釉7.5Y6/2
1556	絵唐津	皿	SK2053	24.0	6.8	8.0	70%	10R4/3	土灰釉5Y5/2 砂目 口縁の3方タメ
1557	唐津	皿	SK2053			8.0	20%	7.5YR7/6	長石釉7.5YR7/3 胎土目4
1558	唐津	皿	SK2053			8.0	小片	5YR6/4	長石釉10YR7/2
1559	唐津	皿	SK2053	23.7			小片	10YR7/2	土灰釉2.5Y5/3透明
1560	唐津	皿	SK2053	26.4			小片	10R6/2	松灰釉7.5Y6/2

付表27 出土土器類一覧表-27

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1561	唐津	皿	SK2053	30.8			小片	10YR6/4	土灰釉2.5Y6/2
1562	唐津	皿	SK2053	25.6			小片	7.5YR6/4	土灰釉10YR6/1 胎土目
1563	唐津	皿	SK2053	28.2			小片	7.5YR7/4	土灰釉5YR7/4
1564	唐津	皿	SK2053	28.3			小片	10YR7/2	内面白化粧後土灰釉2.5Y5/4
1565	絵唐津	皿	SK2053			9.5	25%	7.5YR7/2	土灰釉7.5YR6/2 胎土目
1566	絵唐津	皿	SK2053	33.4			小片	7.5YR7/2	土灰釉7.5YR6/2
1567	絵唐津	向付	SK2053	12.1	4.4	4.7	90%	7.5YR7/4	土灰釉5Y5/2 胎土目4
1568	絵唐津	向付	SK2053	12.5	4.8	4.5	80%	2.5YR5/3	土灰釉2.5Y5/3 胎土目4
1569	絵唐津	向付	SK2053	15.2	6.0	5.5	90%	2.5YR5/3	長石釉 鉄絵黒く発色
1570	唐津	片口鉢	SK2053	19.8	11.2	8.8		5YR7/4	土灰釉7.5Y6/2 砂目
1571	絵唐津	四方鉢	SK2053	21.2	12.1	7.9		2.5YR5/4	土灰釉 砂目3
1572	唐津	鉢	SK2053	21.0			小片	2.5YR6/4	土灰釉10Y7/1溶けず
1573	朝鮮唐津	器形不明	SK2053				小片	N6/0	藁灰釉厚掛け一部飴釉が認められる
1574	唐津	把手	SK2053				小片	N6/0	鉄釉5YR3/4
1575	唐津	把手	SK2053				小片	10YR8/2	薄く鉄を塗る5YR3/1
1576	朝鮮唐津	小壺	SK2053			4.6	90%		飴釉10YR3/2藁灰釉2.5Y3/3~白色
1577	唐津	小壺	SK2053				小片	7.5YR6/2	飴釉5YR2/4
1578	唐津	小壺	SK2053			4.2	60%	2.5Y7/1	飴釉10YR3/2
1579	朝鮮唐津	徳利	SK2053			7.0	20%	2.5YR6/6	飴釉5Y3/2
1580	朝鮮唐津	徳利	SK2053	6.0			小片	5Y6/2	口縁部藁灰釉肩以下飴釉
1581	朝鮮唐津	徳利	SK2053				20%	N5.5/0	飴釉10YR3/3 藁灰流下
1582	朝鮮唐津	徳利	SK2053			8.1	30%	7.5YR8/3	飴釉7.5YR3/4
1583	唐津	水指?	SK2053			14.2	30%	2.5YR6/4	鉄釉10R4/2
1584	唐津	甕	SK2053	15.1			小片	2.5Y5/1	
1585	唐津	甕	SK2053			11.7	25%	2.5YR5/5	土灰釉5Y7/2
1586	唐津	甕	SK2053	40.4			小片	2.5Y8/1	鉄釉5YR3/3 口縁部釉抜き貝目
1587	明染付	椀	SK2053	6.4			小片	5B7/1	※染付は器表色を表記
1588	明染付	椀	SK2053	7.6	4.4	2.9	50%	N8/0	
1589	明染付	椀	SK2053	11.2	6.3	4.6	95%	5GY7/1	
1590	明染付	椀	SK2053	10.2			小片	10GY8/1	
1591	明染付	椀	SK2053	10.6			30%	7.5GY8/1	口縁を切込み輪花とする
1592	明染付	椀	SK2053	13.5			小片	N8/0	
1593	明染付	椀	SK2053			5.0	小片	10GY7/1	高台端面釉掻き取り
1594	明染付	椀	SK2053			4.6	30%	7.5GY8/1	高台端部に砂付着
1595	明染付	皿	SK2053	9.6	2.7	4.6	30%	10G7/1	
1596	明染付	皿	SK2053	10.3	2.5	4.9	40%	10GY8/1	
1597	明染付	皿	SK2053	9.6	2.5	5.4	小片	5GY7/1	
1598	明染付	皿	SK2053	9.6	3.1	5.5	70%	10Y3/1	
1599	明染付	皿	SK2053	12.5	3.3	6.6	小片	10BG8/1	高台端面釉掻き取り
1600	明染付	皿	SK2053	14.3	3.4	7.9	70%	10GY7/1	高台端部に砂付着
1601	明染付	皿	SK2053				小片	7.5GY8/1	
1602	明染付	皿	SK2053			9.7	20%	5BG8/1	高台端部に砂付着 外面へラ刻み
1603	明染付	皿	SK2053			6.3	20%	5B7/1	内面押型文
1604	明染付	皿	SK2053	22.7			小片	10Y8/1	
1605	輸入白磁	皿	SK2053	9.6	2.1	5.2	小片	白色	
1606	輸入白磁	皿	SK2053	12.3	3.8	5.6	50%	5Y8/2	口縁を切込み輪花とする
1607	輸入白磁	皿	SK2053	14.1	3.5	7.4	20%	2.5GY8/1	
1608	輸入白磁	皿	SK2053	16.0	3.5	8.6	20%	7.5Y8/1	高台端面釉掻き取り
1609	輸入赤絵	皿	SK2053				小片	5Y7/1	
1610	輸入赤絵	皿	SK2053				小片	7.5Y7/1	
1611	伊万里	小杯	SK2053	5.9	3.4	2.6	50%	N8/1	
1612	伊万里	小杯	SK2053	5.8	3.6	2.6	35%	10BG8/1	
1613	伊万里	筒椀	SK2053	8.9	7.1	5.4	60%	5BG8/1	
1614	伊万里	筒椀	SK2053	9.0	7.2	5.8	85%	5BG8/1	
1615	伊万里	椀	SK2053	9.4	5.2	4.0	90%	N8/1	
1616	伊万里	皿	SK2053	13.0	3.6	5.2	20%	5G7/1	
1617	軟質陶器	天目椀	SK2053	10.2	7.0	3.9	40%	2.5YR6/6	全体に化粧5YR8/4 素地
1618	土師器	皿Sb	SE2021	8.3	1.6		80%	7.5YR7/4	
1619	土師器	皿Sb	SE2021	8.4	1.5		完存	10YR8/2	
1620	土師器	皿S	SE2021	10.2	2.0		完存	10YR8/3	

付表28 出土土器類一覧表-28

番号	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	残存	胎土色調	備考
1621	土師器	小壺	SE2021	2.4	2.6		完存	10YR8/2	
1622	土師器	皿Nr	SE2021	6.1	2.5		90%	5YR6/4	
1623	土師器	皿Nr	SE2021	5.6	1.2		50%	10YR7/3	
1624	土師器	皿Nr	SE2021	5.6	1.3		完存	10YR8/3	
1625	土師器	鉢	SE2021	16.9	5.2	14.5	20%	2.5Y8/3	
1626	土師器	鉢	SE2021	22.5	5.6	21.0	20%	10YR8/2	
1627	伊万里	椀	SE2021	7.6	4.5	3.2	50%	7.5GY8/1	染付
1628	伊万里	筒椀	SE2021	8.6	7.0	4.5	50%	7.5YR8/2	染付
1629	京焼	椀	SE2021	9.2	6.0	3.1	45%	5Y7/3	
1630	京焼	筒椀	SE2021	9.6	6.6	4.6	40%	7.5Y7/2	錆絵2.5Y3/3
1631	美濃	茶入	SE2021	3.7	7.5	3.8	80%	5YR6/4	鉄釉2.5YR2/1 胴部に径0.4の孔
1632	三島唐津	鉢	SE2021	32.9	11.0	12.0	50%	2.5YR5/4	土灰釉7.5YR4/1 裾部に鉄を塗る
1633	信楽	壺	SE2021	14.0			小片	7.5YR4/3	内面に鉄を塗る2.5YR4/2
1634	産地不明	搦鉢	SE2021	36.6	14.7	16.6	40%	2.5YR6/6	櫛目9本1単位



# 圖 版



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうしじょうにぼうじゅうよんちょうあと							
書名	平安京左京四条二坊十四町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2003-5							
編著者名	平尾政幸・山口 真							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2003年11月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょう 平安京左京 しじょうにぼう 四条二坊 じゅうよんちょうあと 十四町跡	きょうとしなかげょうく 京都市中京区 たこやくしどうり 蛸薬師通 あぶらのこうじびがしいる 油小路東入 もとほんのうじみなみまち 元本能寺南町	26100		35度 00分 10秒	135度 44分 45秒	2002年8月 5日～2003 年8月30日	2,000m <sup>2</sup>	老人ホーム建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
平安京左京 四条二坊 十四町跡	都城跡	平安時代	四条坊門小路路面 ・南側溝、建物、 ピット、土壇、井 戸、溝、池	土師器、黒色土器、須 恵器、緑釉陶器、灰釉 陶器、輸入陶磁器、瓦、 石製品、銭貨				
		鎌倉時代 ～室町時代	建物、ピット、土 壇、井戸、濠、溝、 墓、集石、炉跡、 石室	土師器、瓦器、白色土 器、須恵器、焼締陶器、 施釉陶器、輸入陶磁器、 銭貨、石製品				
		桃山時代 ～江戸時代	柵、ピット、土壇、 井戸、石室、石垣、 土蔵基礎	土師器、瓦器、国産陶 磁器、輸入陶磁器、土 製品、石製品、金属製 品、銭貨、貝・骨製品、 その他				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-5  
平安京左京四条二坊十四町跡

発行日 2003年11月28日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
発行 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1  
住所 〒 602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社  
住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地  
〒 604-0093 TEL 075-256-0961